Research reports in archaeology on the campus of TOHOKU UNIVERSITY No.8

Samurai Residences around Sendai Castle (BK14) No.2

- Excavation reports of Loc.14 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle -

Archaeological Research office on the Campus, Tohoku University

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告8

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区　第14地点　第2分冊

東北大学

ISSN 2185-6990

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告 8

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第 14 地点

第 2 分冊

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点（BK14）
1号井戸内堆積状況

東北大学埋蔵文化財調査室

2020

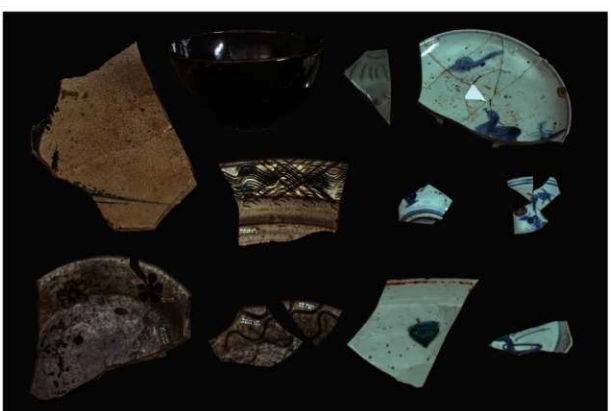
東北大学埋蔵文化財調査室調査報告８

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区
第 14 地点

第２分冊

東北大学埋蔵文化財調査室
２０２０

１．２号池状遺構出土陶磁器（Ⅰ期）



２．４号池状遺構出土陶磁器（Ⅰ期）

３．１号井戸出土磁器（Ⅰ～Ⅲ期）

４．１号井戸出土陶器（Ⅰ～Ⅲ期）

序

本報告書は、『東北大学埋蔵文化財調査室調査報告』の８冊目として、川内北キャンパスにおける川内駅前広場整備工事に伴い実施した、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果をまとめたものです。

今回報告する仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査は、東日本大震災により調査着手が遅れ、他の調査現場と並行しながら時間をかけて実施したものです。今回の調査では、江戸時代の居住施設である建物跡のほかに、池跡や井戸跡等の生活空間を構成する様々な施設が発見されています。また、人々の生活の痕跡を示す出土遺物も、陶磁器をはじめ、漆器椀や食物残滓等の膨大な資料が発見されました。当時の生活環境を考える上で、貴重なデータが得られたものと思います。昨年度には遺構編を刊行し、今年度は遺物と考察編をまとめました。今後の研究の基礎資料となればと考えています。

調査の実施から報告書の刊行まで、大学内外の関係機関の御協力を得て、滞りなく事業を進めることができました。ここに厚くお礼申し上げるとともに、本書で報告されるデータが各方面で活用されることを望むものです。

東北大学埋蔵文化財調査室
室長　藤　澤　　敦

例　言

1．本調査報告は、東北大学構内において、東北大学埋蔵文化財調査室が2011・2012・2015年度に行った仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査成果のうち遺物及び考察についてまとめたものである。遺構編は、前年度の『調査報告』７にてまとめている。

2．報告する遺跡と略号、調査期間、調査担当者は以下のとおりである。

遺跡と略号：仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区（BK14）

調査期間　：本　体　2011年９月１日～2012年５月31日、2015年３月１日～７月６日

関連区　2015年７月22日～11月13日

調査面積　：本体954㎡、関連区18.8㎡

調査担当者：菅野智則、柴田恵子、藤澤　敦（2011年度）、石橋　宏（2015年度）

3．調査・整理作業は、東北大学埋蔵文化財調査室が行った。

4．本報告の編集・執筆は、菅野智則・柴田恵子・石橋宏が担当した。執筆分担は下記のとおりである。

第Ⅴ章１・２・３（２）・（４）・（７）・（８）柴田

２のうち、石器・石製品については熊谷亮介（当時 東北大学）の所見を元に、柴田が編集した。

３（１）・（５）・（６）石橋、３（３）柴田・石橋

第Ⅵ章（１）丸山真史（東海大学）、（２）吉川純子（古代の森研究舎）、

（３）小林和貴（東北大学）・吉川純子、（４）小林和貴・鈴木三男（東北大学）・佐々木由香（明治大学）・能城修一（明治大学）・國井秀紀（千葉県匝瑳市「木積箕づくり伝承教室」）、

（５）森勇一（東海シニア自然大学）、（６）上條信彦（弘前大学）・柴正敏（弘前大学）

第Ⅶ章１ 柴田、２・３ 菅野、４ 柴田・菅野

5．英文要旨については、柴田恵子が作成した。

6．本調査区名の正式な名称は、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点であるが、本文中では省略して武家屋敷地区第14地点と表記する。

7．これまでに、本調査の概要は『年次報告』2011・2015、「平成27年度宮城県遺跡調査成果発表会」（宮城県考古学会主催、2017年12月12日開催）にて公表してきた。それらの内容より、本報告書の内容が優先する。

8．発掘調査および整理・本報告書作成にあたっては、以下の方々や関係機関から御指導・御協力を賜った。記して感謝申しあげる（敬称略）。

仙台市教育委員会、宮城県教育委員会、東北大学大学院文学研究科考古学研究室、阿子島香・籠橋俊光・鹿又喜隆（東北大学）、佐藤源之（東北アジア研究センター）、田中則和、畑井洋樹（仙台市歴史民俗資料館）、関根達人（弘前大学）、堀内秀樹（東京大学）、渡辺芳郎（鹿児島大学）、佐藤洋（当時 仙台市教育委員会）

9．出土遺物・調査記録は、東北大学埋蔵文化財調査室で保管・管理している。

凡　例

1．引用・参考文献は、巻末にまとめた。当室が刊行した報告書類を引用する際には、下記のように略した。

例　『東北大学理蔵文化財調査年報』1　　…『年報』1

『東北大学理蔵文化財調査室年次報告』2008　…『年次報告』2008

『東北大学理蔵文化財調査室調査報告』1　…『調査報告』1

2．元号と西暦の標記は、通常は「西暦（元号）年」（例えば「2015（平成27）年」）と表記する。ただし、その章で近世・近代が主体となる場合は、「元号（西暦）年」（例えば「天明6（1786）年」）と表記する。

3．出土遺物の登録番号の表示は、以下の略号を使用した。

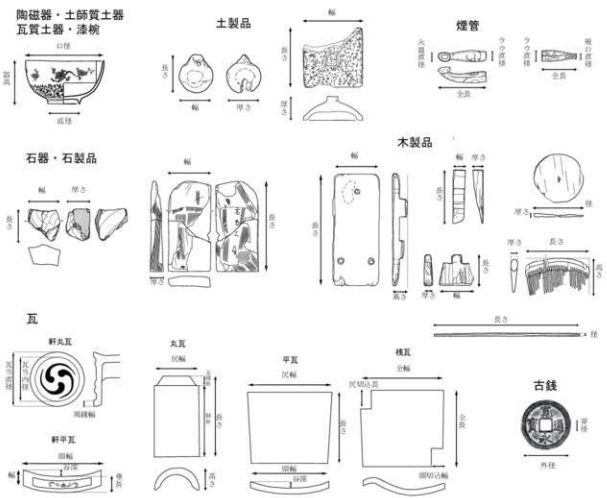
磁器：CJ、陶器：CT、土師質土器：CH、瓦質土器：CG、瓦：T、土人形・土製品：CO、軟質施釉陶器：CN、漆塗製品：WL、木製品：W、古銭：MC、古銭以外の金属製品：MO、石器・石製品：S、その他の遺物：VA

4．本文や集計表などの遺構埋土の表記は、できる限り細分層を示したが、細分せず取り上げた場合はそのままの層位を表記した。例えば、2号池状遺構には埋土2a層と埋土2b層があるが、2層として取り上げた場合は、そのまま2層と表記している。これは、2a層と2b層を含む層という意味である。

5．遺物実測図は縮尺1/3を基本としたが、瓦は1/4、古銭は原寸で表示した。木製品とその他の遺物は適宜縮尺を調整している。

6．各遺物の計測位置は、以下に示す。

各遺物の計測部位



目　次

巻頭カラー図版
序
例言
凡例
第２分冊目次
図目次
表目次
写真図版目次
第Ⅴ章　出土遺物……1
　1．整理作業と資料化の方法……1
　2．各時期の遺構出土遺物……1
　（1）Ⅰ期の遺構出土遺物……1
　（2）Ⅰ～Ⅱa期の遺構出土遺物……7
　（3）Ⅰ～Ⅱb期の遺構出土遺物……8
　（4）Ⅰ～Ⅲ期の遺構出土遺物……9
　（5）Ⅱa期の遺構出土遺物……11
　（6）Ⅱa～Ⅱb期の遺構出土遺物……12
　（7）Ⅱa～Ⅲ期の遺構出土遺物……14
　（8）Ⅱb期の遺構出土遺物……14
　（9）Ⅱb～Ⅲ期の遺構出土遺物……16
　（10）Ⅲ期の遺構出土遺物……17
　（11）関連区の遺構出土遺物……21
　（12）基本層出土遺物……21
　3．主要な遺物の特徴……23
　（1）近世以前の遺物……23
　（2）陶磁器……24
　（3）土師質土器・瓦質土器……25
　（4）土人形・土製玩具……28
　（5）瓦……28
　（6）木製品……29
　（7）漆塗製品……33
　（8）金属製品……34
第Ⅵ章　分析
　1．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した動物遺存体……119
　（1）動物遺存体の概要……119
　（2）遺構別の動物遺存体……119
　（3）動物利用の特徴……122
　（4）まとめ……123
　2．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した大型植物遺体……130
　（1）試料と分析方法……130
　（2）出土した大型植物遺体……130
　（3）大型植物遺体の出土傾向からみた当時の植物利用と周辺の環境……135
　3．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点池状遺構から出土した袋状遺物……139
　（1）分析方法……139
　（2）同定結果……139
　4．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土編組製品等の素材植物……141
　（1）試料と方法……141
　（2）同定結果……141
　（3）調査資料の形態記載……146
　（4）考察……148
　5．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から発見された昆虫と古環境……150
　（1）試料および分析方法……150
　（2）昆虫化石の分析結果……150
　（3）仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における古環境復元……153
　（4）仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区出土昆虫の特異性……155
　（5）まとめ……155
　6．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土石臼付着の白色粒子の分析……163
　（1）分析の目的……163
　（2）試料と方法……163
　（3）分析結果……163
　（4）まとめ……164
第Ⅶ章　考察
　1．陶磁器について……165
　（1）池状遺構出土の陶磁器……165
　（2）1号井戸出土陶磁器について……171
　（3）補修痕のある陶磁器について……173
　2．発掘調査地点の位置……177
　（1）周辺地域の発掘調査との関連……177
　（2）時期別にみた特徴的な遺構……178
　（3）近世絵図・近代地図との関係から……182
　3．武家屋敷地区の環境……186
　4．武家屋敷地区第14地点の調査成果
　－まとめに代えて－……188
引用・参考文献……190
英文要旨……194
写真図版……195
報告書抄録

図　目　次

図１　土師質土器（皿）の法量分布図……26
図２　３号建物（Ⅰ期）出土遺物……36
図３　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（１）……36
図４　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（２）……37
図５　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（３）……38
図６　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（４）……39
図７　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（５）……40
図８　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（６）……41
図９　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（７）……42
図10　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（８）……43
図11　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（９）……44
図12　４号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（１）……44
図13　４号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（２）……45
図14　４号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（３）……46
図15　10号遺構（Ⅰ期）出土遺物……46
図16　12号遺構（Ⅰ期）出土遺物……47
図17　39・40・57号遺構（Ⅰ期）出土遺物……47
図18　３号溝（Ⅰ期）出土遺物……48
図19　５号井戸（Ⅰ期）出土遺物……49
図20　ピット70・102・205（Ⅰ期）出土遺物……49
図21　15号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……49
図22　16号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……49
図23　35号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……49
図24　74号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……50
図25　５号建物（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物……50
図26　７号遺構（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物……50
図27　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（１）……50
図28　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（２）……51
図29　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（３）……52
図30　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（４）……53
図31　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（５）……54
図32　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（６）……55
図33　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（７）……56
図34　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（８）……57
図35　１号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（９）……58
図36　３号池状遺構（Ⅱa期）出土遺物……58
図37　18号遺構（Ⅱa期）出土遺物……58
図38　５号溝（Ⅱa期）出土遺物（１）……58
図39　５号溝（Ⅱa期）出土遺物（２）……59
図40　９号遺構（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物……59
図41　２号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物……60
図42　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（１）……60
図43　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（２）……61
図44　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（３）……62
図45　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（４）……63
図46　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（５）……64
図47　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（６）……65
図48　６号井戸（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物（７）……66
図49　１号柱列（Ⅱb期）出土遺物……66
図50　１号池状遺構（Ⅱb期）出土遺物……67
図51　４号遺構（Ⅱb期）出土遺物……68
図52　13号遺構（Ⅱb期）出土遺物……68
図53　65号遺構（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物（１）……68
図54　65号遺構（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物（２）……69
図55　14号遺構（Ⅲ期）出土遺物……69
図56　20号遺構（Ⅲ期）出土遺物……70
図57　25号遺構（Ⅲ期）出土遺物……70
図58　30号遺構（Ⅲ期）出土遺物……70
図59　31号遺構（Ⅲ期）出土遺物……71
図60　48号遺構（Ⅲ期）出土遺物……71
図61　66号遺構（Ⅲ期）出土遺物……72
図62　６号溝（Ⅲ期）出土遺物……73
図63　４号井戸（Ⅲ期）出土遺物……73
図64　ピット177・280（Ⅲ期）出土遺物……73
図65　関連２区出土遺物……74
図66　基本層２a－２層出土遺物……74
図67　基本層２b層出土遺物……75
図68　１層出土遺物（１）……75
図69　１層出土遺物（２）……76
図70　１層出土遺物（３）……77
図71　動物遺存体の組成……119
図72　魚類組成……123
図73　２号池状遺構から出土した遺物果皮と現生ヒョウタン果皮の比較写真……140
図74　出土箕と「宮床箕」……142
図75　出土編組製品と不明製品および縄……143
図76　出土遺物の素材の顕微鏡写真……144
図77　出土箕の編組模式図……147
図78　宮床箕（a）と気仙箕（b）……149
図79　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土昆虫と他の遺跡との比較……155
図80　石臼付着の白色粒子……164
図81　二の丸地区出土供膳具の材質……167
図82　二の丸地区出土瓶器の産地別組成比率……169
図83　二の丸地区出土陶器の産地別組成比率……169
図84　池状遺構出土供膳具の材質……170
図85　池状遺構の産地別組成比率……170
図86　井戸出土供膳具の材質……172
図87　井戸の産地別組成比率……172
図88　他の調査区との関係……179
図89　過去における調査区の位置……181
図90　武家屋敷地区第14地点周辺の絵図・地図……183
図91　武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷模式図……184
図92　礎石と周辺の遺構……186

表 目 次

表1　遺物集計表（1）……78
表2　遺物集計表（2）……79
表3　遺物集計表（3）……80
表4　遺物集計表（4）……81
表5　遺物集計表（5）……82
表6　遺物集計表（6）……83
表7　遺物集計表（7）……84
表8　遺物集計表（8）……85
表9　磁器集計表（1）……86
表10　磁器集計表（2）……87
表11　陶器集計表（1）……88
表12　陶器集計表（2）……89
表13　土器・土製品集計表（1）……90
表14　土器・土製品集計表（2）……91
表15　石器・石製品・その他の遺物集計表……91
表16　瓦（種類別）集計表（1）……92
表17　瓦（種類別）集計表（2）……93
表18　漆塗製品・木製品集計表……94
表19　金属製品集計表……95
表20　磁器観察表（1）……96
表21　磁器観察表（2）……97
表22　磁器観察表（3）……98
表23　磁器観察表（4）……99
表24　磁器観察表（5）……100
表25　陶器観察表（1）……101
表26　陶器観察表（2）……102
表27　陶器観察表（3）……103
表28　陶器観察表（4）……104
表29　陶器観察表（5）……105
表30　土師質（皿）観察表……106
表31　土師質土器（その他）観察表……107
表32　瓦質土器観察表……107
表33　軟質施釉陶器観察表……107
表34　土人形・土製品観察表……108
表35　古代瓦観察表……109
表36　軒丸瓦観察表……109
表37　軒平瓦類観察表……109
表38　軒桟瓦観察表……109
表39　その他の瓦観察表……109
表40　各種木製品観察表（1）……110
表41　各種木製品観察表（2）……111
表42　各種木製品観察表（3）……112
表43　下駄観察表……113
表44　楔観察表……113
表45　箸観察表……114
表46　木簡観察表……114
表47　漆塗製品（椀）観察表……115
表48　漆塗製品（椀以外）観察表……115
表49　古銭観察表……116
表50　煙管雁首観察表……116
表51　煙管吸口観察表……117
表52　その他の銅製品観察表……117
表53　鉄製品観察表……117
表54　その他の遺物観察表……117
表55　石器・石製品観察表……118
表56　動物遺存体種名表……120
表57　遺構出土の動物遺存体……121
表58　動物遺存体観察表（1）……124
表59　動物遺存体観察表（2）……125
表60　動物遺存体観察表（3）……126
表61　動物遺存体観察表（4）……127
表62　動物遺存体観察表（5）……128
表63　動物遺存体観察表（6）……129
表64　井戸遺構出土大型植物遺体（木本）……131
表65　井戸遺構出土大型植物遺体（草本）……132
表66　池状遺構出土大型植物遺体（1）……133
表67　池状遺構出土大型植物遺体（2）……134
表68　ピットほか遺構出土大型植物遺体……134
表69　遺構種類別集計（利用・生育環境毎）……137
表70　遺構種類別集計（生育環境毎）……138
表71　出土編組製品等の素材の植物種……145
表72　出土箕と「宮床箕」（展開状態）の比較……147
表73　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫分析結果（1）……151
表74　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫分析結果（2）……152
表75　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（1）……156
表76　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（2）……157
表77　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（3）……158
表78　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（4）……159
表79　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（5）……160
表80　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（6）……161
表81　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（7）……162
表82　二の丸地区出土供膳具の材質別出土点数……167
表83　二の丸地区出土磁器の産地別出土点数……169
表84　二の丸地区出土陶器の産地別出土点数……169
表85　池状遺構出土供膳具（碗・皿類）の材質別出土点数……170
表86　池状遺構出土陶磁器の産地別出土点数……170
表87　井戸出土供膳具（碗・皿類）の材質別出土点数……172

表88　井戸出土陶磁器の産地別出土点数……172
表89　漆継のある陶磁器集計表……174
表90　焼継のある磁器集計表……176
表91　各調査地点において設定された段階……177

写真図版目次

図版1　3号建物（Ⅰ期）出土遺物……197
図版2　5号柱列・8号柱列（Ⅰ期）出土遺物……197
図版3　10号柱列（Ⅰ期）出土遺物……197
図版4　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（1）……197
図版5　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（2）……198
図版6　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（3）……199
図版7　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（4）……200
図版8　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（5）……201
図版9　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（6）……202
図版10　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（7）……203
図版11　2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（8）……204
図版12　2号池状遺構(Ⅰ期)から検出された箕(9)‥205
図版13　4号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（1）……206
図版14　4号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（2）……207
図版15　4号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（3）……208
図版16　10号遺構（Ⅰ期）出土遺物……209
図版17　12号遺構（Ⅰ期）出土遺物……209
図版18　37号遺構・57号遺構・64号遺構（Ⅰ期）出土遺物……210
図版19　39遺構（Ⅰ期）出土遺物……210
図版20　40号遺構・42号遺構（Ⅰ期）出土遺物…210
図版21　3号溝（Ⅰ期）出土遺物（1）……211
図版22　3号溝（Ⅰ期）出土遺物（2）……212
図版23　5号井戸（Ⅰ期）出土遺物……212
図版24　ピット205（Ⅰ期）出土遺物……212
図版25　ピット70・ピット102・ピット200・ピット239（Ⅰ期）出土遺物……213
図版26　ピット245・ピット250・杭57（Ⅰ期）出土遺物……213
図版27　ピット15・ピット77・ピット165・ピット188（Ⅰ～Ⅱa期）出土遺物……213
図版28　15号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……213
図版29　16号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……213
図版30　26号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物……214
図版31　35号遺構・74号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物…214
図版32　ピット38・ピット225・ピット240・ピット260・ピット279(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物……214
図版33　5号建物（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物……214
図版34　7号遺構（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物……214
図版35　1号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（1）……215
図版36　1号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（2）……216
図版37　1号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（3）……217
図版38　1号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（4）……218
図版39　1号井戸（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物（5）……219
図版40　1号井戸（6）・ピット224（Ⅰ～Ⅲ期）出土遺物……220
図版41　3号池状遺構・18号遺構(Ⅱa期)出土遺物…221
図版42　5号溝（Ⅱa期）出土遺物……221
図版43　9号遺構（Ⅱa～Ⅱb期）出土遺物……222
図版44　69号遺構・2号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物‥222
図版45　6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(1)‥‥223
図版46　6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(2)‥‥224
図版47　6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(3)‥‥225
図版48　6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(4)‥‥226
図版49　6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(5)‥‥227
図版50　6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(6)‥‥228
図版51　ピット226（Ⅱa～Ⅱb期）・1号柱列（Ⅱb期）出土遺物……228
図版52　2号柱列・1号池状遺構(Ⅱb期)出土遺物…229
図版53　4号遺構（Ⅱb期）出土遺物……230
図版54　13号遺構（Ⅱb期）出土遺物……230
図版55　ピット151・ピット156（Ⅱb期）・5号遺構（Ⅱb期～Ⅲ期）出土遺物‥‥230
図版56　65号遺構（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物……231
図版57　50号遺構・ピット49(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物‥231
図版58　6号建物・2号遺構・20号遺構（Ⅲ期）出土遺物……232
図版59　14号遺構（Ⅲ期）出土遺物……232
図版60　21号遺構・25号遺構（Ⅲ期）出土遺物…232
図版61　48号遺構（Ⅲ期）出土遺物……232
図版62　30号遺構（Ⅲ期）出土遺物……233
図版63　31号遺構（Ⅲ期）出土遺物……233
図版64　51号遺構（Ⅲ期）出土遺物……234
図版65　63号遺構（Ⅲ期）出土遺物……234
図版66　66号遺構（Ⅲ期）出土遺物（1）……234
図版67　66号遺構（Ⅲ期）出土遺物（2）……235
図版68　71号遺構・4号溝・6号溝（Ⅲ期）出土遺物……236
図版69　4号井戸（Ⅲ期）出土遺物……236
図版70　ピット136・ピット152・ピット177（Ⅲ期）出土遺物……236
図版71　ピット280・ピット292(Ⅲ期)出土遺物‥‥236
図版72　関連2区・4区出土遺物……237
図版73　2a－2層出土遺物……237
図版74　2b層出土遺物……238
図版75　1層出土遺物（1）……238
図版76　1層出土遺物（2）……239
図版77　1層出土遺物（3）……240
図版78　動物遺存体（1）……241
図版79　動物遺存体（2）……242

図版80　大型植物遺体（1）……243
図版81　大型植物遺体（2）……244
図版82　大型植物遺体（3）……245
図版83　昆虫遺体（1）……246
図版84　昆虫遺体（2）……247
図版85　昆虫遺体（3）……248
図版86　昆虫遺体（4）……249

第Ⅴ章　出土遺物

1．整理作業と資料化の方法

調査時点での出土遺物量は、サンコー社製サンボックス#32（内容量30.3リットル）にて79箱である。遺構の検討段階で、遺構名・層名が変更になったものは、遺物の種類ごとに対照表を作成して、調査時名称と報告名称を照会できるようにしているが、遺物に書かれた注記は変更していない。木製品・漆塗製品は、取り上げ段階で水漬け状態にして一時保管した。金属製品は、取り上げ後、エタノールに漬けて一時保管をした。その他の特殊な遺物を除いては、洗浄・注記後に材質ごとに分類をし、これ以降は材質ごとに整理作業を行い、接合・同一個体の認定後に破片数の集計を行っている。しかし、同一個体の識別が困難な小破片や、破片になりやすい薄手の資料（陶器土瓶や土師質土器の皿など）については、実際の個体数よりも多く集計されている可能性がある。木製品は、木羽、竹・竹製品、樹皮は、破損しやすく、個体数算定が困難なことから、本文中の出土点数には含めていないが、集計表では乾燥後の重量にて提示している。瓦は、個体数と重量で示している。

遺物実測図と写真については、接合・集計後に、器形や特徴がよくわかるもの、時期・産地が判別でき、遺構や層位の時期が判断できるものを選択的に抽出し、図化している。1層出土遺物は、近世で特に残存状況がよいものに限って選択的に資料化した。実測図は、当調査室にて手書きで作成した後、Adobe社「Illustrator」を用いてトレースした。陶磁器等の文様は、ニコン製デジタル一眼レフカメラで撮影した画像を、株式会社CUBIC製「遺物実測支援システム遺物くん」を用いて補正を行い、Adobe社「Photoshop」にて画像処理をして使用している。木製品の焼印や漆塗製品の文様は手描きで表した。木簡の墨書部分については、ニコン製デジタル一眼レフカメラで赤外線撮影を行い、Adobe社「Photoshop」にて画像処理をして用いた。遺物写真は、当室にて撮影した。

木製品は、整理作業の進行状況に応じて、当室において糖アルコール含浸法を用いて保存処理作業を行った。金属製品は、洗浄の後、さび取り作業を行い、遺物の形状がわかるようにして、集計・抽出・図化作業を行った。図化する資料は報告書作成作業が終わり次第、保存処理作業を行っている。

2．各時期の遺構出土遺物（表1～55）

武家屋敷地区第14地点の遺構編（「調査報告」7）におけるⅠ期（16世紀末葉を含む17世紀）、Ⅱa期（18世紀初頭～中葉）、Ⅱb期（18世紀後葉～19世紀初頭）、Ⅲ期（19世紀前葉～後葉、一部近代を含む）の時期区分に基づいて、各遺構の出土遺物を示していく。掲載順は遺構編に準じている。遺物が出土していない遺構は、表1～8の出土遺物集計表に遺物なしの記載をしており、ここに項目は設けていない。なお、自然遺物、木製品（W19）、石製品（S25）、その他の遺物（VA3、VA4、VA5、VA7）については、第Ⅶ章にて詳細を記載しており、そちらを参照されたい。

（1）Ⅰ期の遺構出土遺物

【3号建物】（図2、図版1）　陶器1点、土師質土器1点、瓦1点（340g）、木製品3点が出土している。このうち年代が判明する遺物は、柱6から出土した17世紀代の丹波擂鉢（CT1）のみである。W1は、加工された木製品であるが、用途は不明である。

【5号柱列】（図版2）　陶器1点、土師質土器5点が出土している。年代のわかる遺物は、柱1から17世紀代の瀬戸・美濃灰釉陶器（CT2）の碗が出土している。土師質土器は、皿1点以外は器種不明の小片である。

【8号柱列】（図版2）　磁器1点、陶器1点、土師質土器3点、瓦質土器1点が出土している。柱2から17世紀前葉（明末清初）の中国景徳鎮系の磁器端反碗（CJ1）、向付とみられる志野陶器破片（CT3）が出土し、い

ずれも16世紀末～17世紀前葉にまとまる。土師質土器は皿小片、瓦質土器は火鉢の口縁部破片であるが、それ以上の特徴は不明である。

【10号柱列】（図版３）　陶器３点、土師質土器５点、瓦３点（81g）、和釘１点が出土している。陶器では、柱１から18世紀以降の京・信楽鉄絵皿（CT４）、柱２から17世紀後半の肥前白泥刷毛目文の大鉢（CT５）が出土している。土師質土器は皿小片、瓦も小片である。

【２号池状遺構】（図３～11、図版４～12）　磁器145点、陶器179点、土師質土器692点、瓦質土器16点、土人形６点、軟質施釉陶器７点、瓦95点（2944g）、木製品2169点、漆塗製品38点、石器・石製品24点、金属製品173点、その他４点と、調査区内では比較的遺物量が多い遺構である。

陶磁器と瓦は埋土１～３層、特に埋土２層からの出土が多い。木製品、漆塗製品、金属製品、瓦質土器、軟質施釉陶器は埋土２～３層により多く、特に木製品や漆塗製品は埋土２層に集中している。土師質土器は下層の埋土４～６層からも比較的多く出土している。それぞれの埋土からは比較的近い時期の陶磁器が出土しているが、埋土４～５層は若干古手の陶磁器が含まれている。

埋土１層の磁器では17世紀前半まで遡るものは出土していない。CJ３・４は小片だが肥前の白磁碗と染付碗で、17世紀後半以降と考えられる。CJ２は隅櫛の形をした水滴である。陶器は、17世紀後半、あるいは17世紀末～18世紀前葉頃でまとまる。肥前刷毛目碗（CT７）・呉器手碗、瀬戸・美濃の腰錆碗（CT６）・灰釉碗、大堀相馬の灰釉碗、小野相馬の灰釉碗（CT10）などの碗類のほか、擂鉢では瀬戸・美濃、堺（CT11）、丹波（CT８）と複数の産地がみられる。他に、岸窯系の鉄釉香炉（CT９）、瀬戸・美濃の灰釉餐水入などが出土している。大堀相馬は２点、小野相馬は３点と少なく、いずれも碗の小破片のみで、皿や他器種は出土していない。土人形・土製品はすべて埋土１層で、猿（CO１）、多層塔（CO２）、人形（CO３）などがみられる。CO３は、片手で球状のものを抱えたようなモチーフが推測されるが、何を模しているはわからない。多層塔は、基礎部分のみで上部は欠損している。型作りで対角状に貼り合わせ、表面にはキラ粉とみられる光沢を持つ塗布物が部分的に残存している。

埋土２～３層の磁器は、高台内渦「福」銘と見込五弁花文（CJ13）、「くらわんか手」の碗（CJ７）、小ぶりの丸碗（CJ６）、コンニャク判による見込五弁花文の皿（CJ14）のほか、CJ５・８・10～13・16など肥前磁器が出土している。1680～90年代に出現し、その後流行するコンニャク判や見込五弁花文、渦「福」銘（九州近世陶磁学会2000）、「くらわんか手」（中野雄二2013）など、17世紀後葉から末以降にみられるものが中心で、17世紀末～18世紀前葉頃でまとまると考えられる。17世紀前半頃の肥前皿（CJ10）、17世紀前葉の中国磁器中碗（CJ15）、漳州窯系大皿（CJ９）など、やや古い磁器も含まれるが主体ではない。

陶器も、埋土１層と器種・年代ともおおよそ共通する。肥前の刷毛目碗（CT13・16）・呉器手碗（CT19・21）、瀬戸・美濃の腰錆碗（CT27）・灰釉碗・擂鉢（CT30）、小野相馬の灰釉碗（CT25・29）に加え、肥前の銅緑釉蛇の目釉剥ぎ皿（CT20）、小野相馬の鉄釉流し掛け灰釉碗（CT15）、京・信楽の火入・香炉（CT17）、信楽の大壺（CT28）、信楽とみられる水差蓋（CT18）、備前とみられる瓶類が出土する。擂鉢では岸窯系（CT24）と鉄釉東北産（CT26）がある。京焼風灰釉碗（CT14）には「中村金」の印銘があり、17世紀後葉から18世紀初頭に多くみられるものである（中村裕子1999）。大堀相馬や小野相馬製品は他の製品に比べてかなり少ない。破片のみのため釉調からの判断であるが、大堀相馬破片１点、小野相馬破片９点と、大堀相馬より小野相馬が多く確認される。器種はいずれも碗破片のみで皿などはみられない。淡青灰色ないし淡青灰白色の失透釉で、18世紀中葉や後半に多い淡緑灰白色で透明度のある大堀相馬特有の釉薬とは異なる釉調である。これらは武家屋敷地区第７地点２号遺構（「年報」19第２分冊・第５分冊）から多数出土した18世紀前葉の大堀相馬・小野相馬の灰釉碗と非常に類似している。そのため、大堀相馬・小野相馬が開窯した17世紀末以降から18世紀前葉以前の年代と考えられる。瓦質土器は、火鉢の可能性を含む鉢類と火消壺の蓋などがみられるが小片のみである。軟質施釉陶器は埋土３層出土で、全体形状が不明の碗小片である。

金属製品は、煙管吸口（MO６）のほかに、鉄製品の和釘が多く、小柄か（MO17）、鋏（MO18）、包丁か（MO19）、簪（MO20）、鴨口（MO21）、刃物、火箸かなどの鉄製道具類も比較的豊富に出土している。VA２は鐙甲製のかまぼこ型で小孔があり、片面には横筋状の痕跡がみられる。小孔に紐を通すなどした装飾部品の一部を推測するが全体像はわからない。VA１は形状から山高型のボタンと考え、裏面は小孔２つがつながる状態で開いている。他にガラス製品（器種不明の小片）が出土している。

木製品ではほとんどが埋土２～３層に集中し、種類も多岐に渡る。下駄（W85～94）は破片も含まれるが出土数が多い。箸（W117～130）、木簡（WT１～４）、櫛（W11）、串状（W12～16）、桶（W20・21）、栓（W４・５）、製品の一部分（W６～10）、人形の一部（W18）、楔（W101）のような製品も多いが、材木の一部に加工した痕跡がある板材や角材なども多く出土している。木簡では、WT３で「正徳三年」（1713）の年号が確認された。WT２は欠損もあり推測を含むが、同じく「正徳三年」と書かれている可能性が考えられる。これらは共伴する陶磁器の年代とも非常によく一致しており、出土遺物が18世紀初頭～前葉頃に相当すると考えられる根拠として示される。

漆塗製品は、蓋を含む椀類20点（WL１～４）のほか、曲物（WL24）、箱状製品の一部（WL25）、塗箸（WL26）などがある。漆塗椀は残存状況が悪く、椀ではあるが漆膜のみで形状を保たないものも多くみられた。箱状製品（WL25）は、側板の片面にのみ黒色漆が塗られ、構造から漆が塗られている部分が内面と考えられる。曲物はごく一部分のみの出土であるが、黒色漆に流水菊花文（銀色か）が描かれている。

埋土４～５層の陶磁器は比較的少ないが、埋土１～３層と様相に大きな違いは認められないが、磁器では17世紀後半の網目文の瓶類（CJ19）、17世紀前葉（明末清初）の中国磁器皿（CJ18）などのやや古手も若干含まれている。陶器では小片中心である。瀬戸・美濃の擂鉢（CT30）は口縁部形態から17世紀後半頃と考えられる（藤沢良祐2006）。加工痕のある木材片が出土している以外は木製品も少ない。

他の遺物では、土師質土器の皿は埋土各層から比較的出土点数は多いが細片が中心である。計測可能な資料はCH１～６で、CH２・４・５は煤状の付着物があり、灯明皿として使用されたと考えられる。他に、埋土２層から鉢形の土師質土器（CH43）がある。焼塩壺は埋土１～３層から合計６点出土しているが完形品はない（CH41・42・44）。すべてコップ形で格子目タタキを有する地元産D類で（『年報』９、『年報』19第５分冊）、D類の焼塩壺の出現は元禄以降とみられる（『年報』７）。同型の焼塩壺は、武家屋敷地区第７地点２号遺構（『年報』19第２分冊・第５分冊）から82点出土している。

瓦は埋土３層・４層で、連珠三巴文軒丸瓦類（T５）、唐草文軒平瓦類（T７）などの瓦当文様のわかるものがあるが、他は丸瓦や平瓦の部分破片である。

古銭は寛永通寶の「通」部分（MC２）と、文字不明の部分破片（MC１）である。

石製品では、硯、碁石（S２・７・11・13）、砥石、火打石がある。火打石（S３～５）は石英製で、いずれもより大きな火打石本体からの剥離物と考えられる。砥石（S９・12）は砂岩製で、S12は上下と斜方向の擦痕が重複し、下端は欠損した後も砥面として利用されている。S９も使用時の剥離が見られ、剥離の上に研磨痕跡が観察されるため、欠損した後も使用されていたと考えられる。他に石鏃、磨製石斧、紡錘車といった縄文・弥生時代の石器・石製品も出土しているが、遺構の年代に伴ったものではない。石鏃（S10）は凹基の凝灰岩製で、両面押圧剥離によって整形され、縁辺の形状、断面形ともに不規則である。左の逆刺の破損は、指標的な衝撃剥離ではなく、整形時の破損の可能性も考えられる。磨製石斧（S１）は、表裏主面は擦痕が観察しにくいほど丁寧に磨かれるが、頂部と側面は磨かれず敲打痕が残存している。紡錘車（S６）は凝灰岩製で、中央孔から放射状に刻線が施され、表面には不明瞭ながら整形時のケズリ痕が残っている。

【４号池状遺構】（図12～14、図版13～15）　磁器33点、陶器20点、土師質土器108点、瓦質土器２点、瓦17点（4222ｇ）、木製品226点、漆塗製品20点、石器・石製品２点、金属製品32点が出土している。埋土各層から少量の遺物が出土する状況で、各層の年代差はみられない。

磁器では、17世紀前葉（明末清初）の中国景徳鎮系・漳州窯系磁器（CJ21・22・26・27）、17世紀前葉～中葉の肥前磁器の小中皿（CJ20・24）、17世紀後半以降の肥前（波佐見か）青磁鉢（CJ23）がみられる。細片を含めて18世紀代まで下る磁器は含まれていない。

陶器では、肥前（唐津）の二彩手大皿（CT31）・呉須絵大皿（CT34）・長石釉碗（CT37）・黒釉碗（CT36）、志野織部の小中皿（CT32・33）など17世紀初頭から後半頃のものである。他に瀬戸・美濃擂鉢がみられ、細片のため決め手にはなけるが口縁部形状では17世紀後半頃と考えられる。細片が多く明確でない部分もあるが、陶磁器全体では明らかに18世紀代に下るものはない。17世紀末以降に出現する大堀相馬・小野相馬が出土しないこともあり、17世紀前半代を含んだ17世紀後半の資料でまとまるものと考えられる。

土師質土器は皿のみの出土で、CH７・８を示したが破片が多い。CH８は器面全体が黒色化している。

木製品では、加工痕のある木材片等が多く、製品は比較的少ないが、下駄、櫛（W25）、人形の頭（W23・24）、柄（W26）、折敷の一部（W22）などが出土した。W26は、和鋤の犂轅（ねりぎ）に形状が類似する可能性があるが、破損部分もあり不明確である。下駄は差歯下駄と歯であるが木質の残存状態が悪く図化していない。漆椀も木胎の状態が悪く漆膜のみや破片である。WL28は漆塗製品の取っ手部分で下地のみが残った状態で、WL27は桶の天板で漆がわずかに残存した状態である。

銅製品では、「通」部分が残存した寛永通寶（MC３）、煙管吸口（MO７・８）のほか、鉢状の銅製品（MO13）が出土している。MO13は埋土８層からの出土で、外面に小紋胡麻と菱の文様を帯状に配した非常に薄手の作りで、香炉や仏具を連想させるが用途は確かでない。石製品は碁石２点（S14・15）のみである。他に古代瓦（T１）が１点出土している。

【10号遺構】（図15、図版16）　磁器３点、陶器２点、土師質土器２点、瓦質土器１点、瓦１点（100g）、木製品４点、漆塗製品２点、レンガ１点が出土している。遺構の南北両端が近代以降に攪乱を受けているため、レンガはその混入と考えられる。

磁器は17世紀前葉（明末清初）の中国磁器小坏（CJ28）で漆継痕が確認される。他に肥前白磁の小碗片（あるいは猪口）・肥前色絵磁器小片が出土しており、17世紀後半かと考えられる。

陶器は擂鉢２点である。CT38は、口縁部がなく不明確ではあるが、無釉体部と胎土の特徴から岸窯系とみられる。擂目は摩滅してほとんど残らないほど使用されている。仙台城下で岸窯系擂鉢が出土する17世紀中葉～18世紀初頭頃と考えられる。他は瀬戸・美濃擂鉢とみられるが、擂目がわずかにわかる程度の残存状況のため年代は不明である。

土師質土器は皿の小破片２点のみで、そのうち１点は口縁に煤状付着物が確認され灯明皿として使用されたものである。木製品は、加工痕のある木材片のみで製品はない。漆塗製品は椀と蓋が出土しているが、椀は小片で特徴はわからない。蓋（WL５）は内外面とも黒色で無文の製品である。

【12号遺構】（図16、図版17）　磁器９点、陶器19点、土師質土器９点、瓦質土器３点、土人形１点、軟質施釉陶器１点、木製品５点、漆塗製品２点、火打石１点が出土している。調査時に埋土を分層せずにまとめて取り上げた遺物も含まれる。

磁器は18世紀代の見込み五弁花文（コンニャク判）のいわゆる「くらわんか手」の肥前皿（CJ29）、高台径の小さい17世紀中葉頃の肥前皿（CJ30）、17世紀後葉～18世紀前半の肥前丸碗（CJ31）がみられる。CJ29・31は漆継痕が確認される。陶器は、17世紀末～18世紀前葉の肥前刷毛目文碗、18世紀前葉以降の大堀相馬の鉄釉流し掛け碗（CT42）と灰釉碗、18世紀中葉以降の大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け碗（CT41）、18世紀前半の京・信楽の色絵碗（CT39）、18世紀代の備前の人形徳利（CT40）、18世紀代の東北産鉄釉擂鉢などが出土している。陶磁器は17世紀後半～18世紀中葉以降の比較的幅広い年代の陶磁器が出土している。

土師質土器は、皿破片のほか、鉢の可能性のある口縁部破片１点が出土したが全体形状はわからない。瓦質

土器は火鉢（CG１）、五徳（CG２）が出土している。CG１は口縁部が鍔縁状で短い頸部を持ち、火鉢と考えたが他の器種の可能性も残る。CG２は、板作りで内側に曲がる鉤状の支えが３ヶ所あるが形態の五徳と推測される。土人形（CO４）は破片のため全体像は不明であるが、型作り中空で沈線状の文様が数本みられる。軟質施釉陶器は極小片のため器種はわからない。漆塗製品は漆膜のみが残存した状態で、木製品は加工痕のある木材片が出土しているが製品はない。火打石（S16）は石英製で、鋭角の縁辺や稜線上に集中的に打撃による剥離や潰れが残っている。

【37号遺構】（図版18）　磁器１点、漆塗製品１点が出土した。漆塗製品は赤色の漆膜である。磁器は肥前の口紅のある白磁皿（CJ32）で、面取りした口縁部の作りなどから17世紀代と考えられる。

【39号遺構】（図17、図版19）　磁器７点、陶器７点、土師質土器21点、土人形１点、瓦５点（135g）、巻石１点（S17）、火打石１点が出土した。

磁器は埋土１層から17世紀代の肥前大皿（CJ33）、埋土２層から17世紀後葉～18世紀前葉の肥前碗、埋土３層から17世紀前半の肥前皿（CJ34）が出土している。陶器で年代が判明するのは、埋土３層の志野向付（CT43、16世紀末～17世紀初頭）のみである。他に埋土１層から陶器甕（産地不明）、埋土２層から天目碗の可能性のある瀬戸・美濃碗、肥前の灰釉碗などがみられるが、小片のため年代はわからない。

土師質土器の皿は細片のみで、他に焼塩壺（CH45）１点が出土している。CH45は、ロクロ成形で外面に格子状叩き目を持つ地元産の破片で、17世紀末～18世紀後葉頃に確認される（『年報』19第５分冊）。土人形（CO５）は猿の頭部である。

【40号遺構】（図17、図版20）　陶器１点（CT44）が出土したのみである。瀬戸・美濃の灰釉折縁ソギ皿で、ほぼ完形の状態で出土している。削り出し高台と口縁折縁部が玉縁状になるところから、大窯第４段階（瀬戸市史編纂委員会1993）の16世紀末～17世紀初頭と考える。煤状付着物が口縁部から底部の内外面に広く観察され、部分的に厚い箇所もあり灯明皿として繰り返し使用された痕跡が認められる。

【42号遺構】（図版20）　磁器１点、陶器６点、土師質土器８点、瓦質土器１点、瓦１点（10g）、巻石１点（S18）、火打石１点が出土した。

磁器は17世紀前葉（明末清初）の中国青花磁器と推測される小片１点のみで、図化したものはない。陶器は、検出面で19世紀代大堀相馬の青土瓶片１点がみられるが、他の陶磁器から考えて上層からの混入であろうと判断した。それ以外は、瀬戸・美濃灰釉大鉢（CT45）、絵唐津向付（CT46）、志野向付片など、16世紀末～17世紀前半頃の陶器でまとまる。瀬戸・美濃大鉢（CT45）は黄緑色系の灰釉が一部白濁しており、口縁部外面に窯詰め時の癒着とみられる痕跡がある。絵唐津（CT46）は仙台城跡二の丸地区第９地点で同じ文様構成のものが出土している（『年報』８）。他に鉄釉擂鉢（CT47）は、口縁部にわずかに擂目が確認される程度の残存状況で、胎土は岸窯系や唐津に類似するように見えるが産地不明とした。土師質土器は小片のみだが、CH11はやや大きい破片で、器面内外面全体が黒色化している。

【57号遺構】（図17、図版18）　陶器１点（CT48）が出土したのみである。鉄絵で横縞状の文様が描かれた17世紀初頭の志野織部で、長石釉には一部に縮みや白濁がみられる。頸部上端の欠損部分に漆継痕が確認される。

【64号遺構】（図版18）　磁器２点、土師質土器の皿２点が出土した。磁器２点はいずれもごく小さい破片であるが、うち１点（CJ35）は肥前の輪花皿の口縁部破片で17世紀中葉頃かと考える。もう１点の破片はさらに小さく確実でない部分もあるが、肥前ではなく中国青花磁器の可能性があり、その場合17世紀前半代で磁器の年代はまとまることが考えられる。土師質土器の皿もごく小さい破片であり、詳細は不明である。

【１号溝】　土師質土器１点、瓦１点（70g）が出土したのみである。近世ではあるが、年代推定できる遺物は出土していない。土師質土器の皿は底部破片で、内面・外面に煤状の付着物がみられ、灯明皿として使われたものと考えられるが年代などは不明である。瓦は種類不明の小片である。

【３号溝】（図18、図版21・22）　磁器16点、陶器37点、土師質土器42点、土人形１点、瓦37点（3622g）、漆塗製品２点、石器・石製品２点、金属製品３点が出土している。遺物は埋土１～２層が多く、埋土３層より下層では非常に少ない。

埋土１～２層からは、18世紀後半～19世紀代の陶磁器が多いが、17世紀末～18世紀前半頃も含まれており、比較的年代幅は広い。瀬戸磁器や陶器土瓶は確認されないことから、19世紀前葉～中葉までは下らないものと考えられる。磁器は肥前のみである。見込蛇の目釉剥ぎの小中皿（CJ37）は、残存部位に文様がないことから二重斜格子文より古手の17世紀後半～18世紀前半頃のものと推測した。CJ40の「富□長□」銘は17世紀末～18世紀後葉までみられるが、小振りの碗形から18世紀前半頃かと推測する。CJ36は19世紀前半の輪花小中皿である。

陶器は出土量もやや多く、比較的残存状況もよいものが多い。18世紀～19世紀代の陶器が中心で、大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け碗、灰釉碗、瓶類、小野相馬の鉄釉流し掛け鉢（CT54）、東北産の鉄釉片口鉢（CT49）、鉄釉小甕（CT51）、鉄釉擂鉢などがある。大堀相馬は透明度の高い灰釉のほか、18世紀末～19世紀初頭頃の鐵白色の失透釉（CT55）もみられる。他に、肥前の口縁部鉄釉体部刷毛目文の瓶（CT53、17世紀末～18世紀後葉）、京・信楽の色絵碗（CT50、18世紀前半）、瀬戸・美濃の摺絵灰釉皿（CT52、18世紀初頭～中葉）など18世紀前半を含む可能性の陶器もみられる。

陶磁器以外の遺物は少なく、残存状態もよくない。土師質土器は皿破片のみ、瓦は丸瓦、平瓦、板塀瓦、海鼠瓦などの破片、古銭も破片で詳細はわからない。漆塗製品は漆膜片のみである。CH12は灯明皿とみられるが、煤の付着状況から使用頻度は比較的少ないまま廃棄されたと推測される。土人形（CO６）は鱗状の文様と人物の脚部分の破片で、型押しで作られた「鯛乗り」などの破片と推測される。S19は両端が欠損しているが泥岩製の砥石で、一面には粗い擦痕が残り、他面は比較的平滑である。

埋土３層からの出土は少ない。磁器は肥前のみで、17世紀中葉（～後葉）の生掛けで高台内無釉の碗（CJ42）はやや古手であるが、丸文の瓶（CJ39）は17世紀末～18世紀代と考えられる。陶器は出土していない。他に土師質土器の皿、瓦、煙管がみられるが、いずれも小片で不明である。

遺構編（「調査報告」７）で述べているように、埋土１～２層は遺物も多く、埋土に礫や粘土ブロックを斑状に含むことから、溝の埋め戻し土の可能性が考えられる。３号溝埋土３層以下は遺物がほとんど含まれず、砂と粘土がラミナ状に堆積する状況から、溝機能時の埋土と考えられる。遺物の年代からは、Ⅰ期（17世紀代）から機能している溝を、18世紀後半～19世紀初頭頃（埋土１～２層）に埋め戻した可能性が考えられる。

【５号井戸】（図19、図版23）　磁器８点、陶器９点、土師質土器６点、瓦質土器２点、瓦２点（275g）、木製品15点、漆椀１点、不明粘板岩１点と少ない。

埋土３層と４層（掘方）からは小片であるが、磁器では中国漳州窯系呉須赤絵皿（CJ43、17世紀前葉）、肥前の小杯（CJ44、17世紀代か）、陶器では丹波擂鉢（CT56、17世紀中葉～後葉）、瀬戸・美濃擂鉢（CT57、17・18世紀）、肥前呉器手碗破片が出土している。土師質土器の皿、漆塗椀、加工木材も出土しているが、いずれも小片である。

埋土も小片が多い。磁器は肥前のみで、17世紀末～18世紀初頭もしくは前半代の肥前の碗（CJ46）・皿（CJ45）、17世紀前半代の皿口縁部破片、色絵水滴の一部などがみられる。陶器では肥前呉器手碗（CT58、17世紀後葉～18世紀前葉）、丹波擂鉢（CT59、17世紀中葉～後葉）、小野相馬の鉢（CT60、18世紀代）が出土している。遺物は17世紀後半～18世紀代まで考えられるが、18世紀後葉以降の遺物は認められない。CJ46は漆継ぎ痕がみられる。土師質土器では皿の小片のほか、焼塩壺の破片が出土している。全体形状は不明だが、コップ状で格子叩き目のある地元産焼塩壺と考えられ、17世紀末～18世紀後葉のものである。W95は差歯下駄の歯部分である。

【ピット70】（図20、図版25）　陶器１点、土師質土器の皿１点、古寛永通寶１点が出土した。陶器（CT61）は擂目部分はないが、口縁部形態と無釉焼締の胎土から17世紀代の丹波擂鉢と考えられる。土師質土器の皿はごく

小片で詳細は不明である。古寛永通寶（MC５）は、寛永十三（1636）年から明暦二（1656）年まで幕府によって鋳造され（江戸遺跡研究会編2001）、寛文八（1668）年以降に新寛永通寶が鋳造されると新寛永に通用が置き換わると考えられており、当遺構内では陶器の年代とも矛盾していない。

【ピット102】（図20、図版25） 土師質土器の焼塩壺１点（CH46）が出土している。ごく小さな破片ではあるが、手づくね成形で、内部に輪積みによる粘土の接合痕が確認される。仙台城跡三の丸（結城慎一・佐藤洋1985）や二の丸北方武家屋敷地区第７地点（『年報』17第２分冊・第５分冊）で出土した17世紀代の畿内系焼塩壺に類似するものと考えられる。

【ピット200】（図版25） 磁器１点（CJ47）が出土した。前述64号遺構のCJ35に類似する肥前の輪花皿の口縁部破片で、同様に17世紀中葉頃かと考える。

【ピット205】（図20、図版24） 陶器１点（CT62）が出土した。17世紀前葉の肥前（唐津）長石釉の碗で、胎土には白色・黒色の砂粒がみられる。高台は露胎で、兜巾と呼ばれる円錐状に突出した形状をしており、朝鮮系の碗を意識した器形をしている。断面には漆継痕が確認されている。

【ピット217】 土師質土器８点、瓦１点（300g）が出土した。土師質土器は細片のため器種不明で、瓦は丸瓦片であるが、詳しい年代などは不明である。

【ピット239】（図版25） 陶器３点、土師質土器８点が出土した。陶器は、17世紀初頭の鳴海織部の向付（CT63）が出土している。他はごく小片で産地・年代などは不明確であるが、明らかな18世紀代の陶器はみられない。土師質土器の皿は小片のみである。

【ピット245】（図版26） 磁器１点（CJ48）が出土した。17世紀前葉（明末清初）の中国漳州窯系の皿底部破片で、高台内に砂粒が確認される。割れ口がきれいに成形されており、小型方形に加工して玩具などに再利用された可能性も考えられる。

【ピット250】（図版26） 陶器１点（CT64）、土師質土器３点が出土した。CT64は淡い緑色釉の破片で、17世紀初頭の織部の変形皿（あるいは向付）口縁部の可能性が考えられる。土師質土器の皿のうち１点は灯明皿として用いられている。

【杭57】（図版26） 磁器１点（CJ49）、陶器１点（CT65）が出土した。CJ49は高台径が小さい肥前皿である。CT65は、刷毛目文に鉄絵緑彩のある唐津二彩手大鉢である。磁器・陶器とも小破片で不確かな部分はあるが、17世紀代と考えられる。

なお、Ⅰ期の遺構のうち、１号建物、４号建物、６号柱列、６号遺構、61号遺構、ピット64・74・84・92・107・213・236・248・266・284からは遺物は出土していない。

（２）Ⅰ～Ⅱa期の遺構出土遺物

【ピット15】（図版27） 磁器１点（CJ50）が出土した。肥前の雨降文の碗破片とみられ、文様から17世紀末～18世紀初頭かと推測される。

【ピット77】（図版27） 陶器２点（CT66）が出土した。CT66は瀬戸・美濃の鉄絵文大鉢で、17世紀後半～18世紀前葉頃ととらえた。他に肥前の刷毛目文碗小片があり、同じ年代と考えられる。

【ピット162】 平瓦とみられる小破片など６点（415g）が出土したのみで、近世ではあるが、詳しい年代が判明する遺物は出土していない。

【ピット165】（図版27） 陶器２点（CT67）、瓦質土器１点が出土した。CT67は大堀相馬の灰釉碗とみられる極小片で、18世紀中葉以降と考えられる。他に17世紀後半～18世紀後半の呉器手碗の小破片が出土している。

【ピット188】（図版27） 磁器２点、陶器１点、土師質土器２点が出土した。磁器は17世紀前葉（明末清初）の

中国漳州窯系の呉須赤絵皿（CJ51）で、漆継痕が確認される。CJ52は肥前の碗かとみられるが小片のため年代はしぼれない。陶器は産地不明の甕口縁部破片で年代不明である。

なお、Ⅰ～Ⅱａ期の遺構のうち、ピット164・166・170・294から遺物は出土していない。

（３）Ⅰ～Ⅱｂ期の遺構出土遺物

【15号遺構】（図21、図版28）　磁器４点、陶器５点、土師質土器１点、木製品３点、漆塗製品３点が出土した。磁器は小片のみである。CJ53は肥前白磁菊花鉢の口縁部破片で、17世紀後葉～18世紀代とした。漆継痕が観察される。陶器は、京・信楽の錆絵染付碗（CT68）で、17世紀末～18世紀前葉頃と考えられる。体部下半は無釉で鎬（しのぎ）による文様を加え、高台内を渦巻状に調整したかなり丁寧な作りの碗で、茶器と考えられる。他に肥前の京焼風陶器碗、東北産鉄釉鉢類の高台部などが出土している。木製品は柄杓の柄（W27）以外は、加工痕のある木材片である。漆塗製品は、椀１点と漆膜である。漆椀は残存状態が悪く図化していないが、内外面赤色、高台内黒色で、文様のない製品である。

【16号遺構】（図22、図版29）　磁器11点、陶器９点、土師質土器３点、瓦質鉢類１点、軟質施釉陶器１点、瓦11点（1400g）、加工痕のある木片１点、不明古銭１点（MC６）、レンガ１点が出土した。遺構編（『調査報告』７）でも述べているように、16号遺構は最深部で約３ｍほど掘り下げているが遺構底面までは達していない。遺物は少なくすべて小片で、近世の陶磁器と近代レンガが共伴して出土することが確認される。埋土の状況から、近代以降に井戸を人為的に埋め戻した層と考えられる。

磁器では、17世紀中葉の肥前輪花皿（CJ54）、17世紀前葉（明末清初）の中国青花釉裏紅小坏（CJ55）のほか、17世紀後葉～18世紀代とみられる白磁皿底部など年代幅は広い。陶器は、17世紀代～18世紀前葉頃の丹波無釉焼締擂鉢（CT72）、肥前呉器手碗（CT70）などである。他にCJ56・CT69・CT71のような漆継痕のある小片も含まれる。瓦は瓦当面に唐草文のある軒平瓦類１点を含む。

【26号遺構】（図版30）　磁器３点、陶器５点、土師質土器14点、瓦２点（270g）、石製品２点、鉄滓１点（VA６）、その他１点が出土した。磁器は小片で年代のわかるものはない。陶器は17世紀代とみられる瀬戸・美濃の長石釉丸皿（CT73）のほか、瀬戸・美濃の甕や瓶類破片があるが、これらの年代はわからない。大堀相馬の可能性がある器種不明小破片１点を含むことから、18世紀代まで下る可能性がある。石製品は加工痕跡のある粘板岩破片で、硯の可能性がある小片である。

【35号遺構】（図23、図版31）　磁器１点、陶器１点、土師質土器６点、不明土製品１点、和釘１点が出土した。年代の判明する遺物は、肥前磁器小中皿（CJ57、17世紀中葉～後葉）、大堀相馬の碗とみられる陶器小片（CT75、18世紀代）のみで、年代的まとまりはみられない。

【74号遺構】（図24、図版31）　陶器１点（CT76）、焼塩壺１点（CH47）が出土した。CT76は、瀬戸・美濃の口縁部がヒダ状を呈する鉄釉皿である。美濃の元屋敷東１号Ａ窯などのヒダ皿に比べ、規則的で直線的なヒダが並び、口径が大きいなど異なる特徴を持つ。しかし、18世紀まで下るものではないと考え、積極的根拠に欠けるが17世紀代と推測した。CH47は、ロクロ成形で緩やかな曲線状の体部を持ち、下半にはわずかに格子状の叩き目が観察される。仙台城跡三の丸地区出土（結城慎一・佐藤洋1985）に類例がみられ、17世紀初頭～前葉頃の地元産焼塩壺の一種と考えられる。

【７号溝】　丸瓦の小片１点（10g）のみである。近世の瓦と推測されるが、詳細は不明である。

【ピット38】（図版32）　磁器１点、陶器１点（CT77）が出土した。磁器は肥前であるが、小片のためそれ以上はわからない。CT77は瀬戸・美濃の灰釉碗で、小片ではあるが17・18世紀代と推測される。

【ピット181】　土師質土器の皿３点、和釘１点の出土で、年代の詳細はわからない。CH13は計測値を示した。

【ピット185】 陶器２点、土師質土器２点が出土した。陶器は瀬戸・美濃の灰釉製品と産地不明であるが、いずれも小破片で年代は不明である。土師質土器は皿小破片である。

【ピット215】 磁器１点が出土した。肥前の17世紀後葉以降の碗の可能性が考えられるが、小片のため不明である。

【ピット225】（図版32） 陶器１点（CT78）、土師質土器の皿破片１点が出土した。陶器は瀬戸・美濃の碗破片であるが、詳細な年代は不明である。

【ピット240】（図版32） 陶器１点（CT79）が出土した。肥前の刷毛目文碗破片で、17世紀後半以降の可能性を考えた。

【ピット260】（図版32） 磁器１点（CJ58）が出土した。肥前の小坏で、17世紀後葉～18世紀代の可能性を考えた。

【ピット279】（図版32） 陶器１点、瓦１点（５g）が出土した。陶器（CT80）は肥前の呉器手碗破片で、17世紀後葉～18世紀前葉頃かと考えられる。

【ピット143・201・202・204・277・281】 表３の遺物集計表に示すように、各ピットからは遺物が数点出土しているが、いずれも小破片や年代不明の遺物であり、詳細は不明である。

なお、Ⅰ～Ⅱｂ期の遺構のうち、46号遺構、47号遺構、58号遺構、59号遺構、68号遺構、72号遺構、ピット40、116、180、189、191、195、218、227、237、251、254、256、257、258、265、274、275、282、283、285から遺物は出土していない。

（４）Ⅰ～Ⅲ期の遺構出土遺物

【５号建物】（図25、図版33） 陶器１点、土師質土器１点、金属製品３点が出土した。柱２から出土した陶器の皿破片（CT81）は、胎土と釉調から東北産（あるいは産地不明）とし、年代は18世紀以降と考えられる。柱３からは古寛永通寶２点（MC７・MC８）が背合わせに付いた状態で出土している。

【４号柱列】 磁器１点、陶器１点、土師質土器５点が出土した。柱５から肥前磁器の碗破片、小野相馬陶器の破片が出土している。いずれも小片で図化したものはない。18～19世紀ではあるが詳細は不明である。

【７号遺構】（図26、図版34） 磁器１点、土師質土器３点、瓦２点（470g）、加工痕のある角材片１点、漆塗椀１点が出土している。磁器は肥前とみられるが、極少破片で詳細は不明である。土師質土器のうち、皿１点は口縁部に煤状付着物があり、灯明皿として用いられている。漆塗製品の椀（WL６）は、内外面が黒色、赤色で植物文が描かれたものである。

【28号遺構】 土師質土器１点が出土したが、小破片で詳細は不明である。

【１号井戸】（図27～35、図版35～40） 磁器38点、陶器68点、土師質土器38点、瓦質土器４点、土人形１点、軟質施釉陶器20点、瓦47点（12830g）、木製品148点、漆塗椀９点、椀以外の漆塗製品８点、石器・石製品４点、金属製品５点、ガラス２点、レンガ１点が出土しており、遺物量は比較的多い。埋土２層・埋土３層からの出土が多く、磁器や陶器は完形の個体や比較的大きな破片も含まれている。

埋土４層（掘方）からは、小野相馬の中型丸碗（CT82）、京・信楽の色絵碗の小片など、18世紀代と考えられる陶器がわずかに出土した。井戸の構築年代は18世紀代に遡るものと考えられる。

埋土１層から埋土３層は、埋土間で遺物が接合する場合もあり、陶磁器は概ね19世紀前半代でまとまる。磁器は、肥前以外に瀬戸産磁器（CJ65・70・71・73・74）が出土する。他に産地不明としたが、胎土・呉須がくすんだ発色の広東碗（CJ66）もみられ、産地は不明だが肥前、瀬戸以外の磁器も含まれるものと推測される。器種では中碗とその蓋、小碗が特に多い。丸碗（CJ67・75）以外に、端反碗（CJ61・74）、広東碗（CJ64・66・72）、小型端反碗（CJ65・70）、小型筒丸碗（CJ73）、中碗と組む蓋（CJ59・71）がみられる。小碗はいくつか揃いの出土もみられ、CJ65は他に１点、CJ70は他に２点の同様の碗が出土している。他に肥前皿小片１点、肥前

の御神酒徳利（CJ63・68）、猪口（CJ62）が出土する。御神酒徳利（CJ63・68）は揃いで使われていたものである。CJ74・75では焼継痕が確認される。

陶器の産地は、大堀相馬（CT83・85・87・88・91・94）、相馬系（CT86・89・90）、東北産（CT84）が多く出土し、瀬戸・美濃（CT96）、京・信楽、小野相馬（CT82）もわずかに含まれているが、肥前陶器は出土していない。なお、堤の可能性の陶器は東北産に含めて提示している。器種では端反や平形の碗（CT89・90・93・95）と、土瓶（CT85～87）の出土が多い。CT90の碗は、CT86の土瓶と胎土・釉薬が類似する。大堀相馬の土瓶にみられる白泥鉄絵の文様があるが、胎土は大堀相馬よりやや粗く異なるため、相馬系陶器とした。CT90は仙台市川内Ａ遺跡（佐藤甲二ほか2007）から類例が出土している。CT89は内面長石釉、外面灰釉を掛け分けた端反碗である。CT90と同様のやや粗い胎土で、鉄絵文や高台の作りの類似点から相馬系陶器とした。CT93は白濁した失透性釉薬で、胎土から小野相馬と考えた。これら相馬系とした陶器は、弘前大学人文学部関根達人氏からご教示いただいた。土瓶は大堀相馬が主で、灰釉（CT85）、青釉、白泥筒描き灰釉（CT87）のほか、白泥鉄絵灰釉（CT86）などがみられる。CT86は薄手であるが他の土瓶より胎土が粗く、CT90の碗とも類似する胎土のため、産地を相馬系としている。CT85の土瓶は、井戸埋土に投げ込まれた円礫や木材でできた空隙に挟まるように出土したため、ほぼ完形である。使用時の受熱痕がみられ、器面の釉薬は貫入に沿って細かく剥がれ落ちる状態で、内面のほぼ全面と底部外面には煤状の付着物が確認され、使用中に土瓶を焦がしたものと考えられる。陶器のうち、皿類の出土は少なく、大堀相馬の鉄絵灰釉皿（CT83）、小野相馬の灰釉皿が出土しているのみである。擂鉢は破片中心で点数は多くないが、東北産鉄釉製品のほかに丹波焼締擂鉢１点（CT92）を含む。東北産鉄釉擂鉢には堤の可能性が考えられるものも含まれる。他に大堀相馬（CT91）と瀬戸・美濃（CT96）の錆釉徳利、東北産灰釉流し鉄釉小甕（CT84）、大堀相馬灰釉仏花瓶（CT88・94）が出土している。CT88・94の仏花瓶はほぼ完形の揃いのもので、白濁した灰釉の製品である。小甕（CT84）は完形に近く、胎土・釉薬から堤の可能性が考えられる。陶磁器の器種は、喫茶、飲酒、神仏に関連するものが多く、擂鉢、焙烙（CN１～３）、鉄鍋などの調理に関連した道物も比較的多く含まれている。

土師質土器は少なく、皿（CH15）のほか、さな（CH48）や蓋など、いずれも小片である。また土師質ではあるが、ひび割れて砕けた状態の極小片が多数含まれ、皿などの製品ではなく、構築材などの可能性も考えられるが不明である。瓦質土器は持ち手部分に印花文のある十能（CG３）が出土しているのみである。

軟質施釉陶器の焙烙は、持ち手が短く小孔のあるもの（CN１）と、持ち手が長く小孔のないもの（CN３）がある。CN１の底部は丸みがあり、外面に沈線状の段が付く器形であるが、CN２は底部が直線的で外面に段が付かないなど異なる形態が出土している。

瓦は、両付箱熨斗瓦（T16）、板状瓦（T17）、特殊瓦（T18）など、やや特殊な瓦が多い。金属製品では、寛永通寶の一部１点のほか、鉄鍋の破片が出土している。

石英製火打石（S21）は、打撃による細かい剥離が並び、潰れと摩滅が広範囲に認められる。S20は縄文・弥生時代のチップとみられ、遺構の年代を示すものではない。背面に対抗剥離が残り、腹面の打点付近には剥離時に砕けた痕跡がみられる。

木製品はやや多く出土している。板材や角材、小片などの加工痕のある木材片が多いほか、桶の部材となる天板（底板）や側板の出土も多い。W32～41、およびW43～45は、それぞれ木質や長さ・厚さが揃った側板であり、一個体の桶の可能性が考えられる。特にW43～45は、桶の箍跡の位置や、「井桁にホ」の焼印が共通している。W47は鉄製錐に木製の柄がついた製品で、W46は鍬先と柄の一部である。漆塗椀は、身および蓋が比較的よい状態で残存しているものが多い（WL７～13）。椀（WL７～10）は背の高い器形で外面黒色、内面赤色で共通するが、家紋や文様はそれぞれ異なる。

１号井戸埋土の出土遺物は、陶磁器は細片も含まれるが、完形あるいは完形に近い比較的大きい破片の出土も

多く、木材や礫の隙間から出土する状況が観察された。御神酒徳利や仏花瓶はほぼ完形のものが揃いで出土しており、破損による廃棄ではない可能性がうかがえる。漆椀の潰れ・変形も比較的少なく、桶も一まとまりで出土している。このような出土状況から、幕末明治初頭の武家屋敷廃絶に伴う屋敷の片付けに伴って、井戸に廃棄された資料の可能性があるのではと推測される。

【ピット224】（図版40） 陶器１点、土師質土器の皿１点が出土した。陶器（CT97）は緑釉（織部釉）の見られる口縁部破片で、織部の向付の可能性があり、17世紀前葉頃の年代が考えられる。土師質土器の皿は、底部の小破片で詳細は不明である。

【ピット81・83・90・100・104・125・126・134・145・146・190】 表３～４の遺物集計表に示すように、各ピットからは遺物が数点程度出土しているが、いずれも小破片のため年代不明の遺物であり、詳細は不明である。

なお、２号建物、７号建物、７号柱列、75号遺構、ピット13・17・36・62・79・85・88・95・128・130・142・144・179・184・203・238・244からは遺物は出土していない。

（５）Ⅱａ期の遺構出土遺物

【３号池状遺構】（図36、図版41） 磁器７点、陶器６点、土師質土器の皿１点、瓦１点（50g）、木製品１点、金属製品５点と、出土遺物はごく少ない。

陶磁器は、産地・年代の判断がつかないものが多い。肥前磁器小中皿（CJ76）は、碁笥底の17世紀中葉頃と考えられる。他は細片のため不明確だが、少なくとも18世紀後半以降とみられる磁器は含まれない。陶器では志野向付（17世紀初頭）と考えられる破片、肥前の京焼風陶器（CT98）、大堀相馬の淡緑灰白色の灰釉碗破片など、17世紀～18世紀代の陶器を含む。遺物量も少なく小片のため積極的根拠には欠けるが、17世紀代から18世紀前葉頃の可能性が考えられる。他に、木製品は人形の頭（W51）、煙管雁首（MO１）、火箸（MO14）とみられる銅製品が出土している。

【18号遺構】（図37、図版41） 磁器６点、陶器５点、土師質土器９点、瓦質土器１点、軟質施釉陶器１点、瓦１点（60g）、木製品13点、漆塗製品２点、砥石１点が出土している。埋土２層からは木材片がややまとまって出土している。

磁器は、肥前「くらわんか手」碗（CJ77）以外は細片である。陶器は、肥前の呉器手碗と銅緑釉丸皿の破片が確認されるが、他は細片のため産地・年代は不明である。陶磁器の出土点数は少ないが、17世紀後半から18世紀代の可能性が考えられる。

瓦質土器は丸みを帯びた破片で、外面がガラス質状に変化する部分があり、坩堝の可能性を考えた。木製品は、箸の一部とみられる１点以外は、加工痕のある木材小片である。漆塗製品は漆膜のほか、黒色漆の塗られた小孔付き棒状加工木があり、製品や建具などの一部分とみられるが詳細は不明である。

【５号溝】（図38・39、図版42） 磁器21点、陶器30点、土師質土器45点、瓦質土器４点、土人形４点、瓦74点（6246g）、石器・石製品４点、金属製品５点が出土した。埋土１層、埋土２層に集中するが、遺物量はそれほど多くはない。埋土３層、埋土４層からは、磁器、土師質土器、瓦が各１点出土したのみである。

埋土１層、埋土１ａ層、埋土１ｂ層は、18世紀代の肥前磁器が多く、コンニャク判による菊花文、雨降文、口縁内四方襷文などの小片がみられる（CJ78・79・81）。陶器では、大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け中碗、鉄釉流し掛け灰釉丸碗（CT100）、筒形碗、瓶類、小野相馬の灰釉碗、灰釉中皿、京・信楽の色絵灰釉碗、東北産鉄釉擂鉢、鉄釉甕、瀬戸・美濃の灰釉小碗、鉄釉擂鉢などが出土している。擂鉢や甕などでやや大きな破片も含まれているが器形全体がわかるものは非常に少ない。大堀相馬を中心に18世紀後半～19世紀初頭頃の製品が多く、大堀

相馬碗（CT100）は鐵白色に濁る失透性の釉薬であり、18世紀末～19世紀初頭頃と考えられる。東北産鉄釉擂鉢（CT99）は堤の可能性も考えられる。瀬戸の磁器や土瓶は出土しないことから、19世紀前葉～中葉までは下らないものと考えられる。ほかに肥前呉器手碗（CT101）、京焼写しなどの17世紀後葉～18世紀前葉の若干年代的に遡る陶器がわずかに出土している。

土師質土器では皿破片以外に、焙烙の持ち手部、羽釜が出土している。焙烙は小孔のある持ち手部の破片で、小片で不確実な部分もあるが透明釉はみられないため、軟質施釉陶器ではなく土師質土器ととらえた。土師質焙烙は、二の丸地区第９地点の18世紀後葉の土坑から出土した例が確認される（『年報』９）。羽釜は口縁部付近のみで全形は不明であるが、鍔が付く形態をしている。瓦質土器では火鉢の口縁部破片が出土している。瓦は、丸瓦や軒丸瓦類などに多少大きな破片が含まれるが、抽出資料はない。軒丸瓦類の瓦当面は、摩滅によって文様はわからない状態である。他に硯（S22・23）と碁石（S24）が出土している。硯はいずれも粘板岩製である。S23は陸部に使用による凹みがあり、海部端に墨跡とみられる付着物が観察される。裏面に判読できないが線刻の文字（あるいは記号）がみられる。

埋土２層・３層・４層は、磁器・陶器ともさらに細片が多く（CJ80・82）、18世紀代と推測されるが詳細は不明である。CO７は土製品の猿の胴体部分で、頭部・手足は欠損しているが、沈線による体毛の表現がみられる。CO８は東屋などの屋根部分とみられる土製品である。

遺構編（『調査報告』７）で述べているように、埋土１b層、埋土２層は埋土に礫が多量に含まれている。遺物と堆積状況からは、埋土２～４層が溝機能時の埋土（18世紀中葉以前）で、埋土１a・１b層は18世紀後半～19世紀初頭頃の埋め戻し層の可能性が推測される。

（６）Ⅱａ～Ⅱｂ期の遺構出土遺物

【９号遺構】（図40、図版43）　磁器５点、陶器７点、土師質土器の皿６点、瓦２点（50g）、木製品９点、漆椀か１点、石臼１点、和釘１点、鉄滓１点が出土している。

磁器は、埋土７層から中世（13・14世紀か）の中国青磁鉢（あるいは碗か）（CJ84）、埋土から17世紀前葉の肥前端反碗（CJ83）など古手の製品も含まれる。中世の青磁鉢（CJ84）は漆継痕がみられ、年代的に当時の伝世した品と考えられる。他に小片ではあるが17・18世紀代の肥前碗（CJ85）、陶器は細片が多く年代・産地のわかる資料は少ないが、埋土７層から18世紀代の小野相馬とみられる破片（CT102）、埋土１層から18世紀代の京・信楽の色絵破片が出土しており、陶磁器の年代幅は比較的広い。木製品は箸破片３点と加工痕のある木材片のみである。石臼（S25）は下臼と考えられる。安山岩製で約半分が残存する。上面には８分画された放射状の刻線があり、刻線内部は粉状の付着物が残存している。軸部の穴は正方形を呈し、側面の受け皿部分は意図的に取り除かれており、一部分が残るのみである。

【69号遺構】（図版44）　磁器１点、土師質土器の皿小片２点が出土している。磁器（CJ86）は小片であるが、雨降文のある丸碗で、18世紀代と考えられる。

【２号井戸】（図41、図版44）　磁器20点、陶器35点、土師質土器114点、瓦質土器３点、土人形２点、石器・石製品４点、木製品13点、漆塗碗１点、瓦１点（10g）、金属製品25点、撚糸状繊維１点が出土している。

堀方の埋土からは、磁器は肥前のみで、コンニャク判による雨降文の小碗（CJ87）、五葉若葉重文の端反碗（CJ88）など18世紀前半頃と考えられる。陶器は、織部の向付（CT103、17世紀初頭）がやや古手であるが、17世紀末～18世紀前葉の小野相馬の碗と肥前京焼風陶器が出土している。陶磁器はいずれも小片ではあるが、明確に18世紀後半と考えられるものは含まれていない。他に、土師質土器の皿破片３点が出土したが、いずれも小片である。

井戸の埋土では、埋土３層からの出土が最も多く、埋土１層、埋土２層はほとんど遺物を含まない。磁器は肥

前のみで、18世紀代としたCJ89以外は小片が中心である。素描き文様で18世紀末～19世紀代と考えられる蓋物の蓋も含まれ、磁器の年代幅は比較的広い。漆継痕のある白磁皿小片も含まれる。陶器は、肥前の臼器手碗、刷毛目文碗、銅緑釉蛇ノ目釉剥ぎの小中皿、大堀相馬の灰釉小碗（CT104）と鉄釉流し掛け灰釉丸碗（CT105）、小野相馬の灰釉丸碗があるが、陶器も小片が中心である。17世紀後葉～18世紀前葉頃の肥前碗に加え、18世紀後葉～19世紀初頭に多くなる大堀相馬の失透性の灰釉碗（CT105）・灰釉小碗（CT104）が含まれるなど、陶器にも年代幅がみられる。他に小片の擂鉢（丹波、東北産）、大壺（信楽）が出土している。陶磁器では、瀬戸磁器や土瓶などの明らかな19世紀前葉以降のものは出土していないため、19世紀前葉以降までは下らないと考えられる。

土師質土器は111点とやや多い点数であるが、0.5～１cm程度の大きさにひび割れて砕けた状態の極小片がかなり含まれている。繊維を含んだ破片で、皿や他の製品ではなく、構築材の一部などの可能性も考えられるが細片のため種類はわからない。瓦質土器は小片３点で、火鉢１点以外は細片のため器種不明である。

漆塗製品は漆椀１点が出土したのみである（WL16）。ほぼ完形の蓋とみられ、外面黒色、内面赤色で文様はない。木製品（W52）は、欠損しているが膳の脚部の可能性が考えられる。金属製品は、新寛永１点、文銭１点、寛永通寶とわかる細片１点のほか、煙管吸口２点（MO９・10）が出土している。MO24は釘を留めるような小孔２ヶ所があり、調度部品の一部などが推測される。火打石（S26）は不純物を含む石英製で、火打石から打ち欠かれた砕片と考えられる。

【６号井戸】（図42～48、図版45～50）　磁器51点、陶器38点、土師質土器214点、瓦質土器16点、土製玩具１点、軟質施釉陶器４点、瓦70点（1783g）、木製品2342点、漆塗製品34点、石器・石製品21点、金属製品241点、その他９点が出土している。埋土８～10層からの出土が多い。素掘りの井戸で、崩落などの安全上の理由で埋土11層より下は掘り下げていないため、井戸底面の遺物は含まれていない。また、検出面近くの埋土からは、近代磁器が２点混入している。出土点数は多いものの、破片が多く特徴のわかる遺物は限られている。

埋土および埋土２～４層では、磁器は肥前の丸碗（CJ90・91）、色絵紅猪口（CJ96）など、陶器は大堀相馬の鉄釉流し掛け灰釉碗（CT111）や灰釉皿など、18世紀代が中心である。陶器ではやや古手の肥前系の藁灰釉碗（17世紀代）、瀬戸・美濃の笠原鉢（17・18世紀）などの小破片もわずかに含まれる。CT112は瀬戸・美濃の灰釉鉢（あるいは向付）で、口縁部がヒダ状になる器形をしたもので、漆継痕が確認される。

埋土６～11層からも17世紀後葉～18世紀代の陶磁器（CJ95・CT108・109）に加えて、17世紀前葉の肥前磁器小中皿（CJ94）、中国景徳鎮系磁器の端反碗（CJ92）などが出土する。特に陶器では、18世紀代とみられる大堀相馬灰釉碗（CT108）、鉄釉流し掛け灰釉碗、東北産鉄釉擂鉢（CT109）に加えて、瀬戸・美濃の天目碗（17世紀代か）、岸窯系擂鉢（CT106、17世紀中葉～18世紀初頭）、肥前系の藁灰釉碗（17世紀代）、唐津の白泥鉄釉大鉢（CT110、17世紀後半）など、やや古手の17世紀代の破片もみられる。CT107は鴞形の製品で、産地は瀬戸・美濃とみられる。型作りで鉄釉が掛けられ、鴞の口・背・底部に孔がある。底部に孔があるため、水滴とは考え難く、笛などの可能性も考えられるが用途は不明である。様々な製品が作られるようになる18世紀以降の可能性を推測した。CJ92～94には漆継痕が確認されることから、補修してある程度の長期間使用されていたことが考えられる。陶磁器の年代幅は大きく、軟質施釉陶器の焙烙口縁部破片２点を含むことから、少なくとも18世紀末～19世紀初頭までは下ることが考えられる。

土師質土器は、比較的点数は多いものの、皿２点（CH17・18）以外は器形のわからない小片が多い。焼塩壺など他の器種は出土していない。瓦質土器も壺甕類１点のある以外は小片のため種類不明である。土人形・土製品１点は、飯事道具の甕などの底部破片で、施釉されたものである。瓦では古代瓦２点（Ｔ２・３）が含まれている。近世瓦では小破片のみで特徴のわかるものはない。

木製品は埋土６層以下から多く出土しており、種類も豊富である。箸は完形16点のほか、欠損172点（一端欠損、両端欠損）と多い。串状木製品28点（W53～60）、折敷の一部６点（W67～70）、漆塗椀（蓋含む）14点（WL17

～20）など、土師質土器の皿とともに、宴席に関連する遺物が出土している。WL29は漆塗製品で、漆膜のみ残存する状態の棒状製品で、黒色に金色・赤色で帯状の彩色が確認される。通常の箸よりも径が細いため塗箸ではないとみられる。釣り道具の一部なども類推されるが、欠損しているため詳細は不明である。他の木製品では、曲物４点、筵状木製品７点、柄杓の柄２点、柄杓部品１点など、台所関連の製品もみられる。楔状木製品は19点出土しており、概ね類似したものである（W102～116）。下駄はW97・100が法量・形態からみて一揃いの可能性がある。木簡４点、墨書のある木製品２点が出土している（WT５～７）。WT５では、表面に「木幡様」、他面に品物と人名と考えられる文字が確認される。W66は木製の蓋に「刁」の文字が確認されるが、欠損もあり、文字の意味は不明である。製品以外にも、板材、角材、丸材などの加工痕のある木材片の出土も多く、屋根材の木羽もややまとまって出土している。鉄製品では、刃物（MO25・26）が２点出土しており、これらも台所道具に関連しているかもしれない。MO25は木製の柄が付いた状態で出土した。

その他では、火打石は石英製（S30・31）と玉髄製（S28）が出土している。S30は水晶の自然結晶を素材とし、両端に打ち欠いた剥離痕が残る。S31は三日月形を呈する剥片の縁辺に打撃が繰り返された痕跡がみられる。S28は周縁と背面の稜線上につぶれと微細剥離痕が観察される。S27は縄文・弥生時代の凝灰岩製剥片石器であり、最も長い縁辺両面に使用による不規則な微細剥離痕が観察される。VA10は木製の山高型のボタンと考えられる。VA８は鼈甲製で金彩があり、化粧道具の一部かと推測するが欠損もあり詳細は不明である。VA９はモモの種子で、意図的に切断されており、孔がある形状の加工製品である。

【ピット226】（図版51）　陶器１点、種類不明瓦１点（20g）が出土している。陶器（CT113）は、鉄釉甕の底部破片とみられ、東北産（あるいは産地不明）と考えられる。口縁部に炭化物が付着しており、外面の鉄釉にも変色がみられ、火を受けた痕跡の可能性が考えられる。

（７）Ⅱａ～Ⅲ期の遺構出土遺物

杭18・19・20からは遺物は出土していない。

（８）Ⅱｂ期の遺構出土遺物

【１号柱列】（図49、図版51）　磁器11点、陶器17点、土師質土器34点、瓦質土器１点、不明土製品２点、瓦20点（1293g）、和釘３点が出土した。

磁器では、柱３から中国漳州窯系色絵大皿（CJ98、17世紀前葉）が出土しているが、柱５から肥前の筒型碗（CJ99）、「くらわんか手」で蛇ノ目凹形高台の小中皿（CJ97）など、18世紀後葉以降の様相を示している。陶器は、各柱から大堀相馬の各種製品（灰釉腰折碗・CT114、灰釉丸碗・CT115、鉄釉灰釉掛け分け碗・CT118、鉄釉流し掛け灰釉碗・CT119、灰釉袋物製品・CT120）や、小野相馬の鉢類破片、東北産鉄釉擂鉢、鉄釉甕（CT116）などが出土しており、18世紀後半の様相を示している。CT117は、高台中央の円形のケズリと胎土から18世紀代の肥前京焼風陶器と推測し、上半は残存していないが、内面に釉切れ箇所があることから袋物状の製品と考えられる。

【２号柱列】（図版52）　陶器１点、土鈴１点、瓦３点（110g）が出土した。陶器は、17世紀後半の肥前の白泥刷毛目文の碗破片（CT121）である。土鈴は土玉のみが出土した。

【１号池状遺構】（図50、図版52）　磁器69点、陶器58点、土師質土器37点、瓦質土器９点、軟質施釉陶器３点、瓦29点（3136g）、木製品６点、漆塗製品２点、石器・石製品３点、金属製品５点が出土した。

埋土１層（調査時の取り上げ埋土１・２層を含む）からは、明治初頭とみられる瀬戸の磁器（CJ100・103）や陸軍食器の湯呑（CJ102）が出土している。陶器は小破片が多いが、堤の可能性のある東北産鉄釉擂鉢と鉄釉小甕（CT124）、大堀相馬の土瓶や土鍋破片、鉄絵皿（CT123、18世紀末以降）など、19世紀前葉～中葉以

降の様相が強い。なお、17・18世紀代の陶磁器も一定程度含まれている。焼塩壺と考えられる土師質土器底部（CH51）が１点出土している。ろくろ成形で、底部に回転糸切り痕がみられ、器厚は薄い。二の丸地区や武家屋敷地区において、18世紀後葉以降に出土する印籠形の焼塩壺（『年報』18、『年報』19第５分冊）の可能性が考えられる。他に、土師質土器の皿（CH19・20）、瓦質土器の火鉢、炭櫃、軟質施釉陶器の焙烙の小破片、三巴文の軒丸瓦（Ｔ６）が出土している。

埋土２層からは、埋土１層のような明らかな明治期の陶磁器はみられない。小片が多いが、おおむね18世紀後半以降で、瀬戸の磁器小碗（CJ105、19世紀前葉～中葉）頃までと考えられる。陶器では、変形碗（CT125）、小碗、土瓶、乗燭（CT126）、仏花瓶（CT127）など、大堀相馬の製品が多く、他に東北産鉄釉擂鉢、京・信楽の色絵碗など、18世紀後葉～19世紀代を示す。埋土２層からは、漳州窯系大皿（CJ106）、肥前小中皿（CJ104）、志野の向付１点など、17世紀初頭～前半の遺物をわずかに含む。全体の様相から見て、これらの17世紀代の陶磁器は、当時の伝世品や下部に重複する４号池状遺構、３号池状遺構からの遺物の巻き上がりの可能性も考えられ、１号池状遺構の上限を示すものではないとみられる。他に、焼印のある桶の天板（W83）、漆椀（WL22）、古寛永通寶（MC14）、硯（S32）などが出土している。桶天板（W83）や漆椀（WL22）の残存状況はあまりよくない。WL22は内面赤色、外面黒色で、銀色で家紋が配されるとみられるが、木胎が収縮して漆膜に割れが生じており、家紋の残りも明確ではない。硯（S32）は粘板岩製で、欠損部分も大きいが陸部には擦痕がみられる。裏面に覆手（ふしゅ）と呼ばれる浅い内刳りがあり、「高島上」の線刻が観察される。

【４号遺構】（図51、図版53）　磁器22点、陶器16点、土師質土器７点、瓦質土器３点、軟質施釉陶器焙烙１点、瓦８点（540g）、加工痕のある木片５点、漆膜２点、火打石１点、洋釘１点が出土した。埋土１層には酸化コバルトを用いた近代磁器１点、洋釘１点など、近代遺物が混入している。

陶磁器は、18世紀後半以降のものが主体である。磁器は肥前の碗（CJ107・109、18世紀末～19世紀初頭）、蓋（CJ108、18世紀後半～19世紀代）、小中皿（CJ110、18世紀後半以降）などで、そのうちCJ110には焼継痕が確認される。陶器も大堀相馬の灰釉碗、鉄釉流し掛け灰釉碗（CT128）、鉄釉灰釉掛け分け碗、小野相馬の灰釉鉢など、18世紀後半以降のものが多い。軟質施釉陶器の焙烙（CN４）は、18世紀末以降に出現する器種である。他に18世紀代の京・信楽の色絵皿（CT129）、17世紀後半の肥前の銅緑釉蛇ノ目釉剥ぎ皿（CT130）が出土しているが、瀬戸磁器や陶器土瓶などがみられないことから、18世紀後半～19世紀初頭までが主体と考えられる。

【13号遺構】（図52、図版54）　磁器４点、陶器14点、土師質土器の皿３点、瓦質土器火鉢１点、種類不明瓦１点（10g）、加工痕ある木材小片２点が出土した。

磁器はすべて肥前である。CJ111は18世紀代の髪油壺で、他に17世紀末～18世紀代頃の白磁猪口や染付碗などあるが小片である。陶器は、大堀相馬の灰釉丸碗（CT132）、鉄釉流し掛け灰釉碗、鉄釉灰釉掛け分け碗、小野相馬の碗破片（あるいは鉢か）、東北産鉄釉擂鉢、甕類などがみられ、全体として18世紀代でも中葉～後半の様相が強い。ただし、陶器は丹波とみられる甕（CT131、17世紀後葉～18世紀前半）、唐津の鉄絵緑彩白泥刷毛目文大鉢（CT133、17世紀後半）などやや年代の古いものもみられる。他の遺物は小片のみで、特徴のわかるものはない。

【ピット151】（図版55）　磁器１点が出土したのみである。肥前の碗（CJ112）で、17世紀後半以降～18世紀代とみられるが、破片のため詳細は不明である。

【ピット156】（図版55）　磁器１点、陶器７点、土師質土器の皿破片４点、瓦質土器の鉢類破片１点、瓦５点（300g）が出土した。

磁器は肥前であるが、極細片のみのため詳細はわからない。陶器も小片が多いが、大堀相馬の鉄釉流し掛け灰釉碗（CT134）、小野相馬の灰釉碗（あるいは鉢か）、産地不明の甕類がみられ、大堀相馬・小野相馬陶器の年代から18世紀代でも中葉～後半かと考えられる。他の遺物は小片のみで、特徴のわかるものはない。

【ピット161】 瓦４点（160g）が出土したが、平瓦１類１点と、種類不明瓦３点と特徴のわかるものはないため、図化したものはない。

なお、ピット159・160からは遺物は出土していない。

（9）Ⅱb～Ⅲ期の遺構出土遺物

【５号遺構】（図版55） 磁器81点、陶器89点、土師質土器17点、瓦質土器３点、土人形・土製品２点、軟質施釉陶器６点、瓦５点（110g）、木製品１点、石器・石製品１点、鉄製品８点、レンガ１点、板ガラス１点が出土している。レンガや板ガラスを含むことから、近代までの遺物を含む遺構である。埋土１層からの出土が多い。陶磁器の点数は比較的多いものの、小片のみである。

埋土１層は、磁器は、酸化コバルトを用いた近代磁器（CJ114）を含み、19世紀代の瀬戸の小碗（CJ113・115）や18世紀代とみられる小片磁器も混在して出土している。陶器も小片が主で、大堀相馬の灰釉碗、灰釉皿、灰釉土瓶、小野相馬の灰釉皿、東北産鉄釉擂鉢、鉄釉甕など18世紀後半～19世紀代とみられるものが出土する。18世紀末以降に出現する軟質施釉陶器の焙烙も含まれる。埋土２層以下は出土点数が少なく、青磁の火入・香炉が１点、19世紀代の大堀相馬の土瓶片（CT136）などがみられる程度で、他の遺物もすべて細片で特徴のわかるものは含まれていない。

【50号遺構】（図版57） 磁器３点、土師質土器３点、不明土人形１点、碁石１点（S33）、砥石１点が出土したが、いずれも小片である。磁器（CJ117・118）は、肥前の18・19世紀代と考えられるが、小片のため詳細は不明である。

【65号遺構】（図53・54、図版56） 磁器30点、陶器37点、土師質土器６点、瓦質土器４点、土人形１点、瓦４点（345g）、金属製品３点が出土している。

埋土１層は、土師質土器の秉燭１点（CH21）と飾り金具の一部かとみられる鉄製品の破片が出土した。

埋土２層では、磁器は肥前のみで、素描きの文様（CJ121・122）、口縁内四方襷文の猪口（CJ120）など、18世紀後葉～19世紀前葉のまとまりがみられる。小瓶（CJ119）も19世紀代と考えられる。陶器は大堀相馬の鉄絵皿（CT137・138）が揃いで出土しており、他に大堀相馬の灰釉碗片、小野相馬の灰釉小中皿片、東北産鉄釉擂鉢など、18世紀末～19世紀代の様相と考えられる。他に土師質土器の皿（CH22）がみられる。

埋土では、磁器はすべて肥前で、素描き文様を用いた碗（CJ124）がみられるなど、埋土２層と同様に18世紀後葉～19世紀前葉を中心とした様相である。18世紀代（CJ123・125）や17世紀代の肥前皿片などもわずかに含まれる。また、CJ123・125・126は漆継痕が確認される。

陶器は、東北産鉄釉擂鉢（CT141）、大堀相馬の灰釉丸碗、灰釉腰折碗、鉄釉流し掛け灰釉碗、小野相馬の灰釉鉢など、18世紀後半以降のものが出土している。18世紀末～19世紀初頭以降に多くなる大堀相馬の灰釉小碗も含まれる。CT139は木瓜形で内面無釉の特徴から、火入・香炉とし、京・信楽の錆絵染付の製品で17世紀末～18世紀代と推測した。CT140は、陶胎漆器の銚子と考えられる。軟質の胎土で、型押で魚子地に菊花文が陽刻されている。銚子の注口内面と体部下半内面にも茶褐色の塗布物が薄くみられるが、内面の塗布物は漆か鉄釉かは目視では判別つかない。陶胎漆器は、東京都新宿四丁目遺跡（山本典幸・大口和樹ほか2008）、汐留遺跡（小林博範・斎藤進・小島正裕ほか2000）で小坏が出土している。いずれも年代不明の京都産としており、CT140も同様の可能性が考えられる。

他に、土師質土器の皿（CH23・24）、土製玩具の茶釜（CO９）、鉄製鍋の一部（MO27）が出土している。茶釜は上下合わせの型作りで、上部には霰地文と木の葉文、茶釜の鈕付の表現があり、細かい細工になっている。CH23は口縁部に煤状付着物があり、灯明皿として用いられている。

陶磁器は18世紀後葉～19世紀代と推測されるが、瀬戸の磁器や陶器の土瓶がみられないため、19世紀前葉以降までは下らない可能性も考えられる。遺物量はそれほど多くはないが、時期的なまとまりがあり、陶磁器を中心に比較的大きめの破片もみられることから、18世紀末～19世紀初頭（あるいは前葉か）の小規模な廃棄土坑の可能性も考えられる。

【ピット49】（図版57） 陶器３点が出土した。大堀相馬の灰釉平杉碗（CT143、18世紀後半）、瓶類（CT142）、肥前の呉器手碗である。瓶類（CT142）は、失透性の灰釉で、大堀相馬の土瓶にみられるような緑釉を掛けており、土瓶と同じ時期の19世紀代と推測する。

【ピット113】 土師質土器の皿１点が出土したが、小破片のため詳細は不明である。

なお、ピット223からは遺物は出土していない。

（10）Ⅲ期の遺構出土遺物

【６号建物】（図版58） 磁器１点、土師質土器の皿破片２点、不明鉄製品１点が出土した。柱５のCJ127は中国磁器（17世紀前葉）かと推測したがごく小片のため明確ではない。他に年代の判明する遺物は出土していない。

【９号柱列】 種類不明の瓦１点（50g）が出土したのみで、年代がわかる遺物は出土していない。

【２号遺構】（図版58） 磁器４点、陶器５点、不明土師質土器１点、瓦26点（5065g）、丸杭１点が出土した。

磁器はすべて肥前であるが、CJ128以外は小片で詳細はわからない。CJ128は花唐草文の小中皿で、17世紀末～18世紀前葉頃とみられる。陶器は大堀相馬の鉄釉流し掛け灰釉碗、灰釉土瓶（CT144）、白化粧灰釉土瓶、東北産鉄釉擂鉢がみられ、18世紀後半以降で、土瓶が出土する19世紀前葉～中葉までの年代が考えられる。瓦は平瓦１類でやや大きめの破片が出土しているが、計測や特徴など抽出対象となるものはなかった。

【14号遺構】（図55、図版59） 磁器18点、陶器14点、土師質土器の皿１点、瓦質土器２点、瓦１点（10g）、杭１点、漆塗製品３点が出土した。

磁器は近代の可能性がある瀬戸の磁器（CJ132）を含んでいる。他の磁器は肥前で、17世紀後葉～18世紀前葉の陶胎染付の火入・香炉（CJ129）、18世紀前半の丸型碗（CJ130）、18世紀後葉～19世紀初頭の筒形碗（CJ131）など、比較的広い年代の磁器が出土している。陶器は大堀相馬の鉄釉流し掛け灰釉碗、灰釉土瓶、鉄釉土瓶、鉄釉土鍋、東北産鉄釉擂鉢など、18世紀後半以降から19世紀前葉～中葉の製品が多い。CT145は京・信楽の色絵灰吹、CT147は小野相馬の鉄釉流し掛け灰釉碗で、いずれも18世紀代とした。CT146は17世紀前葉（明末清初）の中国華南緑釉三彩の盤で、本調査区に隣接する武家屋敷地区第７地点池状遺構からも、同様の盤が出土している（『年報』19第２分冊）。漆塗製品では、内面赤色・外面黒色で、赤色で菊花文を描く椀（WL23）が出土している。

【20号遺構】（図56、図版58） 磁器17点、陶器12点、土師質土器16点、瓦10点（2765g）、硯１点、鉄製品５点が出土している。磁器・陶器・土師質土器ともに小破片中心である。

磁器は肥前18世紀代（CJ134～136）とともに、瀬戸・美濃の近代以降に量産される連続したm字文様の磁器（CJ137）、摺絵磁器（CJ138）などが出土している。CJ136は18世紀前半の肥前陶胎染付の火入（あるいは香炉）と考えられる。陶器は、大堀相馬の灰釉碗、灰釉土瓶、小野相馬の灰釉小中皿、東北産鉄釉土瓶の蓋など、18～19世紀代とみられるが、いずれも小片である。陶磁器からは18世紀代から近代までの年代幅が考えられる。硯は陸部分のみが残存した破片である。他に小柄の一部とみられる鉄製品（MO28）が１点出土している。

【21号遺構】（図版60） 磁器２点、陶器４点、土師質土器の皿２点が出土した。いずれも小片中心である。

磁器２点は肥前で、18世紀後半以降かと考えられる腰折碗がみられるが、小片で特徴が少なく不明確である。陶器は、大堀相馬の小中皿（CT148）で糠白色に白濁した灰釉のものや、灰釉土瓶（CT149）など、18世紀末以降で19世紀前葉～中葉までの年代とみられる。

【23号遺構】 磁器２点、陶器１点が出土したが、いずれも小片のため詳細は不明で、図化したものはない。17世紀前半や19世紀代の陶磁器ではないと推測され、消極的根拠ではあるが18世紀代の可能性が考えられる。

【25号遺構】（図57、図版60） 磁器４点、陶器５点、土師質土器の皿11点、瓦４点（100g）、渡来銭１点が出土した。

磁器はいずれも肥前であるが、17世紀前葉の口縁折縁皿（CJ139）以外は、年代不明の小片である。碗破片は17世紀後半～18世紀代の可能性も考えられるが、小片のため判別は難しい。陶器も、志野の向付（CT150、16世紀末～17世紀初頭）以外は特徴がわかりにくく産地・年代不明である。渡来銭（MC15）は「□元通□」の文字が確認され、「宋元通寶」「周元通寶」などいくつかの可能性が考えられるが、残存状態が悪くわからない。渡来銭は、寛永十三（1636）年に「寛永通寶」が鋳造開始されると比較的速やかに切り替えが行われたと考えられていること（鈴木公雄1999）から、陶磁器を含め、17世紀前半代の遺物がいくつか出土しているが、17世紀前半代に限定される遺物のみではない。

【30号遺構】（図58、図版62） 磁器19点、陶器24点、土師質土器13点、瓦質土器の蚊遣り１点、土製品２点、軟質施釉陶器焙烙１点、瓦５点（440g）、金属製品２点が出土している。埋土での年代差はみられない。

磁器は中国小坏（CJ144）、肥前の中碗（CJ140）など17世紀前葉・中葉～後葉も含まれるが、主体は18世紀後葉～19世紀前葉の肥前（CJ141～143・145）である。CJ142は焼継痕が確認されることから、廃棄されたのは18世紀末以降と考えられる。陶器は、大堀相馬の灰釉碗（CT153）、鉄釉流し掛け灰釉碗、鉄釉腰折碗（CT151）、小野相馬の灰釉鉢（CT152）、京・信楽の色絵碗など18世紀代でも後半以降の様相が強い。瀬戸・美濃の磁器や、大堀相馬の土瓶や土鍋が含まれないため、19世紀前葉以降までは下らない可能性が考えられる。

瓦質蚊遣り（CG４）は上半と下半のくびれ部分で、下半に焚口が開いた部分の破片である。土製品は土鈴（CO11）、器台（CO10）が出土している。CO11は比較的よく出土する土鈴（例えば、66号遺構CO14・15）より大きい作りであり、珍しい。瓦質蚊遣りや軟質施釉陶器焙烙（CN５）は、仙台城跡二の丸地区では18世紀末以降に出現する器種であり（『年報』９、『年報』19第５分冊）、陶磁器の年代とも一致する。

【31号遺構】（図59、図版63） 磁器18点、陶器23点、土師質土器47点、瓦質土器１点、土人形２点、軟質施釉陶器４点、瓦５点（293g）、漆膜２点、金属製品６点が出土した。埋土での年代差はみられない。

磁器は、肥前の碗・皿（CJ148～150）と、瀬戸の広東碗（CJ147）が出土し、18世紀末～19世紀前葉頃のまとまりがみられる。また、CJ149には18世紀末以降に用いられる焼継痕が、CJ147には高台内に焼継印が確認される。陶器は、大堀相馬の灰釉碗・鉄釉灰釉掛け分け小中皿（CT155）・灯明皿・灰釉土瓶・青土瓶（CT156）、東北産鉄釉秉燭など、18世紀後葉～19世紀中葉が中心である。18世紀末以降に出現する軟質施釉陶器の焙烙破片も１点確認される。やや古手の陶磁器も若干含まれており、肥前の花唐草文・高台内渦「福」銘の磁器小中皿（CJ151、17世紀末～18世紀前葉頃）、肥前の白泥鉄絵緑彩のある陶器大鉢（CT154、17世紀代）などが確認される。

土人形は、恵比寿（CO12）の頭部破片、相撲取り（CO13）の腹部破片で、いずれも中空型作りの製品である。CO12は、ふくよかな顔と頭巾をかぶった後頭部から恵比寿とみられるが、体部は欠損していて不明である。CO13は、顔と上半は欠損しているが、腹・へそ・化粧廻しの垂れなどの表現から相撲取りが台座に座した土人形と推測した。底部は開口で、表面の凹み部分に胡粉とみられる白色の塗布物がわずかに残存しているのが観察される。その他では、火箸とみられる銅製品（MO15）が１点出土しており、竹の節のモチーフをしている。

【34号遺構】 磁器１点、陶器１点、土師質土器の皿１点が出土しているが、図化したものはない。

磁器は肥前の色絵製品とみられるが、小片のため年代不明である。陶器は備前などの焼締陶器の瓶・甕類の一部と考えられるが、小片のため詳細はわからない。

【48号遺構】（図60、図版61） 磁器11点、陶器24点、土師質土器４点、瓦質土器１点、軟質施釉陶器４点、瓦４点（215g）、金属製品２点が出土した。小片中心で埋土での年代差はみられない。

磁器は18世紀後半以降の肥前のほか、19世紀前半の瀬戸端反碗（CJ152）がみられる。陶器は大堀相馬の灰釉

碗、灰釉土瓶、青土瓶、青釉鉄絵灰釉土瓶（CT159）、鉢釉豆煮、東北産鉄釉擂鉢、土鍋、肥前の刷毛目大鉢などがみられ、18世紀後半以降から19世紀代が多い。軟質施釉陶器の焙烙１点（CN６）が含まれ、瀬戸磁器、土鍋や土瓶が多いことから19世紀前葉～中葉主体かと考えられる。他に、わずかではあるが、17世紀前葉（明末清初）の華南三彩の盤（CT158）、伊賀（あるいは信楽）とみられる水差（CT157、16世紀末～17世紀初頭頃）など、古手の陶磁器が含まれる。銅製品では煙管の吸口１点（MO12）が出土している。また、S８は安山岩製の擦痕のある礫石器で、縄文・弥生時代の可能性が考えられるものが出土している。表裏と側面に平滑な面を持ち、不明瞭ながら擦痕と摩滅痕が観察される。

【51号遺構】（図版64）　陶器２点が出土したのみである。CT160は、16世紀末～17世紀初頭の志野の向付である。CT161は18・19世紀の東北産鉄釉製品の甕底部であり、年代的まとまりはみられない。

【62号遺構】　土師質土器の皿破片１点、漆塗製品１点が出土したが、残存状態が悪く図化したものはない。漆塗製品は椀とみられるが、漆膜のみのため、詳細は不明である。

【63号遺構】（図版65）　磁器４点、陶器７点、土師質土器57点、瓦質土器１点、瓦１点（20g）、加工痕のある木材小片１点、和釘１点が出土した。いずれも小片が多い。

磁器は、17世紀前葉（明末清初）の中国漳州窯系色絵磁器、17世紀前葉の肥前の小坏（CJ153）や小中皿が出土した。陶器は、17世紀前葉の肥前長石釉の中碗（CT162）、17世紀代の肥前碗（CT163）、17世紀後半の肥前刷毛目碗、肥前の長石釉の水指蓋（CT164、17・18世紀）、産地不明鉄釉擂鉢などが出土している。17世紀代の陶磁器がいくつか出土しているが、小片中心のため不明確なものも多い。CT163には漆継痕が確認される。土師質土器の皿破片は、破片数は比較的多いが計測・抽出できるものはなかった。

【66号遺構】（図61、図版66・67）　磁器18点、陶器18点、土師質土器10点、瓦質土器１点、土人形・土製品４点、軟質施釉陶器１点、瓦５点（2000g）、木製品１点、漆塗製品４点、石器・石製品１点、金属製品２点が出土している。

埋土（遺物取り上げ時の埋土１～３層を含む）からは、磁器では素描き文様などの18世紀後葉～19世紀前葉の肥前磁器（CJ154～156・158）が中心である。他に17世紀前葉の中国漳州窯系磁器皿の小片が１点含まれる。CJ154・158・159には焼継痕がみられる。陶器は大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け碗、灰釉腰折碗、小野相馬の見込印花文皿（CT167）など18世紀後半以降の様相が強く、大堀相馬の鉄釉秉燭（CT166）、産地不明の土瓶も含まれることから、19世紀以降も含まれている。埋土４層からは大堀相馬の外面青釉・内面糠白灰釉に青釉流掛けの端反碗（CT165）があり、青土瓶と共通する釉薬であることから19世紀前葉～中葉かと考えられる。当遺構から大堀相馬の青土瓶自体は出土してない。

土人形では埋土４層から四足動物の脚部（CO16）が、埋土・埋土３層から土鈴（CO14・15）が出土している。CO16は、脚部は中実で、胴部より上部は型作り中空であるが、頭部や体部上半は欠損しているため、動物の種類は不明である。前脚と後脚は接合はしないため、どちらが頭部側・尻部側かわかりにくいが、前に突き出た表現がある方を頭部と考えた。脚部は単純な円筒状で、残存する体部も全体的にあまり装飾性はない。土師質の皿（CH25）では、口縁部付近に小孔２ヶ所とその対面に小孔１ヶ所が確認され、通常の皿以外の用途が考えられる。埋土３層からは銭貨の「仙臺通寶」が１点出土した。「仙臺通寶」は、天明四（1784）年から５年間、仙台藩領内の流通に限定する条件で幕府から鋳造許可を得た鉄一文銭であり（阿部正光・佐藤敏幸1997、仙台市史編さん委員会編2004）、他の陶磁器の年代とも一致する。漆塗製品は、漆椀（あるいは蓋）が埋土３層から２点、漆膜のみ残存したものが埋土１層・埋土４層から１点ずつ出土しているが、いずれも残存状態はよくない。

【71号遺構】（図版68）　渡来銭１点、不明銅製品１点が出土した。渡来銭（MC17）は、欠損はあるものの「永楽通寶」と考えられる。寛永十三（1636）年に「寛永通寶」が鋳造されると、渡来銭から寛永通寶に切り替えは比較的速やかに進んだとされていることから（鈴木公雄1999）、17世紀前半代までの可能性が考えられるが１点のみの出土のため明確ではない。

【４号溝】（図版68）　磁器７点、陶器10点、土師質土器12点、瓦３点（280g）が出土しているが、いずれも小片のみである。

磁器は肥前のみとみられるが、18世紀末～19世紀前葉の中碗（CJ160）以外は、極小片で特徴はわからない。陶器も小片中心で、大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け中碗、灰釉中碗、灰釉中皿などと、東北産鉄釉擂鉢、産地不明の灰釉秉燭など、18世紀後半～19世紀初頭の可能性が考えられる。東北産鉄釉擂鉢は、胎土と釉から堤の可能性も考えられる。土師質土器は皿と器種不明の小片のみ、瓦は丸瓦類の小片のみで、詳細は不明である。

【６号溝】（図62、図版68）　磁器９点、陶器16点、土師質土器13点、瓦質土器１点、土人形１点、軟質施釉陶器２点、瓦３点（50g）、和釘１点である。埋土２層の出土した土人形１点以外は、埋土１層の出土である。

磁器は肥前山水文の小皿（CJ161）、素描き文様の中碗（CJ162）で、18世紀末～19世紀中葉頃と考えられる。他にピンク色を用いた19世紀代の肥前色絵磁器破片が含まれる。陶器は小片のみであるが、大堀相馬の灰釉碗、鉄釉流し掛け灰釉碗、灰釉土瓶、小野相馬の灰釉小中鉢、東北産鉄釉灯火具など18世紀後葉以降を中心としている。大堀相馬は、18世紀末以降に多くなる白濁した鐵白釉の碗を含む。他に17世紀前葉の肥前陶器の絵唐津破片１点を含む。土人形（CO17）は、西行法師などの袴を履いた人物の足部分と考えられるが、全体形状は不明である。土師質土器の皿、瓦質土器の鉢、軟質施釉陶器の焙烙、瓦はいずれも小片のため、詳細はわからない。

【４号井戸】（図63、図版69）　磁器15点、陶器12点、土師質土器６点、土人形１点、瓦10点（1930g）、木製品45点、漆塗製品の椀１点、不明粘板岩１点と少ない。井戸掘方からは瓦片が３点出土したのみで、詳細な時期はわからない。

埋土の遺物は小片中心で、17世紀代から19世紀前葉頃までと年代幅も比較的広く、まとまりはみられない。磁器は、埋土５層から中国磁器２点出土している。それ以外はすべて肥前であり、埋土１層から17世紀末～18世紀とみられる肥前の菊花散文の中碗の破片、埋土から肥前青磁の花入（CJ164、17世紀代か）が出土している。陶器では、埋土１層から大堀相馬の鉄釉流し掛け灰釉筒型碗（CT168、18世紀後葉～19世紀前葉）、産地不明の土瓶底部片、瀬戸・美濃の笠原鉢（17・18世紀）が、埋土５層からは、岸窯系擂鉢（CT169、17世紀中葉～18世紀初頭）が出土している。埋土６層では、大堀相馬の灰釉丸碗（CT171、18世紀後葉～19世紀初頭）と、高台内に「薩池」の刻印があるCT170が出土している。CT170は京焼の御菩薩池焼の刻印の一部と考えられ、17世紀代と推測される。CT168・171は失透性の釉で糠白色に白濁したものである。磁器のCJ163・164には漆継ぎ痕が確認される。

土師質土器は皿、鉢類などの小片で、瓦も小片のみのため、詳細はわからない。CO18の土人形は、着物の袂か裾の一部かと推測した。漆塗椀は、木胎部分は朽ちて漆膜のみ残存する状態で、内面赤色、外面黒色で、赤色で三引両文が描かれることは確認できるが状態は非常に悪い。桶の側板（W84）は、外面のタガ部分以外が黒色に変化している。

【ピット136】（図版70）　陶器３点、土師質土器２点が出土した。陶器は肥前灰釉碗、大堀相馬の灰釉碗と土瓶底部（CT172）である。すべて小片で年代は決めがたいが、土瓶が含まれることから19世紀前葉～中葉頃と推測される。

【ピット152】（図版70）　磁器１点、陶器３点、土師質土器２点、瓦２点（80g）が出土している。磁器は18世紀代の肥前網目文碗の口縁部破片である。陶器は、肥前の17世紀後半以降の呉器手碗とみられる破片のほか、18世紀後半以降の大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け碗の破片（CT173）がある。土師質土器は皿破片１点の他に、擂目がかなり摩耗した擂鉢の底部破片が１点出土している。

【ピット177】（図64、図版70）　土師質土器の焼塩壺１点、瓦質土器の擂鉢１点が出土した。焼塩壺（CH52）は、ロクロ成形の口縁部破片で地元産であろうと考えられる。口縁部のみのため年代は不明である。瓦質擂鉢（CG５）は擂目が摩耗して残っていない状態である。瓦質擂鉢が出土するのは主に17世紀前半頃までが中心で、その後は陶器擂鉢が多く出土する傾向にあるため、17世紀前半代の瓦質擂鉢の可能性が考えられるが、他に年代決定

できる遺物が出土していないため、詳細はわからない。

【ピット280】（図64、図版71） 磁器１点、陶器５点、土師質土器の皿４点、不明瓦質土器１点、石器・石製品２点が出土している。小破片が多く、特徴のわかる遺物は限られている。磁器は肥前であることはわかるが、小片のため年代などの詳細は不明である。陶器は、17世紀後葉～18世紀前葉に多くみられる肥前の碗・皿破片（CT174～176）と推測される。他に、火打石と砥破片１点が出土している。火打石（S34）は石英製で、縁辺状に重複する打撃痕や潰れが観察される。

【ピット292】（図版71） 磁器１点、陶器２点、土師質土器の皿１点、和釘１点が出土している。磁器（CJ165）は肥前の碗とみられる。陶器は、瀬戸・美濃の鉄釉甕底部（CT177）、産地不明の焼締陶器小片が出土している。いずれも17～18世紀代の範囲と考えられるが、それ以上年代を絞ることはできない。

【ピット123・129・138・197・222・230・246・261・270・272・287・291】 表５～７の遺物集計表に示すように、これらのピットからは遺物が数点出土している。しかし、いずれも小破片のため年代不明の遺物であり、詳細は不明である。

なお、41号遺構、44号遺構、60号遺構、70号遺構、２号溝、ピット25・171・173・174・175・178・183・186・192・193・198・199・214・219・221・233・259・263・269・271からは遺物は出土していない。

また、時期不明に区分した遺構からは、時期決定のできる遺物は出土していないため、特筆していない。

（11）関連区の遺構出土遺物

【関連２区　遺構】（図65、図版72） 磁器１点、陶器３点、土師質土器の皿１点、瓦２点（120g）が出土した。陶磁器は小片のみで明確ではないが、磁器は18世紀末～19世紀前葉の肥前碗破片である。陶器で大堀相馬の鉄釉碗、灰釉土瓶の可能性のある小片があり、18世紀後葉～19世紀前葉と推測される。土師質土器の皿（CH27）は比較的残存状態がよい。

【関連４区　遺構】（図版72） 磁器１点、陶器１点、瓦２点（100g）が出土した。陶器（CT178）は、瀬戸・美濃の灰釉銅緑釉流しの大鉢（あるいは皿）で、見込みに印花菊花文がみられる17世紀前半のものである。磁器は文様がなく定かではないが、高台径が比較的小さいことから、17世紀前半代のものの可能性が高い。

（12）基本層出土遺物

基本層では、１層、２a-２層、２b層から遺物が出土している。陸軍期・米軍期・大学造成期などの整地によって、調査区西側では、基本層２a-２層、２b層がすでに削平されていて残存していない範囲が多く、基本層２a-２層の分布は限定されている（「調査報告」７図15）。また、基本層２b層は遺物をほとんど含まない層である。そのため、基本層出土の遺物はあまり多くはない。

【基本層２a-２層】（図66、図版73） 磁器74点、陶器111点、土師質土器199点、瓦質土器12点、土人形・土製品３点、軟質施釉陶器５点、瓦120点（4821g）、漆塗製品１点、石器・石製品３点、金属製品31点が出土した。小片が中心のため、図化した遺物は多くない。

陶磁器は、17世紀初頭～19世紀初頭頃までの遺物が特にまとまりなく出土する状況である。磁器は、17世紀前葉（明末清初）の中国小坏（CJ170～172）、17世紀初頭～前葉頃の鎬のある肥前天目碗（CJ174）など、17世紀代でも古いものも含まれる。CJ167は、『柴田コレクションⅤ』（九州陶磁文化館1997 30頁）に類例がみられる。扇面に紅葉と唐草が描かれた高台の高い皿で、CJ167もこれと同様の器形で、見込み文様も扇の一部と山水文的文様と考えられることから、17世紀後葉頃と推測した。CJ173は、『柿右衛門様式―その様式の全容』（九州陶磁文化館1999 56頁）に類例があり、柿右衛門様式の色絵鶏置物の羽の一部分ではないかと推測される。ごく小さ

い破片であるが型押と上絵付けで羽毛状の表現がみられる。CJ166は、肥前の皿で18世紀代と推測する。CJ168は型押による白磁の兎形製品であるが、欠損が大きく用途は不明である。口・耳・体部下半が欠損している。図示した以外に、18世紀代のコンニャク判とみられる文様破片や、18世紀末～19世紀初頭頃の素描き文様の碗破片などが含まれ、磁器の年代幅は広い。また、瀬戸磁器は、可能性のあるものが１点含まれるが、小片のため判断できない。

陶器は、絵唐津、志野の向付など16世紀末～17世紀初頭の古手の破片や、17世紀代の肥前長石釉碗、呉器手碗、刷毛目碗、二彩手大鉢、丹波擂鉢、瀬戸・美濃の大鉢（CT181）など、17・18世紀代の肥前銅緑釉蛇ノ目釉剥ぎ皿、瀬戸・美濃鉄釉系碗（CT179・180）、尾呂茶碗のほか、18世紀代の大堀相馬灰釉碗、鉄釉灰釉掛け分け碗が含まれ、17～18世紀代の多様な陶器がみられる。しかし、いずれも小片が多い。

２a-２層の下限は、軟質施釉陶器の焙烙の持ち手破片が含まれているため、18世紀末～19世紀初頭以降ではあるが、大堀相馬の鉄絵皿や土瓶・土鍋が出土しないこと、明確な瀬戸磁器がないことから、19世紀前葉以降までは下らないのではないかと考えられる。焼塩壺では、17世紀末～18世紀後葉の地元産焼塩壺とみられる口縁部破片（CH53）が１点出土している。

【基本層２b層】（図67、図版74）　磁器５点、陶器８点、土師質土器14点、瓦質土器１点、軟質施釉陶器１点、瓦４点（208g）、硯１点、和釘１点が出土している。遺物は小片のみで残存状況のよいものはなく、明確でない部分も多いが、年代的なまとまりはみられない。17世紀前半代から18世紀代の陶磁器の小片が出土する状況である。硯１点を図示したのみである。

磁器は肥前の17世紀後葉以降とみられる小坏底部、18世紀代の小碗口縁部と、17世紀前葉（明末清初）の中国磁器の可能性のある小破片がみられる程度である。陶器は17世紀後半の肥前碗底部、18世紀前半の肥前陶胎染付碗口縁部、18世紀代の大堀相馬体部破片と小野相馬体部破片がみられるが、いずれも小片のため、明確ではない。軟質施釉陶器は焙烙の口縁部破片の可能性があるが、小片のため明確ではない。硯（S35）は粘板岩製で、縁はほぼ欠損している。陸部を含む下半は意図的に半分に切断され、切断後に加工されて使用されていた可能性が考えられる。

【基本層１層】（図68～70、図版75～77）　近代の陸軍第二師団期から米軍期・大学造成期・現表土の近代～現代までの遺物のため、出土量は多い。重機掘削後に、手掘りで調査を行った分の遺物であり、近現代の遺物が中心である。そのうち、近世の遺物を中心に、特に残りのよいものなどを選択的に図化した。

磁器では、CJ177・188・189の漆継痕、CJ190に焼継痕がみられる。CJ183は白磁型打陽刻で区画に梅枝文が施されている。CJ184は肥前の青磁香炉である。CJ182は肥前の小壺で、釉薬が生掛けの可能性があり、江戸初期の製品かと推測される。CJ188は中国磁器の皿で、高台内は無釉で放射状のケズリが観察される。陶器では、CT183は大堀相馬の灯明皿と考えられるが、ほぼ使用した痕跡がない状態で出土した。CT184は衿姿の武士の人形とみられ、陶器製としたが磁器の可能性も考えられる。頭部は欠損し、呉須と鉄絵で肩衣に文様が付けられ、左脇には刀を差せるように細工した小孔がある。

焼塩壺（CH54）は、17世紀末～18世紀後葉の地元産であるが、その中でも特に底部が厚く、凹みが浅いのが特徴的である。土人形では、いずれも型作り中空で、猫の頭部（CO19）、法師（CO20）、鯉と猫（CO22）などがみられる。CO19は、猫（あるいは狐か）の頭部片側で、目や口、牙などの表現がみられる。CO20は法師（童子）の頭部で、型作りのほほえんだ表情をしている。CO22は、猫などの耳のある動物と推測するが目鼻口部分は欠損している。動物ではなく、髪を結った人物などの可能性も考えられるが欠損しており、わからない。底があり、胴部に鯉（あるいは鯛）とみられる魚が付いている。

碁石（S36）は粘板岩製で、楕円形を呈し、両面にわずかな擦痕がみられる。硯（S37・38）はいずれも粘板岩製である。S37は海部を含む上半分が破損し、陸部には上下方向の擦痕が観察される。S38は縁に破損があり、

除部中央の凹みに擦痕が集中して観察される。側面には直線的な線状痕があり、その中に赤墨が残存している。裏面に「硯友堂　黒瀧清秀　忠臣義士卍巴　白菊哉」と線刻されている。「毛筆生産月報」という昭和21～22年に日本筆墨硯精算連盟宮城県支部によってまとめられた筆の生産記録があり（車田敦・茂木裕樹2010）、昭和22年７月の記録に筆職人として「黒瀧清秀」の名前が確認される。他の文字の意味や関連までは確認できなかったが、硯に線刻された人物は筆職人であった可能性が考えられる。

３．主要な遺物の特徴

（１）近世以前の遺物（表35・表55）

本調査区からは、近世以前の遺物として、縄文・弥生時代の可能性がある土器片３点、縄文・弥生時代の石器・石製品６点、古代瓦４点が出土した。

縄文・弥生土器の可能性がある極小破片３点は、基本層１層と６号井戸から出土した。極小破片のため、図化していない。縄文・弥生時代の石器・石製品と考えられるものは６点出土した。そのうち５点（S１・６・10・20・27）を図化した。２号池状遺構から３点、１号井戸から１点、６号井戸から１点、２a-２層から１点である。

２号池状遺構出土石器・石製品（図10、図版11）は磨製石斧（S１）・紡錘車（S６）・石鏃（S10）、１号井戸（図35、図版40）からはチップ（S20）、６号井戸（図48、図版50）からは剥片（S27）、２a-２層からチップが出土している。縄文・弥生時代の土器や石器・石製品は基本的に混入品であるが、川内地区では少数ながら各調査地点で出土している。

古代瓦は４点出土した。全て小破片であるが、２点は平瓦１類である。４号池状遺構１点（T１、図13、図版14）、６号井戸２点（T２・３、図43、図版46）、基本層１層１点（T４、図69、図版76）出土している。いずれも小破片であり、混入品と理解できる。T１・T２・T４は、凸面は縄を巻いた原体で叩いた縄叩きの痕跡が確認され、凹面は布目の痕跡である。同様の整形・調整痕跡が確認される。細かくは凸面の縄叩きの縄幅がT１→T２→T４の順で大きい。T３は凸面を平滑に仕上げており、個体差が明瞭である。川内地区での古代瓦の出土は、二の丸北方武家屋敷地区の第４地点で３点（『年報』13）、同地区第７地点で１点（『年報』19第３分冊）、同地区第11地点で１点（『調査報告』１）と本調査区例と合わせて計９点の出土となる。

川内地区は近世以降二の丸とその北方武家屋敷造営に伴う土地の改変が行われており、近世以前の様相は明瞭ではないが、川内南地区（二の丸）・北地区（北方武家屋敷地区）の各調査区からは、近世以前の遺構や遺物の出土が報告されている。以下簡単に触れたい。

二の丸地区では、西端の調査区（二の丸地区第６地点）で斜面部に窯跡の最奥部と思われる遺構が確認され、古代の甕の口縁部～体部破片が出土している（『年報』３）。遺構に伴うものではなく混入品であるが、二の丸地区の第４地点・第５地点・第７地点・第９地点で縄文土器や、縄文・弥生時代以前の石器・石製品が確認されている（『年報』３・４・５・９・18）。

武家屋敷地区では、本調査地区に隣接する第７地点（ＢＫ７）において縄文時代の陥し穴と考えられる33号土坑が調査されており、基本層２層に混入して古代の平瓦の可能性がある小破片が出土している（『年報』19第１分冊）。特に武家屋敷地区第４地点（ＢＫ４）は縄文土器・弥生土器が104点、縄文・弥生時代の石器374点、古代の須恵器（長頸瓶）１点、古代瓦３点と、川内地区の調査では、近世以前の遺物が最も出土している。より細かく見ていくと、武家屋敷地区第４地点では自然の沢状の落ち込みが確認され、この沢状の落ち込みを埋める６層から、縄文土器、弥生土器、石器が比較的多数出土している。近世の遺構では３号池状遺構Gからは多賀城創建期の軒平瓦１点が確認されている。その他の近世の遺構の理土や基本層からも縄文土器や縄文・弥生時代の石器、長頸瓶と推定される古代の須恵器片、古代の平瓦小破片２点が出土した（『年報』13）。

その他に武家屋敷地区第６地点・同第８地点・同第９地点・同第11地点・同第13地点からは、縄文・弥生時代

以前の石器、土師器、須恵器、古代瓦が確認されている（『年報』14・20・21・『調査報告』1・2）。

川内地区では縄文・弥生時代や古代の遺跡の存在が予想され、本調査区から出土した縄文・弥生時代の土器や石器・石製品、古代瓦も周辺の遺跡から混入したことが予想される。

（2）陶磁器（表20～29）

出土した陶磁器は、武家屋敷地の整備が開始される17世紀以降の年代がほとんどである。17世紀より古い陶磁器は、中世（13・14世紀か）の中国青磁蓮弁文碗（CJ84）、16世紀末の瀬戸・美濃陶器折縁ソギ皿（CT44）の２点である。CJ84は９号遺構（Ⅱa～Ⅱb期：18世紀～19世紀初頭）出土であるが、他の９号遺構出土遺物に比べて年代的にかなり古く、漆継痕のある中国磁器であることから、当時の伝世品と考えられる。CT44は、40号遺構から１点のみ出土している。スス状付着物が広く付着し、灯明皿として転用され、繰り返し使用した痕跡が観察される。

17世紀前半段階の陶磁器は、一括して出土する遺構・層序はなく、この時期の陶磁器は相対的に少ない。８号柱列（図版２）、25号遺構（図版60）、57号遺構（図版18）、ピット224（図版40）、ピット239（図版25）、ピット245（図版26）からは、17世紀前半頃の陶磁器のみが出土しているが、破片資料が数点出土するような状況である。むしろ17世紀後半や18世紀代と考えられる遺構に、17世紀前半代の陶磁器が数点含まれて出土するという状況がとても多い。17世紀前半段階の磁器では、中国景徳鎮系の端反碗あるいは小坏、小中皿や、漳州窯系色絵印判手の皿などがみられるが、いずれも細かい破片状で、完形に近いものはみられない（CJ１・９・15・18・21・22・26～28・43・48・51・55・92・98・101・106・127・144・170～172・188）。肥前磁器はあまり多くはないが、その中でも碗（CJ83・174）より小中皿（CJ10、34、94、139）の方が多くみられる。当調査地点で最も早い段階の肥前磁器は、天目碗で外面縞状削りなどの特徴のあるCJ174である。陶器では、志野（CT３・43・150・160・189）、織部（CT64・97・103）、志野織部（CT32・33・48）、鳴海織部（CT63）の向付・小中皿・瓶などの美濃陶器、瀬戸・美濃の大鉢（CT45・178）、絵唐津向付や長石釉碗の肥前陶器（CT37・46・62・162）のほか、伊賀（あるいは信楽か）の水指破片（CT157）、華南三彩の盤の破片（CT146・158）などがみられる。いずれも茶陶に関連した製品が中心である。破片資料数点中の差ではあるが、肥前より美濃製品がやや多い。志野の破片が複数の遺構から出土しているが、ほとんどがごく小さな破片に割れた状況で出土し、接合して同一個体になる場合がほとんどない状況であった。絵唐津（CT46）は、二の丸第９地点（「年報９」）から同文様の製品が出土している。華南三彩の盤（CT146、158）は武家屋敷地区第７地点（『年報』19第２分冊）から同様の製品が出土しており、これら華南三彩の盤３点の接合を試みたが、接合はしなかった。

17世紀後半以降の陶磁器では、２号池状遺構（図３・４、図版４～７）、５号井戸（図19、図版23）、６号井戸（図42・43、図版45・46）、３号溝（図18、図版21・22）など多数の遺構から出土する。磁器は肥前中心となり、前代から多い小中皿に加えて、小型・中型の丸碗（CJ３～７・31・89・91・95）も多くなる。他に端反碗、猪口、瓶類、水滴、白磁鉢、青磁鉢・花入・香炉、陶胎染付火入（あるいは香炉）、檜型の水滴や柿右衛門様式と考えられる色絵の置物（鶏か、CJ173）など、器種・種類にバラエティーが増える。陶器では、17世紀後半から18世紀前葉頃までは、白泥刷毛目文の碗・瓶・大鉢、呉器手碗、京焼風陶器などの肥前製品と、腰錆碗、摺絵小中皿、擂鉢、甕類、大鉢などの瀬戸・美濃製品が多数出土している。他に丹波の甕（CT131）、京・信楽の錆絵染付や色絵製品（CT39・50・68・145）が少ないものの含まれる。擂鉢は、17世紀代では丹波（CT１・８・56・59・61・72・92）、岸（CT24・38・106・169）、堺（CT11）、瀬戸・美濃（CT30・57）など産地が多様であるが、18世紀以降はこれらの産地の擂鉢はあまりみられなくなり、代わって東北産とみられる鉄釉擂鉢（CT26・99・109・135）が多くなる。この東北産鉄釉擂鉢も、口縁部形態や釉調などが単一ではないため、いくつかの窯が存在すると推測される。

また、２号池状遺構埋土２層からは「正徳三年」と記載された木簡（WT２・３、図９、図版10）が共伴しており、このことから出土遺物は18世紀初頭～前葉頃であることが明確となったことが特筆される。２号池状遺構段階（図４、図版５～７）では、大堀相馬、小野相馬は灰釉碗のみが数点出土する程度で、肥前や瀬戸・美濃陶器が中心である。２号池状遺構段階では大堀相馬や小野相馬はごく限られた出土状況であることが理解される。この次の段階に相当するのが、享保年間の木簡を伴った武家屋敷地区第７地点２号遺構である（『年報』19第２分冊）。第７地点２号遺構では、肥前や瀬戸・美濃製品が多数を占めることに共通点を持ちながらも、灰釉碗を中心とした大堀相馬・小野相馬製品が陶器の約２割程度を占めるようになり、数点の出土状況であった２号池状遺構段階に比べ、大堀相馬・小野相馬の割合が順調に増えていることが考えられる。

次の18世紀後半（中葉以降）段階では、例えば１号池状遺構（図50、図版52）や１号柱列（図49、図版51）などでは、大堀相馬、小野相馬、東北産鉄釉陶器が主体となり、肥前や瀬戸・美濃製品は出土してもごく限られたものになる。18世紀後半の大堀相馬は灰釉碗、鉄釉流し掛け碗、鉄釉灰釉掛け分け碗など、小野相馬では灰釉碗、鉢（片口鉢含む）などが多数出土している。

18世紀後葉以降から19世紀代の陶磁器は、１号井戸（図27～29、図版35～36）、30号遺構（図58、図版62）、31号遺構（図59、図版63）、65号遺構（図54、図版56）、66号遺構（図61、図版66）、６号溝（図62、図版68）などから主に出土している。肥前磁器では丸碗、小中皿に加えて、端反碗、広東碗、蓋付碗（及びその蓋）、猪口、御神酒徳利、小瓶、水滴など器種が多様になる。陶器は瀬戸・美濃の徳利がみられるが、ほぼ大堀相馬と東北産陶器が主体である。19世紀代では、端反碗や小中皿などの瀬戸磁器が出土し、大堀相馬で土瓶（CT85・87）、徳利（CT91）、仏花瓶（CT88・94）、秉燭（CT126・166）などの碗皿以外の器種も増えている。東北産陶器では、擂鉢（CT141）、甕（CT84）、片口鉢（CT49）など鉄釉の比較的大型品が多い。

（３）土師質土器・瓦質土器（表30・31・32）

【土師質土器】 土師質土器は、皿、焼塩壺、さな、鉢、焙烙、釜、擂鉢、器台などが出土している。接合と同一個体識別作業後の土師質土器全体の破片数では、皿1568点、焼塩壺18点、さな２点、焙烙１点、摺鉢３点、鉢類11点、器台２点、蓋１点、釜１点、極小破片97点、不明654点が出土している。皿が多く、それ以外の土師質土器の出土量は多くない。小破片が多数を占める。

土師質土器の皿は、基本層、各遺構から満遍なく出土しているが、小破片を多く含むものの２号池状遺構470点、４号池状遺構94点、１号池状遺構35点、６号井戸77点、63号遺構53点、３号溝40点、５号溝32点と、特定の遺構から多数出土したことが判明する。資料については、口縁部から底部まで残っており、口縁部もしくは底部外周６分の１が残存し、なおかつ器高が判明するものを抽出し、口径、底径、器高の復元及び諸属性の観察を行った。上記の基準で抽出した資料は40点である。これらのうち、器形や調整技法が判明する代表的な16点を図化している。遺構出土資料はⅠ段階からⅢ段階まで確認されるが、資料数26点と、出土量に比べ多くない。

土師質土器の皿の製作技術は『年報』９で整理されており、これに従って整理したい。ロクロ整形で、底部を回転糸切りし、再調整を施さないＡ類と、ロクロ整形後に底部を回転糸切りした後、外面にミガキによる再調整を施すＢ類とが存在する。分類可能な資料34点のうち、Ａ類は 27点、Ｂ類は７点である。従来の指摘どおりＡ類が多数を占める様相が確認された。

皿の底部には回転糸切りの痕跡が観察され、２つの種類が確認できる。糸切り痕跡の中心がどちらか一方に偏るものを技法ａ、糸切り痕の中心が底面のほぼ中央に位置するものを技法ｂとしている。また、ａ・ｂの技法にはそれぞれ右回転のものと、左回転のものが存在する。ａ類は15点、ｂ類は12点、左回転は18点、右回転10点である。

法量についても分析が行われており（『年報』19第５分冊）、口径10cm以下の小型のもの、10cm～15cmの中

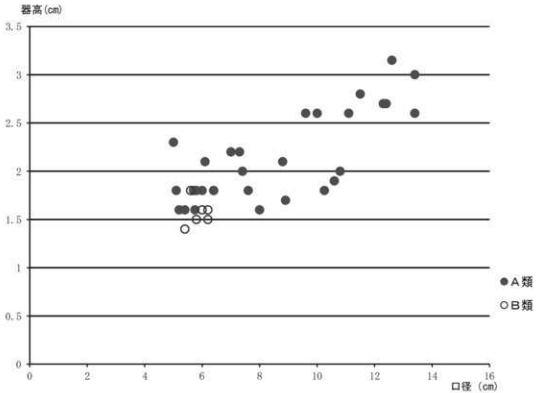


図１　土師質土器(皿)の法量分布図
Fig.1 Scatter diagrams of size of ceramic dishes from BK14

型のもの、15cm以上の大型のものに分けられるが、口径が観察できる資料36点のうち、大型の資料は確認できず、中型10点、小型26点の割合である。

また、ススが付着したものを観察すると、CH12（図18、図版22）・CH13・CH14・CH18（図43、図版46）・CH23（図54、図版56）・CH31・CH33・CH34など小型８点の口縁部の縁に１ヶ所ないし数ヵ所、ススが付着することが確認でき、小型の皿を中心に灯明皿として利用されている。その他にCH８（図13、図版14）・CH11・CH27（図65、図版72）・CH37・CH38は全面的に被熱しており、内外面ススなどの炭化物が付着し、胎土内部も黒色化している。

図１は遺構から出土した土師質土器の皿の口径と器高の法量分布図である。Ⅰ期からⅢ期を通した状況は、口径10cm以下の小型品と、10cm～15cmの中型品にそれぞれ分布が偏る状況が明瞭に見て取れる。さらに細かく見れば小型品については口径５cm～6.5cmと７cm～８cmにある程度のまとまりが確認できる。このまとまりはⅠ期の遺構から出土した資料にも反映しており、小型・中型・大型などの法量の区分が17世紀初頭～前半から19世紀中葉までの資料に通して確認できるとした指摘（『年報』９）とも矛盾しない。なお器高2.5cmを超えるものは基本的に口径10cmを超えており、器高2.5cm以下のものは口径12cm以下で大半が６cm～８cmのものである。なお本地点出土資料では、Ｂ類は10cm以下の小型品に限られる。

焼塩壺は『年報』７で仙台城と仙台領内出土資料を基にロクロ成形のものが在地生産された可能性を指摘し、『年報』９と『年報』19第５分冊で分類基準と編年が整備されている。出土した18点のうち、成形・調整技法や格子叩きなどが確認できる９点を図示した。コップ状の口縁部と体部に格子叩きの痕跡を持つ地元産のＤ類の破片が多く、２号池状遺構から３点（CH41・42・44、図５、図版７）、39号遺構１点（CH45、図17、図版19）、２a-２層１点（CH53、図66、図版73）、１層１点（CH54、図69、図版76）の計６点出土した。CH54は完形品で、Ｄ類でも内面の深度が器高に比べて浅く作られるＤ２類に該当する。２号池状遺構２層～３層出土磁器は17世紀

末～18世紀前葉にまとまりがあり（Ⅴ章参照）、同様に39号遺構埋土２層からは、17世紀後葉から18世紀前葉の肥前碗が出土しており、17世紀末葉以降確認できるD類の出土は無理なく理解できる。

74号遺構３層から出土したCH47（図24、図版31）は口縁部から体部の小破片である。緩く湾曲した体部と体部下部にある格子叩きの痕跡からC類の破片と判断した。17世紀初頭～前葉の地元産と考えられている（『年報』９）。74号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）は遺構の重複関係から18世紀後葉以前であり、出土遺物は少ないものの陶器も17世紀代の陶器が出土しており、年代的に大きな矛盾はない。CH46（図20、図版25）は、２つの粘土帯を丸めて上下に接合して体部を成形したことが内面の粘土帯の接合痕跡から判明する。畿内産焼塩壺に類似した製品であり、仙台城三の丸（結城慎一・佐藤洋1985）や二の丸地区第９地点の寛永15（1638）年以前の整地層（『年報』８）から出土している。17世紀代の資料と考えられる。ピット102（Ⅰ期）出土である。CH51（図50、図版52）は、18世紀後葉以降に出土するロクロ整形で印籠形の在地産焼塩壺と推定される。１号池状遺構（Ⅱb期）の１層から出土し、１層は19世紀前葉から19世紀中葉の遺物が含まれており、年代的に整合する。仙台城跡二の丸地区第９地点16号土坑や二の丸地区第17地点14号土坑・２号溝（『年報』８）、武家屋敷地区第７地点４号土坑（『年報』19第５分冊）に類例がある。

その他に、CH50（図版42）は、土師質土器の焙烙の柄の小破片である。５号溝出土遺物から、18世紀後半から19世紀初頭の時期の所産と考えられる。土師質の焙烙の数は多くないものの、武家屋敷地区第７地点２号遺構から18世紀前葉の資料が（『年報』19第２分冊）、二の丸地区第９地点（ＮＭ９）15号土坑から18世紀後葉の資料（『年報』８）が出土しており、18世紀を中心に類例が増えつつある。

【瓦質土器】 瓦質土器は残存状態のよい資料がほとんどない。火鉢は、肥厚した口縁部破片、体部破片、底部破片などの特徴から判別しているが、鉢類とした破片には火鉢破片が含まれている可能性が考えられる。火鉢20点、炭櫃３点、十能２点、擂鉢２点、蚊遣り２点、火消壺蓋１点、五徳１点、焜炉１点、坩堝１点、鉢類38点、壺甕類３点、不明66点が出土したが、そのうち比較的残存状態のよいものは、火鉢（CG１）、五徳（CG２）、十能（CG３）、蚊遣り（CG４）、擂鉢（CG５）である。

火鉢はほとんどが小破片で、『年報』９、『年報』19第５分冊で分類した口縁部が肥厚し体部の立ち上がりが緩いA類と、体部の立ち上がりが強いB類の口縁部や、これらの体部や底部とみられる破片が中心である。今回の資料では、A類・B類の火鉢は小片のみで図化できたものはなかった。火鉢（CG１、図16、図版17）は、火鉢A類、B類とは異なる形態の火鉢と考えられる。口縁部が鍔縁状になり、短い頸部を持つ器形で、体部下半の形態は欠損していて不明であるが、外面全体が丁寧なミガキ調整されている。

五徳（CG２、図16、図版17）は、武家屋敷地区第４地点（『年報』13）や仙台市桜ヶ岡公園遺跡（主濱光朗ほか2011）で類例が出土している。類例から推測すると、内側に鉤状に曲がる支えが３ヶ所ある器形と推測され、CG２は支え１ヶ所が残存したものと考えられる。鉤状部分は白色～褐色に色が抜けた状態に変化しており、火を受けた部分と考えられる。

十能（CG３、図29、図版37）はこれまでにもみられる器形であるが、持ち手部分の印花文が押される例は比較的少ない。二の丸地区第17地点（『年報』18）、武家屋敷地区第４地点で印花文を持つ十能が出土しているが、それぞれ印花の形が異なり、一様ではないことがわかる。

蚊遣り（CG４、図58、図版62）は、上半と下半のくびれ部分のみが残存した状態で、下半には焚口となる広口の孔が部分的に残存している。内面は火を受けて白色化しているが、煤状の付着物などはみられない。蚊遣りは二の丸地区第９地点（『年報』８）、武家屋敷地区第11地点（『調査報告』１）、第13地点（『調査報告』３）などに類例があり、ほぼ同様の器形であるが全体形状がわかる例はまだみられない。

瓦質擂鉢（CG５、図64、図版70）は、擂目は摩滅してほとんどわからない状態まで使われたもので、下半が白色～褐色に変化している。瓦質擂鉢は中世から継続する器種であり、仙台城跡三の丸跡（結城慎一・佐藤洋

1985）の17世紀初頭～前葉の資料、武家屋敷地区第４地点、第７地点、第11地点（『年報』13、『年報』19第２分冊）の17世紀前半を中心とした遺構からいくつか出土している。17世紀後半から18世紀以降に岸窯系陶器擂鉢や東北産陶器擂鉢が出土するようになると、わずかに共伴する例はあっても擂鉢の主体ではなくなるものと考えられる。そのため、CG５も17世紀前半代の可能性が考えられる。

（４）土人形・土製玩具（表34）

２号池状遺構から６点出土した以外は、まとまって出土する遺構はみられない。破片資料が多く、全体形状が不明なものもあり、人形の一部分と考えられるものを土人形不明、それ以外を土製品不明とした。施釉されていない土師質製がほとんどで、軟質施釉製は６号井戸のミニチュア甕の体部破片１点のみである。

土人形の猿（CO１・５・７）はすべて手捏ね製であった（図５・17・38、図版７・19・42）。完形品はなく、CO５は頭部の特徴から、CO１・７は背中の体毛の表現から猿と推測している。これまでの出土例でも、猿はさまざまなポーズをしていることが多いが、胴部に頭部・手足を貼り付けて作るため、貼り付けた部分で剥落している例が多い。CO１・５・７の猿も手足は剥落しており、どのような体勢を表現していたかはいずれも不明である。

型作りの土人形では、器厚が比較的薄く、内部が中空のものが多い（CO４・６・12・13・18・19・21・22）。型で成形した際に粘土を押し付けた痕跡が、内面に指紋と共に観察される。型作り土人形の一部ではあるが、何を模っているか不明のもの、背面側で特徴が乏しい破片なども含まれる（CO４・18・21）。種類では鯛乗り（CO６、図18、図版22）、相撲取り（CO13、図59、図版63）、恵比寿（CO12、図59、図版63）、四足動物（CO16、図61、図版67）、法師（CO20、図69、図版76）、猫（CO19、図69、図版76）、鯛と猫（CO22、図69、図版76）など縁起物・めでたい物を模った例が多い。四足動物は、顔と胴体の付き方から最も近いのは熊型が考えられるが、当資料が熊となるかどうかまでは断定できない。

型作りの土人形のうち、中実で底部に穿孔があるもの（CO３・17、図５・62、図版７・68）がみられたが、残存状態のよいものが少なく、全体像はわかるものはない。いずれも内面に貫通しない小孔がみられるが、製作時に棒状工具を差して型で成形した痕跡の可能性が考えられる。多層塔（CO２、図５、図版７）も底部に小孔があり、同様の製作工程が考えられる。

土製玩具は、飯事道具の茶釜（CO９、図54、図版56）と器台（CO10、図58、図版62）、箱庭道具の屋根（CO８、図39、図版42）と多層塔（CO２、図５、図版７）、土鈴などの種類がみられる。CO８は東屋などの屋根で、型作りで成形した後、刺突によって屋根の細部を表現している。類例では、武家屋敷地区第11地点（『調査報告』１）から瓦質製の屋根が出土しているが、屋根の細部表現などに違いがみられる。土鈴（CO11・14・15）は過去の調査でも多数出土しているが、CO14・15（図61、図版67）と類似したものが多い。CO11（図58、図版62）の土鈴は比較的大きく、前後合わせの型作りで作られている点で他とは異なる特徴を持つ。いずれも中の土玉は欠損している。

多層塔（CO２）と相撲取り（CO13）には塗布物が観察される。CO２は表面には「キラ粉」と呼ばれる光沢を持つ塗布物が部分的に残存している。CO13は凹部の一部に白色の彩色が残り、胡粉が塗布されていたかもしれない。

（５）瓦（表35～表39）

瓦の分類・集計・計測の基準は『年報』６・７・８・９で示しており、『年報』18・『調査報告』１でも一部あらたに設定を行い、分類基準を明確にしている。今回報告した資料は、基本的にこれらの分類基準を踏襲している。

出土した瓦は、軒丸瓦、軒丸瓦類、軒平瓦、軒平瓦類、軒桟瓦、平瓦１類、平瓦２類、丸瓦、丸瓦類、板塀瓦、

棟瓦、熨斗瓦、古代瓦、不明瓦の14種類と特殊瓦に分類された。瓦の出土総数は728点（24791g）である。各遺構から満遍なく出土するが、２号池状遺構の95点、５号溝の74点、６号井戸の70点、１号井戸の47点など、井戸や池状遺構からの出土数がやや多い。

これまでの抽出基準（『年報』６）にしたがって、法量を計測するための基準は、次のようにした。軒丸瓦・軒平瓦・軒桟瓦については、瓦当の一部が残っている資料、平瓦１類・平瓦２類・桟瓦・桟瓦類・丸瓦・丸瓦類・板堀瓦・棟瓦・熨斗瓦については、幅、長さのどちらかが計測可能な資料を抽出した。近代の瓦のため図化しなかった資料は計測した法量を観察表にまとめている。

古代瓦は（１）で触れている。基本的に小破片が多いが、軒丸瓦と軒丸瓦類は一部瓦当の文様が遺存している。瓦当部の文様は形態と組み合わせが整理されており（『年報』６・７・９、『調査報告』６）、この分類に準拠する。軒丸瓦のＴ５（図５、図版７）は連珠三巴文の一部が、Ｔ６（図版52）は小破片であるが、三巴文の一部がわずかに確認される。

軒平瓦類の３点は、一部瓦当の文様が遺存している。瓦当部の文様は形態と組み合わせが整理されている（『年報』６・７・９、『調査報告』６）。Ｔ７（図５、図版７）は剣形桔梗２類＋唐草３ｂ類である。Ｔ８（図22、図版29）は唐草文２類の一部が遺存しているものの、表面の大部分が剥落している。Ｔ９（図58、図版62）は唐草文２類の文様が一部遺存している。

（６）木製品（表40～表46）

木製品・竹製品は、水分を多く含む埋土に覆われた池状遺構や井戸状遺構から5018点出土した。特に２号池状遺構の埋土２層や、６号井戸の埋土８層～10層から多様な木製品が出土した。出土木製品は、下駄、箸状木製品、串状木製品、折敷、刳物、櫛、桶、楔、栓、曲物、人形、札、建築部材、加工製品、木簡、千枚通し、鍬、犂?など多種多様な生活用具、飲食用具、調理用具、玩具、工具、建築部材・関連製品が占める。報告では162点を図化した。その他にも加工痕跡のある木材や杭、不明竹製品などがある。なお合計点数からは除外しているが、屋根を葺いた板材の木羽や樹皮、自然木、炭化材、製品以外の竹なども多量に出土している。主要な木製品についてまとめたい。

【下駄】 下駄は49点出土しており、残存状態が良いものを中心に、代表的な形状のものや、台部や歯の形状に特徴があるものなどを選択して16点図化した。２号池状遺構から37点出土しており、その大半を占める。下駄の分類と変遷について『年報』９にて整理されており、本稿もこの分類基準に従う。下駄は大きくは一本作りで台部と歯を作り出した連歯下駄、別材の台と歯を組み合わせた差歯下駄、一本作りで歯を持たない無歯下駄の３つに分類され、連歯下駄は前後の歯が独立するものと、台部から歯が必ずしも独立しないものがあり、後者を刳り下駄とする。差歯下駄は、台部にあるホゾ穴に歯を差し込んで接続する露卯差歯下駄と、ホゾ穴がなく、台部裏の溝に歯を接続する除卯差歯下駄がある。

連歯下駄では、平面形が丸みを持つ丸型連歯下駄が２点（W98、図45、図版48）と長方形を呈する角型連歯下駄が８点（W85・86・87・93・94・97・99・100、図６・７・45、図版８・９・48）が確認できた。全体の形状が判明する数は多くないが、角型連歯下駄の方が多い。角型連歯下駄は、長方形（W86・97・100）のもの以外に、四隅を面取りするもの（W85・87・99）と、四隅を丸く仕上げ隅丸にするもの（W93・94）がある。歯の状況は比較的磨り減っているものが多い。横緒孔が後歯の前にくるもの（W85・98）と後歯の後ろになるもの（W86・87・93・99）が確認される。

また、W94・97・100は、連歯下駄でも歯が独立しない角型の「刳り下駄」である。歯が台部から続いた形態である。W97とW100は前歯底面の前壺に鼻緒が一部残存している。W97は後歯が欠損しているが、共に６号井戸から出土しており、規模もほぼ揃うことから、W100と対になる可能性がある。

差歯下駄について、W88・89・90（図６、図版８）は露卯差歯下駄である。平面形についてW88・89は隅丸の角型、W90は丸型である。露卯差歯下駄の歯（W95・96）の破片は13点である。W89・95（図19、図版23）・W96（図45、図版48）の歯の平面形は台形を呈する。

無歯下駄は２点（W91・92、図７、図版８）である。その他に下駄の破片であるものの、小破片のため細かな部位が特定できないものが20点ある。

年代的な様相では、Ⅰ段階の２号池状遺構は連歯下駄５点、差歯下駄及び差歯の部品が13点、無歯下駄２点、４号池状遺構は差歯下駄の歯が４点、Ⅱa～Ⅱb段階の６号井戸から連歯下駄４点、差歯下駄の歯が２点出土している。

17世紀を中心とした時期（Ⅰ段階）に差歯下駄と連歯下駄が一定数存在し、18世紀を中心とした時期（Ⅱa～Ⅱb段階）に連歯下駄が増加するとした指摘（『年報』９）と矛盾しない。

【楔】 楔は20点出土した。一端を薄く尖らせた道具で、農耕具や建具などさまざまなものを固定するのに使用された。小さいものは長さ6.8cm、最長で15.1cmのものが確認されるが、幅は約２cm～３cm、厚さも1.5cm～2.5cmの範囲にまとまる。長さに長短があるものの、比較的に似通った規格の製品である。２号池状遺構（図８、図版９）から出土した１点を除き、６号井戸（図45・46、図版48・49）からまとまって出土した。

【箸状木製品】 箸状木製品は、直径が５～６mm程度の箸状の形態をしたものである。376点出土した。両端が残存しているもの26点、一端が残るもの180点、両端が欠損したもの170点である。全て白木製である。２号池状遺構と６号井戸からそれぞれ173点、188点出土しており、ほぼこの２基の遺構からの出土である。箸状木製品は先端形状や断面形状の特徴を表している。代表的なものを選択して、39点を図化した。

箸状木製品は、先端の形状によりＡ～Ｆ類に分類される（『年報』９、『年報』19第５分冊）。Ａ類は特に加工を加えず、切断面の形状を残すもの。Ｂ類は、先端を作り出すが、切断面を残すもの。Ｃ類は切断面を残さないほど、先端を尖らせたものである。Ｄ類は先端をヘラ状に作り出すもの、Ｅ類は先端を片側だけ削って尖らせたものである。Ｆ類はこれら以外で特殊な形状のものをまとめたものである。表45では、両端の形状を組み合わせてＡＡやＡＣのように示している。

先端形状で圧倒的に多いのはＡＡの組み合わせである。組み合わせの判明する26点のうち、20点がＡＡ、ＢＢが３点、ＡＢ、ＡＤ、ＡＥの組み合わせがそれぞれ１点である。ＡＡ類は、ＡＢ類、ＢＢ類とともに「寸胴箸」と呼ばれるものに相当すると考えられる。なお一方の先端が焦げて尖るW127（図８、図版９）については、串状に刺して使用し、火にかけた可能性がある。先端を尖らせたものについては、箸以外に串として料理に使用した可能性も考えられる。

２号池状遺構から出土した長さが判明する箸状木製品は10点あり、うち７点は230mmを超え、そのほか３点も226mm～229mmであり、おおむね８寸に近い値である。６号井戸から出土した長さが判明する箸状木製品は、16点中13点が234mm～241mmの範囲にあり、平均237.8mmとほぼ８寸に該当する。

北方武家屋敷地区第７地点（ＢＫ７）の２号遺構から完形品だけでも4611点と多量の箸状木製品が出土している。２号遺構は仙台城二の丸から搬出したゴミを廃棄した土坑であり、出土遺物は木簡に記載されている年号から、18世紀前葉の一括資料とされる。２号遺構出土箸は、210mm～219mmに顕著な集中が見られ、18世紀前葉に箸状木製品の長さが８寸から７寸に切り替わったことが推定されている（『年報』19第５分冊）。２号池状遺構と６号池状遺構から出土した資料は長さが判明した資料が少数なため、この様相が反映しているかは検討を要するが、Ⅰ期の２号池状遺構の資料は先の指摘と矛盾はなく、Ⅱa～Ⅱb期の６号井戸は出土遺物から18世紀には埋没していたことが判明しており、８寸の資料は17世紀から18世紀の過渡的様相を反映している可能性が考慮される。

【串状木製品】 全体を面取りした細長い板状ないし多角形の木製品で、先端を作り出すものを串状木製品として

いる。44点出土した。２号池状遺構から13点、６号井戸から28点出土しており、ほぼこの２つの遺構からの出土である。先端部は両側から削り、山形にするW13（図８、図版９）・W53（図43、図版46）や、斜めにカットするW56（図43、図版46）・W58（図43、図版46）、先端部に向かって中央付近から多方向に削り、尖らせるW16（図８、図版９）・W55（図43、図版46）の他に、長方形のもので、幅はそのままに厚みをもう一端より薄く加工するW15（図８、図版９）がある。両側から削る山形の先端は、先端が中央に作り出されるのではなく、一方に偏って斜めに削られたものが多い。

【人形】 W23・24・51は角材を四つ割にし、頭部と頸部を一体で彫った人形である。棒状の頸部を胴体の部品に差し込む可能性もあるが、棒状の部分を直接手で握り、操ることも考慮される。江戸時代の木製人形は17世紀前葉～17世紀末が最も多く、18世紀前葉以降少なくなる傾向が指摘（安芸毬子2016）されており、W23（図13、図版14）・W24（図13、図版14）が出土した４号池状遺構（Ⅰ段階）、W51（図36、図版41）が出土した３号池状遺構（Ⅱａ段階）の年代からも、この傾向と矛盾はない。木製人形は、武家屋敷地区第11地点の１号遺構の下部埋土から１点出土している。長さ14.7cm、幅4.0cm、厚さ2.7cm角棒状の木製品の一端に人物の顔を彫り込んでいる。１号遺構は自然流路とその埋土を彫り込んだ長方形の遺構で、出土遺物から17世紀初頭から前葉に位置づけられている（『調査報告』１）。W18（図８、図版９）は陽物と推定される。類例としては、北方武家屋敷地区第７地点２号遺構から出土した多量の木製品の中に、板状ではあるが陽物を象った木製品が２点ある（『年報』19第３分冊）。

【加工木製品】 さまざまな木製品の部品と思われる加工された木製品を一括して、加工木製品としている。80点と最も数が多く、多様な形態を含む。80点のうち、２号池状遺構から36点、同様に６号井戸から36点が出土しており、この２つの遺構で72点を占める。

なお、形状が判明し、残存状況の良い16点を図示した。代表的なものを取り上げれば、W６（図７、図版９）・W48（図34、図版39）・W77（図44、図版47）のような断面長方形の板状の木製品で、端部を段状もしくは端部を一部除去して「L」字形にして、釘も使用して他の部材と組み合わせる建築に関わる部材や箱の部材などが想定される。その他にW52（図41、図版44）のように孤状に加工してあり、膳の脚になる可能性があるものや、W74（図44、図版47）のような側面形が山形になるよう台座状の製品などもある。

なお、W48（図34、図版39）のような両端をL字状に仕上げ、端部の突出部や短辺側面に釘穴や木釘の痕跡が認められるような資料は、同形の部材が二の丸地区第９地点１号池から出土し、箱状の製品の部材の可能性が指摘されている（『年報』８）。

【その他の木製品】 W46（図33、図版40）のような鍬柄と鍬台が一体で作られている鍬は、本来鉄製の鍬先が付属するものと推測されるが、鍬先は出土していない。なお武家屋敷地区第７地点の２号遺構からは、鍬柄と鍬台が一体化している鍬と、鍬柄と鍬台が分離した鍬がそれぞれ出土している（『年報』19第３分冊）。その他の農具として、W26（図13、図版14）は、犂の犂轅（ねりぎ）の可能性がある。犂轅は牛馬の引く柄や縄と接続し、牛馬の力を犂身に伝える部品である。犂轅を曲げた曲轅は、牛馬の力を安定的に犂先に与え、犂先の後ろ（床尻）が浮かないようにする工夫である。ただし、W26は現存長53.6cmであるが完形に近いと予想され、曲轅としては短く、最大幅2.7cmも華奢な印象がある。現状では犂の曲轅の可能性があることに指摘をとどめたい。

W47（図34、図版39）は鉄製の先端部と木製の柄を組み合わせた工具で、千枚通しと考えられる。鉄の先端側が多角形ながら円形を呈している。柄は切り込みが入れてあり、花弁状である。東京大学医学部付属病院入院棟Ａ地点のＳＫ３は元禄16（1703）年の火災層にパックされており、遺構一括遺物の下限を示しているが（成瀬晃司・小林照子ほか2016）、この遺構から同形のものが出土している。

【木簡・墨書ある木製品】 木簡は12点、墨書ある木製品が２点出土した。木簡は２号池状遺構から７点、６号井戸から５点出土した。墨書のある木製品も６号井戸から出土しており、出土資料は２つの遺構にまとまる。文字

や墨の一部が確認できた資料９点を図化した。２号池状遺構から４点（WT１～４）、６号井戸から５点（WT５～７、W66a・66b）である。

木簡や墨書された木製品については、『年報』19第３分冊において、『木簡研究』で提示されている型式を基準として、近世木簡のため『木簡研究』の型式に合わないものについて、型式を追加して報告している。本報告の分類基準もこれに従う。下線を付けたものが『年報』19第３分冊において追加した型式である。本地点出土木簡と墨書のある木製品の形態は下記の型式に該当する（表46）。

011型式　短冊形のもの。

011-c型式　長方形でも、下端がやや細くなるもの。051型式に入れがたいもの。

019型式　一端が方頭で、他端が折損・腐食で原型が失われたもの。

051型式　長方形の材の一端を尖らせたもの。

061型式　用途明瞭な木製品に墨書のあるもの。

081型式　折損・腐食その他によって原形が判明しないもの。

２号池状遺構（図９、図版10）では、WT１は両端部が破損しているが、下端はほぼ遺存しており、019型式と判断した。WT２・３も019型式と判断した。WT４は、折損した小破片であり、081型式である。

６号井戸（図43、図版46）は、WT５とWT６が完形品であり、WT５は051型式、WT６は011-c型式に該当する。WT７は両端部及び側面が折損しており、081型式　である。W66aとW66bは箱状の木製品の蓋と推定され、061型式である。

木簡の記載内容

出土した木簡は少数で、完形品が少ないため、品物・数量・名前・年号が断片的に判明する。少数のため、遺構ごとに内容を整理する。

２号池状遺構のWT１は、一面のみ墨書が確認され、「□五斗入」とあり、□は豆の可能性が高い。武家屋敷第７地点２号遺構出土木簡（WT162）は、表面に「名取上余田村　源之助」、裏面に「大豆五斗入」と記載されており（『年報』19第３分冊）、品物と数量に差出人と地名が書かれた木簡であった可能性がある。

WT２は、両面墨書が確認され、「□□（正徳カ）三年」「□（御カ）用□（合カ）［ ］」とある。次のWT３も両面墨書が確認され、「正徳三年」、「□□金御下」の記載であることを考慮すると、WT２の年号も正徳三（1713）年の可能性がある。２号池状遺構理土２層及び３層から出土した陶器・磁器は、17世紀末～18世前葉にまとまることが報告されており、出土遺物の年代とも一致する。

WT３は、裏面の「□□金御下」の記載から、正徳三（1713）年のなにがしかの金にかかわる内容であるが、上部も欠損しており、詳細は不明である。

WT４は、両面とも字の半分が折損しており、判読が難しく、詳細は不明である。

６号井戸のWT５は、「木□（幡カ）様［ ］」「御□（所カ）金□（屋カ）　□（狩カ）野□□□（新兵衛カ）」とある。人名について「木幡様」とすると、本調査地点周辺の区画では、絵図から元禄４・５（1691・92）年には木幡修理という人物が住んでおり、享保９（1724）年には氏家斉順に屋敷主が移り変わったことが判明する（『調査報告』７）。木簡が出土した11層も含め、17世紀後葉から18世紀代（Ⅱa～Ⅱb期）の陶磁器が出土しており、６号井戸は18世紀代に埋没したことが判明している。年代的な接点もあり、絵図の「木幡修理」と関連するものの可能性も考えられる。裏面は断片的で詳細は不明である。

WT６は、上部に３字程文字の痕跡があるが、墨の残りが悪く明瞭ではない。木目にそって縦方向に表面を削った痕跡がある。

WT７は文字と判断できないが、一部墨書の痕跡がある。W66は箱の蓋と考えられるが、大部分が折損しており、蓋の外面（W66b）と内面（W66a）にそれぞれ文字が１字程度判明する。内面は「刁」である。干支の「寅」

に特に用いるくずし字である。外面は文字の半分が折損しており、不明である。

（7）漆塗製品（表47・48）

漆椀の器形分類は、『年報』９の分類以降に増加した資料を加えて、『年報』19第５分冊で再編成しており、その分類に基づいている。分類の詳細は『年報』19第５分冊を参照の上、今回の資料に用いた分類についてのみ説明すると、以下のようになる。

椀身Ｂ１ａ類：口径が深さの２～３倍の椀。Ａ類に比して浅めであるが、口径は同じか、若干大きめの値をとり、比較的大型の椀。体部と高台の形状により、さらに４類型に細分されるうち、Ｂ１ａ類は、体部に稜線を持たず、高台が高め、ロクロ挽き込みが極端に浅く、底部が厚い。

椀身Ｂ１ｂ類：体部に稜線を持たず、Ｂ１ａ類より高台は低めで、底部も薄い。

椀身Ｂ２ａ類：口径が深さの２～３倍の椀のうち、稜を持つ。高台が高め、ロクロ引き込みが浅く、底部が厚い。

椀身Ｂ２ｂ類：稜を持つが、Ｂ２ａ類より高台は低めで、底部も薄い。

椀身Ｃ２ａ類：口径が深さの３～４倍の浅めの椀のうち、稜を持つもの。高台が高め、ロクロ引き込みが浅く、底部が厚い。

椀身Ｃ２ｂ類：稜を持つが、Ｃ２ａ類より高台は低めで、底部も薄い。

椀身Ｃ３類：体部が筒状に短く直立する。体部の中位にタガ状の隆帯や２条の稜線（面取り）を持つ場合がある。高台はいずれも低い。

漆塗椀は24基の遺構（図９・15・26・34・35・41・47・50・55、図版10・16・34・40・44・50・52・59）から出土しており稀な遺物ではないが、出土時点ですでに木胎は朽ちて漆膜だけ残存した状態のものも多く、形態や文様が判明するものは限られている。２号池状遺構、１号井戸、６号井戸からは比較的状態のよい漆塗椀が出土している。４号池状遺構はやや点数は多いものの、出土時点では漆塗椀と確認できるが木胎が朽ちて形状を保てない状態のものが多数で、図化できたものはない。

遺構によって漆塗椀の特徴に多少の傾向がみられる。２号池状遺構（WL１～４、図９、図版10）、10号遺構（WL５、図15、図版16）、６号井戸（WL17～20、図47、図版50）は文様のない無文の椀・蓋が多い。６号井戸で14点中１点に植物文（銀色）のある蓋が出土しているのみで、他はすべて無文の椀であった。また、10号遺構で無文の椀１点（WL５）が出土している。一方、１号井戸（図34・35、図版40）では、無文２点を含むものの、家紋や植物文などの文様がつく漆塗椀が多い。家紋（WL７～９・15）は４種類みられ、それぞれ異なっている。植物文ではWL11・14が金色で描かれた植物文（牡丹か）であり、描いの漆塗椀の可能性も考えられる。他に、１号池状遺構から家紋の漆塗椀１点（WL22、図50、図版52）、７号遺構から植物文の漆塗椀１点（WL６、図26、図版34）が出土している。家紋の椀では、家紋を３ヶ所に配する点については、定型化されている。

器形は、口縁部や高台に欠損があるものや歪みのある椀も多く、確定的な分類は難しいものが多い。椀身Ａ類（口径と深さの比率が２：１より深い背の高い椀）は出土しておらず、Ｂ類・Ｃ類のみである。２号池状遺構の椀は、椀の深さは異なるが、体部に稜を持つ器形のＢ２類・Ｃ２類という共通点がみられる（WL１～４）。WL１・３・４は内外面の漆の色も共通するため、三つ椀など組になる可能性も考えられるが確証はない。１号井戸では、体部に稜をもたないＢ１類（WL７～10・14・15）が中心であるが、それぞれに高台の厚いもの（Ｂ１ａ類）、薄いもの（Ｂ１ｂ類）があり、すべて同じ器形ではない。上述のように、家紋が異なるため、これらは組み椀にはならないと考えられるが、WL11・14は植物文が共通するため、椀と蓋の組みの可能性も考えられる。６号井戸では、体部に稜を持つＢ２類（WL17・20）、稜を持たないＢ１類（WL19）、体部が筒状に短く直立し２条の稜線（面取り）を持つＣ３類（WL18）など、器形はさまざまで共通性は薄い。

漆塗りの色で最も多いのは、内面赤色・外面と高台内黒色のもの（WL７～11・13～16・19・22・23）で、器形に関わらずみられる。必ずではないが、外面に加飾されていることも多い。全面赤色（WL２・18・20）、全面黒色（WL５・６・12）の椀は多くはない。全面赤色では加飾はみられなかったが、全面黒色ではWL６で植物文が加飾されている。また、内外面赤色で高台内のみ黒色の椀もみられ（WL１・３・４・17）、高台内に赤色の銘がみられる場合も多い。全面赤色の椀（WL２）にも銘がみられ、こちらの銘は金色であった。高台内の銘では、WL17の「田中」ははっきりと読み取れる。ただし、WL１・２・３は、銘は確認できるが、文字のかすれや漆膜の剥がれがあり、明確に読み取ることは難しい。WL３と同様の銘は、資料化していない漆膜のみの椀で２点の類例が確認される。それらを含めるとWL３の銘は「みはり」という文字の可能性が挙げられるが、断定は難しく、結論は他の類例の増加を待ちたい。WL１は、四角に「間」という一文字の可能性が挙げられるが明瞭ではない。

椀以外では、曲物の一部（WL24）、箱状製品の一部（WL25）、箸状製品（WL26）、円板状木製品（WL27）、桶の取手部分（WL28）、不明棒状製品（WL29）など、完形品はなく、製品の一部分に漆が塗られたものである（図９・14・47、図版10・11・14・49）。曲物（WL24）は、ごく一部の残存であるが、黒色の外面に流水菊文（銀か）の細やかな文様がみられる製品である。不明棒状製品（WL29）は、黒色漆の地に金・赤で帯状に彩色加飾した製品で、上手の品と考えられるが、部分的な残存のためよくわからない。塗箸よりは細く、釣り道具の一部などが推測されるが、どのような製品かは不明である。

（８）金属製品（表49～53）

古銭は、渡来銭３点、寛永通寶22点（古寛永12点、文銭３点、新寛永３点、不明４点）、仙臺通寶１点、不明３点、１セントコイン１点が出土している。渡来銭はいずれも残存状況が悪く、文字に欠損がみられ、すべての文字が判明するものはない。MC17（図版68）は、「永」「楽」「寶」の文字のみだが永楽通寶と考えられ、MC15（図57、図版60）は「通」「元」の文字が残存しており、文字の位置から「開元通寶」「周元通寶」「宋元通寶」のいずれかと考えられるが断定はできない。MC19（図版73）は、「祥」「寶」の文字が残存しており、「祥符元寶」の可能性が考えられる。MC23～28（図70、図版76・77）は、寛永通寶が６枚が繋がった状態で出土し、そのうちMC25のみ新寛永で、残りは古寛永である。MC16（図版66）は、仙臺通寶で、撫角銭といわれる丸い正方形状の粗悪な鉄銭である。文字はかろうじて確認できる程度で状態は悪い。天明四（1784）年からの５年間、仙台藩領内の流通に限定する条件で幕府から鋳造許可を得た鉄一文銭で（阿部正光・佐藤敏幸1997、仙台市史編さん委員会編2004）、「悪銭」のうえ、領外にも流通し、銭相場を混乱させる要因となった。多量に鋳造されたようであるが、仙台城跡および武家屋敷地区周辺からの出土は初めてとなる。仙台市内では元袋遺跡（主濱光朗2004）、富沢遺跡（斎野裕彦1987）から、宮城県内では亘理町田東山寂光寺跡（佐藤則之ほか1989）、涌沢遺跡（初鹿野博之ほか2015）、登米市柳津館山館跡（平沢英二郎・阿部恵1984）から、仙台藩領内では一関市大平遺跡（工藤武1985）、奥州市東館遺跡（及川真紀ほか2003）、境田遺跡（遠藤栄一2010）、安久沢東遺跡（伊藤みどり2009）から、14例ほど確認された。大平遺跡、東館遺跡、境田遺跡、安久沢東遺跡では、近世墓坑から六道銭として仙台通寶が一括して出土した事例が確認されている。

銅製の煙管（図10・14・36・41・48・60・70、図版11・15・41・44・49・61・77）は、雁首７点、吸口７点、雁首か吸口か判断できないもの３点が出土した。形態分類は『年報』18の基準に基づいて行っている。吸口では、一本の管から作った肩のないまっすぐな形状（ⅡB類、MO６・９～12）が多いが、MO12は全体に丸みをもつ形状をしているなど、一様ではない。他に、二本の管から肩と吸口を別個に作った形状（ⅠB類、MO７、８）が２点みられる。雁首は、MO１が肩付きの腔返しが直線的で短い形状（ⅠC類）、MO３が肩がない一本の管から作られた形（ⅡB類）であるが、火皿部分のみ残ったものも多く（MO２・４・５）、特徴はわからない。MO２

は煙管の雁首と考えたが、他より器厚が薄く、径もやや大きいことから煙管以外の銅製品の可能性も考えられる。

銅製品では他に、火箸や銅鉢、銅鋺がある（図14・36・59・70、図版15・41・63・77）。MO13（図14、図版15）とMO16（図70、図版77）は、鋺や鉢形の形状であり、薄手で細やかな文様を配する点で類似するが、MO13は小紋胡麻状文様と菱形文で、MO16は小紋菊菱文と異なる文様であるため、組みになるものではないと考えられる。MO13は鉢あるいは香炉に近い形状で、MO16は鋺型に近い形状をしている。

鉄製品は、小柄、鋏、包丁か、鍋、甕、鳶口、鎧、帯状金具などの比較的種類が多くあり、他に和釘447点、洋釘５点が出土している。小柄（MO17・28、図10・56、図版11・58）としたのは、いずれも柄の部分とみられるが残存状況は悪い。MO18（図10、図版11）はにぎり鋏の片側部分で、MO19（図10、図版11）は比較的大型で包丁のような刃物、MO26（図48、図版50）は小型の包丁や小刀のような刃物とみられる。MO20（図10、図版11）は残存する破片から、円形の網目状と推測されるが、それぞれは接合はしない。赤褐色に変色した受熱痕跡が残ることから、火おこし器などの底面の簀部分の可能性が考えられる。

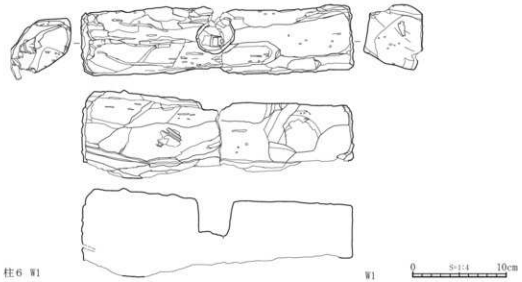


図2 3号建物（Ⅰ期）出土遺物
Fig. 2 Various artifacts from No. 3 building at Phase Ⅰ

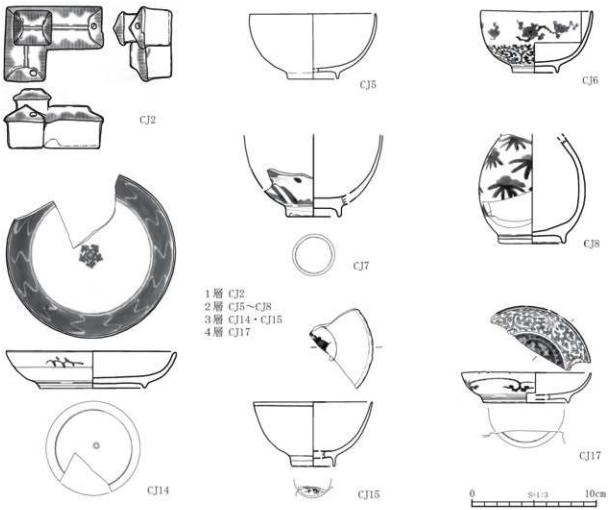


図3 2号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（1）
Fig. 3 Various artifacts from No. 2 pond at Phase Ⅰ (1)

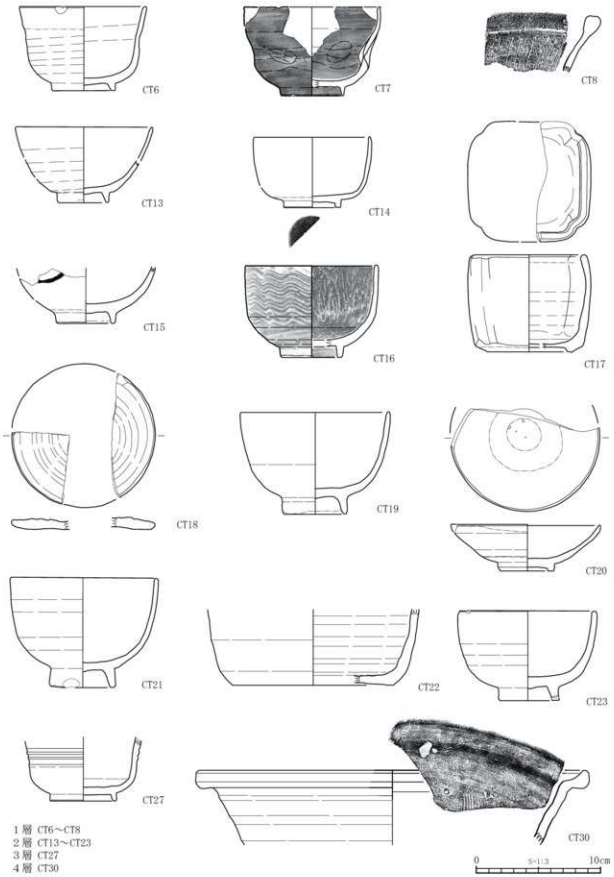


図4　2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)
Fig. 4 Various artifacts from No. 2 pond at Phase Ⅰ (2)

図5 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)

Fig. 5 Various artifacts from No. 2 pond at Phase Ⅰ (3)

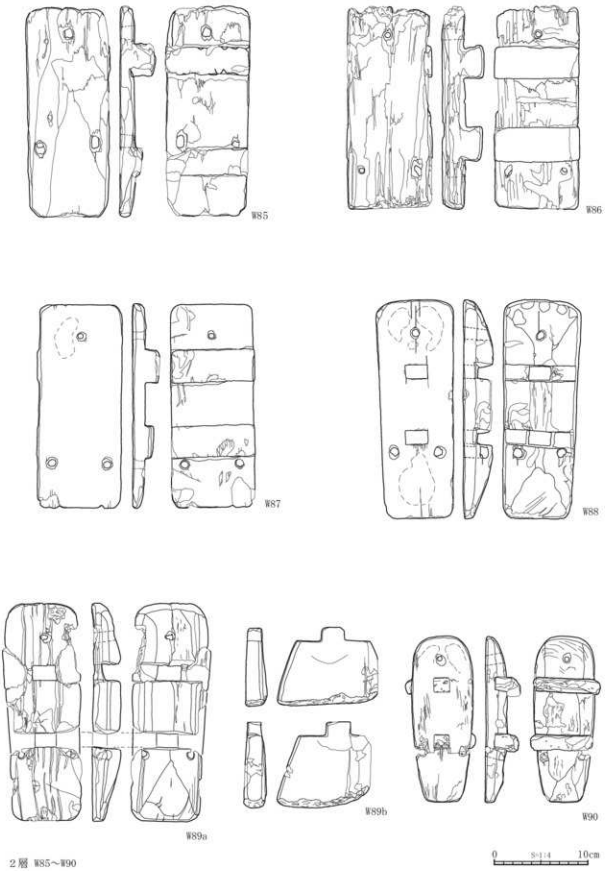
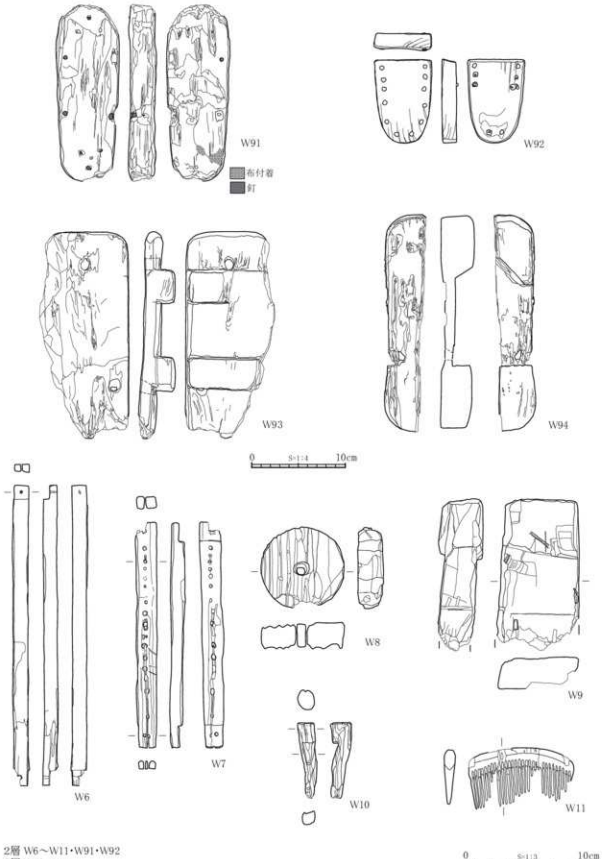
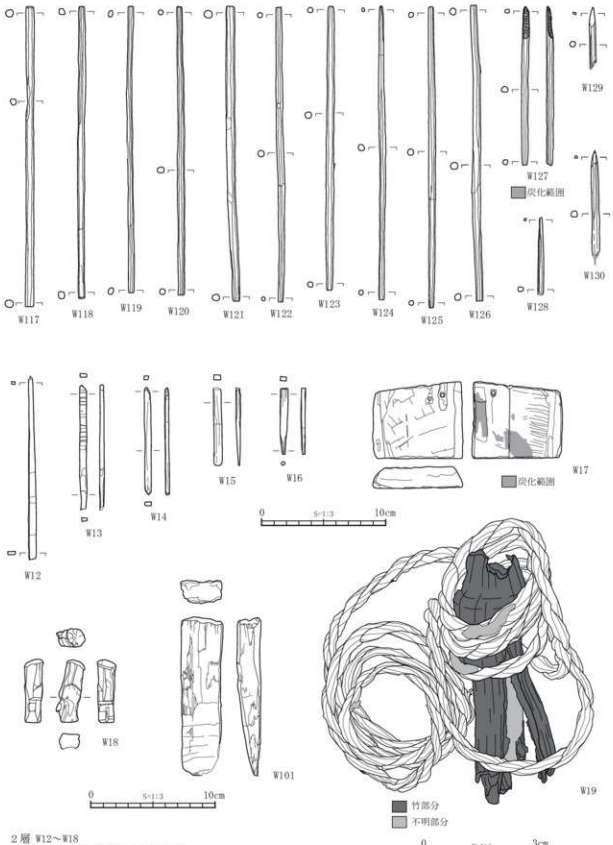


図6 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(4)
Fig.6 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ(4)



2層 W6～W11・W91・W92
3層 W93・W94

図7 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(5)
Fig.7 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ(5)



2層 W12～W18
W101・W117～W125・W127～W130
3層 W19・W126

図8 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(6)
Fig.8 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ(6)

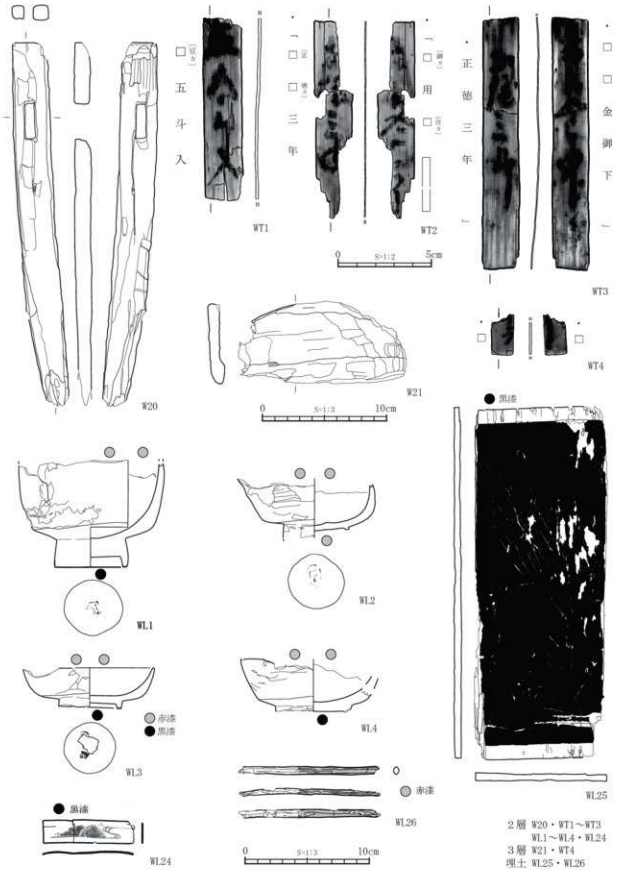


図９ ２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（７）
Fig.9 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ(7)

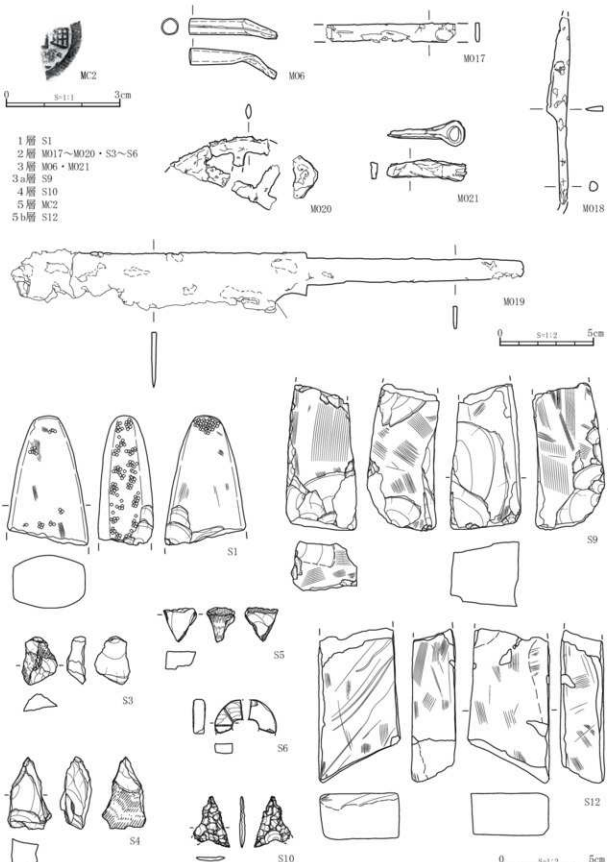
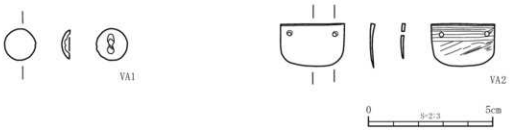
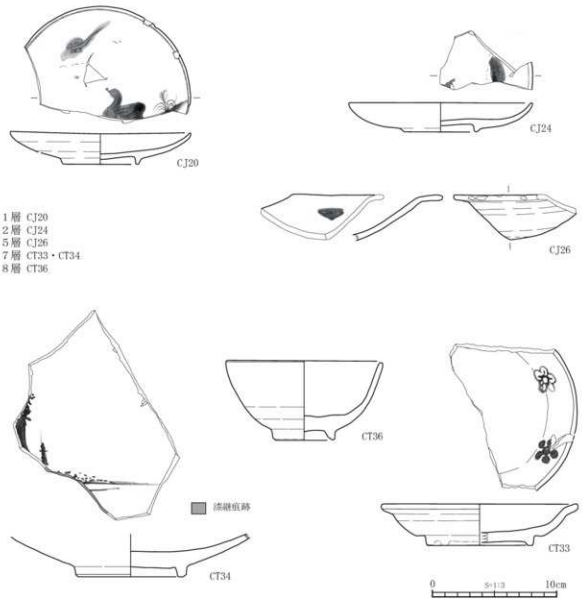


図10 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(8)
Fig.10 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ(8)



2層 VA1 ・VA2

図11 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(9)
Fig. 11 Various artifacts from No. 2 pond at Phase Ⅰ(9)



1層 CJ20
2層 CJ24
5層 CJ26
7層 CT33・CT34
8層 CT36

図12 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)
Fig. 12 Various artifacts from No. 4 pond at Phase Ⅰ(1)

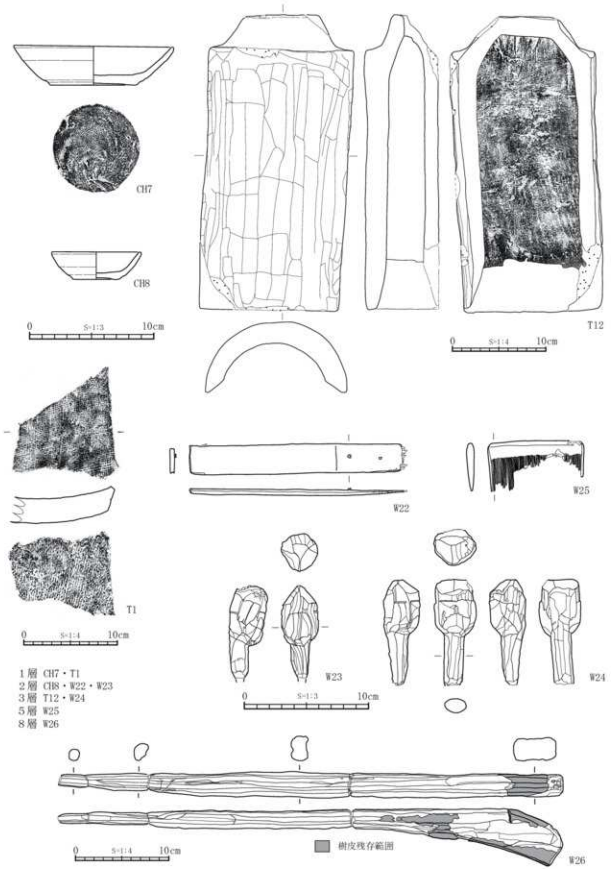


図13 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)
Fig. 13 Various artifacts from No. 4 pond at Phase Ⅰ (2)

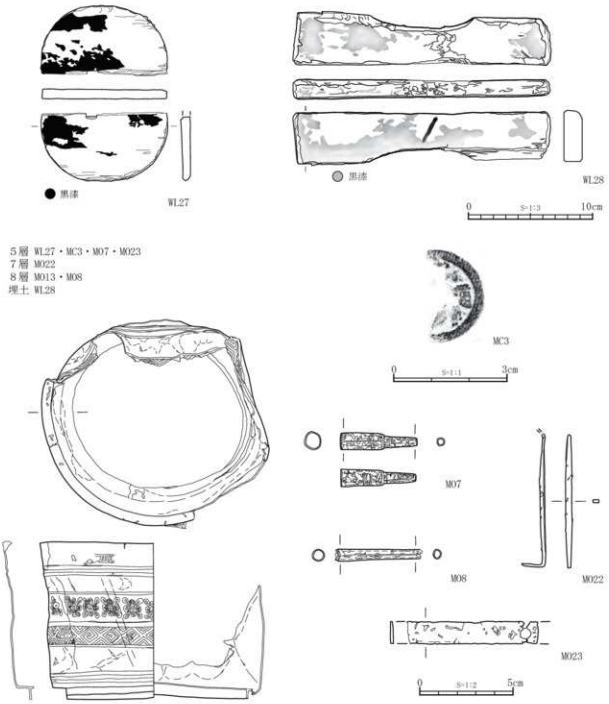


図14 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)
Fig.14 Various artifacts from No.4 pond at Phase Ⅰ(3)

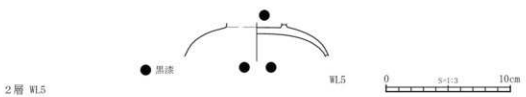


図15 10号遺構(Ⅰ期)出土遺物
Fig.15 Various artifacts from No.10 structural remains at Phase Ⅰ

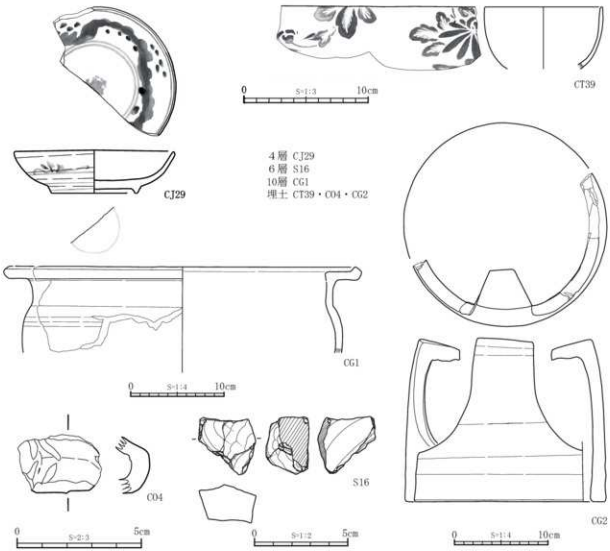
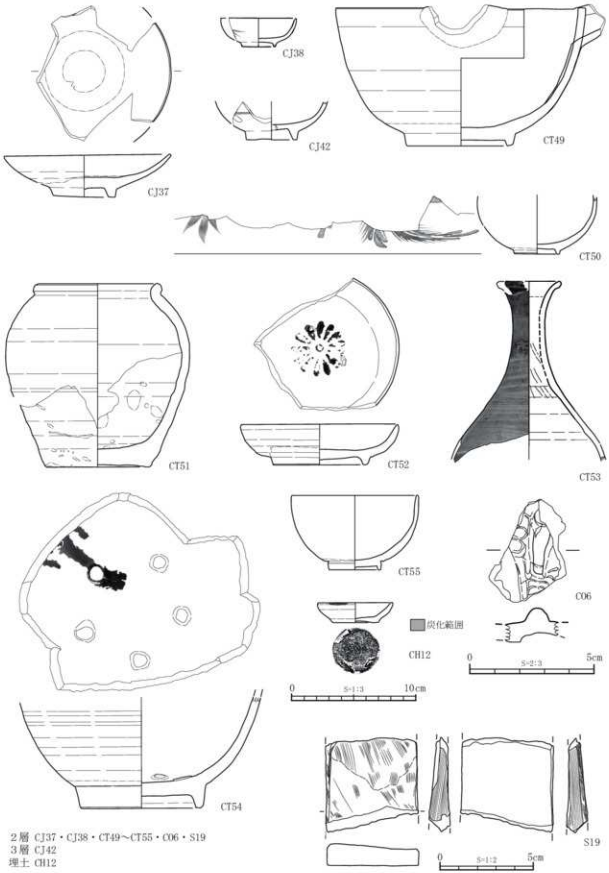


図16 12号遺構(Ⅰ期)出土遺物

Fig. 16 Various artifacts from No. 12 structural remains at Phase Ⅰ

図17 39・40・57号遺構(Ⅰ期)出土遺物

Fig. 17 Various artifacts from No. 39・40・57 structural remains at Phase Ⅰ



2層 CJ37・CJ38・CT49～CT55・C06・S19
3層 CJ42
埋土 CH12

図18 3号溝(Ⅰ期)出土遺物
Fig.18 Various artifacts from No.3 ditch at Phase Ⅰ

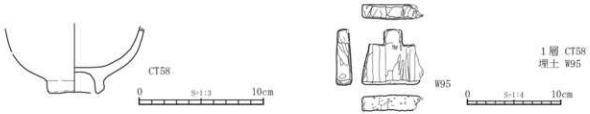


図19 5号井戸(Ⅰ期)出土遺物
Fig. 19 Various artifacts from No. 5 well at Phase Ⅰ

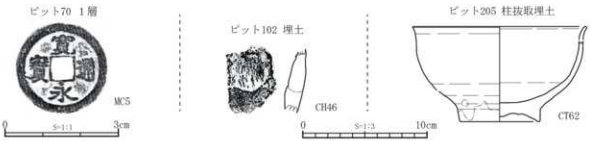


図20 ピット70・102・205(Ⅰ期)出土遺物
Fig. 20 Various artifacts from No. 70・120・205 pit at Phase Ⅰ

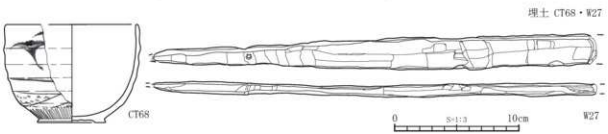


図21 15号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig. 21 Various artifacts from No. 15 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

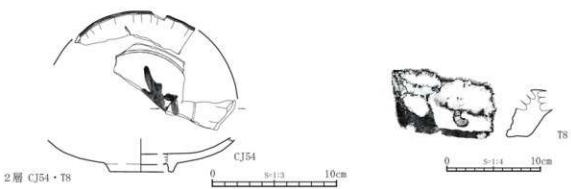


図22 16号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig. 22 Various artifacts from No. 16 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

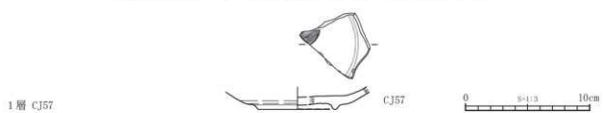


図23 35号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig. 23 Various artifacts from No. 35 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

図24 74号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
Fig.24 Various artifacts from No.74 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

図25 5号建物 (Ⅰ～Ⅲ期) 出土遺物
Fig.25 Various artifacts from No.5 building at Phase Ⅰ-Ⅲ

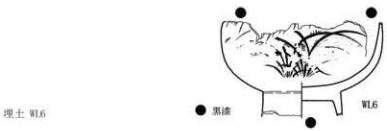


図26 7号遺構(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物
Fig.26 Various artifacts from No.7 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅲ

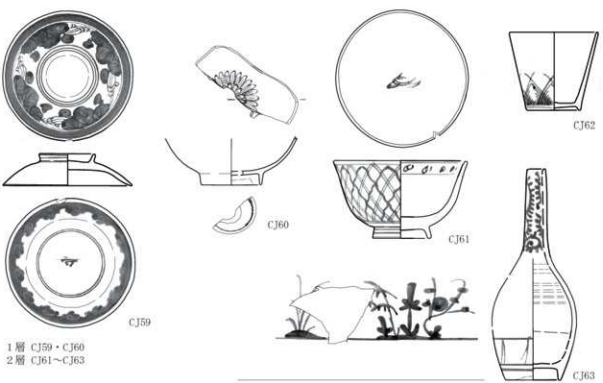


図27 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(1)
Fig.27 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(1)

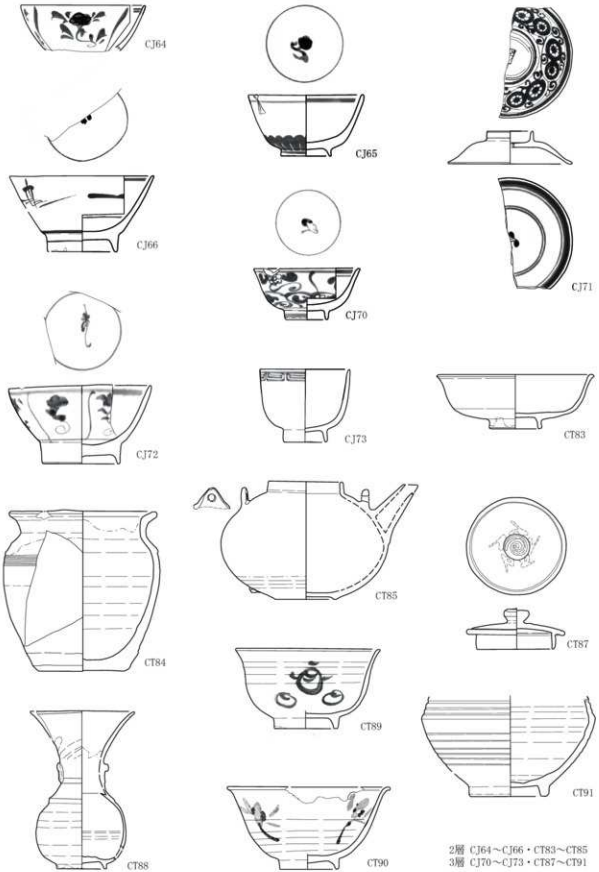


図28 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(2)
Fig.28 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(2)

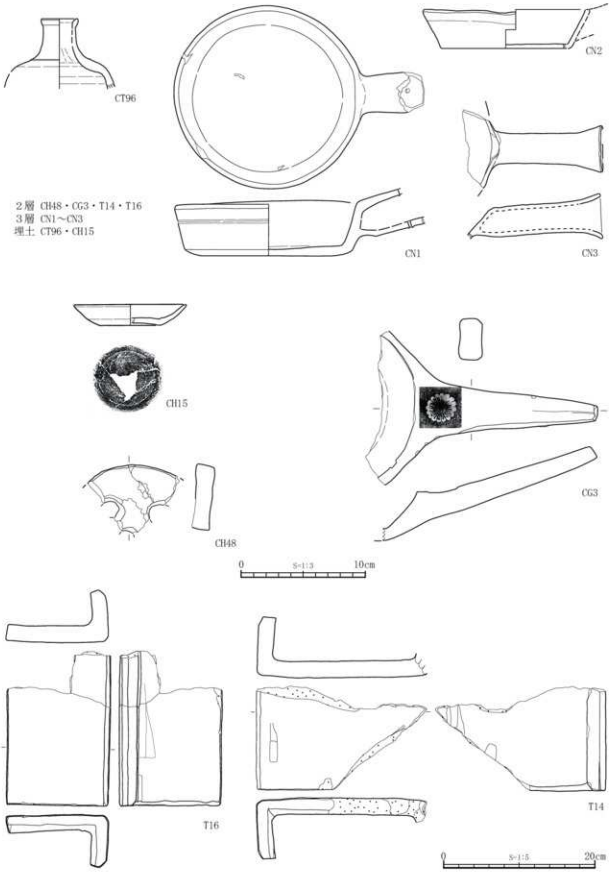


図29 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(3)
Fig.29 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(3)

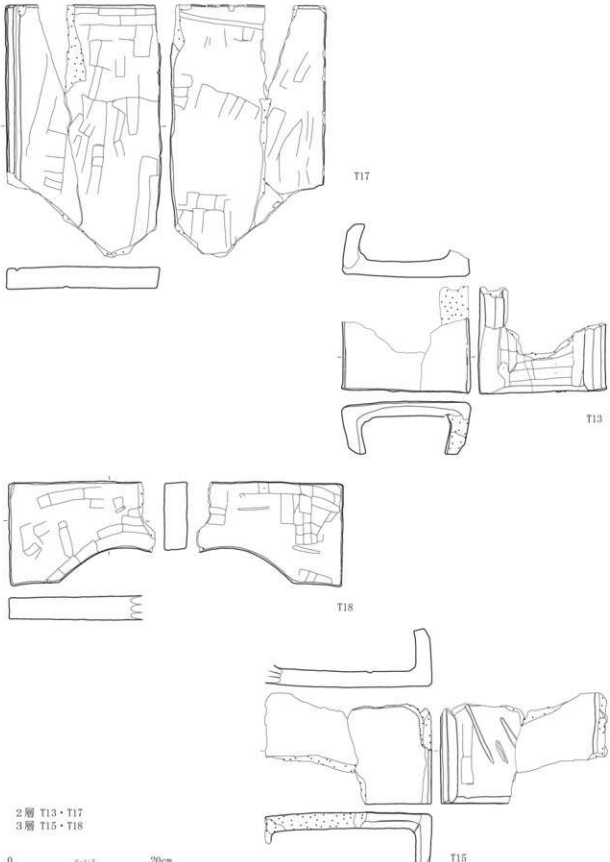
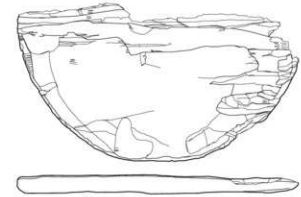
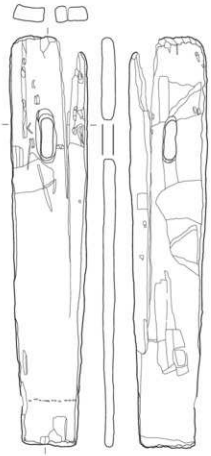
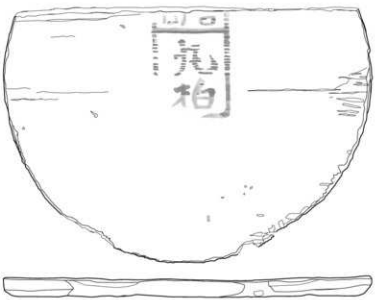
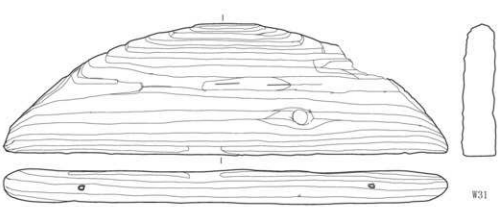


図30 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(4)
Fig.30 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(4)









2層 W29
3層 W30・W31
埋土4(掘方) W28

0 縮尺1:3 10cm

図31 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(5)
Fig.31 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(5)

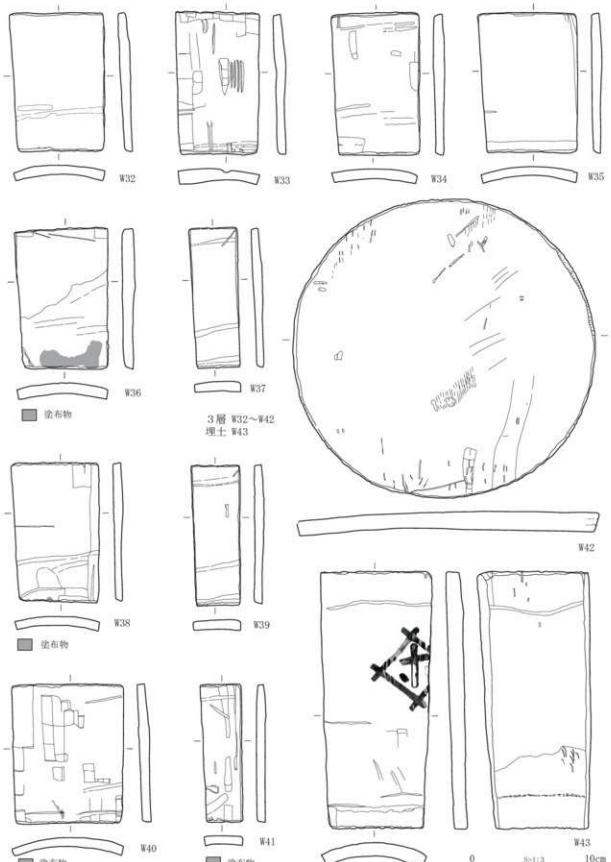


図32 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(6)
Fig.32 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(6)

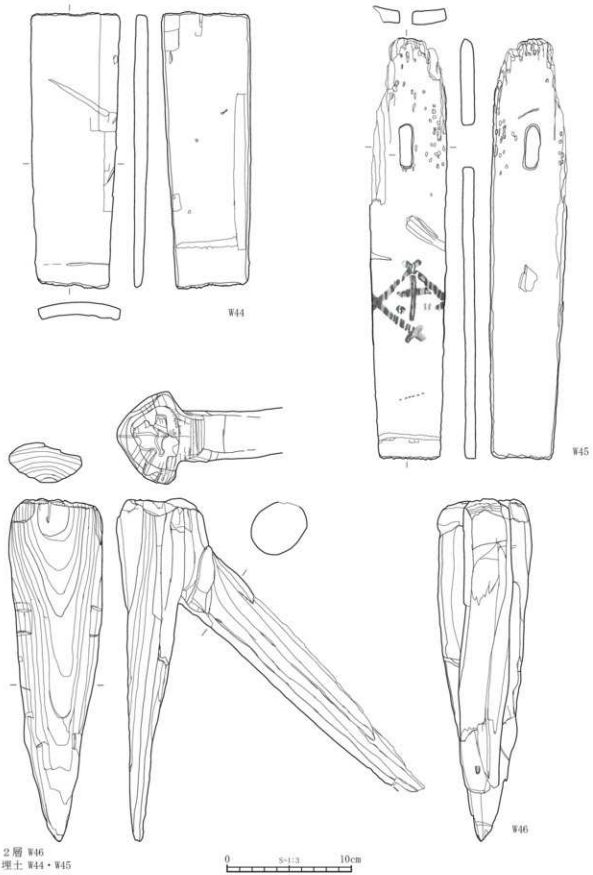
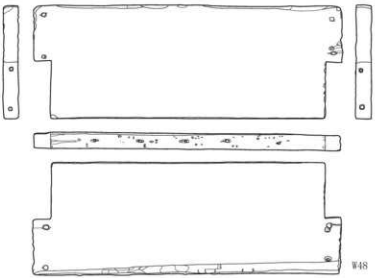
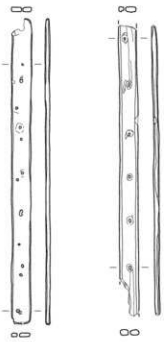
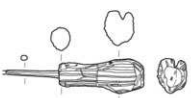
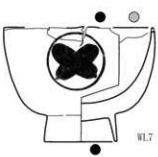


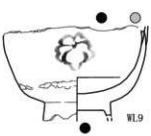
図33 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(7)
Fig.33 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(7)

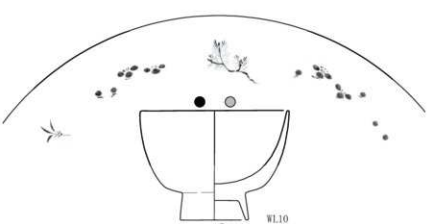








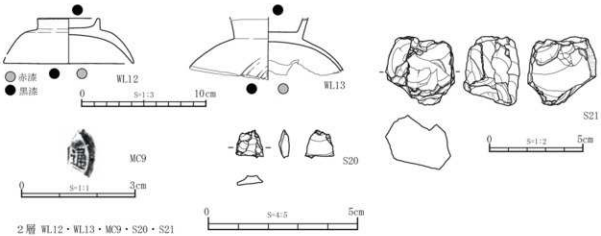




2層 W47・WL7～WL11
3層 W48～W50

0 S=1:3 10cm

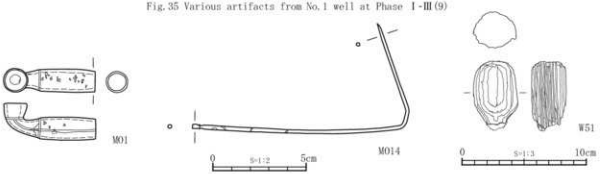
図34 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(8)
Fig.34 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(8)



2層 WL12・WL13・MC9・S20・S21

図35 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(9)

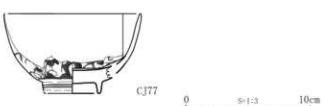
Fig.35 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(9)



1層 W51・M01・M014

図36 3号池状遺構(Ⅱa期)出土遺物

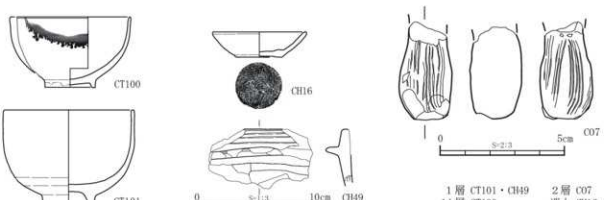
Fig.36 Various artifacts from No.3 pond at Phase Ⅱa



2層 CJ77

図37 18号遺構(Ⅱa期)出土遺物

Fig.37 Various artifacts from No.18 structural remains at Phase Ⅱa



1層 CT101・CH49
1b層 CT100

2層 C07
埋土 CH16

図38 5号溝(Ⅱa期)出土遺物(1)

Fig.38 Various artifacts from No.5 ditch at Phase Ⅱa(1)

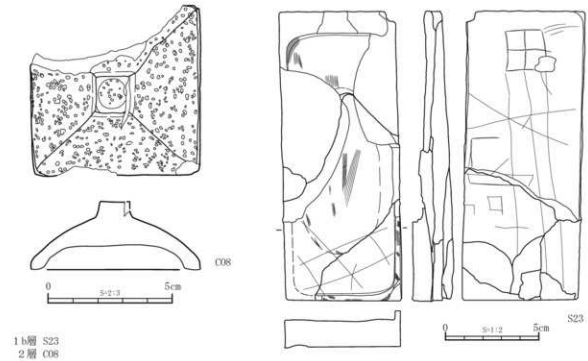


図39 5号溝(Ⅱa期)出土遺物(2)
Fig.39 Various artifacts from No.5 ditch at Phase Ⅱa(2)

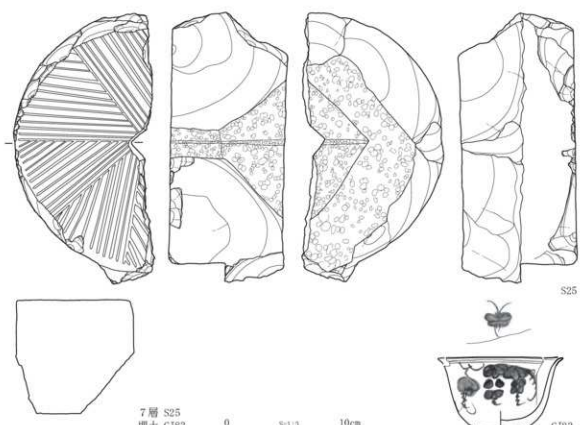


図40 9号遺構(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物
Fig.40 Various artifacts from No.9 structural remains at Phase Ⅱa-Ⅱb

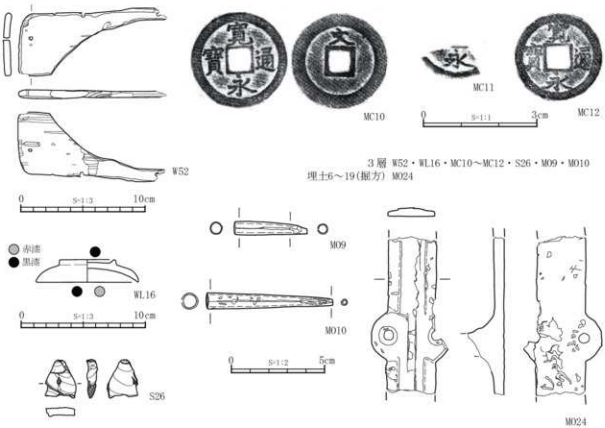


図41 2号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物
Fig.41 Various artifacts from No.2 well at Phase Ⅱa-Ⅱb

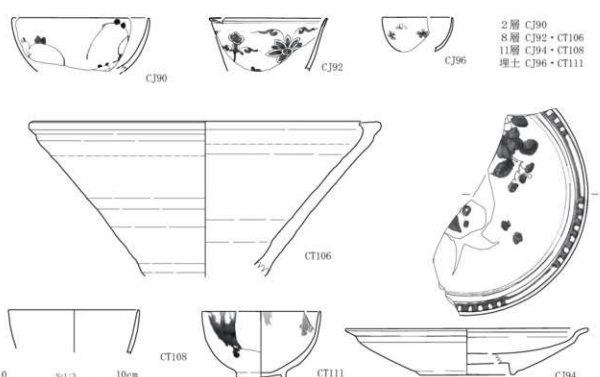


図42 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(1)
Fig.42 Various artifacts from No.6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(1)

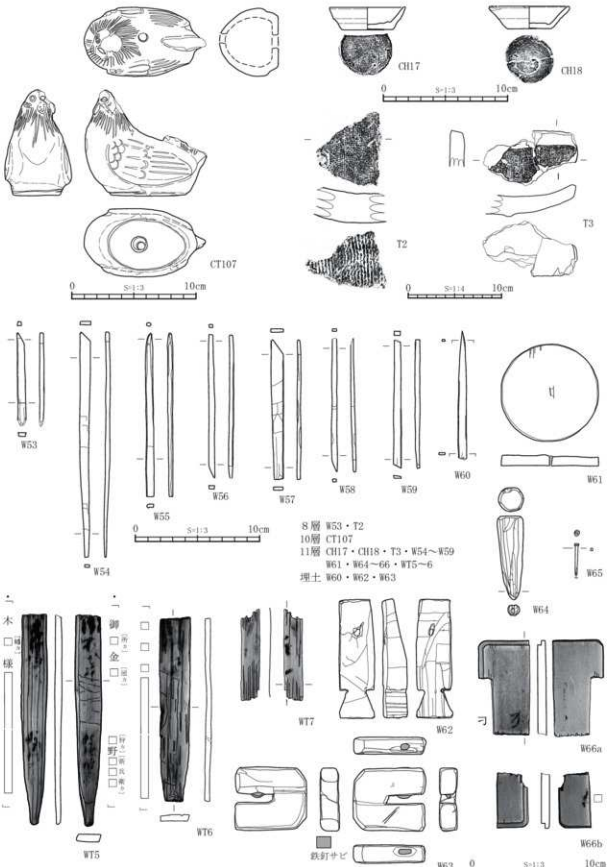


図43 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(2)
Fig. 43 Various artifacts from No. 6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(2)

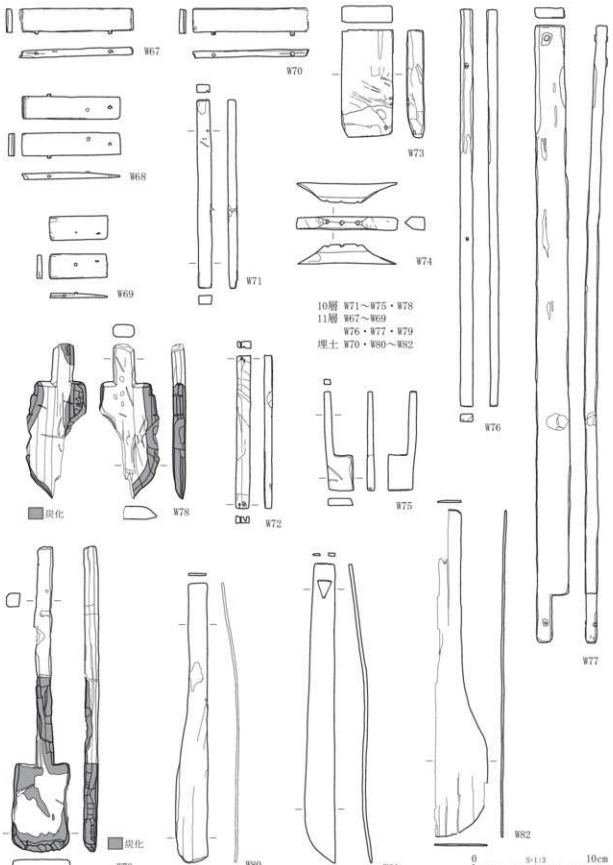


図44 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(3)

Fig. 44 Various artifacts from No. 6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(3)

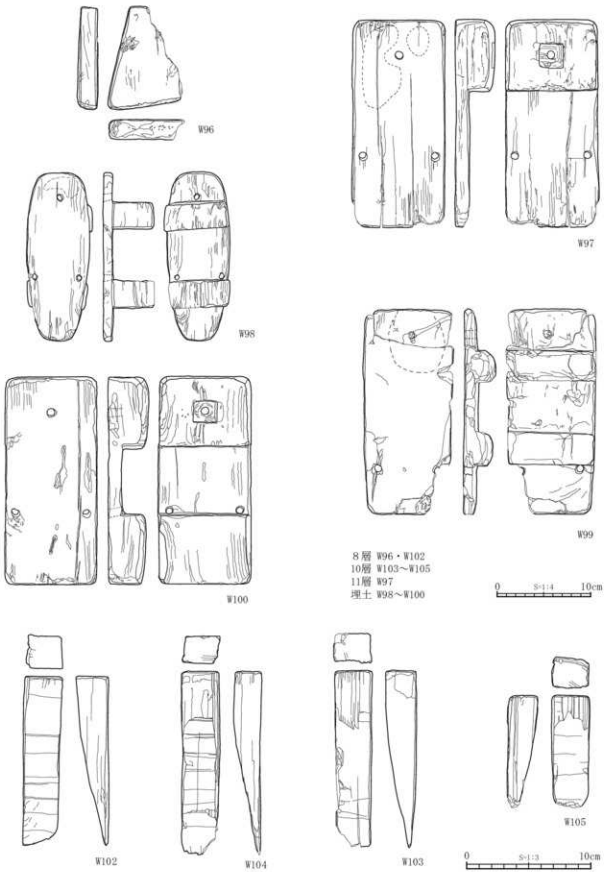
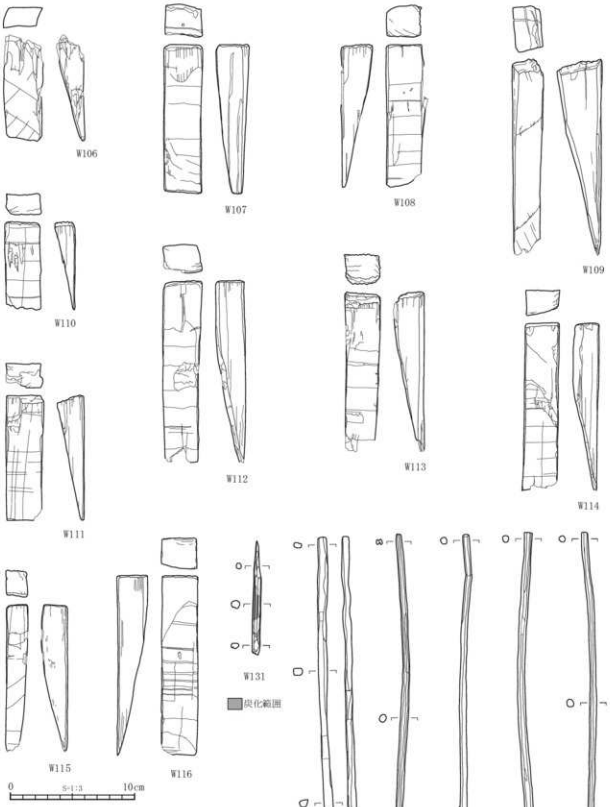


図45 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(4)
Fig. 45 Various artifacts from No. 6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(4)



8層 W131
10層 W132～W134
11層 W106～W114・W135・W136
埋土 W115・W116

図46 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(5)
Fig.46 Various artifacts from No.6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(5)

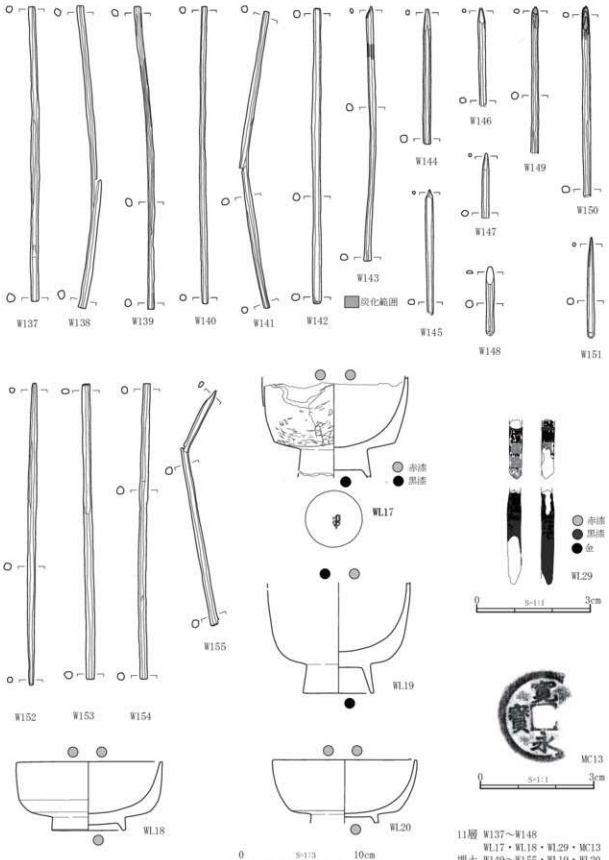
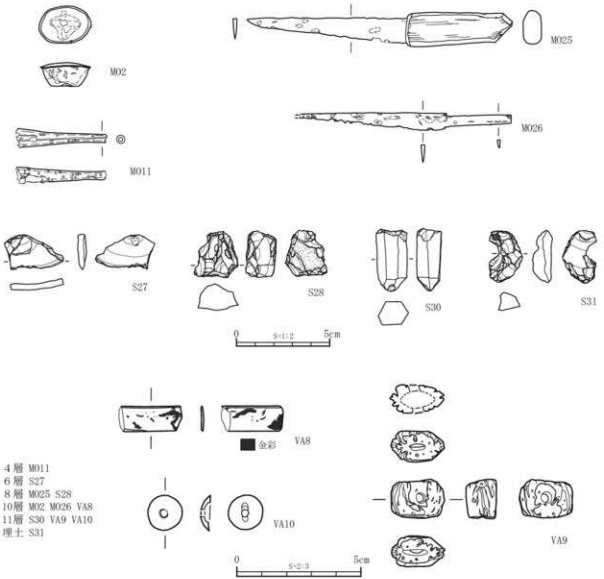
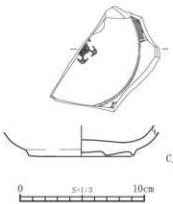


図47 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(6)
Fig.47 Various artifacts from No.6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(6)



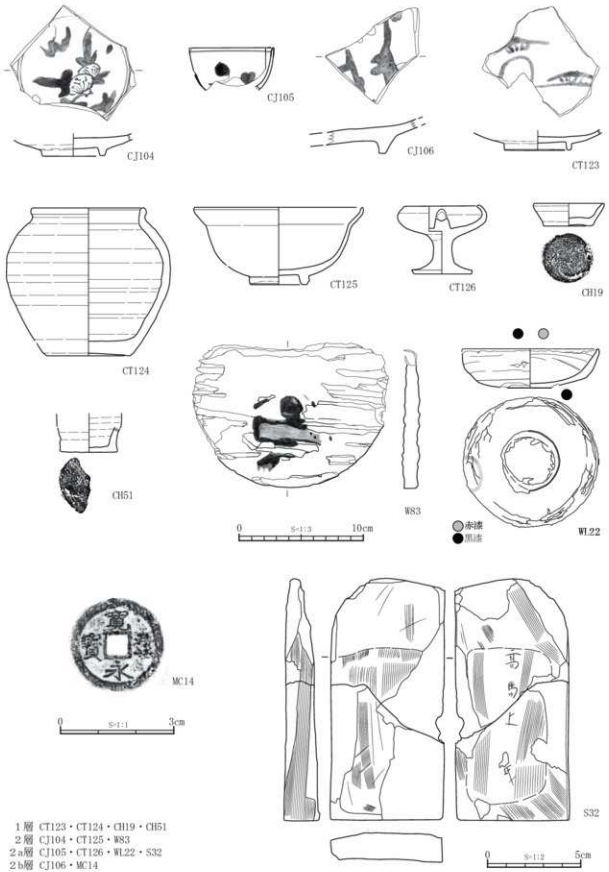
4層 M011
6層 S27
8層 M025 S28
10層 M02 M026 VA8
11層 S30 VA9 VA10
埋土 S31

図48 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(7)
Fig. 48 Various artifacts from No. 6 well at Phase Ⅱa-Ⅱb(7)



柱5 CJ97

図49 1号柱列(Ⅱb期)出土遺物
Fig. 49 Various artifacts from No. 1 pillars at Phase Ⅱb



1層 CT123・CT124・CH19・CH51
2層 CJ104・CT125・W83
2a層 CJ105・CT126・WL22・S32
2b層 CJ106・MC14

図50 1号池状遺構(Ⅱb期)出土遺物
Fig. 50 Various artifacts from No. 1 pond at Phase Ⅱb

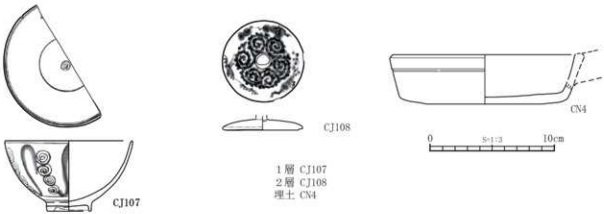


図51 4号遺構(Ⅱb期)出土遺物
Fig. 51 Various artifacts from No. 4 structural remains at Phase Ⅱb

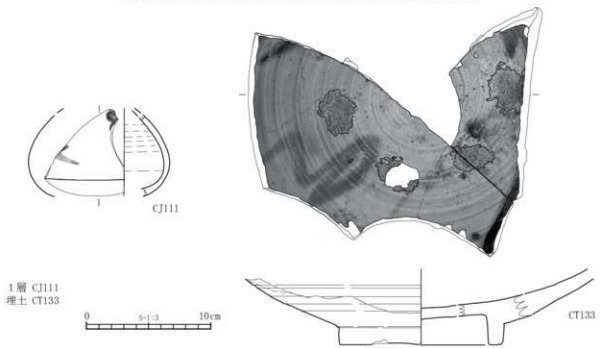


図52 13号遺構(Ⅱb期)出土遺物
Fig. 52 Various artifacts from No. 13 structural remains at Phase Ⅱb

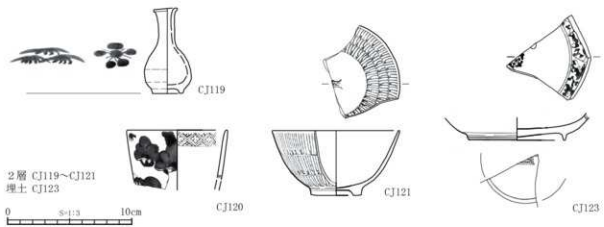


図53 65号遺構(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物(1)
Fig. 53 Various artifacts from No. 65 structural at Phase Ⅱb-Ⅲ(1)

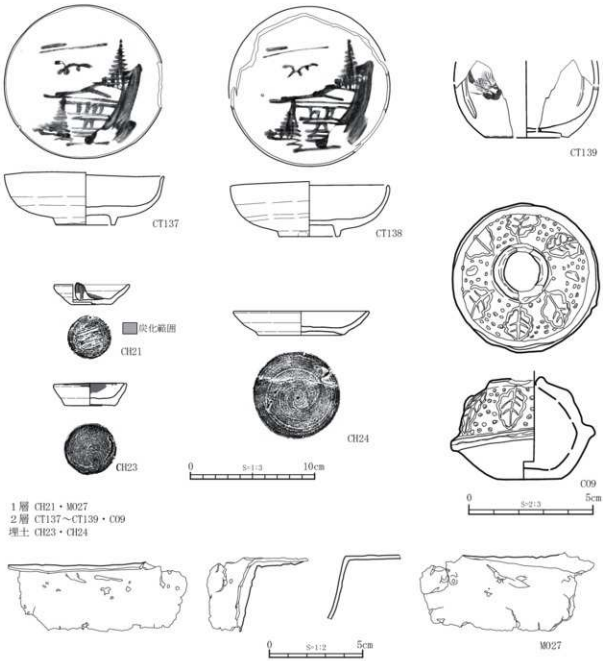


図54 65号遺構(Ⅱb～Ⅲ期)出土遺物(2)
Fig. 54 Various artifacts from No. 65 structural at Phase Ⅱb-Ⅲ (2)

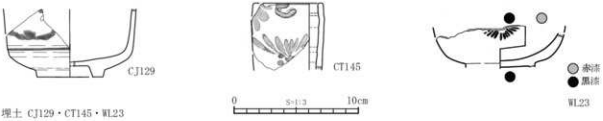


図55 14号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 55 Various artifacts from No. 14 structural at Phase Ⅲ

図56 20号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 56 Various artifacts from No. 20 structural at Phase Ⅲ

図57 25号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 57 Various artifacts from No. 25 structural at Phase Ⅲ

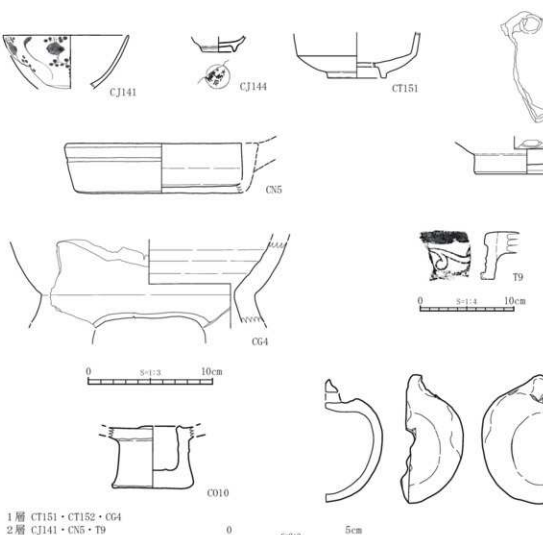


図58 30号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 58 Various artifacts from No. 30 structural at Phase Ⅲ

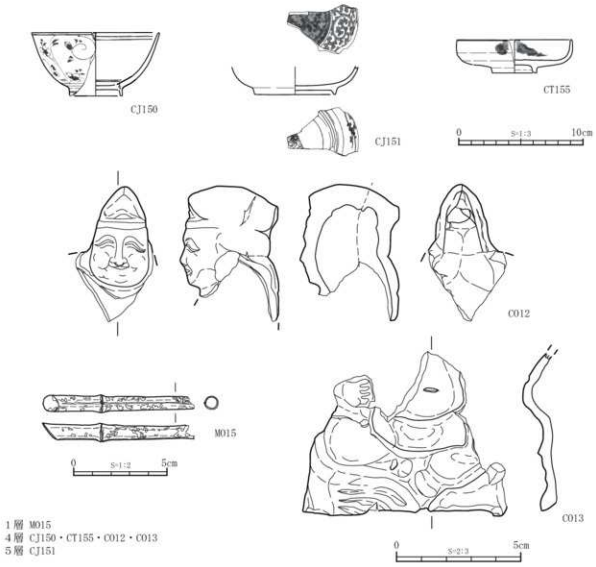


図59 31号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 59 Various artifacts from No. 31 structural at Phase Ⅲ

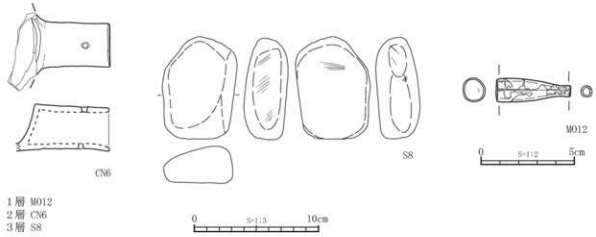


図60 48号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig. 60 Various artifacts from No. 48 structural at Phase Ⅲ

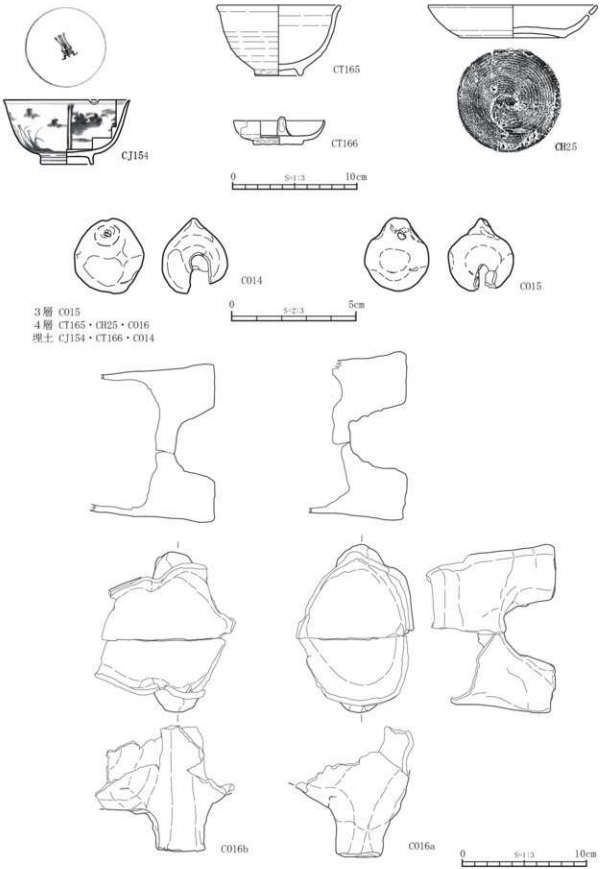


図61 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物
Fig.61 Various artifacts from No.66 structural at Phase Ⅲ

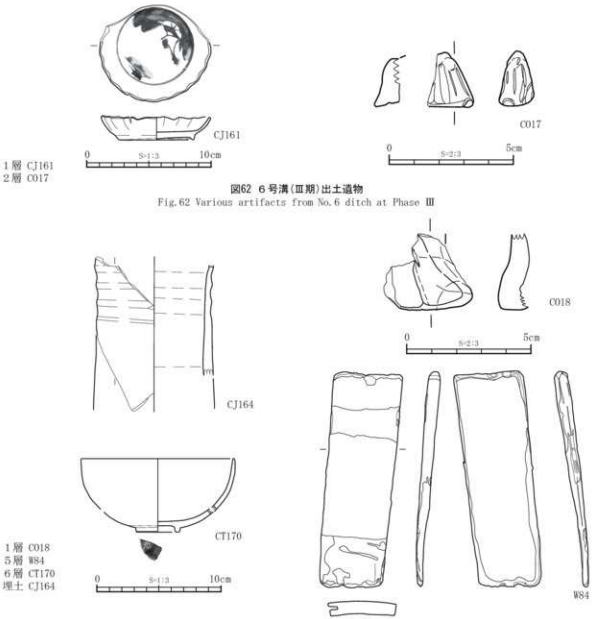


図62 6号溝(Ⅲ期)出土遺物

Fig.62 Various artifacts from No.6 ditch at Phase Ⅲ

図63 4号井戸(Ⅲ期)出土遺物

Fig.63 Various artifacts from No.4 well at Phase Ⅲ

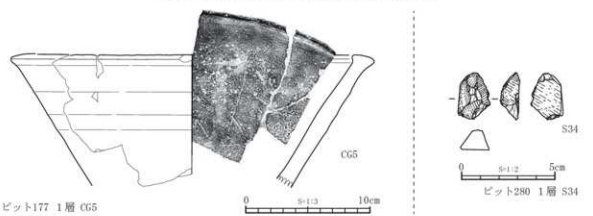
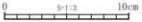


図64 ピット177・280(Ⅲ期)出土遺物

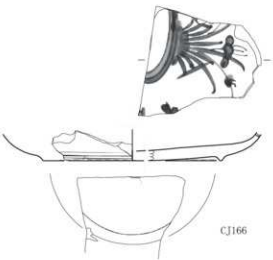
Fig.64 Various artifacts from No.177・280 Pit at Phase Ⅲ

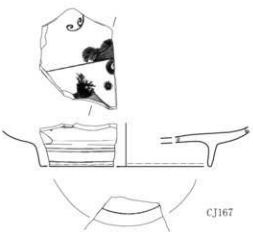


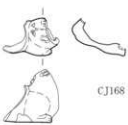
遺構埋土 CH27

図65 関連２区出土遺物

Fig.65 Various artifacts from the second construction area



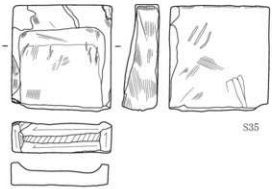




２a−２層 CJ166～CJ170
CT179・CH53・MC18

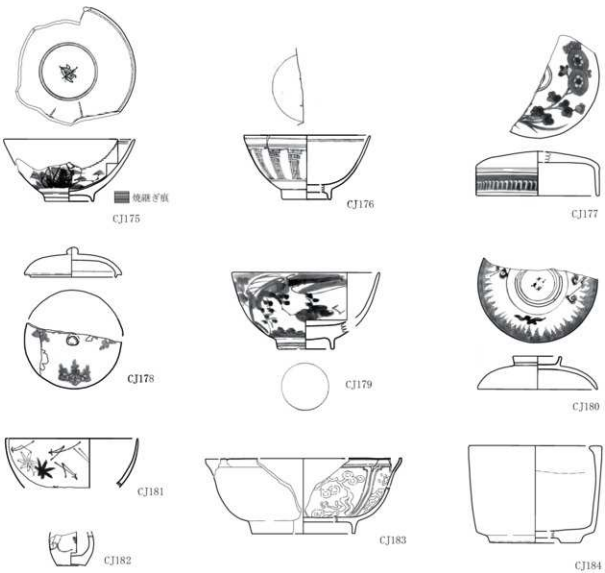
図66 基本層２a−２層出土遺物

Fig.66 Various artifacts from layer2a-2



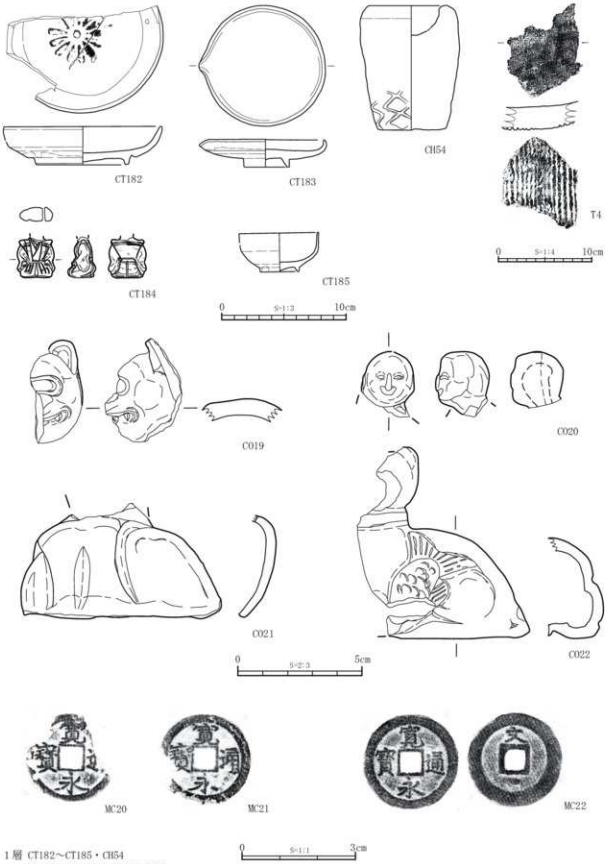
2b層 S35

図67 基本層2b層出土遺物
Fig.67 Various artifacts from layer2b



1層 CJ175～CJ184

図68 1層出土遺物(1)
Fig.68 Various artifacts from layer1(1)



1層 CT182～CT185・CH54
T4・C019～C022・MC20～MC22

図69 1層出土遺物(2)
Fig. 69 Various artifacts from layer1(2)

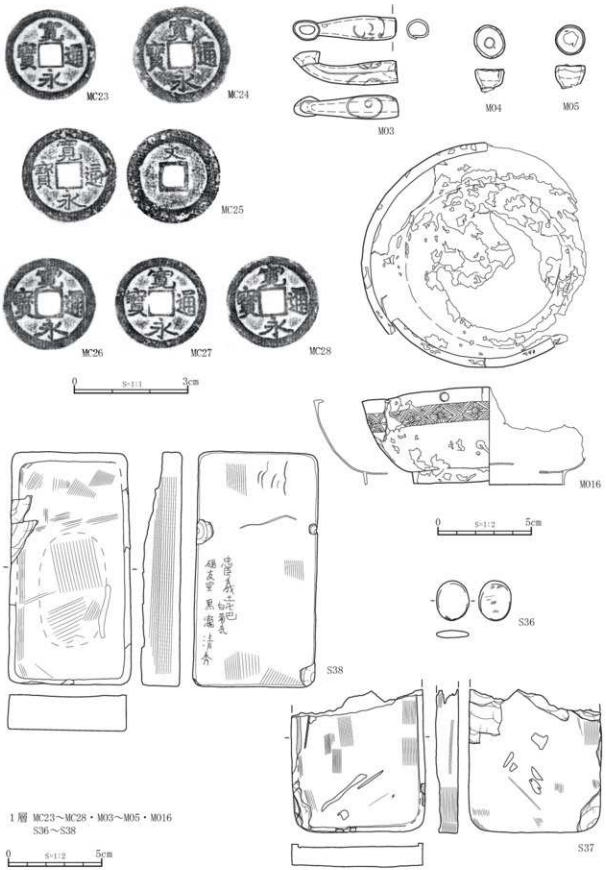


図70 1層出土遺物(3)
Fig. 70 Various artifacts from layer1(3)

表1　遺物集計表（1）
Tab.1　Distribution of archaeological remains at BK14（1）

段階	出土場所		総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
基本層	1層		1103	942	390	36	10	33	25	7304		12	12	24	35
	2a-2層		74	111	199	12	3	5	120	4821		1	3		31
	2b層		5	8	14	1		1	4	208			1		1
I	1号建物		遺物なし												
	3号建物	柱5			1										
		柱6		1							3				
		柱15							1	340					
		計		1	1				1	340	3				
	4号建物		遺物なし												
	5号柱列	柱1		1	4										
		柱3			1										
		計		1	5										
	6号柱列		遺物なし												
	8号柱列	柱1			3										
		柱2	1	1		1									
		計	1	1	3	1									
	10号柱列	柱1		2	5				3	81					1
		柱2		1											
		計		3	5				3	81					1
	2号池状遺構	埋土1層	37	56	104		6		18	616	2	2	8		1
		埋土2層	64	81	214	11		6	36	764	1832	33	9	2	138
		埋土3層	21	20	110	1		1	16	861	252	2	1	2	15
		埋土3a層		2	3	1							1		
		埋土3b層	2	2	16				4	30	5				2
		埋土4層	9	10	65	2			8	231	28		2		9
		埋土5a層	7	4	16				1	5	22		2		2
		埋土5b層	4			1			7	212	19		1		3
		埋土5c層			98										
		埋土5層		4	8				5	225	5				3
		埋土6層			58										
		埋土	1								4	1			
		計	145	179	692	16	6	7	95	2944	2169	38	24	4	173
	4号池状遺構	埋土1層	7	3	14				6	1223	4				
		埋土2層	10	2	30	1			3	15	80	9			2
		埋土3層	2		7				3	1907	29	4			2
		埋土4層			4						3				1
		埋土5層	6	2	24				1	510	70	3			10
		埋土6層		4	15				2	7	5				3
		埋土7層	1	6	3	1			1	400	10	1	1		7
		埋土8層	4	2	9				1	160	19	2	1		7
		埋土9層			2						5				
		埋土10層		1											
		埋土	3								1	1			
		計	33	20	108	2			17	4222	226	20	2		32
	6号遺構	埋土	遺物なし												
	10号遺構	埋土2層	1		1						3	1		1	
		埋土4層	1												
		埋土	1	2	1	1			1	100	1	1			
		計	3	2	2	1			1	100	4	2		1	
	12号遺構	埋土1層		2	4	1	1					1			
		埋土2層		2											
		埋土4層	1								3				
		埋土6層	1	1							2	1	1		
		埋土10層				1									
		埋土	7	14	5	1		1							
		計	9	19	9	3	1	1			5	2	1		
	25号遺構	埋土1層	1									1			
	39号遺構	埋土1層	1		6		1		3	20					
		埋土2	4	6	11				2	115			1		
		埋土3	2	1	1								1		
		埋土			3										
		計	7	7	21		1		5	135			2		
	40号遺構	埋土2層		1											
	42号遺構	埋土1層	1	5	3	1			1	10			2		
		埋土2層		1											
		埋土			5										
		計	1	6	8	1			1	10			2		
	57号遺構	埋土		1											
	61号遺構		遺物なし												

表2　遺物集計表（2）
Tab.2　Distribution of archaeological remains at BK14 (2)

段階	出土場所		総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅰ	64号遺構	埋土1層	2		2										
	1号溝	埋土			1				1	70					
	3号溝	埋土1層	5	6	29				9	760		1			1
		埋土2層	8	28	3		1		24	2415		1	2		1
		埋土3層	3		3				4	447					1
		埋土		3	7										
		計	16	37	42		1		37	3622		2	2		3
	5号井戸	埋土3層（表土）	3						1	5	1				
		埋土3層（表土）		2							4	1			
		埋土1・4層（表土）		1	3								1		
		埋土1層		1											
		埋土1・2層	5	5	3	2			1	270	10				
		計	8	9	6	2			2	275	15	1	1		
	ピット64		遺物なし												
	ピット70	埋土1層		1	1										1
	ピット74		遺物なし												
	ピット84		遺物なし												
	ピット92		遺物なし												
	ピット102	埋土			1										
	ピット107		遺物なし												
	ピット200	埋土1層	1												
	ピット205	埋土		1											
	ピット213		遺物なし												
	ピット217	埋土1層			8				1	300					
	ピット236		遺物なし												
	ピット239	埋土2層		3	8										
	ピット245	埋土	1												
	ピット248		遺物なし												
	ピット250	埋土1層		1	3										
	ピット266		遺物なし												
	ピット284		遺物なし												
	杭26		遺物なし												
	杭27		遺物なし												
	杭28		遺物なし												
	杭29		遺物なし												
	杭53		遺物なし												
	杭57		1	1											
1期遺構　合計			229	294	868	26	9	8	164	12099	2417	66	34	5	210
Ⅰ-Ⅱa	ピット15	埋土	1												
	ピット77	埋土		2											
	ピット162	埋土							6	415					
	ピット164		遺物なし												
	ピット165	埋土1層	1	2		1									
	ピット166		遺物なし												
	ピット170		遺物なし												
	ピット188	埋土1層	2	1	2										
	ピット294		遺物なし												
Ⅰ-Ⅱa期遺構　合計			3	5	2	1			6	415					
Ⅰ-Ⅱb	15号遺構	埋土1層										1			
		埋土	4	5	1						3	2			
		計	4	5	1						3	3			
	16号遺構	埋土1層	2	4					1	120				1	
		埋土2層	1	1	1	1		1	3	570					1
		埋土3層	2		1										
		埋土4層	1	2	1				1	200	1				
		埋土1～3層	3	1					5	490					
		埋土1・3層	2	1					1	20					
		計	11	9	3	1		1	11	1400	1			1	1
	35号遺構	埋土1層		2	6										1
		埋土2層	3	3	8				2	270			2	1	
		計	3	5	14				2	270			2	1	1
	35号遺構	埋土1層	1	1	6		1								1
	46号遺構		遺物なし												
	47号遺構		遺物なし												
	58号遺構		遺物なし												
	59号遺構		遺物なし												
	68号遺構		遺物なし												
	72号遺構		遺物なし												
	74号遺構	埋土1層		1											

表3　遺物集計表（3）
Tab.3　Distribution of archaeological remains at BK14（3）

段階	出土場所		磁器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅰ－Ⅱb	74号遺構	埋土3層			1										
		計		1	1										
	7号溝	埋土							1	10					
	ピット38	埋土	1	1											
	ピット40		遺物なし												
	ピット116		遺物なし												
	ピット143	埋土							1	30					
	ピット180		遺物なし												
	ピット181	埋土1層			3										1
	ピット185	埋土1層		2	2										
	ピット189		遺物なし												
	ピット191		遺物なし												
	ピット195		遺物なし												
	ピット201	埋土1層	1												
	ピット202	埋土1層			1										
	ピット204	埋土1層			1										
	ピット215	埋土1層	1												
	ピット218		遺物なし												
	ピット225	埋土1層		1	1										
	ピット227		遺物なし												
	ピット237		遺物なし												
	ピット240	埋土1層		1											
	ピット251		遺物なし												
	ピット254		遺物なし												
	ピット256		遺物なし												
	ピット257		遺物なし												
	ピット258		遺物なし												
	ピット260	埋土1層	1												
	ピット265		遺物なし												
	ピット274		遺物なし												
	ピット275		遺物なし												
	ピット276	埋土			1										
	ピット277	埋土			1										
	ピット279	埋土		1					1	5					
	ピット281	埋土							1	40					
	ピット282		遺物なし												
	ピット283		遺物なし												
	ピット285		遺物なし												
	杭14		遺物なし												
	杭21		遺物なし												
	杭30		遺物なし												
	杭31		遺物なし												
	杭32		遺物なし												
	杭36		遺物なし												
	杭40		遺物なし												
	杭41		遺物なし												
	杭42		遺物なし												
	杭43		遺物なし												
Ⅰ-Ⅱb期遺構　合計			23	27	35	1	1	1	17	1755	4	3	2	2	4
Ⅰ－Ⅲ	2号建物		遺物なし												
	5号建物	柱1			1										1
		柱2		1											
		柱3													2
		計		1	1										3
	7号建物		遺物なし												
	4号柱列	柱5	1	1	3										
		柱6			2										
		計	1	1	5										
	7号柱列		遺物なし												
	7号遺構	埋土	1		3				2	470	1	1			
	28号遺構	埋土			1										
	75号遺構		遺物なし												
	1号井戸	埋土1層(撹乱)	1	3							2				
		埋土1層	3		1									1	
		埋土2層	20	28	26	4		10	24	7790	40	9	3	1	4
		埋土3層	12	35	11		1	10	23	5040	84	7	1	1	
		埋土	2	2							22	1			1
		計	38	68	38	4	1	20	47	12830	148	17	4	3	5

表4　遺物集計表（4）
Tab.4　Distribution of archaeological remains at BK14（4）

段階	出土場所		総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅰ-Ⅲ	ピット13		遺物なし												
	ピット17		遺物なし												
	ピット36		遺物なし												
	ピット62		遺物なし												
	ピット79		遺物なし												
	ピット81	埋土	2												
	ピット83	埋土1層	1												
	ピット85		遺物なし												
	ピット88		遺物なし												
	ピット90	埋土									1				
	ピット95		遺物なし												
	ピット100	埋土			2										
	ピット104	埋土							1	3					
	ピット125	埋土1層			1										
	ピット126	埋土1層		1											
	ピット128		遺物なし												
	ピット130		遺物なし												
	ピット134	埋土			3										
	ピット142		遺物なし												
	ピット144		遺物なし												
	ピット145	埋土1層			2						1				
	ピット146	埋土1層			2	2									
	ピット179		遺物なし												
	ピット184		遺物なし												
	ピット190	埋土1層				1									
	ピット203		遺物なし												
	ピット224	埋土1層		1	1										
	ピット238		遺物なし												
	ピット244		遺物なし												
	杭11		遺物なし												
Ⅰ-Ⅲ期遺構　合計			43	72	59	7	1	20	50	13303	151	18	4	3	8
Ⅱa	3号地状遺構	埋土1層	7	5	1				1	50	1				4
		埋土4層		1											1
		計	7	6	1				1	50	1				5
	18号遺構	埋土1層		1	6				1	60					
		埋土2層	4	2	2						13	2	1		
		埋土3層	2	2	1	1		1							
		計	6	5	9	1		1	1	60	13	2	1		
	5号溝	埋土1層	4	18	27		1		38	3319			2		4
		埋土1a層	2	4	2				2	43			1		1
		埋土1b層	4	4	6	2	1		8	1001			1		
		埋土2層	10	3	9	2	2		25	1793					
		埋土3層							1	90					
		埋土4層	1		1										
		埋土		1											
		計	21	30	45	4	4		74	6246			4		5
Ⅱa期遺構　合計			34	41	55	5	4	1	76	6356	14	2	5		10
Ⅱa-Ⅱb	9号遺構	埋土1層		1	2										
		埋土7層	3	5	2						8	1	1		
		埋土8層	1												
		埋土	1	1	2				2	50	1				2
		計	5	7	6				2	50	9	1	1		2
	69号遺構	埋土	1		2										
	2号井戸	埋土6層(最上)	4	3											
		埋土7層(最上)		2	3				1	10					
		埋土5層(最上)	2	1											
		埋土6-2(最上)	1												
		埋土6-3(最上)	4	1							1				2
		埋土1層	1	1											
		埋土2層	1												
		埋土3層	7	24	111	3	2				9	1	4	1	23
		埋土1~3層	0	3							3				
		計	20	35	114	3	2		1	10	13	1	4	1	25
	6号井戸	埋土1層		1	2				8	340					
		埋土2層	3												
		埋土3層	1									1			
		埋土4層	3	3	1										1
		埋土6層	2	1	1						19		1		
		埋土7層	2	3							8	1			

表5　遺物集計表（5）
Tab.5　Distribution of archaeological remains at BK14（5）

段階	出土場所		総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅱa-Ⅱb	6号井戸	埋土8層	22	8	68	9			34	680	429	6	8	2	64
		埋土9層									14				1
		埋土10層	1	4	19				2	5	391	4		2	34
		埋土11層	6	11	108	4	1	1	19	628	1179	13	7	5	127
		埋土	11	7	15	3		3	7	130	299	9	5		14
		計	51	38	214	16	1	4	70	1783	2342	34	21	9	241
	ピット226	埋土1層	7	1					1	20					
Ⅱa-Ⅱb期遺構　合計			77	81	336	19	3	4	74	1863	2366	36	26	10	268
Ⅱa-Ⅲ	杭18		遺物なし												
	杭19		遺物なし												
	杭20		遺物なし												
Ⅱa-Ⅲ期遺構　合計			遺物なし												
Ⅱb	1号柱列	柱1	3	4	13										
		柱2	1	2					10	450					
		柱3	4	4	9				3	463					
		柱4	1	4	2	1	1		4	160					
		柱5	2	3	10		1		3	220					3
		計	11	17	34	1	2		20	1293					3
	2号柱列	柱1		1					1	10					
		柱2					1		2	100					
		計		1			1		3	110					
	1号池状遺構	埋土1層	37	24	8	8		2	22	2151					1
		埋土1-3層	3	2											
		埋土1b層													1
		埋土2a層	6	2	2				1	50	3	1	1		
		埋土2b層	9	15	13				2	155	1	1	1		3
		埋土2層	13	14	11	1		1	4	780	2		1		
		東石列表面	1	1	3										
		計	69	58	37	9		3	29	3136	6	2	3		5
	4号遺構	埋土1層	4	2	1	1			5	460					
		埋土2層	1						1	50					
		埋土3層	2	4	1	1			2	30		1			
		埋土5層	4	2	3							1			
		埋土8層	1	2		1					5		1		
		埋土	10	6	2			1							1
		計	22	16	7	3		1	8	540	5	2	1		1
	13号遺構	埋土1層	3	3		1									
		埋土	1	11	3				1	10	2				
		計	4	14	3	1			1	10	2				
	ピット151	埋土1層	1												
	ピット156	埋土1層	1	7	4	1			5	300					
	ピット159		遺物なし												
	ピット160		遺物なし												
	ピット161	埋土1層							4	160					
Ⅱb期遺構　合計			108	113	85	15	3	4	70	5549	13	4	4		9
Ⅱb-Ⅲ	5号遺構	埋土1層	43	29	6	1	1		3	70			1	2	2
		埋土2層	1	7	2	1		1	1	30					
		埋土9層		1		1									
		埋土	37	52	9		1	5	1	10	1				6
		計	81	89	17	3	2	6	5	110	1		1	2	8
	50号遺構	埋土1層	3		3		1						2		
		埋土1層			1										1
	65号遺構	埋土2層	6	9	1	4	1								1
		埋土	24	28	4				4	345					1
		計	30	37	6	4	1		4	345					3
	ピット49	埋土		3											
	ピット113	埋土			1										
	ピット223	埋土	遺物なし												
Ⅱb-Ⅲ期遺構　合計			114	129	27	7	4	6	9	455	1		3	2	11
Ⅲ	6号建物	柱2			1										
		柱4			1										1
		柱5	1												
		計	1		2										1
	9号柱列	柱3							1	50					
	2号遺構	埋土1層							6	305					
		埋土3層		1							1				
		埋土	4	4	1				20	4760					
		計	4	5	1				26	5065	1				
	14号遺構	埋土	18	14	1	2			1	10	1	3			

表6　遺物集計表（6）
Tab.6　Distribution of archaeological remains at BK14（6）

段階	出土場所		総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅲ	20号遺構	埋土1層	5	4	11				4	335			1		5
		埋土2層	7	7	2				3	125					
		埋土3層	3	1	3				3	2305					
		埋土4層	1												
		埋土	1												
		計	17	12	16				10	2765			1		5
	21号遺構	埋土1層	2	2	2										
		埋土2層		2											
		計	2	4	2										
	23号遺構	埋土1層	2	1											
	25号遺構	埋土1層	4	1	5				3	50					1
		埋土2層		4	4				1	50					
		埋土3層	0		2										
		計	4	5	11				4	100					1
	30号遺構	埋土1層	6	12	5	1			1	50					1
		埋土2層	7	7	1			1	4	390					
		埋土3層	1	1	3										
		埋土4層	5	3	3		2								1
		埋土5層			1										
		埋土	0	1											
		計	19	24	13	1	2	1	5	440					2
	31号遺構	埋土1層	5	3	7	1			3	263					1
		埋土2層	2	5	12			2	2	30		2			1
		埋土3層		1	12										2
		埋土4層	5	2	15		2	2							2
		埋土5層	4	12	1										
		埋土	2												
		計	18	23	47	1	2	4	5	293		2			6
	34号遺構	埋土2層	1	1											
		埋土6層			1										
		計		1	1										
	41号遺構	遺物なし													
	44号遺構	遺物なし													
	48号遺構	埋土1層	8	15	2	1		1	2	65					2
		埋土2層	2	3	1			2	1	30					
		埋土3層	1	5	1			1	1	120					
		埋土		1											
		計	11	24	4	1		4	4	215					2
	51号遺構	埋土		2											
	60号遺構	遺物なし													
	62号遺構	埋土2層			1							1			
	63号遺構	埋土1層	3	4	53	1			1	20					1
		埋土2層	1	3	3						1				
		埋土3層	0		1										
		計	4	7	57	1			1	20	1				1
	66号遺構	埋土1層										1	1		
		埋土3層	1	1	1		1					2			2
		埋土4層		1	7	1	1		5	2000	1	1			
		埋土	17	16	2		2	1							
		計	18	18	10	1	4	1	5	2000	1	4	1		2
	70号遺構	遺物なし													
	71号遺構	埋土1層													2
	2号溝	遺物なし													
	4号溝	埋土	7	10	12				3	280					
	6号溝	埋土1層	9	16	13	1		2	3	50					1
		埋土2層					1								
		計	9	16	13	1	1	2	3	50					1
	4号井戸	貯水層上							3	900					
		埋土1層	9	8	5		1		6	840			1		
		埋土5層	4	2	1				1	190	38				
		埋土6層	1	2											
		埋土	1								7	1			
		計	15	12	6		1		10	1930	45	1	1		
	ピット25	遺物なし													
	ピット123	埋土1層			1										
	ピット129	埋土2層			1										
	ピット136	埋土1層			1										
		埋土		3	1										
		計		3	2										

表7　遺物集計表（7）
Tab.7　Distribution of archaeological remains at BK14（7）

段階	出土場所		総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
Ⅲ	ピット138	埋土1層			9										
	ピット152	埋土1層	1	3	2				2	80					
	ピット171		遺物なし												
	ピット173		遺物なし												
	ピット174		遺物なし												
	ピット175		遺物なし												
	ピット177	埋土1層			1	1									
	ピット178		遺物なし												
	ピット183		遺物なし												
	ピット186		遺物なし												
	ピット192		遺物なし												
	ピット193		遺物なし												
	ピット197	埋土1層			2										
	ピット198		遺物なし												
	ピット199		遺物なし												
	ピット214		遺物なし												
	ピット219		遺物なし												
	ピット221		遺物なし												
	ピット222	埋土			2										
	ピット230	埋土2層							1	100					
	ピット233		遺物なし												
	ピット246	埋土1層		1	1										
	ピット259		遺物なし												
	ピット261	埋土1層			1				23	160					
	ピット263		遺物なし												
	ピット269		遺物なし												
	ピット270	埋土	1	2	1				1	50					
	ピット271		遺物なし												
	ピット272	埋土1層	1	1	1										
	ピット280	埋土1層	1	5	4	1							2		
	ピット287	埋土1層			5										
	ピット291	埋土1層	2		3				3	10					
	ピット292	埋土	1	2	1										1
	杭23		遺物なし												
	杭25		遺物なし												
	杭33				1										
	杭37		遺物なし												
	杭38		遺物なし												
	杭39		遺物なし												
	杭56		遺物なし												
Ⅲ期遺構　合計			157	195	235	10	10	12	108	13618	49	11	5		24
不明	3号柱列		遺物なし												
	55号遺構		遺物なし												
	56号遺構		遺物なし												
	67号遺構		遺物なし												
	73号遺構		遺物なし												
	ピット7		遺物なし												
	ピット10		遺物なし												
	ピット11		遺物なし												
	ピット12		遺物なし												
	ピット14		遺物なし												
	ピット19		遺物なし												
	ピット21		遺物なし												
	ピット28		遺物なし												
	ピット29	埋土													1
	ピット34		遺物なし												
	ピット35		遺物なし												
	ピット39		遺物なし												
	ピット41		遺物なし												
	ピット45		遺物なし												
	ピット52		遺物なし												
	ピット54		遺物なし												
	ピット57		遺物なし												
	ピット58		遺物なし												
	ピット65		遺物なし												
	ピット66		遺物なし												
	ピット67		遺物なし												
	ピット68		遺物なし												
	ピット69		遺物なし												

表8　遺物集計表（8）
Tab.8　Distribution of archaeological remains at BK14（8）

段階	出土場所	総器	陶器	土師質土器	瓦質土器	土人形土製品	軟質施釉陶器	瓦	g	木製品	漆塗製品	石器・石製品	その他	金属製品
不明	ピット69	遺物なし												
	ピット72	遺物なし												
	ピット82	遺物なし												
	ピット93	遺物なし												
	ピット94	遺物なし												
	ピット97	遺物なし												
	ピット98	遺物なし												
	ピット108	遺物なし												
	ピット109	遺物なし												
	ピット110	遺物なし												
	ピット112	遺物なし												
	ピット119	遺物なし												
	ピット122	遺物なし												
	ピット124	遺物なし												
	ピット127	遺物なし												
	ピット135	遺物なし												
	ピット139	遺物なし												
	ピット141	遺物なし												
	ピット147	遺物なし												
	ピット148	遺物なし												
	ピット167	遺物なし												
	ピット168	遺物なし												
	ピット187	遺物なし												
	ピット206	遺物なし												
	ピット209	遺物なし												
	ピット211	遺物なし												
	ピット253	遺物なし												
	ピット262	遺物なし												
	石	遺物なし												
	杭1	遺物なし												
	杭2	遺物なし												
	杭3	遺物なし												
	杭4	遺物なし												
	杭5	遺物なし												
	杭6	遺物なし												
	杭7	遺物なし												
	杭8	遺物なし												
	杭9	遺物なし												
	杭10	遺物なし												
	杭12	遺物なし												
	杭13	遺物なし												
	杭16	遺物なし												
	杭17	遺物なし												
	杭34	遺物なし												
	杭35	遺物なし												
	杭44	遺物なし												
	杭45	遺物なし												
	杭46	遺物なし												
	杭47	遺物なし												
	杭48	遺物なし												
	杭49	遺物なし												
	杭50	遺物なし												
	杭51	遺物なし												
	杭52	遺物なし												
	杭54	遺物なし												
関連2区	1層・撹乱	12	11	2			1	1	10					
	2a.2層			1										
	遺構埋土	1	3	1				2	120					
関連4区	遺構埋土1層	1	1					2	100					

表9　磁器集計表（1）
Tab.9　Distribution of porcelains at BK14（1）

段階	出土場所	大碗	中碗						小碗					皿不明	皿				擂鉢皿識別不明	鉢類	袋物			蓋物	紅猪口・紅皿	その他	不明	合計
			丸型	端反	広束	蓋	その他	不明	丸型	端反	その他	不明			小中	大	不明	その他			瓶類	他	不明						
1層		2	116	32	3	9	腰折2 筒形6 平杉1	90	29	33	筒形1	2	201	195	7		極小皿3	56	15、 大鉢1	23		12	蓋6 身3	紅皿5 紅猪口36	小坏8、香炉3、火入2、合子2 火入・香炉2、灰吹1、段重4 碍子7、水滴1、猪口22、湯飲8 蓋物蓋1	183	1103
2a-2層			11	1			天目1	1	1			1	13	27				2						蓋2	紅皿1	小坏3、人形（兎）1 小壺1、置物（亀）1、猪口2	5	74
2b層										1		1	2	1														5
Ⅰ	8号柱列			1																								1
	2号池状遺構		25	1				7	2				35	25	4			3		6、 中瓶1		1		紅猪口1	壺蓋1、合子蓋1、猪口8 小坏1、水滴1、香炉1	21	145
	4号池状遺構			1						1			13	5	1	1			1	1				蓋2		小坏1、猪口1	5	33
	10号遺構												1												1	小坏1		3
	12号遺構		2					2						2				1								壺蓋1、猪口1		9
	37号遺構													1														1
	39号遺構		2				腰折1						2	1	1													7
	42号遺構			1																								1
	64号遺構												1	1														2
	3号溝		2					2		1			1	4					1	2				蓋1	紅皿1	猪口1		16
	5号井戸		1	1				1		1				3												水滴1		8
	ピット200													1														1
	ピット245													1														1
	杭57													1														1
Ⅰ～Ⅱa	ピット15												1															1
	ピット188												1		1													2
Ⅰ・Ⅱb	15号遺構		1															1	中鉢1								1	4
	16号遺構												2	5				2		1					小坏1			11
	36号遺構												2														1	3
	35号遺構													1														1
	ピット38												1															1
	ピット201							1																				1
	ピット215												1															1
	ピット260		1																							猪口1		1
Ⅰ・Ⅲ	4号柱列												1															1
	7号遺構																	1										1
	1号井戸		8	4	4	3		1	2	8	筒丸形1		1	1						御神酒徳利2						猪口1	2	38
	ピット81												1														1	2
	ピット83													1														1
Ⅱa	3号池状遺構									1			1	5														7
	18号遺構		2										2													猪口1	1	6
	5号溝		7					2		1			2	4									2	1			2	21

表10　磁器集計表（2）
Tab.10　Distribution of porcelains at BK14（2）

段階	出土場所	大碗	中碗						小碗					碗不明	皿				碗鉢皿識別不明	鉢類	袋物			蓋物	紅猪口・紅皿	その他	不明	合計
			丸型	端反	広東	蓋	その他	不明	丸型	端反	その他	不明			小中	大	不明	その他			瓶類	他	不明						
Ⅱa－Ⅱb	9号遺構			1				1						1	2														5
	69号遺構		1																										1
	2号井戸		3			1			1					7	3									1	蓋1		猪口2	1	20
	6号井戸		7	2		1	筒形1	3						13	7		1		9					3		紅皿2 紅猪口1	猪口1		51
Ⅱb	1号柱列			1			筒形1							3	4	1					1								11
	1号池状遺構		5	2		1		6	6	4				20	12	1			2	1	1							8	69
	4号遺構		7					2	1					2	4				1		1				蓋1	紅猪口1		2	22
	13号遺構		2																		1						猪口1		4
	ピット151							1																					1
	ピット156													1															1
Ⅱb－Ⅲ	5号遺構		6	1			筒形3	3		3			2	23	20		1			1	4						火入・香炉1	13	81
	50号遺構							1						1													猪口1		3
	65号遺構		3	1		1		3						8	9						1						水滴？1、猪口2	1	30
Ⅲ	6号建物			1																									1
	2号遺構													1	2										1				4
	14号遺構		7	1			筒形1		1					3	2										1		火入・香炉1	1	18
	20号遺構		1											2	8					1	1				1		火入・香炉2	1	17
	21号遺構						腰折1							1															2
	23号遺構		1											1															2
	25号遺構													1	1				2										4
	30号遺構		7				猪口1							1	5				3					1			小坏1		19
	31号遺構		4		1				1					5	1					1	3				蓋1			1	18
	34号遺構														1														1
	48号遺構		1	2					1					3	2									1				1	11
	63号遺構														1	1											小坏1	1	4
	66号遺構		7	1	1									1	4	1			1		1							1	18
	4号溝							1						4	1													1	7
	6号溝		3						1					1	4														9
	4号井戸		2										2	5	5												花入1		15
	ピット152					1																							1
	ピット270		1																										1
	ピット272																											1	1
	ピット280																											1	1
	ピット291													1															1
	ピット292							1																					1
関連4区	遺構埋土1層														1														1
関連2区	遺構埋土1層							1		1				3	2					1	1						湯飲2	2	12

表11　陶器集計表（1）
Tab.11　Distribution of glazed ceramics at BK14（1）

段階	出土場所	中碗			小碗	椀不明	鉢			擂鉢	皿		蓋皿鉢	土瓶		壺・甕・瓶	袋物不明	灯火具	その他	不明	合計
		丸型	その他	不明			小中	その他			小中	その他	調理不明	身	蓋						
1層		175	腰折6，端反17 拳骨形1，鉢型8 平形1	32	7	149	28	大鉢18 火鉢2 こね鉢1 植木鉢2 片口鉢1		42	66	向付5 極小皿1	44	147	14	大甕2，中甕6， 甕類18，大壺1 瓶類14，中瓶1，仏花瓶2	23	灯明皿3 灯火具類1	鬢水入1，火入・灰吹3，土管2，水注2 水指1，火入1，灰吹1，入形1，急須3 裏燭1，土管16，ミニチュア瓢箪1 土鍋14，碍子1蓋1，仏飯器1，碗蓋1	53	942
2a-2層		9	腰折1	7		32	大鉢6	火鉢1		9	13	向付3	5	5		大壺1，甕類4	5	灯明受皿1	土鍋1，裏燭1，火入・灰吹1	6	111
2b層						5	2													1	8
I	3号建物									1											1
	5号柱列			1																	1
	8号柱列											向付1									1
	10号柱列							大鉢1			1			1							3
	2号池状遺構	14	拳骨形1，腰折1 腰張2，天目2	24		37	1	大鉢4 鉢類1		16	8	向付2	2			大壺1，瓶類8，大甕1，甕類12			火入・香炉1，入形徳利1，香炉?3 水指・蓋1，火入2，火入・灰吹1	33	179
	4号池状遺構	1				4		大鉢2		2	3		3			壺1				4	20
	10号遺構									2											2
	12号遺構	3		3		8				2	1								入形徳利1	1	19
	39号遺構					3					1	向付1				甕類1				1	7
	40号遺構										1										1
	42号遺構							大鉢1		1		向付3		1							6
	57号遺構															瓶類1					1
	3号溝	3	端反2	5		6	3	片口鉢2		3	2		3			大壺1，小甕1，中瓶1，甕類1	3		髪水入1		37
	5号井戸	2		1		1	1			3						豆甕1					9
	ピット70									1											1
	ピット205		端反1																		1
	ピット239											向付1		1						1	3
	ピット250											変形1									1
	杭57							大鉢1													1
I-IIa	ピット77					1		大鉢1													2
	ピット165					2															2
	ピット188															甕類1					1
I-IIb	15号遺構		輪層形1，平形1			1	1									甕類1					5
	16号遺構	1		1		2		大鉢2	1							甕類1				1	9
	26号遺構					1					1		1			甕類1	1				5
	35号遺構					1															1
	74号遺構											ヒダ皿1									1
	ピット38					1															1
	ピット185												1							1	2
	ピット225										1										1
	ピット240												1								1
	ピット279			1																	1
I-III	5号建物										1										1
	4号柱列					1															1
	1号井戸	3	変形1，腰折1 平形1，端反2		端反1	11				5	2			15	1	仏花瓶2，小甕1，徳利2 鋼徳利1，甕類1				18	68
	ピット126																			1	1
	ピット224											向付1									1

表12　陶器集計表（2）
Tab.12　Distribution of glazed ceramics at BK14（2）

段階	出土場所	中碗			小碗	碗不明	鉢		擂鉢	皿			碗皿鉢識別不明	土瓶		壺・甕・瓶	袋物不明	灯火具	その他	不明	合計
		丸型	その他	不明			小中	その他		小中	その他			身	蓋						
Ⅱa	3号池状遺構					3					向付1						1			1	6
	18号遺構					1				1			1			瓶類1，甕類1				1	5
	5号溝	4	筒形2	5		6	1		4	1			1			瓶類1，甕類2	3				30
Ⅱa－Ⅱb	9号遺構			1	1				2				1			中甕1，甕類1					7
	2号井戸	1	腰折1	4	1	11	1	大鉢1	2	5	向付1					大壺1，瓶類1，甕類1			土鍋1，火入・香炉1	2	35
	6号井戸	3	端反1 天目碗1	2		5	1	鉢類1 大鉢2	5		大皿1		1			甕類3			人形1，蓋1，火入・香炉1	9	38
	ピット226															甕類1					1
Ⅱb	1号柱列	2	端反1，腰折1	2		5			1	2						甕類1	2				17
	2号柱列					1															1
	1号池状遺構	1	折清形1	5	1	13			3	4	向付1	5	8	3		小甕1，仏花瓶1，甕類4		香炉1	土鍋1，水注1，火入・灰吹1	4	59
	4号遺構	1				8				2		1								4	16
	13号遺構	3		3		1	1	大鉢1	2							小瓶1，甕類2					14
	ピット156			1		2										甕類1	2			1	7
Ⅱb－Ⅲ	3号遺構	1	端反1，腰折1	5		26	1	大鉢1	9	4			9	2	豆甕1，瓶類1，甕類3		6		火入・灰吹1	17	89
	65号遺構	6	腰折1	2	1	10	2		2	3			2			甕類1	1		銚子1，火入・香炉1	4	37
	ピット49	1	平杉形1													瓶類1					3
Ⅲ	2号遺構	1							1				2							1	5
	14号遺構	2		3		2			1				2						土鍋1，盤1，灰吹1，土管1		14
	20号遺構					5			1	1			1	1						3	12
	21号遺構									1			1			瓶類1	1				4
	23号遺構					1															1
	25号遺構					3			1		向付1										5
	30号遺構	1	腰折1			12	6		1							甕類1				2	24
	31号遺構					11		大鉢2		2			3				2	香炉1 灯明皿1		1	23
	34号遺構															甕類1					1
	48号遺構			1		4	1	大鉢1	1	1			8	1		豆甕1	1		土鍋1，水指1，盤1	1	24
	51号遺構										向付1					甕類1					2
	63号遺構	3		1		1			1										水差し・蓋1		7
	66号遺構		筒型1	3	端反1	9				1	変形1		1					香炉1			18
	4号溝			3		2			1	1								香炉1			10
	6号溝		拳骨形1	1		5	1			2	向付1	1	1				1	1		1	16
	4号井戸	2	筒形1				1	大鉢1	2				1			瓶類1，甕類1			火入・香炉1	1	12
	ピット136					2							1								3
	ピット152	1				2															3
	ピット246											1									1
	ピット270					2															2
	ピット272			1																	1
	ピット280	1		1		2				1											5
	ピット292															瓶類1，甕類1					2
関連2区	遺構埋土					1							1							1	3
	1層・攪乱		腰折1	2		3		片口1					3	1							11
関連4区	遺構埋土						1														1

表13　土器・土製品集計表（1）
Tab.13　Distribution of unglazed ceramics and cray objects　at BK14（1）

段階	出土場所	土師質土器						瓦質土器				軟質施釉陶器			土人形・土製品		
		皿	焼塩壺	その他	不明	合計	火鉢	その他	不明	合計	種類	不明	合計	軟質施釉	土師質	合計
1層		271	5	火鉢1 鉢類4 擂鉢2 器台2 他1	104	390	1	鉢類14 土錘1 焜炉1、擂鉢1 炭櫃2、蚊遣1 壺類類1	14	36	焙烙17 土鍋1	15	33		人形不明5 獅子動物1 人形頭部1 猫？1 土鈴2	10
2a-2層		190	1		8	199	1	鉢類2	9	12	焙烙3、蓋1	1	5		土製品不明2 土鈴1	3
2b層		12			2	14	1			1	焙烙1		1			
Ⅰ	3号建物				1	1										
	5号柱列	1			4	5										
	8号柱列	3				3			1	1						
	10号柱列	4			1	5										
	2号 池状遺構	470	6	1	215	692		鉢類9 火消壺蓋1	6	16	碗6	1	7		人形不明3、多層塔1 土製品不明1、猿1	6
	4号 池状遺構	94			14	108	1		1	2						
	10号遺構	2				2		鉢類1		1						
	12号遺構	7		鉢類1	1	9	2	五徳1		3		1	1		人形不明1	1
	39号遺構	19	1		1	21									猿1	1
	42号遺構	7			1	8			1	1						
	64号遺構	2				2										
	1号溝	1				1										
	3号溝	40			2	42									鋼乗1	1
	5号井戸	3	1		2	6		壺類類1	1	2						
	ピット70	1				1										
	ピット102		1			1										
	ピット217				8	8										
	ピット239	6			2	8										
	ピット250	2			1	3										
Ⅰ－Ⅱa	ピット165								1	1						
	ピット188	1			1	2										
Ⅰ・Ⅱb	15号遺構	1				1										
	16号遺構	2		鉢類？1		3		鉢類1		1		1	1			
	26号遺構	12			2	14										
	35号遺構	5			1	6									土製品不明1	1
	74号遺構		瓶内系1			1										
	ピット181	3				3										
	ピット185	2				2										
	ピット202	1				1										
	ピット204	1				1										
	ピット225	1				1										
	ピット276	1				1										
	ピット277	1				1										
Ⅰ・Ⅲ	5号建物				1	1										
	4号柱列	1			4	5										
	7号遺構	1			2	3										
	28号遺構				1	1										
	1号井戸	7		瓶小破片13 蓋1、さな1	16	38		土錘1	3	4	焙烙11	9	20		土製品不明1	1
	ピット100				2	2										
	ピット125	1				1										
	ピット134				3	3										
	ピット145	2				2										
	ピット146				2	2			2	2						
	ピット190								1	1						
	ピット224	1				1										
Ⅱa	3号 池状遺構	1				1										
	18号遺構	8			1	9		埋甕1		1		1	1			
	5号溝	32		釜？1、焙烙1 鉢類1	10	45	2	鉢類1	1	4					土製品不明3 屋根1	4
Ⅱa・Ⅱb	9号遺構	6				6										
	69号遺構	2				2										
	2号井戸	11		鉢類2、瓶小破片74	27	114	1		2	3					土製品不明2	2
	6号井戸	77		瓶小破片8	129	214	4	壺類類1	11	16	焙烙2	2	4	反丸類類1		1
Ⅱb	1号柱列	27		鉢類1	6	34		鉢類1		1					土製品不明2	2
	2号柱列														土鈴1	1
	1号 池状遺構	35	1		1	37	2	鉢類3 炭櫃1	3	9	焙烙2	1	3			
	4号遺構	6			1	7		鉢類1	2	3	焙烙1		1			
	13号遺構	3				3	1			1						
	ピット156	4				4		鉢類1		3						
Ⅱb・Ⅲ	5号遺構	10		さな1	6	17	2	鉢類1		3	焙烙6		6		不明1、猿1	2
	50号遺構	1			2	3									人形不明1	1

表14　土器・土製品集計表（2）
Tab.14　Distribution of unglazed ceramics and cray objects　at BK14(2)

段階	出土場所	土師質土器					瓦質土器				軟質施釉陶器			土人形・土製品		
		皿	焼塩壺	その他	不明	合計	火鉢	その他	不明	合計	種類	不明	合計	軟質施釉	土師質	合計
Ⅱb－Ⅲ	65号遺構	3		乗燭1	2	6			4	4					茶釜1	1
	ピット113	1				1										
Ⅲ	6号建物	2				2										
	2号遺構				1	1										
	14号遺構	1				1	1		1	2						
	20号遺構	11			5	16										
	21号遺構	2				2										
	25号遺構	11				11										
	30号遺構	10			3	13		蚊遣1		1	焙烙1		1		器台1、土鈴1	2
	31号遺構	10			37	47		鉢類1		1	焙烙1	3	4		恵比寿1、相撲取1	2
	34号遺構	1				1										
	48号遺構	4				4		鉢類1		1	焙烙1	3	4			
	62号遺構				1	1										
	63号遺構	53		鉢類3	1	57	1			1						
	66号遺構	4		極小破片2	4	10			1	1		1	1		四足動物1、土鈴3	4
	4号溝	7			5	12										
	6号溝	10			3	13		鉢類1		1	焙烙1	1	2		人形不明1	1
	4号井戸	1		鉢類2	3	6									人形不明1	1
	ピット123	1				1										
	ピット129	1				1										
	ピット136	2				2										
	ピット138	9				9										
	ピット152	1		擂鉢1		2										
	ピット177		1			1		擂鉢1		1						
	ピット197	2				2										
	ピット222	2				2										
	ピット246	1				1										
	ピット261	1				1										
	ピット270	1				1										
	ピット272	1				1										
	ピット280	4				4			1	1						
	ピット287	5				5										
	ピット291				3	3										
	ピット292	1				1										
	杭33	1				1										
関連2区	1層・撹乱	1		1		2					焙烙1		1			
	2a－2層				1	1										
	溝埋土	1				1										

表15　石器・石製品・その他の遺物集計表
Tab.15　Distribution of various implements at BK14

段階	出土場所	石器・石製品				その他の遺物	合計
		硯	碁石	その他	合計		
1層		7	3	砥石1、不明粘板岩1	12	硬質陶器16、ガラス（栓1、瓶1、不明2、板1）、土器2、樹脂パイプ1	24
2a－2層				砥石2、チップ1	3		
2b層		1			1		
Ⅰ	2号池状遺構	3	4	火打石12、石斧1、石鏃1、砥石2、紡錘車1	24	鼈甲装飾部品1、ボタン1、ガラス不明2	4
	4号池状遺構		2		2		
	10号遺構					レンガ1	1
	12号遺構			火打石1	1		
	39号遺構		1	火打石1	2		
	42号遺構		1	火打石1	2		
	3号溝			温石?1、砥石1	2		
	5号井戸			不明粘板岩1	1		
Ⅰ－Ⅱb	16号遺構					レンガ1	1
	26号遺構			硯か2	2	鉄滓1	1
Ⅰ－Ⅲ	1号井戸			火打石3、チップ1	4	レンガ1、不明1、ガラス不明1	3
Ⅱa	18号遺構			砥石1	1		
	5号溝	3	1		4		
Ⅱa－Ⅱb	9号遺構			石臼1	1		
	2号井戸			火打石3、不明粘板岩1	4	撚糸状繊維1	1
	6号井戸	1	1	火打石14、不明粘板岩1、剥片1、砥石2、不明石英1	21	ボタン1、樹脂状不明1、種子加工品1、不明1、金箔1、タイル?1 不明土器1、ガラス不明1、鼈甲眉道具?1	9
Ⅱb	1号池状遺構	2			2		
	4号遺構			火打石1	1		
Ⅱb－Ⅲ	5号遺構			不明粘板岩1	1	レンガ1、ガラス不明1	2
	50号遺構		1	砥石1	2		
Ⅲ	20号遺構	1			1		
	66号遺構			火打石1	1		
	4号井戸			不明粘板岩1	1		
	ピット280	1		火打石1	2		

表16 瓦（種類別）集計表（1）
Tab.16 Distribution of roof tiles at BK14 (1)

段階	出土場所		平瓦1類	平瓦2類	丸瓦	丸瓦類	軒丸瓦	軒丸瓦類	軒平瓦	軒桟瓦	桟瓦	板塀瓦	棟瓦	その他	不明	合計
1層		個数	4	1	2	3				4	2			古代瓦1	8	25
		重量g	1245	110	260	370				2549	2510			190	70	7304
2a-2層		個数	15		6	6									93	120
		重量g	2460		716	503									1143	4822
2b層		個数	2			1									1	4
		重量g	142			61									5	208
Ⅰ	3号建物	個数	1													1
		重量g	340													340
	10号柱列	個数			1	1									1	3
		重量g			30	50									1	81
	2号池状遺構	個数	12	1	3	14	1	1	1	1					61	95
		重量g	880	50	210	560	190	220	300	50					484	2944
	4号池状遺構	個数	2		4	2								古代瓦1	8	17
		重量g	460		3310	25								350	77	4222
	10号遺構	個数				1										1
		重量g				100										100
	39号遺構	個数				2									3	5
		重量g				120									15	135
	42号遺構	個数													1	1
		重量g													10	10
	1号溝	個数													1	1
		重量g													70	70
	3号溝	個数	3		2	10						3		なまこ瓦1	18	37
		重量g	710		105	1180						400		530	697	3622
	5号井戸	個数				1									1	2
		重量g				270									5	275
	ピット217	個数			1											1
		重量g			300											300
Ⅰ－Ⅱa	ピット162	個数	2												4	6
		重量g	400												15	415
Ⅰ－Ⅱb	16号遺構	個数	4		1	3								軒平瓦類1	2	11
		重量g	800		50	190								220	140	1400
	26号遺構	個数		1		1										2
		重量g		110		160										270
	7号溝	個数			1											1
		重量g			10											10
	ピット143	個数													1	1
		重量g													30	30
	ピット279	個数													1	1
		重量g													5	5
	ピット281	個数	1													1
		重量g	40													40
Ⅰ－Ⅲ	7号遺構	個数	2													2
		重量g	470													470
	1号井戸	個数	2	8	1	1						4	3	箱付製斗瓦1 板状瓦1	26	47
		重量g	730	1560	220	10						1770	2690	3630	2220	12830
	ピット104	個数													1	1
		重量g													3	3
Ⅱa	3号池状遺構	個数													1	1
		重量g													50	50
	18号遺構	個数				1										1
		重量g				60										60
	5号溝	個数	17		2	10		1			1				43	74
		重量g	2450		1390	950		90			160				1206	6246
Ⅱa－Ⅱb	9号遺構	個数													2	2
		重量g													50	50
	2号井戸	個数						1								1
		重量g						10								10
	6号井戸	個数	3		2	5								古代瓦1	59	70
		重量g	210		410	380								170	613	1783

表17　瓦（種類別）集計表（2）
Tab.17　Distribution of roof tiles at BK14（2）

段階	出土場所		平瓦1類	平瓦2類	丸瓦	丸瓦類	軒丸瓦	軒丸瓦類	軒平瓦	軒桟瓦	桟瓦	板葺瓦	棟瓦	その他	不明	合計
Ⅱa－Ⅱb	ピット226	個数													1	1
		重量g													20	20
Ⅱb	1号柱列	個数	1	2		3		1						板状瓦1	12	20
		重量g	150	280		120		100						450	70	1293
	2号柱列	個数	1	1											1	3
		重量g	30	70											10	110
	1号掘状遺構	個数	10	1		6		1				2		貝寸瓦2	7	29
		重量g	1830	150		290		5				310		120	431	3136
	4号遺構	個数	1	1		2									4	8
		重量g	50	100		220									170	540
	13号遺構	個数													1	1
		重量g													10	10
	ピット156	個数	1												4	5
		重量g	260												40	300
	ピット161	個数	1												3	4
		重量g	50												110	160
Ⅱb－Ⅲ	5号遺構	個数				1									4	5
		重量g				10									100	110
	65号遺構	個数			1	1									2	4
		重量g			100	190									55	345
Ⅲ	9号柱列	個数													1	1
		重量g													50	50
	2号遺構	個数	9	1		1									15	26
		重量g	4370	210		50									435	5065
	14号遺構	個数													1	1
		重量g													10	10
	20号遺構	個数	5			2					1				2	10
		重量g	1990			10					750				15	2765
	25号遺構	個数				1									3	4
		重量g				50									50	100
	30号遺構	個数							1			1			3	5
		重量g							60			200			180	440
	31号遺構	個数	1		1	1									2	5
		重量g	40		220	10									23	293
	48号遺構	個数	1								1				2	4
		重量g	30								60				125	215
	63号遺構	個数													1	1
		重量g													20	20
	66号遺構	個数	1									2			2	5
		重量g	660									1030			310	2000
	4号溝	個数				3										3
		重量g				280										280
	6号溝	個数													3	3
		重量g													50	50
	4号井戸	個数	1		1	5									3	10
		重量g	260		230	1340									100	1930
	ピット152	個数				1									1	2
		重量g				70									10	80
	ピット230	個数			1											1
		重量g			100											100
	ピット261	個数				23										23
		重量g				160										160
	ピット270	個数													1	1
		重量g													50	50
	ピット291	個数													3	3
		重量g													10	10
関連2区1層・攪乱		個数													1	1
		重量g													10	10
関連2区遺構理土		個数				1									1	2
		重量g				60									60	120
関連4区遺構理土1層		個数				2										2
		重量g				100										100

表18　漆塗製品・木製品集計表
Tab.18 Distribution of wooden implements at BK14

段階	出土場所	漆塗製品			木製品																					
					箸状木製品								加工痕ある木材				杭						合計からは除外			
		椀/蓋	その他	合計	完形	一端無	両端無	下駄	曲物	円板	その他	板材	角材	丸材	小片	丸	他	竹製品	不明	合計	木屑g	製品外の竹	樹皮g	自然木	炭化材
Ⅰ層		椀2	漆膜9、箱状製品1	12																						
2a-2層			漆膜1	1																						
Ⅰ	3号建物										不明1						2			3						
	2号池状遺構	椀14 蓋3 不明3	箸状製品1 曲物1、漆膜2 箱状製品1 竹製品1、小片9 加工木2、不明1	38	10	72	91	28 歯9		3	棒状14、加工製品36、植2、人形?1、串状13 へら?1、木筒4、木筒?3、植天板1、柄?1 楔1、木屑2、板状木製品5、札1 杭1、瓢箪?1、栓2、折敷1、櫛1、剣物2	35	7	6	1793			不明9	13	2169	151	446	杉366 桜10	56	52
	4号池状遺構	椀3 不明6	漆膜1、円板2 取手1、小片7	20		2	6	2 歯? 2		1	杭1、加工製品3、人形頭2、折敷1 取手1、棒状1、櫛1、柄1	1	3	2	196					226	7	31	杉2 桜5	1	18
	10号遺構	椀1、蓋1		2								1			3					4						
	12号遺構	椀?1	漆膜1	2								2			2			不明1		5						
	37号遺構		漆膜1	1																						
	3号溝		漆膜2	2																						
	5号井戸	椀1		1		1		歯1			串状?1	1		1	3			不明7		15	7					
Ⅰ－Ⅱb	15号遺構	椀?1	漆膜2	3							柄杓柄1		1		1					3						
	16号遺構														1					1						
Ⅰ－Ⅲ	7号遺構	椀1		1									1							1						
	1号井戸	椀6 蓋3	漆膜6 小片1 部材?1	17		1				1	串状1、板状1、棒状1、植天板4、植側板5 円板状?1、植側板10(同一個体ヵ?) 鉄1、柄1、錐1、加工製品4、井戸枠?1	3	7	3	79	?1	3	不明17 串?2		148	164		杉19		
	ピット90												1							1						
	ピット145											1								1						
Ⅱa	3号池状遺構										人形頭1									1						1
	18号遺構		漆膜1、加工木1	2			1								12					13	6	3	杉6			
Ⅱa－Ⅱb	9号遺構	椀?1		1		1	2					1			4	1				9	3					
	2号井戸	蓋1		1			1				加工製品1	3	2	1	5					13			杉1			
	6号井戸	椀13 蓋1	漆膜11 小片6、箸1 折敷1、加工木1	34	16	103	69	6 歯1	4	1	植1、棒状19、不明1、串状28、楔19、柄1 加工製品36、木筒5、折敷6、へら状7、板状2 栓1、墨書製品1、柄杓柄2、蓋墨書有1、木剣1 部材1、建築部材1、祈付製品1、柄杓部品1	67	105	26	1260	1	六角1 1	串?1 不明 545		2342	1594		桜1 杉14		
	1号池状遺構	蓋1	漆膜2	3							鉤層1、植天板2、棒状1	2								6						
Ⅱb	4号遺構		不明1、漆膜1	2											5					5						
	13号遺構														2					2						
Ⅱb－Ⅲ	5号遺構													1						1						
Ⅲ	2号遺構															1				1						
	14号遺構	椀1	板状1、漆膜1	3													1			1						
	31号遺構		漆膜2	2																						
	62号遺構	不明1		1																						
	63号遺構														1					1						
	66号遺構	椀2	漆膜2	4											1					1	1					
	4号井戸	椀1		1							植側板1				8			不明36		45						

表19　金属製品集計表
Tab.19 Distribution of metal implements at BK14

段階	出土場所	銅製品						鉄製品					その他金属製品
		古銭	煙管		その他	不明	合計	釘		その他	不明	合計	
			雁首	吸口				和	洋				
1層		寛永通寶（古3、文1、不明1）	3		薬莢2、小板状1、ボタン1 円板状1、板状1 1セントコイン1、鼻状1 銅鋲1、火熨斗1	1	19	10	10	ナット・ボルト1		15	銃弾（鉛）1
2a-2層		新寛永1、渡来銭1	1		小筒状1	1	5	24	24	輪状1		25	銃弾（鉛）1
2b層								1	1			1	
Ⅰ	10号柱列							1	1			1	
	2号池状遺構	寛永通寶1 不明1	吸口1 不明1		平棒状1	2	7	108	108	刃物？2、刃物2 貨1、小片41、小柄1 火箸？1、書口1	9	166	
	4号池状遺構	寛永通寶1	1	2	小筒状1、銅鋲1 小棒状1	2	9	19	19	帯状金具1、鉄滓1 火箸？1	1	23	
	3号溝	不明1	不明1				2	1	1			1	
	ピット70	古寛永1					1						
Ⅰ-Ⅱb	16号遺構	不明1					1						
	26号遺構							1	1			1	
	35号遺構							1	1			1	
	ピット161							1	1			1	
Ⅰ-Ⅲ	5号建物	古寛永2					2			鍋？1		1	
	1号井戸	新寛永1			針金1		2	2	2	鍋1		3	
Ⅱa	3号池状遺構		1		板状2、火箸1		4			火箸か1		1	
	5号溝		不明1		小筒状1		2	2	2		1	3	
Ⅱa-Ⅱb	9号遺構							1	1	鉄滓1		2	
	2号井戸	寛永通寶（新1、文1、不明1）		2			5	18	18		2	20	
	6号井戸		1	1	小板状1、鋲1		4	231	231	刀子1、鋲1、刃物1 鍋？1、鉄滓2		237	
Ⅱb	1号柱列							3	3			3	
	1号池状遺構	古寛永2			楕円状1		3	2	2			2	
	4号遺構											1	
Ⅱb-Ⅲ	5号遺構							7	7		1	8	
	65号遺構				飾り金具1		1	1	1	鍋1		2	
Ⅲ	6号建物										1	1	
	20号遺構							4	4	小柄1		5	
	25号遺構	渡来銭1					1						
	30号遺構				小帯状1		1			刃物？1		1	
	31号遺構				火箸？1		1	5	5			5	
	48号遺構			1			1	1	1			1	
	63号遺構							1	1			1	
	66号遺構									仙臺通寶1	1	2	
	71号遺構	渡来銭1（永楽二寶）				1	2						
	6号溝							1	1			1	
	ピット292							1	1			1	
不明	ピット29							1	1			1	

表20　磁器観察表（1）
Tab.20 Notes on porcelains at BK14（1）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CJ1	Ⅰ	8号柱列柱2	中碗端反	－	－	－	山水文	密	中国	17世紀前葉	明末清初	－	2
CJ2	Ⅰ	2号池状遺構埋土1層	水滴	長幅7.9	短幅6.0	4.7		普通	肥前か	近世	隅櫛形 小孔　2型押と染付による瓦屋根の表現	3	4
CJ3	Ⅰ	2号池状遺構埋土1層	小型丸碗	5.4	3.1	2.6	白磁	普通	肥前	17世紀後葉以降		－	4
CJ4	Ⅰ	2号池状遺構埋土1層	中型丸碗	－	－	－	文様あり	密	肥前	17世紀後半－18世紀	漆継あり	－	4
CJ5	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	10.0	3.9	5.2	白磁	密	肥前	17世紀後葉以降		3	4
CJ6	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	8.9	3.6	4.9	梅枝文 唐草文	密	肥前	17世紀後葉－18世紀前半	貫入	3	4
CJ7	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	－	－	4.3	雪輪に草花文	普通	肥前	17世紀後葉－18世紀	くらわんか手 漆継あり 波佐見か	3	4
CJ8	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	中瓶	－	5.2	－	雪輪に雪持笹散らし文	やや粗	肥前	17世紀後葉－18世紀	漆継あり	3	4
CJ9	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	大皿	－	－	－	色絵印判手（緑）	やや粗	中国	17世紀後葉	明末清初 淨州窯系	－	4
CJ10	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	小中皿	－	－	－	櫛面文 見込文様あり	普通	肥前	17世紀前半		－	5
CJ11	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	猪口	－	4.0	－	体部下半圏線 高台内圏線	密	肥前	17世紀後半－18世紀	漆継あり	－	5
CJ12	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	猪口	6.2	－	－		密	肥前	17世紀後半－18世紀	漆継あり 貫入	－	5
CJ13	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	－	5.3	－	見込五弁花文（手描）高台内渦「福」銘	普通	肥前	18世紀代		－	5
CJ14	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	小中皿	13.3	8.3	3.0	見込五弁花文（コンニャク判）墨弾線描波文	普通	肥前	17世紀末－18世紀前葉	高台内ハリ支え1	3	5
CJ15	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	中型丸碗	9.3	3.5	5.2	青花 見込唐花文 高台内「大□化□」銘	普通	中国	17世紀前葉	明末清初 口縁部虫喰いあり	3	5
CJ16	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	猪口	7.0	4.6	5.4	鯉に海老文か	普通	肥前	17世紀後葉－18世紀前半		－	5
CJ17	Ⅰ	2号池状遺構埋土4層	小中皿	10.2	6.8	2.4	口紅 梅唐草文	密	肥前	17世紀末－18世紀前葉		3	5
CJ18	Ⅰ	2号池状遺構埋土5a層	小中皿	－	7.7	－	青花 松草花文	普通	中国	17世紀前葉	明末清初 見込目跡1か	－	5
CJ19	Ⅰ	2号池状遺構埋土5b層	瓶類	－	－	－	網目文	密	肥前	17世紀後半		－	5
CJ20	Ⅰ	4号池状遺構埋土1層	小中皿	14.4	5.9	2.6	見込雲文 草木鳥文	やや粗	肥前	17世紀前葉－中葉	生掛け 高台畳付砂粒付着 組71と接いか	12	13
CJ21	Ⅰ	4号池状遺構埋土1層	小中皿	－	5.6	－	青花 見込文様あり	普通	中国	17世紀前葉	明末清初　漆継あり　高台内無釉で放射状のケズリ	－	13
CJ22	Ⅰ	4号池状遺構埋土1層	小坏	－	4.7	－	青花 草花文	普通	中国	17世紀前葉	明末清初	－	13
CJ23	Ⅰ	4号池状遺構埋土1層	鉢類	－	－	－	青磁 蒲原花文	普通	肥前	17世紀後半－18世紀前半	波佐見か 漆継あり	－	13
CJ24	Ⅰ	4号池状遺構埋土2層	小中皿	14.6	6.0	2.3	見込雲文 草木鳥文	普通	肥前	17世紀前葉－中葉	生掛け 碁笥底 CJ20と接いか	12	13
CJ25	Ⅰ	4号池状遺構埋土3層	碗	－	－	－		密	肥前	近世	漆継あり	－	13
CJ26	Ⅰ	4号池状遺構埋土5層	大皿	43.6	－	－	色絵印判手（赤・緑）扇文	やや粗	中国	17世紀前葉	明末清初 淨州窯系	12	13
CJ27	Ⅰ	4号池状遺構埋土8層	小坏	－	－	－	青花 釉裏紅 松竹梅菊花文	密	中国	17世紀前葉	明末清初	－	13
CJ28	Ⅰ	10号遺構埋土2層	小坏	11.2	－	－	青花 釉裏紅 文様あり	密	中国	17世紀前葉	明末清初 漆継あり	－	16
CJ29	Ⅰ	12号遺構埋土4層	小中皿	12.6	6.8	3.4	雪輪 見込五弁花文（コンニャク判）外面一重圏線に唐草文	普通	肥前	18世紀代	漆継あり 波佐見か くらわんか手	16	17
CJ30	Ⅰ	12号遺構埋土	小中皿	－	－	－	見込文様あり	普通	肥前	17世紀中葉		－	17
CJ31	Ⅰ	12号遺構埋土	中型丸碗	9.2	－	－	窓絵唐草文 水裂文	普通	肥前	17世紀後葉－18世紀前半	漆継あり	－	17
CJ32	Ⅰ	37号遺構埋土1層	小中皿	13.6	－	－	白磁 口紅あり	普通	肥前	17世紀代か		－	18
CJ33	Ⅰ	39号遺構埋土1層	大皿	－	－	－	文様あり（山水文か）	普通	肥前	17世紀代か	漆継あり	－	19
CJ34	Ⅰ	39号遺構埋土3層	小中皿	－	－	－	櫛面文	普通	肥前	17世紀前半	釉やや白濁	－	19
CJ35	Ⅰ	64号遺構埋土1層	小中皿	－	－	－	口紅 輪花	普通	肥前	17世紀中葉か	貫入	－	18
CJ36	Ⅰ	3号溝埋土1層	小中皿	－	－	－	輪花 梅花文 外面折松枝文	密	肥前	19世紀前半		－	21
CJ37	Ⅰ	3号溝埋土2層	小中皿	13.3	5.0	3.4		普通	肥前	17世紀後半－18世紀前半か	見込蛇ノ目釉剥ぎ 波佐見か 体部下半無釉	18	21

表21　磁器観察表（2）
Tab.21　Notes on porcelains at BK14 (2)

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CJ38	Ⅰ	3号溝埋土2層	紅皿	6.0	2.7	2.3	笹文	普通	肥前	18・19世紀		18	21
CJ39	Ⅰ	3号溝埋土3層	瓶類	－	－	－	丸に花・縦縞・捻・矩形散らし文	普通	肥前	17世紀末－18世紀		－	21
CJ40	Ⅰ	3号溝埋土2層	中型丸碗	－	4.0	－	花唐草文 高台内「富□長□」銘	普通	肥前	18世紀前半		－	21
CJ41	Ⅰ	3号溝埋土2層	瓶類	－	5.2	－	文様あり	普通	肥前	17・18世紀		－	21
CJ42	Ⅰ	3号溝埋土3層	中碗不明	－	4.3	－	文様あり	密	肥前	17世紀前葉－中葉か	高台内無釉 生掛け	18	21
CJ43	Ⅰ	5号井戸埋土3層（掘方）	小中皿	－	－	－	色絵印判手（赤・緑）	やや粗	中国	17世紀前葉	明末清初 漳州窯系	－	23
CJ44	Ⅰ	5号井戸埋土4層（掘方）	小坏		－	－	口縁内圏線	普通	肥前	17世紀代か		－	23
CJ45	Ⅰ	5号井戸埋土	小中皿	－	4.2	3.6	文様あり	やや粗	肥前	17世紀末－18世紀初頭	見込蛇ノ目釉剥ぎ 貫入 体部下半無釉 波佐見か	－	23
CJ46	Ⅰ	5号井戸埋土	中碗不明	－	4.8	－	文様あり	普通	肥前	17世紀末－18世紀前半	漆継あり	－	23
CJ47	Ⅰ	ピット200埋土1層	小中皿	－	－	－	口紅 輪花	密	肥前	17世紀代		－	25
CJ48	Ⅰ	ピット245柱痕跡	小中皿	－	－	－	文様あり	普通	中国	17世紀前葉	明末清初 漳州窯系 底部砂付着 おはじき状に加工した可能性あり	－	26
CJ49	Ⅰ	杭57	小中皿	－	－	－	文様あり	密	肥前	17世紀代		－	26
CJ50	Ⅰ-Ⅱa	ピット15埋土	碗	－	－	－	雨降文	普通	肥前	17世紀末－18世紀初頭		－	27
CJ51	Ⅰ-Ⅱa	ピット188埋土1層	大皿	－	－	－	色絵印判手（緑）	やや粗	中国	17世紀前葉	明末清初 漳州窯系 漆継あり	－	27
CJ52	Ⅰ-Ⅱa	ピット188埋土1層	碗	－	－	－	梅花文	密	肥前	17・18世紀		－	27
CJ53	Ⅰ-Ⅱb	15号遺構埋土	中鉢	－	－	－	白磁	密	肥前	17世紀後葉－18世紀	漆継あり 菊花鉢	－	28
CJ54	Ⅰ-Ⅱb	16号遺構埋土2層	小中皿	－	5.1	－	口紅あり 見込草花文	普通	肥前	17世紀中葉	輪花皿 貫入	22	29
CJ55	Ⅰ-Ⅱb	16号遺構埋土4層	小坏	－	－	－	青花 釉裏紅 文様あり	密	中国	17世紀前葉	明末清初	－	29
CJ56	Ⅰ-Ⅱb	16号遺構埋土4・5層	小中皿	－	－	－	文様あり	普通	肥前	17世紀代か	漆継あり 貫入	－	29
CJ57	Ⅰ-Ⅱb	35号遺構埋土1層	小中皿	－	6.2	－	見込花文か	普通	肥前	17世紀中葉－後葉		23	31
CJ58	Ⅰ-Ⅱb	ピット260埋土	小坏	－	－	－	梅花文	密	肥前	17世紀後葉－18世紀	非常に薄手	－	32
CJ59	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土1層	蓋	10.5	4.4	2.5	外面蔦草文 口縁部墨弾渦雲文 見込み鳥文	普通	肥前	19世紀前葉－中葉	ほぼ完形	27	35
CJ60	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土1層	中碗	－	4.7	－	見込花文 高台内圏線	密	不明	19世紀代か	素描き	27	35
CJ61	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	中型端反碗	10.5	4.5	6.1	交叉網目文 見込波文 口縁内丸文	普通	肥前	19世紀前葉－中葉	ほぼ完形	27	35
CJ62	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	猪口	7.0	4.3	6.2	交叉草文	密	肥前	18世紀後半－19世紀初頭	ほぼ完形	27	35
CJ63	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	御神酒徳利	1.5	4.4	16.8	唐草文 松竹梅文	普通	肥前	19世紀前半	CJ68と揃い	27	35
CJ64	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	中型広東碗	9.9	－	－	仙芝祝寿文	普通	肥前	18世紀末－19世紀前葉		28	35
CJ65	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	小型端反碗	9.1	4.0	4.9	蓮弁文 見込花文	密	瀬戸	19世紀中葉－後葉	類似する別個体1点あり	28	35
CJ66	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	中型広東碗	11.5	5.6	6.1	海浜風景文 見込文様あり不明	粗	不明	18世紀末－19世紀前葉	切込か	28	35
CJ67	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	中型丸碗	9.5	－	－	唐草文	普通	肥前	18世紀後半以降		－	35
CJ68	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	御神酒徳利	1.5	4.8	16.4	唐草文 松竹梅文	普通	肥前	19世紀前半	CJ63と揃い	－	35
CJ69	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土2層	小型丸碗	－	－	－	色絵（赤・緑・金）蓮弁文 宝文	密	肥前	18・19世紀		－	35
CJ70	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土3層	小型端反碗	8.4	3.4	4.1	仙芝祝寿文 見込花文	密	瀬戸	19世紀中葉	類似する別個体2点あり	28	35
CJ71	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土3層	中碗蓋	9.9	－	2.6	輪宝唐草文 角枠銘あり 見込花文	密	瀬戸	19世紀前半	つまみ径3.7cm	28	35
CJ72	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土3層	中型広東碗	11.3	6.4	6.3	立涌草花文 見込寿崩文	やや粗	肥前	18世紀末－19世紀前葉	類似する別個体1点あり	28	35
CJ73	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土3層	小型筒丸碗	7.2	3.4	5.8	素描雷文	密	瀬戸	19世紀前半		28	35
CJ74	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土3層	中型端反碗	－	4.7	5.7	素描・墨弾梅花散らし文	密	瀬戸	19世紀前半	焼継あり	－	35
CJ75	Ⅰ-Ⅲ	1号井戸埋土	中型丸碗	15.0	－	－	草花文 口縁内四方襷文	普通	肥前	18世紀後半－19世紀初頭	焼継あり	－	35
CJ76	Ⅱa	3号池状遺構埋土1層	小中皿	－	4.9	－	見込文様あり 外面青磁釉	普通	肥前	17世紀中葉	碁笥底	－	41
CJ77	Ⅱa	18号遺構埋土2層	中型丸碗	10.8	4.4	6.4	草花文	普通	肥前	18世紀代	くらわんか手 釉白濁	37	41

表22　磁器観察表（3）
Tab.22　Notes on porcelains at BK14（3）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CJ78	Ⅱa	5号溝埋土1a層	蓋物	9.2	－	－	菊花文（コンニャク判）	普通	肥前	18世紀代		－	42
CJ79	Ⅱa	5号溝埋土1a層	小中皿	－	4.9	－	見込松竹梅文	普通	肥前	18世紀代		－	42
CJ80	Ⅱa	5号溝埋土2層	中碗	－	－	－	山水文か	普通	肥前	18世紀代		－	42
CJ81	Ⅱa	5号溝埋土1層	中型丸碗	8.8	－	－	雨降り文	普通	肥前	18世紀代		－	42
CJ82	Ⅱa	5号溝埋土2層	筒口	－	－	－	色絵花文	密	肥前	18世紀前半		－	42
CJ83	Ⅱa-Ⅲ	9号遺構埋土	中型端反碗	10.0	4.2	6.2	葡萄文 見込蝶文	やや粗	肥前	17世紀前葉	生掛け	40	43
CJ84	Ⅱa-Ⅲ	9号遺構埋土7層	鉢か	－	－	－	青磁蓮弁文碗	密	中国	中世	漆継あり	－	43
CJ85	Ⅱa-Ⅲ	9号遺構埋土8層	碗	－	－	－	文様あり	密	肥前	17・18世紀		－	43
CJ86	Ⅱa-Ⅲ	69号遺構埋土	中型丸碗	－	－	－	雨降文	普通	肥前	18世紀代		－	44
CJ87	Ⅱa-Ⅲ	2号井戸埋土6～19（掘方）	小型丸碗	－	－	－	雨降文	普通	肥前	18世紀前半		－	44
CJ88	Ⅱa-Ⅲ	2号井戸埋土7層（掘方）	中型端反碗	－	－	－	五葉若葉重文	普通	肥前	18世紀前半		－	44
CJ89	Ⅱa-Ⅲ	2号井戸埋土3層	中型丸碗	－	－	－	桐重文	普通	肥前	18世紀前半		－	44
CJ90	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土2層	中型丸碗	10.9	－	－	草花文	普通	肥前	18世紀代		42	45
CJ91	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土2層	中型丸碗	8.8	－	－	菊花文	密	肥前	18世紀前半		－	45
CJ92	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土8層	中型端反碗	9.4	－	－	青花 唐花文	密	中国	17世紀前葉	明末清初 景德鎮系 漆継あり 2個体の可能性もあり	42	45
CJ93	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土8層	小中皿	－	－	－	文様あり	密	肥前	17・18世紀	漆継あり	－	45
CJ94	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土11層	小中皿	19.3	7.6	3.7	鵬面文 桜花文	普通	肥前	17世紀前葉	生掛け 漆継あり 目跡1	42	45
CJ95	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土11層	中型丸碗	－	4.6	－	山水文 高台内銘あり	密	肥前	17世紀後葉－18世紀代		－	45
CJ96	Ⅱa-Ⅲ	6号井戸埋土	紅猪口	5.6	－	－	色絵（赤・金）桜花散らし文	密	肥前	18世紀前葉		42	45
CJ97	Ⅱb	1号柱列柱5	小中皿	－	8.2	－	見込五弁花文（手描）	普通	肥前	18世紀後葉	くらわんか手 波佐見 蛇ノ目凹形高台	49	51
CJ98	Ⅱb	1号柱列柱3	大皿	－	－	－	色絵印判手（赤・緑）	やや粗	中国	17世紀前葉	明末清初 漳州窯系 高台に砂付着	－	51
CJ99	Ⅱb	1号柱列柱5	中型筒形碗	8.4	－	－	岩に樹木文 口縁内四方襷文	普通	肥前	18世紀後葉－19世紀初頭	波佐見	－	51
CJ100	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	小型端反碗	－	3.3	－	蓮弁文 見込浮島文	普通	瀬戸	19世紀中葉－後葉	CJ65と同形の碗	－	52
CJ101	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	中型端反碗	－	－	－	口縁内圏線 口縁外面圏線	密	中国か	17世紀前葉	明末清初 漆継あり	－	52
CJ102	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	湯呑	－	－	－	白磁	密	瀬戸	明治以降	陸軍食器か	－	52
CJ103	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	中型端反碗	－	5.0	－	竹文か	密	瀬戸	19世紀後葉		－	52
CJ104	Ⅱb	1号池状遺構埋土2層	小中皿	－	5.0	－	無花果果実文	やや粗	肥前	17世紀中葉	漆継あり	50	52
CJ105	Ⅱb	1号池状遺構埋土2a層	小型丸碗	6.7	－	－	岡曾文	密	瀬戸	19世紀前葉－中葉		50	52
CJ106	Ⅱb	1号池状遺構埋土2b層	大皿	－	12.2	－	色絵印判手（赤・緑）	やや粗	中国	17世紀前葉	明末清初 漳州窯系高台登付に砂付着	50	52
CJ107	Ⅱb	4号遺構埋土1層	中型丸碗	10.2	3.5	5.6	渦巻雷文 見込渦巻文	普通	肥前	18世紀末－19世紀前葉		51	53
CJ108	Ⅱb	4号遺構埋土2層	蓋物壺	6.4	－	－	松竹梅文 唐草文	普通	肥前	18世紀後半－19世紀		51	53
CJ109	Ⅱb	4号遺構埋土3層	中型丸碗	11.5	－	－	連子格子に蝶文 雪輪	やや粗	肥前	18世紀末－19世紀前葉	焼継あり	－	53
CJ110	Ⅱb	4号遺構埋土5層	小中皿	－	－	－	如意雲宝文 口紅	普通	肥前	18世紀後半以降	焼継あり	－	53
CJ111	Ⅱb	13号遺構埋土1層	瓶類	－	－	－	文様あり	普通	肥前	18世紀代か	油壺か	52	54
CJ112	Ⅱb	ピット151埋土1層	中碗	－	－	－	文様あり 見込み二重圏線	普通	肥前	17世紀後半－18世紀		－	55
CJ113	Ⅱb-Ⅲ	5号遺構埋土1層	小碗不明	－	3.0	－	游文	密	瀬戸か	近代か		－	55
CJ114	Ⅱb-Ⅲ	5号遺構埋土1層	中碗	－	4.2	－	草花文	密	瀬戸	近代	呉須に酸化コバルト 手描き文様	－	55
CJ115	Ⅱb-Ⅲ	5号遺構埋土	小碗不明	－	4.5	－	蓮弁文 高台内角枠銘あり	密	瀬戸	19世紀前葉以降		－	55
CJ116	Ⅱb-Ⅲ	5号遺構埋土	皿不明	－	－	－	文様あり不明 高台内角枠銘あり	密	肥前	18世紀代か	ハリ支え1	－	55

表23　磁器観察表（4）
Tab.23　Notes on porcelains at BK14（4）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CJ117	Ⅱb-Ⅱ	50号遺構埋土1層	猪口	－	－	－	文様あり	普通	肥前	18・19世紀		－	57
CJ118	Ⅱb-Ⅱ	50号遺構埋土1層	中碗	－	－	－	竹文か	普通	肥前	18・19世紀		－	57
CJ119	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土2層	小瓶	1.9	2.5	6.6	竹文 梅花文	普通	肥前	19世紀	ほぼ完形	53	56
CJ120	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土2層	猪口	8.0	－	－	松竹文 口縁内四方襷文	普通	肥前	18世紀後半－19世紀初頭		53	56
CJ121	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土2層	中型丸碗	10.2	4.0	5.2	暦文 内面暦文 見込寿字文	普通	肥前	18世紀後葉－19世紀前葉	蛇ノ目凹形高台	53	56
CJ122	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土2層	中碗蓋	－	3.6	－	山水文 見込文様あり	密	肥前	18世紀末－19世紀前葉		－	56
CJ123	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土	小中皿	－	7.7	－	花唐草文 見込五弁花文（手描） 高台内渦「福」銘	普通	肥前	18世紀代	漆継あり	53	56
CJ124	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土	中碗不明	－	3.6	－	雪輪文 見込五弁花文（手描）	密	肥前	18世紀後葉－19世紀前葉		－	56
CJ125	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土	中碗不明	－	3.8	－	文様あり 高台内文様あり	普通	肥前	18世紀代	くらわんか手 漆継あり	－	56
CJ126	Ⅱb-Ⅱ	65号遺構埋土	水滴か	－	－	－	型押唐草文	普通	不明	近世	漆継あり	－	56
CJ127	Ⅲ	6号建物柱5	中型端反碗	－	－	－	文様あり	密	中国	17世紀前葉	明末清初	－	58
CJ128	Ⅲ	2号遺構埋土	小中皿	－	－	－	花唐草文 外面唐草文 口紅	密	肥前	17世紀末－18世紀前葉		－	58
CJ129	Ⅲ	14号遺構埋土	火入・香炉	－	5.3	－	文様あり	粗	肥前	17世紀後葉－18世紀前葉	陶胎染付 波佐見か	55	59
CJ130	Ⅲ	14号遺構埋土	中型丸碗	10.1	4.3	－	氷裂に窓絵花唐草文 高台内渦「福」銘	密	肥前	18世紀前半		－	59
CJ131	Ⅲ	14号遺構埋土	中型筒形碗	－	3.6	－	網目区画菱形文 見込文様あり	普通	肥前	18世紀後葉－19世紀初頭		－	59
CJ132	Ⅲ	14号遺構埋土	小中皿	－	－	－	内面文様あり 外面文様あり	密	瀬戸	19世紀中葉－後葉	焼継あり	－	59
CJ133	Ⅲ	14号遺構埋土	蓋物身	12.8	－	－	窓絵松枝文	普通	肥前	18世紀代		－	59
CJ134	Ⅲ	20号遺構埋土1層	小中皿	－	－	－	唐草文	普通	肥前	18世紀代		－	58
CJ135	Ⅲ	20号遺構埋土1層	小中皿	－	－	－	半菊花文	普通	肥前	18世紀代		－	58
CJ136	Ⅲ	20号遺構埋土2層	火入・香炉	－	7.1	－		粗	肥前	18世紀前半	陶胎染付 蛇の目凹型高台 貫入 波佐見か	56	58
CJ137	Ⅲ	20号遺構埋土3層	小中皿	－	6.0	－	唐草文か	密	瀬戸	近代	呉須に酸化コバルト 手描き	－	58
CJ138	Ⅲ	20号遺構埋土3層	小中皿	－	－	－	内面摺絵	密	瀬戸	近代	呉須に酸化コバルト 摺絵	－	58
CJ139	Ⅲ	25号遺構埋土1層	小中皿	－	－	－	鋸歯文か	普通	肥前	17世紀前葉か		－	60
CJ140	Ⅲ	30号遺構埋土1層	中型丸碗	－	－	－	網目文	普通	肥前	17世紀中葉－後葉	生掛け	－	62
CJ141	Ⅲ	30号遺構埋土2層	中型丸碗	10.0	－	－	立涌草花文	普通	肥前	18世紀末－19世紀前葉		58	62
CJ142	Ⅲ	30号遺構埋土2層	中型丸碗	－	－	－	海浜風景文	密	肥前	18世紀後半	焼継あり	－	62
CJ143	Ⅲ	30号遺構埋土2層	中型丸碗	10.1	－	－	渦巻繋文	普通	肥前	18世紀後半－19世紀前葉	CJ107と同じ手	－	62
CJ144	Ⅲ	30号遺構埋土4層	小坏	－	2.6	－	高台内「大明成□年製」銘	密	中国	17世紀前葉	明末清初	58	62
CJ145	Ⅲ	30号遺構埋土4層	猪口	－	－	－	口縁内四方襷文 外面文様あり	密	肥前	18世紀後半		－	62
CJ146	Ⅲ	30号遺構埋土4層	小中皿	－	－	－	見込五弁花文（コンニャク判） 高台内銘あり	密	肥前	18世紀代		－	62
CJ147	Ⅲ	31号遺構埋土1層	中型広東碗	－	5.6	－	蓮弁文か 見込帆掛船文	密	瀬戸	18世紀末－19世紀前葉	高台内焼継印（赤）あり	－	63
CJ148	Ⅲ	31号遺構埋土2層	中型丸碗	－	－	－	網目文	密	肥前	18世紀末－19世紀前葉		－	63
CJ149	Ⅲ	31号遺構埋土2層	碗	－	－	－	文様あり	密	肥前	近世	焼継あり	－	63
CJ150	Ⅲ	31号遺構埋土4層	中型丸碗	10.2	4.2	5.0	花唐草文	密	肥前	18世紀末－19世紀前葉		59	63
CJ151	Ⅲ	31号遺構埋土5層	小中皿	－	6.4	－	花唐草文 見込唐草文 外面唐草文 高台内渦「福」銘	密	肥前	17世紀末－18世紀前葉	CJ128と同じ手 高台内ハリ支え1	59	63
CJ152	Ⅲ	48号遺構埋土1層	中型端反碗	11.0	－	－	草花文	密	瀬戸	19世紀前半		－	61
CJ153	Ⅲ	63号遺構埋土1層	小坏	－	－	－	文様あり	普通	肥前	17世紀前半		－	65
CJ154	Ⅲ	66号遺構埋土	中型丸碗	10.0	5.1	4.1	区画海浜風景文 見込文様あり	普通	肥前	18世紀末－19世紀初頭	焼継あり	61	66

表24　磁器観察表（5）
Tab.24　Notes on porcelains at BK14（5）

登録番号	段階	出土地所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CJ155	Ⅲ	66号道構埋土	中型丸碗	10.3	3.5	5.4	丸に格子文 区画網目羽子文	普通	肥前	18世紀後葉－19世紀前葉		－	66
CJ156	Ⅲ	66号道構埋土	小中皿	13.3	－	3.6	一重網目文	普通	肥前	18世紀後葉－19世紀前葉	くらわんか手 波佐見	－	66
CJ157	Ⅲ	66号道構埋土	小中皿	－	6.4	－	見込渦に花文 外面唐草文 高台内「製」銘	普通	肥前	18世紀代		－	66
CJ158	Ⅲ	66号道構埋土	中型端反碗	9.2	－	－	文様あり	普通	肥前	18世紀後葉－19世紀前葉	焼継あり	－	66
CJ159	Ⅲ	66号道構埋土	小中皿	－	－	－	文様あり	密	肥前	18世紀末－19世紀	焼継あり	－	66
CJ160	Ⅲ	4号溝埋土	中碗不明	－	－	－	素描き 連子格子に花文	普通	肥前	18世紀末－19世紀前葉	CJ162と同じ手	－	68
CJ161	Ⅲ	6号溝埋土1層	小中皿	8.8	6.0	2.0	見込楼閣山水文	普通	肥前	19世紀前葉－中葉	輪花皿 CJ185に類似	62	68
CJ162	Ⅲ	6号溝埋土1層	中型丸碗	10.5	－	－	素描き 連子格子に花文	普通	肥前	18世紀末－19世紀前葉		－	68
CJ163	Ⅲ	4号井戸埋土1層	中碗	－	－	－	内面文様あり 外面花文か	密	肥前	17・18世紀	漆継あり	－	69
CJ164	Ⅲ	4号井戸埋土	花入	－	－	－	青磁	普通	肥前	近世(17世紀代か)	漆継あり 貫入	63	69
CJ165	Ⅲ	ピット29-2層	中碗	－	－	－	草花文	普通	肥前	17・18世紀		－	71
CJ166		基本層2a－2層	小中皿	－	14.3	－	草花文 高台内「山に満」銘か	普通	肥前	18世紀代		66	73
CJ167		基本層2a－2層	小中皿	－	13.6	－	扇面柴束松葉文	密	肥前	17世紀後葉		66	73
CJ168		基本層2a－2層	人形(兎)	－	－	－	白磁 型押兎形	密	肥前	不明	耳、口、体部下半欠損 底部貼り付	66	73
CJ169		基本層2a－2層	小壺	－	2.9	－	唐草文	普通	肥前	17世紀代	体部面取りあり	66	73
CJ170		基本層2a－2層	小坏	－	4.0	－	楼閣唐人文 高台内「大明成化年製」銘	密	中国	17世紀前葉	明末清初 CJ171と同じ手	66	73
CJ171		基本層2a－2層	小坏	－	4.2	－	楼閣文 高台内「大明成化年製」銘	密	中国	17世紀前葉	明末清初 CJ170と同じ手	－	73
CJ172		基本層2a－2層	小坏	－	－	－	楼閣山水文	密	中国	17世紀前葉	明末清初	－	73
CJ173		基本層2a－2層	置物(鶏)	－	－	－	色絵（赤・緑・茶）型押鶏形	密	肥前	17世紀後葉	柿右衛門様式 体部下半の一部の可能性 九州陶磁文化館1999『柿右衛門－その様式の全容』P56に類例	－	73
CJ174		基本層2a－2層	中型天目碗	－	－	－	縞	普通	肥前	17世紀初－前葉		－	73
CJ175		基本層1層	中型丸碗	10.5	3.9	4.9	海浜風景文 見込宝文	やや粗	肥前	19世紀前葉－中葉	焼継ぎあり	68	75
CJ176		基本層1層	小型丸碗	10.1	3.8	5.1	連続崩し寿字文 見込文様あり	普通	肥前	19世紀前葉－中葉	素描	68	75
CJ177		基本層1層	蓋物・蓋	9.8	－	3.5	草花文 側面蓮弁文	普通	肥前	17世紀後半－18世紀	漆継ぎあり	68	75
CJ178		基本層1層	蓋	6.9	－	2.4	桐散文（コンニャク判）	普通	肥前	18世紀代	最大径7.8cm つまみ径0.9cm	68	75
CJ179		基本層1層	中型丸碗	11.3	4.4	6.2	雪輪松竹梅文	やや粗	肥前	18世紀代	くらわんか手 波佐見	68	75
CJ180		基本層1層	中碗蓋	9.5	－	2.6	雨降芝龍雷文 高台内「大銘年製」銘	普通	肥前	18世紀代	貫入 つまみ径3.8cm	68	75
CJ181		基本層1層	中型丸碗	10.5	－	－	松葉紅葉散らし文	密	肥前	19世紀前半		68	75
CJ182		基本層1層	小壺	－	2.3	－	文様あり	普通	肥前	17世紀代か	生掛け？	68	75
CJ183		基本層1層	小中鉢	15.5	8.2	6.0	白磁 型打陽刻梅枝文 口紅	密	肥前	17世紀後半		68	75
CJ184		基本層1層	香炉	10.6	7.2	7.7	青磁	普通	肥前	18世紀代	蛇ノ目型形高台	68	75
CJ185		基本層1層	小中皿	9.0	6.1	2.0	見込楼閣山水文	普通	肥前	19世紀前葉－中葉	輪花皿 CJ161に類似	－	75
CJ186		基本層1層	瓶類	1.8	－	－	菊唐草文	普通	肥前	18世紀代		－	75
CJ187		基本層1層	大型丸碗	－	6.2	7.7	扇草花文 見込五弁花文（コンニャク判） 高台内渦「福」崩し銘	普通	肥前	18世紀後半	くらわんか手 波佐見	－	75
CJ188		基本層1層	小中皿	－	6.2	－	見込草花文	普通	中国	17世紀前葉	明末清初 高台内放射状のケズリ 高台内無釉 漆継ぎあり	－	75
CJ189		基本層1層	中型丸碗	10.2	－	5.3	草花文 高台内文様あり	普通	肥前	18世紀代	漆継ぎ くらわんか手	－	75
CJ190		基本層1層	鉢	－	－	－	色絵（赤・緑）染付草花文 外面寿字？（赤）	密	肥前	18世紀後半	焼継あり	－	75

表25　陶器観察表（1）
Tab.25　Notes on glazed ceramics at BK14（1）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CT1	I	3号建物柱6	擂鉢	−	−	−		無釉	粗	丹波	17世紀代	無釉焼締	−	1
CT2	I	5号柱列柱1	中碗	12.6	−	−		灰釉（淡緑灰白色）	密	瀬戸・美濃	17世紀代	御深井釉 貫入	−	2
CT3	I	8号柱列柱2	向付	−	−	−		長石釉	粗	美濃	16世紀末−17世紀初頭	志野 貫入	−	2
CT4	I	10号柱列柱1	小中皿	−	9.4	−	白化粧土 鉄絵	透明釉	やや粗	京・信楽系	18世紀以降	貫入顕著	−	3
CT5	I	10号柱列柱2	大鉢	−	−	−	白泥刷毛目文	透明釉	普通	肥前	17世紀後半		−	3
CT6	I	2号池状遺構埋土1層	中碗	10.0	5.0	6.7	上部・内面灰釉（浅黄灰白色）	腰部鉄釉（暗褐色）	普通	瀬戸・美濃	17世紀末−18世紀前葉	灰釉貫入 腰錆碗	4	5
CT7	I	2号池状遺構埋土1層	中碗拳骨形	−	5.2	7.0	白泥刷毛目文	透明釉（一部白濁）	普通	肥前	17世紀後半−18世紀前葉	貫入	4	5
CT8	I	2号池状遺構埋土1層	擂鉢	−	−	−		無釉	粗	丹波	17世紀代	無釉焼締 擂目6条一組	4	5
CT9	I	2号池状遺構埋土1層	香炉か	−	6.6	−		鉄釉（茶褐色）	やや粗	岸	17世紀後半	体部に押えあり	−	5
CT10	I	2号池状遺構埋土1層	中型丸碗	−	3.6	−		灰釉（淡青灰白色）	普通	小野相馬	18世紀前葉	失透釉	−	5
CT11	I	2号池状遺構埋土1層	擂鉢	37.0	−	−		無釉	やや粗	堺	18世紀	無釉焼締	−	5
CT12	I	2号池状遺構埋土1層	碗	−	−	−		灰釉（青灰白色）	普通	不明	近世	漆継	−	5
CT13	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	10.9	4.0	6.0	白泥刷毛目文	灰釉（淡褐灰白色）	普通	肥前	17世紀後半−18世紀前葉		4	5
CT14	I	2号池状遺構埋土2層	中型腰折碗	9.2	4.4	5.6		灰釉（浅黄灰白色）	密	肥前	17世紀後半	京焼写し　貫入 高台内刻印「中村金」	4	5
CT15	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	−	4.6	−	鉄釉流し掛け（黒褐色）	灰釉（灰黄褐色）	やや粗	小野相馬	18世紀前葉	目跡3ヶ所 失透釉 貫入	4	5
CT16	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	11.0	5.2	7.2	白泥刷毛目文	透明釉	やや粗	肥前	17世紀後半−18世紀前葉		4	5
CT17	I	2号池状遺構埋土2層	火入・香炉	−	7.0	7.7		灰釉（浅黄灰白色）	普通	京・信楽	17世紀後葉−18世紀	貫入顕著 型打 内面無釉	4	5
CT18	I	2号池状遺構埋土2層	水指蓋	11.7	−	−		灰釉（淡緑灰白色）	やや粗	信楽か	17・18世紀	漆継 胎土に白色砂粒あり	4	6
CT19	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	11.8	5.1	8.1		灰釉（淡緑灰白色）	普通	肥前	17世紀後葉−18世紀前葉	呉器手 貫入顕著	4	6
CT20	I	2号池状遺構埋土2層	小中皿	11.7	4.2	3.7	外面灰釉（淡灰白色）	銅緑釉	密	肥前	17世紀後葉−18世紀後葉	見込蛇の目釉剥ぎ	4	6
CT21	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	11.8	5.0	8.8		灰釉（淡黄灰白色）	普通	肥前	17世紀後葉−18世紀前葉	呉器手 貫入顕著	4	6
CT22	I	2号池状遺構埋土2層	甕類	−	6.3	−		鉄釉（暗褐色）	粗	瀬戸・美濃	17世紀後葉−18世紀前葉	有耳壺か	4	6
CT23	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	10.9	4.9	7.1		灰釉（暗緑褐色）	普通	肥前	17世紀後葉−18世紀前葉	呉器手 貫入顕著	4	6
CT24	I	2号池状遺構埋土2層	擂鉢	32.4	−	−	体部無釉	口縁部灰釉（暗緑褐色）	やや粗	岸	17世紀中葉−18世紀初頭		−	6
CT25	I	2号池状遺構埋土2層	中型丸碗	11.4	−	−		灰釉（淡青灰白色）	粗	小野相馬	18世紀末−19世紀前葉		−	6
CT26	I	2号池状遺構埋土2層	擂鉢	35.2	−	−		鉄釉（茶褐色）	やや粗	東北産	17・18世紀	擂目8条一組	−	6
CT27	I	2号池状遺構埋土3層	中型腰折碗	−	5.3	−	上部・内面灰釉（淡緑灰色）	腰部鉄釉（暗黒褐色）	普通	瀬戸・美濃	17世紀末−18世紀前葉	灰釉貫入 腰錆碗	4	6
CT28	I	2号池状遺構埋土3層	大壺	−	−	−		鉄釉（黒褐色）	粗	信楽	17・18世紀	胎土に白色砂粒含む	−	6
CT29	I	2号池状遺構埋土3層	中碗	10.4	−	−		灰釉（淡青灰色）	普通	小野相馬	17世紀末−18世紀前葉	失透釉	−	6
CT30	I	2号池状遺構埋土4層	擂鉢	30.8	−	−		鉄釉（茶褐色）	粗	瀬戸・美濃	17世紀後半		4	7
CT31	I	4号池状遺構埋土2層	大鉢	43.8	−	−	白泥刷毛目文 鉄絵格子文 緑彩	透明釉	密	肥前	17世紀後半	唐津 二彩手	−	13
CT32	I	4号池状遺構埋土6層	小中皿	14.2	−	−	鉄絵波状文	長石釉	普通	美濃	17世紀初頭	志野織部	−	13
CT33	I	4号池状遺構埋土7層	小中皿	15.3	8.4	3.3	鉄絵梅花文	長石釉	普通	美濃	17世紀初頭	志野織部 貫入 見込目跡3 見込と高台内に黒色付着物	12	13
CT34	I	4号池状遺構埋土7層	小中皿	−	8.4	−	呉須絵山水文	灰釉（淡灰白色）	普通	肥前	17世紀後半	唐津 貫入顕著 漆継	12	13
CT35	I	4号池状遺構埋土7層	大壺	−	−	−		鉄釉（茶褐色）	やや粗	信楽	近世	漆継	−	13
CT36	I	4号池状遺構埋土8層	中型丸碗	12.4	4.9	6.3		黒釉（種類不明）	密	肥前か	17世紀代	内面に擦痕あり 高台内施釉	12	13
CT37	I	4号池状遺構埋土8層	碗	−	−	−		長石釉	やや粗	肥前	17世紀前半	唐津 漆継	−	13
CT38	I	10号遺構埋土	擂鉢	−	11.2	−		無釉	やや粗	岸か	17世紀中葉−18世紀初頭	擂目は摩滅 外面下半重ね詰みの目跡	−	16
CT39	I	12号遺構埋土	中型丸碗	9.4	−	−	色絵（青・緑）菊花文	灰釉（淡黄灰色）	密	京・信楽	18世紀前半	貫入	16	17
CT40	I	12号遺構埋土1層	人形徳利	−	−	−	陽刻布袋文	無釉	密	備前	18世紀代か	人形徳利	−	17
CT41	I	12号遺構埋土2層	中型丸碗	−	4.2	−	腰部線刻文 上部灰釉（緑灰白色）	腰部鉄釉（暗赤褐色）	普通	大堀相馬	18世紀中葉−19世紀初頭	掛け分け 貫入	−	17

表26 陶器観察表（2）
Tab.26 Notes on glazed ceramics at BK14（2）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CT42	Ⅰ	12号遺構埋土	中型丸碗	10.2	－	－	鉄釉流し掛け（茶掲色）	灰釉（淡青灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀前葉－19世紀初頭	貫入	－	17
CT43	Ⅰ	39号遺構埋土3層	向付	－	－	－		長石釉	粗	美濃	16世紀末－17世紀初頭	志野	－	19
CT44	Ⅰ	40号遺構遺構埋土2層	小中皿	11.2	5.0	2.4		灰釉（灰白色）	普通	美濃	16世紀末	折縁ノ平皿 失透釉 内外面にスス付着 灯明皿に転用	17	20
CT45	Ⅰ	42号遺構埋土1層	大鉢	26.8	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀前半	口唇部に癒着痕あり 釉は一部が白濁	－	20
CT46	Ⅰ	42号遺構埋土1層	向付	－	5.0	－		鉄絵片輪車文	普通	肥前	16世紀末－17世紀初頭	絵唐津	－	20
CT47	Ⅰ	42号遺構埋土1層	擂鉢	28.8	－	－		鉄釉（暗赤掲色）	粗	不明	17世紀代か		－	20
CT48	Ⅰ	57号遺構埋土	瓶類	－	－	－	鉄絵圏線文	長石釉	やや粗	美濃	17世紀初頭	渗漏 志野織部	17	18
CT49	Ⅰ	3号溝埋土2層	片口鉢	19.8	8.4	11.2		鉄釉（暗茶掲色）	普通	東北産	18・19世紀	堤か	18	21
CT50	Ⅰ	3号溝埋土2層	中型丸碗	－	3.6	－	色絵（青・緑）松竹文	灰釉（淡黄灰白色）	密	京・信楽	18世紀前半	貫入	18	21
CT51	Ⅰ	3号溝埋土2層	小甕	10.0	8.2	14.6		灰釉（暗緑掲色）	普通	東北産	18・19世紀	釉の焼け縮みが見られる 底部目跡2	18	21
CT52	Ⅰ	3号溝埋土2層	小中皿	12.6	7.5	3.3	摺絵菊花文	灰釉（淡緑灰白色）	普通	瀬戸・美濃	18世紀初頭－中葉	見込目跡3 貫入	18	21
CT53	Ⅰ	3号溝埋土2層	中瓶	5.1	－	－	白泥刷毛目文 口縁部鉄釉（暗黒掲色）	透明釉	普通	肥前	17世紀末－18世紀後葉		18	21
CT54	Ⅰ	3号溝埋土2層	小中鉢	－	9.4	－	鉄釉（暗掲色）流し掛け	灰釉（淡青灰色）	やや粗	小野相馬	18世紀	失透釉 見込目跡5 片口鉢か	18	22
CT55	Ⅰ	3号溝埋土2層	中型丸碗	10.1	4.2	5.9		灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀末－19世紀初頭	失透釉 貫入	18	21
CT56	Ⅰ	5号井戸埋土4（掘方）	擂鉢	－	－	－		無釉	粗	丹波	17世紀中葉－後葉	無釉焼締	－	23
CT57	Ⅰ	5号井戸埋土4（掘方）	擂鉢	－	－	－		鉄釉（暗茶掲色）	やや粗	瀬戸・美濃	17・18世紀		－	23
CT58	Ⅰ	5号井戸埋土1層	中型丸碗	－	4.5	－		灰釉（淡黄掲色）	密	肥前	17世紀後葉－18世紀前葉	貫入 呉器手 高台畳付砂付着	19	23
CT59	Ⅰ	5号井戸埋土	擂鉢	－	14.4	－		無釉	粗	丹波	17世紀中葉－後葉	胎土に砂粒含む 無釉焼締 底部の擂目は摩滅	－	23
CT60	Ⅰ	5号井戸埋土	小中鉢	－	5.6	－		灰釉（淡青灰白色）	やや粗	小野相馬	18世紀代	失透釉	－	23
CT61	Ⅰ	ピット70埋土1層	擂鉢	29.4	－	－		無釉	粗	丹波	17世紀代	無釉焼締	－	25
CT62	Ⅰ	ピット205柱抜取埋土	中型端反碗	13.8	6.4	7.1		長石釉	やや粗	肥前	17世紀前葉	唐津 渗漏 胎土に白・黒色の砂粒含む	20	24
CT63	Ⅰ	ピット239埋土2層	向付	－	－	－	鉄絵格子文	長石釉	やや粗	美濃	17世紀初頭	鳴海織部	－	25
CT64	Ⅰ	ピット250埋土1層	変形皿	－	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	密	瀬戸・美濃	17世紀初頭か	織部か 貫入	－	26
CT65	Ⅰ	杭57	大鉢	32.4	－	－	白泥刷毛目文	透明釉	普通	肥前	17世紀代	唐津 二彩手	－	26
CT66	Ⅰ－Ⅱa	ピット77埋土	大鉢	－	－	－	鉄絵文様あり	透明釉	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀後半－18世紀前葉		－	27
CT67	Ⅰ－Ⅱa	ピット165埋土1層	碗	－	－	－		灰釉（淡緑灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	27
CT68	Ⅰ－Ⅱb	15号遺構埋土	中型丸碗	10.6	5.3	7.8	赤絵染付鶴文	灰釉（淡黄灰白色）	密	京・信楽	17世紀末－18世紀前葉	休部下半箔 貫入	21	28
CT69	Ⅰ－Ⅱb	16号遺構埋土1層	甕類	－	－	－		灰釉（暗緑茶掲色）	粗	瀬戸・美濃	17・18世紀か	渗漏	－	29
CT70	Ⅰ－Ⅱb	16号遺構埋土4層	中碗	－	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	密	肥前	17世紀後葉－18世紀前葉	呉器手 貫入	－	29
CT71	Ⅰ－Ⅱb	16号遺構埋土4層	大鉢	－	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	普通	瀬戸・美濃	近世	渗漏 貫入	－	29
CT72	Ⅰ－Ⅱb	16号遺構埋土4・5層	擂鉢	26.0	－	－		無釉	粗	丹波	17世紀代	焼締	－	29
CT73	Ⅰ－Ⅱb	26号遺構埋土2層	小中皿	－	7.6	－	緑釉流し	長石釉	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀代	見込み目跡1	－	30
CT74	Ⅰ－Ⅱb	26号遺構埋土2層	碗	－	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	密	大堀相馬?	17世紀末－18世紀		－	30
CT75	Ⅰ－Ⅱb	35号遺構埋土1層	碗	－	－	－		灰釉（淡緑灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	31
CT76	Ⅰ－Ⅱb	74号遺構埋土1層	鍋皿	15.6	7.9	3.3		鉄釉（暗黒掲色）	普通	瀬戸・美濃	17世紀か	ヒダ皿	24	31
CT77	Ⅰ－Ⅱb	ピット38埋土	碗	－	－	－		灰釉（淡緑灰白色）	粗	瀬戸・美濃	17・18世紀	貫入	－	32
CT78	Ⅰ－Ⅱb	ピット225埋土1層	小中皿	－	－	－		灰釉（緑灰白色）	密	瀬戸・美濃	不明		－	32

表27　陶器観察表（3）
Tab.27　Notes on glazed ceramics at BK14（3）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CT79	Ⅰ－Ⅱb	ピット240埋土1層	碗	－	－	－	白泥刷毛目文	透明釉	密	肥前	17世紀後半－18世紀後半	貫入	－	32
CT80	Ⅰ－Ⅱb	ピット279埋土	中碗	－	－	－		灰釉（淡青灰白色）	密	肥前	17世紀後葉－18世紀前葉	貫入 呉器手	－	32
CT81	Ⅰ－Ⅲ	5号建物柱2	小中皿	－	－	－		灰釉（淡緑色）	やや粗	東北産	18世紀以降		－	33
CT82	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土4層（掘方）	中型丸碗	－	－	－		灰釉（淡青灰白色）	やや粗	小野相馬	18世紀	失透釉	－	36
CT83	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土2層	小中皿	12.5	4.2	4.3	鉄絵	灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀末－19世紀中葉	見込目跡1 失透釉 貫入	28	36
CT84	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土2層	小瓶	11.7	6.7	12.7	口縁部灰釉（暗緑掲色）	鉄釉（暗赤掲色）	普通	東北産	19世紀	堤か	28	36
CT85	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土2層	土瓶	5.8	4.8	9.4		灰釉（灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉	被熱か 内面が黒色化 底部外面に炭化物付着 外面の釉は白濁し細かく剥落	28	36
CT86	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土2層	土瓶	－	－	－	白泥鉄絵花文	灰釉（緑灰白色）	やや粗	相馬系	19世紀中葉		－	36
CT87	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	土瓶蓋	6.1	－	3.3	白泥筒描	灰釉（淡緑灰白色）	普通	大堀相馬	19世紀中葉	つまみ径2.1cm	28	36
CT88	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	仏花瓶	8.3	4.0	12.5		灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉	失透釉 CT94と組	28	36
CT89	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	中型端反碗	11.5	5.0	6.3	鉄絵火炎宝珠文 内面長石釉	灰釉（淡青灰白色）	やや粗	相馬系	19世紀中葉	長石釉貫入	28	36
CT90	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	中型端反碗	12.4	4.7	6.5	白泥鉄絵花文	灰釉（淡青灰白色）	やや粗	相馬系	19世紀中葉	一部被熱	28	36
CT91	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	徳利	－	6.0	－		鉄釉（茶褐色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉		28	36
CT92	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	擂鉢	41.6	－	－		無釉	粗	丹波	18世紀中葉	焼締め 外面に指押え痕あり	－	36
CT93	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	中型平形碗	11.6	5.4	6.1		灰釉（灰白色）	やや粗	小野相馬	19世紀代	失透釉	－	36
CT94	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	仏花瓶	8.6	4.0	12.7		灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉	失透釉 CT88と組	－	36
CT95	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土3層	小型端反碗	－	－	－	白泥筒描梅花流水文 内面長石釉	鉄釉	普通	不明	19世紀中葉		－	36
CT96	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土	徳利	2.9	－	－		錆釉	普通	瀬戸・美濃	18世紀後葉－19世紀	錆釉徳利	29	36
CT97	Ⅰ－Ⅲ	ピット224埋土1層	向付	－	－	－	織部釉	灰釉（淡黄灰色）	密	美濃	17世紀初頭	織部 貫入	－	40
CT98	Ⅱa	3号造状遺構埋土4層	袋物不明	－	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	密	肥前	17世紀後半－18世紀前半	京焼風陶器の可能性	－	41
CT99	Ⅱa	5号溝埋土1a層	擂鉢	－	－	－		鉄釉（暗赤掲色）	粗	東北産	18－19世紀		－	42
CT100	Ⅱa	5号溝埋土1b層	中型丸碗	9.6	4.6	5.6	鉄釉（暗褐色）流し掛け	灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後半－19世紀初頭	貫入	38	42
CT101	Ⅱa	5号溝埋土1層	中型丸碗	10.3	4.0	8.0		灰釉（淡黄灰色）	密	肥前	17世紀後葉－18世紀前葉	貫入 呉器手	38	42
CT102	Ⅱa－Ⅱb	9号遺構埋土7層	碗か	－	－	－		灰釉（青灰白色）	粗	小野相馬	18世紀代	失透釉	－	43
CT103	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土6層（掘方）	向付	－	－	－	鉄絵	灰釉（淡黄灰白色）	やや密	瀬戸・美濃	17世紀初頭	織部	－	44
CT104	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	小碗不明	－	3.0	－		灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後葉－19世紀初頭	貫入	－	44
CT105	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	中碗不明	－	4.0	－	鉄釉（暗緑掲色）	灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後葉－19世紀前葉	平天透釉 貫入	－	44
CT106	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土8層	擂鉢	29.4	－	－	口縁灰釉（淡緑灰白色）	灰釉（淡緑灰白色）	やや粗	岸	17世紀中葉－18世紀初頭	擂目11条一組 底部付近の擂目は摩滅 口唇部は内外に張り出すが明打により欠損	42	45
CT107	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	人形（亀）	残存高8.4 残存幅9.7 厚5.3			型押による亀の表現 底部無釉	鉄釉（暗茶褐色）	普通	瀬戸・美濃	18世紀以降	中空 頭頂部、尾部欠損 底部、背部、嘴部に孔あり	43	45
CT108	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	中型丸碗	10.4	－	－		灰釉（淡緑灰色）	普通	大堀相馬	18世紀中葉－後葉	貫入顕著	42	45
CT109	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	擂鉢	36.4	－	－		鉄釉（暗茶色）	やや粗	東北産	18世紀	擂目８条一組 内面に重ね焼みの目跡あり	－	46
CT110	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	大鉢	31.0	－	－	白泥 鉄釉流し掛け	鉄釉（明茶褐色）	密	肥前	17世紀後半	唐津	－	45
CT111	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	中型丸碗	10.4	4.0	5.3	鉄釉流し掛け	灰釉（淡黄灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後半－19世紀初頭	貫入	42	46

表28　陶器観察表（4）
Tab.28　Notes on glazed ceramics at BK14（4）

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CT112	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	鉢か向付	－	－	－	口縁部ヒダ状	灰釉（淡緑灰色）	普通	瀬戸・美濃	17・18世紀代	漆継 貫入	－	46
CT113	Ⅱa－Ⅱb	ピット226埋土1層	甕	－	7.0	－		鉄釉（暗赤褐色）	普通	東北産	18・19世紀	断面に炭化物付着 被熱痕ありか	－	51
CT114	Ⅱb	1号柱列柱1	中型腰折碗	－	－	－		灰釉（淡緑灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	51
CT115	Ⅱb	1号柱列柱2	碗	－	－	－		灰釉（淡青灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	51
CT116	Ⅱb	1号柱列柱2	甕	－	－	－	灰釉（暗緑灰色）流し掛け	鉄釉（暗赤褐色）	やや粗	東北産	18世紀後半以降		－	51
CT117	Ⅱb	1号柱列柱3	袋物不明	－	7.4	－		灰釉（淡黄灰白色）	密	肥前	18世紀代	京焼写し 高台内円形のケズリあり	－	51
CT118	Ⅱb	1号柱列柱3	碗	－	－	－	内面灰釉（淡緑灰色）	腰部鉄釉（暗茶褐色）	密	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	51
CT119	Ⅱb	1号柱列柱4	中型丸碗	－	－	－	鉄釉（茶褐色）流し掛け	灰釉（淡緑灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	51
CT120	Ⅱb	1号柱列柱4	袋物不明	－	－	－		灰釉（淡緑灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	51
CT121	Ⅱb	2号柱列柱1	碗	－	－	－	白泥刷毛目文	透明釉	普通	肥前	17世紀後半	貫入	－	52
CT122	Ⅱb	1号池状遺構石列掘方	中碗	－	－	－				大堀相馬	18世紀後半		－	52
CT123	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	小中皿	－	5.2	－	鉄絵山水文	灰釉（淡黄灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀末－19世紀中葉	灰釉は被熱による白濁あり	50	52
CT124	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	小甕	8.8	6.7	11.8		灰釉（暗緑褐色）	やや粗	東北産	18・19世紀		50	52
CT125	Ⅱb	1号池状遺構埋土2層	中型折湾碗	13.3	4.6	6.2		灰釉（淡黄灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後葉か	半失透釉 貫入 見込目跡5 輪花形	50	52
CT126	Ⅱb	1号池状遺構埋土2a層	乗燭	5.9	4.6	5.4		鉄釉（暗赤褐色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉	下半無釉 底部に小孔1 底部回転糸切痕a右回転	50	52
CT127	Ⅱb	1号池状遺構埋土2a層	仏花瓶	－	－	－		灰釉（淡灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉	最大径4.1cm 貫入	－	52
CT128	Ⅱb	4号遺構埋土8層	碗	－	－	－	鉄釉流し掛け（黒褐色）	灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀末－19世紀初頭	貫入 失透釉	－	53
CT129	Ⅱb	4号遺構埋土	小中皿	4.0	－	－	色絵（青・緑）梅文	灰釉（淡緑灰白色）	普通	京・信楽	18世紀	貫入	－	53
CT130	Ⅱb	4号遺構埋土	小中皿	－	4.7	－		銅緑釉	普通	肥前	17世紀後半	見込蛇の目釉剥ぎ 見込目跡4	－	53
CT131	Ⅱb	13号遺構埋土1層	甕類	18.4	－	－		鉄釉（暗赤褐色）	やや粗	丹波	17世紀後葉－18世紀前半	長谷川2004分類のⅣA2a類	－	54
CT132	Ⅱb	13号遺構埋土1層	中型丸碗	－	4.8	－		灰釉（淡緑灰白色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	54
CT133	Ⅱb	13号遺構埋土	大鉢	－	13.3	－	白泥刷毛目文 鉄絵 緑褐彩	透明釉	普通	肥前	17世紀後半	唐津 二彩手 見込目跡4 高台目跡4	52	54
CT134	Ⅱb	ピット156埋土1層	中碗	9.0	－	－	鉄釉流し掛け（暗茶褐色）	灰釉（淡緑灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	55
CT135	Ⅱb－Ⅲ	5号遺構埋土2層	擂鉢	－	－	－		鉄釉（暗茶褐色）	やや粗	東北産	18・19世紀		－	55
CT136	Ⅱb－Ⅲ	5号遺構埋土2層	土瓶	－	－	－		灰釉（青灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉以降	失透釉	－	55
CT137	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土2層	小中皿	12.2	4.7	4.2	鉄絵山水風景文	灰釉（淡緑灰色）	密	大堀相馬	18世紀末－19世紀中葉	貫入 CT138と同じ手	54	56
CT138	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土2層	小中皿	12.7	4.8	4.4	鉄絵山水風景文	灰釉（淡緑灰色）	密	大堀相馬	18世紀末－19世紀中葉	貫入 CT137と同じ手	54	56
CT139	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土2層	火入・香炉	－	6.6	－	銹絵染付松枝文	灰釉（淡灰白色）	やや粗	京・信楽	17世紀末－18世紀	貫入 型打	54	56
CT140	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土	銚子	－	－	－	型押魚子地に菊花文	内面鉄釉（茶褐色）	普通	不明	19世紀代か	外面漆塗（赤）	－	56
CT141	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土	擂鉢	17.0	－	－		鉄釉（暗赤茶褐色）	粗	東北産	18・19世紀		－	56
CT142	Ⅱb－Ⅲ	ピット49埋土	瓶類	－	－	－	緑釉流し掛け	灰釉（淡灰白色）	密	大堀相馬	19世紀代	失透釉	－	57
CT143	Ⅱb－Ⅲ	ピット49埋土	中型平杉碗	－	－	－		灰釉（淡緑灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後半	貫入	－	57
CT144	Ⅲ	2号遺構埋土3層	土瓶	－	－	－		灰釉（淡黄灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉	失透明釉	－	58
CT145	Ⅲ	14号遺構埋土	灰吹	5.3	－	－	色絵（青・緑）菊花文	灰釉（淡灰褐色）	やや粗	京・信楽	18世紀前葉	口唇部叩打痕あり 貫入	55	59
CT146	Ⅲ	14号遺構埋土	盤	－	－	－	型打三彩	緑釉	普通	中国	17世紀前葉	明末清初 華南三彩 CT159と武家屋敷地区第7地点池状遺構出土に類例（年報19第2分冊）	－	59
CT147	Ⅲ	14号遺構埋土	中型丸碗	12.0	4.2	6.9	鉄釉（黒褐色）流し掛け	灰釉（淡青灰白色）	普通	小野相馬	18世紀	失透釉 見込目跡1	－	59
CT148	Ⅲ	21号遺構埋土1層	小中皿	－	5.0	－		灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀末－19世紀中葉	失透釉	－	60
CT149	Ⅲ	21号遺構埋土2層	土瓶	－	－	－		灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	19世紀前葉－中葉	失透釉 貫入	－	60
CT150	Ⅲ	25号遺構埋土2層	向付	－	－	－		長石釉	粗	美濃	16世紀末－17世紀初頭	志野	－	60

表29　陶器観察表（5）
Tab.29　Notes on glazed ceramics at BK14 (5)

登録番号	段階	出土場所	器種	口径(cm)	底形(cm)	器高(cm)	文様	釉薬	胎土	生産地	製作年代	備考	図	図版
CT151	Ⅲ	30号遺構埋土1層	中型腰折碗	−	−	−		鉄釉（黒褐色）	密	大堀相馬	18世紀		58	62
CT152	Ⅲ	30号遺構埋土1層	小中鉢	−	8.1	−		灰釉（淡青灰白色）	やや粗	小野相馬	18世紀	見込目跡3	58	62
CT153	Ⅲ	30号遺構埋土4層	碗	−	−	−		灰釉（淡黄灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後半	貫入	−	62
CT154	Ⅲ	31号遺構埋土1層	大鉢	39.2	−	−	白泥 鉄絵 緑彩	透明釉	密	肥前	17世紀代か		−	63
CT155	Ⅲ	31号遺構埋土4層	小中皿	−	−	−	鉄釉（茶褐色）流し掛け	灰釉（淡灰白色）	密	大堀相馬	18世紀末−19世紀初頭	失透釉 貫入	59	63
CT156	Ⅲ	31号遺構埋土5層	土瓶	−	−	−		青釉	密	大堀相馬	19世紀前葉−中葉	青土瓶	−	63
CT157	Ⅲ	48号遺構埋土1層	水指	−	−	−		灰釉（淡緑褐色）	粗	伊賀	16世紀末−17世紀初頭	胎土に白色の砂粒が入る あるいは信楽か	−	61
CT158	Ⅲ	48号遺構埋土2層	盤	−	−	−	型打三彩	緑釉	普通	中国	17世紀前葉	明末清初 華南三彩 CT146と武家屋敷地区第7地点池状遺構出土に類例（年報19第2分冊）	−	61
CT159	Ⅲ	48号遺構埋土3層	土瓶	−	−	−	青釉鉄絵筒描山水文	灰釉（淡灰白色）	密	大堀相馬	19世紀中葉	貫入	−	61
CT160	Ⅲ	51号遺構埋土5層	向付	−	−	−	鉄絵区画文	長石釉	やや粗	美濃	16世紀末−17世紀初頭	志野 貫入顕著	−	64
CT161	Ⅲ	51号遺構埋土	甕	−	−	−		鉄釉（暗赤褐色）	粗	東北産	18・19世紀		−	64
CT162	Ⅲ	63号遺構埋土1層	中碗	12.6	−	−		長石釉	普通	肥前	17世紀前葉	唐津	−	65
CT163	Ⅲ	63号遺構埋土1層	中型丸碗	−	−	−		透明釉	普通	肥前	17世紀代	漆継	−	65
CT164	Ⅲ	63号遺構埋土2層	水指蓋	−	−	−		長石釉	普通	肥前	17・18世紀		−	65
CT165	Ⅲ	66号遺構埋土4層	小型端反碗	9.9	3.7	5.6	内面灰釉（淡青灰白色 青釉流掛け	青釉	密	大堀相馬	19世紀前葉−中葉	貫入 失透釉	61	66
CT166	Ⅲ	66号遺構埋土	乗燭	7.2	3.9	1.9	芯部灰釉（淡緑灰白色）	鉄釉	密	大堀相馬	19世紀	芯部頂部に付着物 使用痕か	61	66
CT167	Ⅲ	66号遺構埋土	小中皿	−	−	−	見込印花文	灰釉（淡青灰白色）	粗	小野相馬	18世紀後半	見込蛇の目釉剥 失透釉	−	66
CT168	Ⅲ	4号井戸埋土1層	中型筒型碗	8.6	−	−	鉄釉流し掛け（黒褐色）	灰釉（淡青灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後葉−19世紀前葉	失透釉	−	69
CT169	Ⅲ	4号井戸埋土5層	擂鉢	25.8	−	−	体部無釉	口縁部灰釉（淡緑灰色）	普通	岸か	17世紀中葉−18世紀初頭		−	69
CT170	Ⅲ	4号井戸埋土6層	中型丸碗	11.1	3.5	6.2	高台内「蔭池」印銘	灰釉（淡青灰白色）	密	京・信楽	17世紀	御菩薩池 貫入	63	69
CT171	Ⅲ	4号井戸埋土6層	中型丸碗	8.4	−	−		灰釉（淡青黄灰白色）	密	大堀相馬	18世紀後葉−19世紀初頭	半失透釉 貫入	−	69
CT172	Ⅲ	ピット136埋土	土瓶	−	−	−		不明	普通	大堀相馬	19世紀前葉−中葉	底部のみ	−	70
CT173	Ⅲ	ピット152埋土1層	碗	−	−	−	内面灰釉（淡緑灰色）	腰部鉄釉（暗茶褐色）	普通	大堀相馬	18世紀後半	貫入	−	70
CT174	Ⅲ	ピット280埋土1層	中型丸碗	−	−	−		灰釉（淡黄灰白色）	密	肥前	17世紀後葉−18世紀前葉	貫入 呉器手	−	71
CT175	Ⅲ	ピット280埋土1層	中碗	−	−	−		透明釉	密	肥前	17世紀代	釉の一部が糠白化	−	71
CT176	Ⅲ	ピット280埋土1層	小中皿	−	−	−		灰釉（淡黄灰白色）	密	肥前	17世紀後半	京焼風陶器の可能性	−	71
CT177	Ⅲ	ピット292埋土1層	甕	−	8.0	−		灰釉（暗茶褐色）	普通	瀬戸・美濃	17・18世紀		−	71
CT178		関連4区遺構埋土4層	大鉢	−	−	−	印花菊花文 緑釉流し	灰釉（淡黄褐色）	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀前半		−	72
CT179		基本層2a-2層	中型丸碗	11.2	−	−	灰釉流しかけ	鉄釉（黒褐色）	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀末−18世紀前葉		66	73
CT180		基本層2a-2層	中碗	−	4.6	−		鉄釉（暗茶褐色）	やや粗	瀬戸・美濃	18世紀前葉	漆継	−	73
CT181		基本層2a-2層	大鉢	30.6	−	−	波線文	灰釉（淡黄灰白色）	やや粗	瀬戸・美濃	17世紀代	漆継 釉の一部白濁	−	73
CT182		基本層1層	小中皿	12.6	7.4	3.1	摺絵菊花文	灰釉（淡緑灰白色）	普通	瀬戸・美濃	18世紀前葉−中葉	見込目跡3 貫入	69	76
CT183		基本層1層	灯明皿	9.6	3.7	2.2		飴釉	密	大堀相馬	19世紀以降	貫入 未使用か	69	76
CT184		基本層1層	人形（武士）	幅3.0 厚2.2			鉄絵呉須絵で裃文様	灰釉（淡緑灰白色）	密	不明	不明	前後合わせ型作 頭部欠損 脇差の小孔あり 残存高3.2	69	76
CT185		基本層1層	小碗	6.3	3.1	3.1		灰釉（淡緑灰白色）	密	大堀相馬	18世紀末−19世紀初頭	貫入	69	76
CT186		基本層1層	水指	−	−	−	白泥刷毛目文	透明釉	普通	不明	不明		−	76
CT187		基本層1層	ミニチュア瓢箪	0.7	2.0	4.0		鉄釉（茶褐色）	密	東北産	不明	最大径2.9cm	−	76
CT188		基本層1層	小中皿	−	5.0	−	見込山水文	灰釉（淡黄灰白色）	密	肥前	17世紀後半	貫入	−	76
CT189		基本層1層	向付	−	−	−	見込草花文	長石釉	粗	美濃	16世紀末−17世紀初頭	志野	−	76

表30　土師質（皿）観察表
Tab.30 Notes on unglazed ceramic plates at BK14

登録番号	段階	出土場所	口径 cm	底径 cm	器高 cm	内面調整	体部外面調整	底部糸切技法	回転方向	炭化物付着物部位	その他特徴	図	図版
CH1	Ⅰ	2号池状遺構埋土1層	5.2	3.4	1.6	ナデ	ナデ	a	左	なし		－	－
CH2	Ⅰ	2号池状遺構埋土1層	5.4	3.2	1.6	ナデ	ナデ	b	右	口縁部		－	－
CH3	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	12.3	7.4	2.7	ナデ	ナデ	a	左	なし		5	7
CH4	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	11.1	6.4	2.6	ナデ	ナデ	a	左	体部内面		5	7
CH5	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	7.3	4.4	2.2	不明	不明	不明	不明	口縁部～体部内面	全面的に比熱痕跡	5	7
CH6	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	11.5	6.1	2.8	ナデ	ナデ	b	左	なし		－	－
CH7	Ⅰ	4号池状遺構埋土1層	12.6	6.9	3.15	ナデ	ナデ	a	左	なし		13	14
CH8	Ⅰ	4号池状遺構埋土2層	7.0	3.6	2.2	不明	不明	b	右	全面に付着	全面比熱か 断面も黒色化	13	14
CH9	Ⅰ	4号池状遺構埋土2層	－	6.8	3.6	ナデ	ナデ	ミガキ	右	なし		－	－
CH10	Ⅰ	4号池状遺構埋土5層	9.6	6.0	2.6	ナデ	ナデ	不明	不明	なし		－	－
CH11	Ⅰ	42号遺構埋土1層	－	7.8	2.5	ナデ	不明	a	左	全面に付着	全面比熱か 断面も黒色化	－	－
CH12	Ⅰ	3号溝埋土	5.75	3.6	1.6	ナデ	ナデ	b	左	口縁部		18	22
CH13	Ⅰ－Ⅱb	ピット181埋土	5.0	2.8	2.3	ナデ	ナデ	a	左	口縁部		－	－
CH14	Ⅰ－Ⅲ	7号遺構埋土	5.4	3.0	1.4	ナデ	ナデ+ ミガキ	軽いミガキ	不明	口縁部		－	－
CH15	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土	8.9	5.0	1.7	ナデ	ナデ	不明	不明	なし		29	37
CH16	Ⅱa	5号溝埋土	7.4	3.8	2.0	ナデ	ナデ+ ミガキ	a	右	なし		38	42
CH17	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	6.0	4.0	1.8	ナデ	ナデ	a	左	なし		43	46
CH18	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	6.4	3.5	1.8	ナデ	ナデ	b	右	口縁部		43	46
CH19	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	5.6	3.9	1.8	ナデ	ナデ	軽いミガキ	左	なし		50	52
CH20	Ⅱb	1号池状遺構埋土1層	7.6	5.0	1.8	不明	ナデ	不明	不明	なし	表面摩耗	－	－
CH21	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土1層	6.0	3.2	1.6	ナデ	ナデ+ ミガキ	ミガキ	左	全面的に薄く付着	内面に灯芯あり 乗燭	54	56
CH22	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土2層	8.0	5.4	1.6	ナデ	ナデ	b	不明	なし		－	－
CH23	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土	5.7	4.0	1.8	ナデ	ナデ	a	不明	口縁部	表面一部摩耗	54	56
CH24	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土	10.6	6.6	1.9	ナデ	ナデ	b	左	なし		54	56
CH25	Ⅲ	66号遺構埋土4層	13.4	8.1	2.6	ナデ	ナデ	b	左	なし	約３mmの小孔を３ヶ所体部に穿孔あり	61	66
CH26	Ⅲ	66号遺構埋土4層	10.8	7.0	2.0	ナデ	ナデ	b	左	なし		－	－
CH27		関連2区 遺構埋土	10.25	6.0	1.8	不明	不明	a	右	全面に付着	全面比熱 断面も黒色化	65	72
CH28		基本層2a-2層	－	6.4	2.1	ナデ	ナデ	a	左	なし		－	－
CH29		基本層1層	5.1	3.2	1.8	ナデ	ナデ	a	左	なし	口縁部から底部外面に一部付着物	－	－
CH30		基本層1層	5.8	3.8	1.8	ナデ	ナデ	b	右	なし		－	－
CH31		基本層1層	6.1	3.7	2.1	ナデ	ナデ	b	右	口縁部		－	－
CH32		基本層1層	－	6.3	2.6	ナデ	ナデ	a	左	なし		－	－
CH33		基本層1層	5.8	3.5	1.5	ナデ	ナデ	軽いミガキ	不明	口縁部		－	－
CH34		基本層1層	6.2	3.6	1.6	ナデ	ナデ	軽いミガキ	不明	口縁部		－	－
CH35		基本層1層	6.4	4.1	1.8	ナデ	ナデ	b	右	なし	内面一部剥離	－	－
CH36		基本層1層	6.2	3.6	1.5	ナデ	ミガキ	ミガキ	不明	なし		－	－
CH37		基本層1層	13.4	8.2	3.0	ナデ	ナデ	b	左	底部中心	全面的に被熱し、断面も黒色化	－	－
CH38		基本層1層	12.4	7.1	2.7	ナデ	ナデ	a	右	口縁部～底部	全面的に被熱し、断面も黒色化	－	－
CH39		基本層1層	10.0	5.6	2.6	不明	不明	不明	不明	なし	表面摩耗	－	－
CH40		基本層1層	8.8	7.0	2.1	ナデ	ナデ	不明	不明	なし		－	－

表31　土師質土器（その他）観察表
Tab.31 Notes on various unclazed ceramic at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	口径 cm	底径 cm	器高 cm	調整	特徴	図	図版
CH41	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	焼塩壺	－	5.5	－	ロクロ成形　内外面ロクロナデ	体部下部破片 外面格子叩き D類	5	7
CH42	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	焼塩壺	－	－	－	ロクロ成形　内外面ロクロナデ	体部下部破片 外面格子叩き D類	5	7
CH43	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	鉢	－	－	11.3	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	口縁部から底部破片	－	7
CH44	Ⅰ	2号池状遺構理土3層	焼塩壺	－	6.1	－	ロクロ成形　内外面ロクロナデ	体部下部破片 外面格子叩き D類	5	7
CH45	Ⅰ	39号遺構理土2層	焼塩壺	－	－	－	ロクロ成形　内外面ロクロナデ	底部破片 外面格子叩き	17	19
CH46	Ⅰ	ピット102理土	焼塩壺	－	－	－	上位と下位の押圧接合成形 内面ナデ	体部破片 畿内系焼塩壺	20	25
CH47	Ⅰ~Ⅱb	74号遺構理土3層	焼塩壺	－	－	－	ロクロ成形 内外面ロクロナデ	器厚は薄手　口縁部から体部破片 格子叩きあり　C類 17世紀初頭から前葉	24	31
CH48	Ⅰ~Ⅱ	1号井戸理土2層	さな	－	－	－	上面と穿孔部丁寧なナデ 下面凹凸が多く、やや雑なナデ	上面一部比熱して剥落 下面一部スス付着	29	37
CH49	Ⅱa	5号溝理土1層	羽釜	－	－	－	ロクロ成形　内面ロクロなで 外面ロクロなで後ヘラ削り	口縁部から胴部破片 口縁部外面が段状になる。	38	42
CH50	Ⅱa	5号溝理土1層	焙烙	－	－	－	ロクロ成形　内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラ削り	柄の破片　径2.5mm程の小孔あり	－	42
CH51	Ⅱb	1号池状遺構理土1層	焼塩壺	－	4.6	－	ロクロ成形　内外面ロクロナデ	底部に糸切り痕跡　印籠形	50	52
CH52	Ⅲ	ピット177理土1層	焼塩壺	－	－	－	ロクロ成形　内外面ロクロナデ	胎土赤色化　器厚0.6cmでロクロ成形のため、在地産焼塩壺か	－	70
CH53		基本層2a-2層	焼塩壺				ロクロ成形　内外面ロクロナデ	D類の口縁部	66	73
CH54		基本層1層	焼塩壺	6.25	5.4	9.9	ロクロ成形　内面ロクロナデ 外面ロクロナデ後ヘラ削り	器厚は厚手で、凹みが浅い 外面下半格子叩き D2類	69	76

表32　瓦質土器観察表
Tab.32　Notes on fumed ceramics at BK14

登録番号	段階	出土場所	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴	図	図版
CG1	Ⅰ	12号遺構理土10層	火鉢？	37.8	－	－	外面：ミガキ　口縁部：ミガキ　内面：ミガキ 残存する部分には受熱痕はみられない	16	17
CG2	Ⅰ	12号遺構理土	五徳	－	21.5	17.4	外面：ヨコナデ、受熱により斑状に白色化　内面：ヨコナデ、内面上半は受熱により白色化（褐色化）	16	17
CG3	Ⅰ~Ⅱ	1号井戸理土2層	土能	厚さ1.7cm		7.4	全面ミガキ　把手に菊花の印花文	29	37
CG4	Ⅲ	30号遺構理土1層	蚊遣り	くびれ径16.9		－	外面：ヨコナデ、軽いミガキ　内面：ヨコナデ、軽いミガキ内面上半は受熱による白色化	58	62
CG5	Ⅲ	ピット177理土1層	擂鉢	28.9	－	－	外面：ヨコナデ　口唇部：ミガキ　内面：体部下半使用による磨滅顕著、擂目はわずかに残る程度	64	70

表33　軟質施釉陶器観察表
Tab.33 Notes on lead glazed soft ceramics at BK14

登録番号	出土場所	器種	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	特徴	図	図版
CN1	1号井戸理土3層	焙烙	14.8	13.4	4.4	鉛釉　把手付き　把手に孔あり	29	36
CN2	1号井戸理土3層	焙烙	13.1	10.2	3.1	鉛釉　底部内面にわずかに炭化物付着	29	36
CN3	1号井戸理土3層	焙烙	把手端径3.5cm			鉛釉　把手部分	29	36
CN4	4号遺構理土	焙烙	14.9	13.4	3.9	鉛釉	51	53
CN5	30号遺構理土2層	焙烙	15.3	13.6	4.0	鉛釉	58	62
CN6	48号遺構理土2層	焙烙	把手端径3.4cm			鉛釉　把手部分　把手に孔あり	60	61

表34　土人形・土製品観察表
Tab.34 Notes on clay objects and figures at BK14

登録番号	段階	出土場所	器種	高さ a（cm）	幅 b（cm）	厚さ C（cm）	特徴	図	図版
CO1	Ⅰ	2号池状遺構理土1層	人形 猿	－	2.7	1.8	土師質 手づくね 中実 沈線で体毛表現（刷毛状工具）体部上半欠損 両足は貼り付け部分から剥落	5	7
CO2	Ⅰ	2号池状遺構理土1層	玩具 多層塔	3.3	3.3	－	土師質 型作り 対角線部分で貼り合わせ 中心部に穿孔 表面にキラ粉	5	7
CO3	Ⅰ	2号池状遺構理土1層	人形 不明	－	－	－	土師質 前後合型作り 中実 底部から穿孔あり	5	7
CO4	Ⅰ	12号遺構理土	人形 不明	－	－	－	土師質 型作り 中空	16	17
CO5	Ⅰ	39号遺構理土2層	人形 猿	－	1.5	1.6	土師質 手づくね 中実 頭部のみ残存 沈線で体毛表現（刷毛状工具） 沈線で口、頬を表現 両耳貼り付け	17	19
CO6	Ⅰ	3号溝理土2層	人形 鯛乗り？	－	－	－	土師質 前後合型作り 中空 型による鱗状の文様と左足？の表現	18	22
CO7	Ⅱa	5号溝理土2層	人形 猿	－	2.1	2	土師質 手づくね 中実 沈線で体毛表現（刷毛状工具）頭部、両手、左足は貼り付け部分から剥落 右足一部欠損 尾有り	38	42
CO8	Ⅱa	5号溝理土2層	玩具 屋根	6.7	6.7	2.7	土師質 型作り 中空 刺突により屋根を表現	39	42
CO9	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構理土2層	玩具 茶釜	口径1.6、最大径5.8、底径2.1、器高4.1			土師質 上下合型作り 中空 釜上半には蔵地文、木の葉文、鉄付の表現あり	54	56
CO10	Ⅲ	30号遺構理土4層	玩具 器台	底径3.3cm		－	土師質 ロクロ成形	58	62
CO11	Ⅲ	30号遺構理土4層	玩具 土鈴	5.1	4.7	－	土師質 前後合型作り 中空 貼り合わせ部分で剥落し、半分のみ残存 内部の土玉はなし	58	62
CO12	Ⅲ	31号遺構理土4層	人形 恵比寿	－	－	3.9	土師質 前後合型作り 中空 頭部のみ残存	59	63
CO13	Ⅲ	31号遺構理土4層	人形 相撲取り	－	8.1	－	土師質 前後合型作り 中空 凹部に白色の彩色痕がわずかに残る へその表現あり 座す相撲取りを表現か	59	63
CO14	Ⅲ	66号遺構理土	玩具 土鈴	3	2.9	2.6	土師質 中空 下部欠損 内部の土玉はなし 内面上部にしぼり目が観察される	61	67
CO15	Ⅲ	66号遺構理土3層	玩具 土鈴	2.9	2.5	2.6	土師質 中空 下部欠損 内部の土玉はなし 内面上部にしぼり目が観察される	61	67
CO16	Ⅲ	66号遺構理土4層	人形 四足動物	－	13.3	－	土師質 左右合型作り 中空 御部中実	61	67
CO17	Ⅲ	6号溝理土2層	人形 不明	－	－	－	土師質 型作り 足部分か	62	68
CO18	Ⅲ	4号井戸理土1層	人形 不明	－	－	－	土師質 前後合型作りか 中空 人形着物の袂、または裾部分か	63	69
CO19		基本層1層	人形 猫？	－	－	－	土師質 前後合型作り 中空 頭部の一部残存 目・耳・牙の表現あり あるいは狐？	69	76
CO20		基本層1層	人形 人物	－	2.1	2.1	土師質 前後合型作り 中空 頭部のみ残存 顔の表現あり 法師か童子か	69	76
CO21		基本層1層	人形 不明	－	－	－	土師質 前後合型作り 中空	69	76
CO22		基本層1層	人形 鯉と猫か	－	－	－	土師質 前後合型作り 中空 尾・鱗の表現あり あるいは鯛と人物か？	69	76

表35　古代瓦観察表
Tab.35 Notes on ancient roof tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦の種類	特徴	図	図版
T1	Ⅰ	4号池状遺構理土1層	平瓦１類	凸面縄叩き　凹面に布目	13	14
T2	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土8層	不明	凸面縄叩き　凹面に布目	43	46
T3	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	平瓦１類	凸面はわずかにケズリの痕跡　凹面に布目	43	46
T4		基本層1層	不明	凸面縄叩き　凹面に布目	69	76

表36　軒丸瓦観察表
Tab.36 Notes on round eaves tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦当文様	瓦当直径cm	瓦当内径cm	周縁幅	釘穴	図	図版
T5	Ⅰ	2号池状遺構理土4層	連珠三巴文	(15.2)	－	1.8cm	－	5	7
T6	Ⅱb	1号池状遺構理土1層	三巴文か	－	－	1.8cm	－	－	52

表37　軒平瓦類観察表
Tab37. Notes on flat eaves tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦当文様	瓦当形状	瓦当垂長	頭幅	図	図版
T7	Ⅰ	2号池状遺構理土3層	剣形結梗2類＋唐草3b類	中剣	5.1cm	－	5	7
T8	Ⅰ－Ⅱb	16号遺構理土2層	唐草２類	太剣	4.95cm	－	22	29
T9	Ⅲ	30号遺構理土2層	唐草２類	中剣	5cm	－	58	62

表38　軒桟瓦観察表
Tab.38 Notes of eaves-pan tile at BK14

登録番号	出土場所	全長cm	全幅cm	きき幅cm	きき足cm	尻切込長cm	瓦当小巴部分文様	小巴径cm	瓦当垂れ部分文様	瓦当垂れ形状	瓦当垂長cm	図	図版
T10	1層	27.8	－	－	－	－	万十	8.5	無文	並剣	4.6	－	－
T11	1層	－	－	－	－	－	万十	8.4	無文	並剣	4.5	－	－

表39　その他の瓦観察表
Tab.39 Notes on various roof tiles at BK14

登録番号	段階	出土場所	瓦の種類	法量	釘穴	図	図版
T12	Ⅰ	4号池状遺構理土3層	丸瓦	胴長27.5cm　玉縁長3.9cm　尻幅15.3cm　高さ7.8cm	－	13	14
T13	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	棟瓦	棟幅16.8cm　頂部内幅10.1cm　高さ7.0cm　中央厚さ2.0cm	－	30	37
T14	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	棟瓦	頂部内幅17.4cm　高さ7.1cm　中央厚さ2.2cm	－	29	37
T15	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	棟瓦	頂部内幅18.9cm　高さ7.8cm　中央厚さ2.1cm	－	30	37
T16	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	両付箱貫斗瓦	幅13.5cm　内幅10.2cm　高さ7.0cm　厚さ2.2cm	－	29	37
T17	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	板状瓦	幅20.5cm　厚さ2.2cm	－	30	37
T18	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	特殊瓦	長さ13.6cm　厚さ3.15cm	－	30	37
T19	Ⅲ	20層遺構理土3層	平瓦１類	長さ26.1cm　厚さ2.0cm	－	－	－
T20		基本層1層	引掛桟瓦	全長26.6cm　全幅27.0cm　きき幅26.7cm　きき足20.2cm　頭切込幅3.3cm　尻切込長4.0cm	－	－	－

表40　各種木製品観察表（1）
Tab.40 Notes on various wooden implements at BK14（1）

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
W1	Ⅰ	3号建物柱6	不明	長さ28.8cm　幅6.95cm　厚さ9.3cm	中央の穴に本来別部材が嵌まる	2	1
W2	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	円板状木製品	直径9.3cm　厚さ0.6cm	ほぼ完形	5	7
W3	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	円板状木製品	縦幅5.05cm　横幅5.25cm　厚さ0.82cm	表面に擦布痕跡	5	7
W4	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	栓	長さ4.95cm　幅1.5cm　厚さ0.95cm		5	7
W5	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	栓	長さ2.85cm　最大幅1.7cm　厚さ0.45cm		5	7
W6	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	部材	長さ23.9cm　幅1.2cm　厚さ1.1cm	両端部が段差と小孔を持つ部品	7	9
W7	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	部材	長さ17.9cm　幅1.65cm　厚さ1.2cm	小孔を一列に多数穿孔	7	9
W8	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	部材	径6.6cm　厚2.05cm	中央孔に軸が遺存	7	9
W9	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	部材	長さ12.0cm　幅6.5cm　厚さ3.52cm		7	9
W10	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	加工木片	長さ6.0cm　幅1.3cm　厚さ1.6cm		7	9
W11	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	櫛	長さ8.3cm　幅クシ刃先4.9cm 厚さ0.9cm		7	9
W12	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	串状製品	長さ14.6cm　幅0.6cm　厚さ0.29cm		8	9
W13	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	串状製品	長さ9.91cm　幅0.55ｃｍ　厚さ0.3ｃｍ		8	9
W14	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	串状製品	長さ8.5cm　幅0.5cm　厚さ0.35cm		8	9
W15	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	串状製品	長さ6.2cm　幅0.6cm　厚さ0.4cm		8	9
W16	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	串状製品	長さ5.3cm　幅0.55cm　厚さ0.3cm		8	9
W17	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	札	長さ7.2cm　最大幅6.1cm　厚さ1.7cm	小孔一箇所貫通　表面一部炭化	8	9
W18	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	人形	長さ4.95cm　幅1.7cm　厚さ1.4cm	陽物か	8	9
W19	Ⅰ	2号池状遺構理土3層	竹製品の一部	－	縄が竹に結び付けられた状態	8	10
W20	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	植側板	長さ28.9cm　幅2.9cm　厚さ1.3cm	柄側板の持ち手	9	10
W21	Ⅰ	2号池状遺構理土3層	植天板	長さ6.5cm　残存幅13.38cm　厚さ1.1cm	縁一部炭化　天板2/5	9	9
W22	Ⅰ	4号池状遺構理土2層	折敷	長さ17.3cm　幅2.3cm　厚さ0.35cm		13	14
W23	Ⅰ	4号池状遺構理土2層	人形	長さ7.3cm　幅2.9cm　厚さ2.85cm	頭部と頚部が一体化した人形	13	14
W24	Ⅰ	4号池状遺構理土3層	人形	残存長8.3cm　幅3.3cm厚さ2.9cm	頭部と頚部が一体化した人形	13	14
W25	Ⅰ	4号池状遺構理土5層	櫛	長さ7.7cm　幅クシ刃先4.0cm 厚さ0.6cm	約6割残存	13	14
W26	Ⅰ	4号池状遺構理土8層	犂の犂積か	長さ53.6cm　幅2.7cm　高さ6.1cm	樹皮がわずかに遺存するほぼ完形か	13	14
W27	Ⅰ－Ⅱb	15号遺構理土	柄状木製品	長さ35.3cm　幅2.55cm　厚さ1.0cm	先端側に小孔が貫通する	21	28
W28	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土4（掘方）	植天板	径22.4cm　厚1.5cm		31	38
W29	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	植側板	長さ32.7cm　幅5.95cm　厚1.1cm	側板の持ち手	31	39
W30	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植天板	径29.2cm　厚さ1.5cm	焼印あり	31	38

表41　各種木製品観察表（2）
Tab.41 Notes on various wooden implements at BK14（2）

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
W31	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植天板	長さ35.2cm　幅10.4cm　厚さ2.7cm	約1/3	31	38
W32	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.0cm　幅7.5cm　厚さ0.83cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W33	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.35cm　幅6.6cm　厚さ0.85cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W34	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.4cm　幅6.98cm　厚さ0.9cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W35	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.1cm　幅7.8cm　厚さ0.75cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W36	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.2cm　幅7.4cm　厚さ1.0cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W37	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.1cm　幅3.8cm　厚さ0.8cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W38	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.1cm　幅7.0cm　厚さ0.8cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W39	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.5cm　幅3.9cm　厚さ0.75cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W40	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.1cm　幅8.9cm　厚さ0.85cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W41	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植測板	長さ11.0cm　幅3.3cm　厚さ0.7cm	W32～W41は同一個体か	32	38
W42	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	植天板	横24.0cm×縦23.6cm　厚さ1.5cm	完形	32	39
W43	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土	植測板	長さ20.55cm　幅8.8cm　厚さ1.3cm	焼印あり　W43～W45は同一個体か	32	39
W44	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土	植測板	長さ22.05cm　幅7.0cm　厚さ1.1cm	W43～W45は同一個体か	33	39
W45	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土	植測板	長さ33.0cm　幅6.0cm　厚さ0.9cm	側板持ち手　焼印あり W43～W45は同一個体か	33	39
W46	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	鍬	頭長さ27.2cm　頭最大幅7.4cm 高さ24.4cm　柄長さ25.1cm　厚さ4.6cm		33	40
W47	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土2層	千枚通し	最大長11.0cm　刃部長4.3cm 刃部幅0.55cm　柄長6.75cm　柄幅2.7cm		34	39
W48	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	加工木片	長さ24.6cm　幅9.0cm　厚さ1.3cm	両端部と両側面に小孔を穿孔	34	39
W49	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	加工木片	長さ24.25cm　厚さ0.35cm　幅1.55cm	中央に間隔を空け小孔を穿孔 部品として完形	34	39
W50	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸理土3層	加工木片	長さ23.1cm　幅1.5cm　厚さ0.45cm	中央に間隔を空け小孔を穿孔	34	39
W51	Ⅱa	3号池状遺構理土1層	人形	長さ5.5cm　幅3.4cm　厚さ2.7cm		36	41
W52	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸理土3層	部材	長さ11.7cm　幅5.5cm　厚さ0.55cm	簡の脚か	41	44
W53	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土8層	串状製品	長さ7.4cm　幅0.58cm　厚さ0.3cm		43	46
W54	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	串状製品	長さ17.95cm　幅0.82cm　厚さ0.3cm		43	46
W55	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	串状製品	長さ13.0cm　幅0.6cm　厚さ0.35cm		43	46
W56	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	串状製品	長さ11.4cm　幅0.45cm　厚さ0.29cm		43	46
W57	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	串状製品	長さ11.1cm　幅1.0cm　厚さ0.28cm		43	46
W58	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	串状製品	長さ16.0cm　幅0.4cm　厚さ0.25cm		43	46
W59	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	串状製品	残存長10.1cm　幅0.6cm　厚さ0.35cm		43	46
W60	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	串状製品	残存長10.25cm　幅0.64cm　厚さ0.19cm		43	46

表42　各種木製品観察表（3）
Tab.42 Notes on various wooden implements at BK14（3）

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	備考	図	図版
W61	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	円板状木製品	直径7.7cm　厚さ0.85cm		43	46
W62	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	柄状木製品	長さ9.5cm　幅2.8cm　厚さ1.9cm	柄杓の部品　先端側に不整形な穴が貫通	43	46
W63	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	不明	長さ5.6cm　幅5.05cm　厚さ1.55cm	両側面に釘あり	43	46
W64	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	栓	長さ6.65cm　最大幅2.05cm　厚さ1.88cm		43	46
W65	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	木釘	長さ2.6cm　頭幅0.4cm		43	46
W66a	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	墨書ある木製品	長さ7.5cm　残存幅4.0cm　厚さ0.68cm	内面に「刁」の文字 「寅」のくずし字	43	46
W66b	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	墨書ある木製品	長さ4.3cm　残存幅2.5cm　厚さ0.68cm	外面判読不明文字あり	43	46
W67	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	折敷	長さ9.1cm　幅1.8cm　最大幅2.0cm 厚さ0.48cm		44	47
W68	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	折敷	残存長7.8cm　幅1.8cm　最大幅2.05cm 厚さ0.45cm　最大厚0.55cm		44	47
W69	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	折敷	長さ4.6cm　幅1.95cm　厚さ0.4cm 最大厚さ0.45cm		44	47
W70	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	折敷	長さ9.2cm　幅1.85cm　厚さ0.6cm		44	47
W71	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ15cm　幅1.15cm　厚さ0.7cm		44	47
W72	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ12.2cm　幅1.1cm　厚さ0.6cm	両端部に２箇所穿孔 一方のみ貫通	44	47
W73	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ8.5cm　幅4.0cm　厚さ1.3cm		44	47
W74	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土10層	不明	長さ8.0cm　幅1.05cm　高さ1.6cm	台座状の木製品	44	47
W75	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土10層	部材	長さ7.8cm　幅2.1cm　厚さ0.55cm		44	47
W76	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	部材	長さ31.5cm　幅1.0cm　厚さ0.85cm		44	47
W77	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	部材	長さ49.0cm　幅2.65cm　厚さ1.1cm	端部に軸と小穴あり	44	47
W78	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土10層	ヘラ状木製品	長さ12.35cm　最大幅4.7cm　角厚さ1.0cm	部分的に炭化	44	47
W79	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	ヘラ状木製品	長さ24.3cm　最大幅4.6cm　厚さ1.1cm	部分的に炭化	44	47
W80	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	ヘラ状木製品	長さ22.3cm　幅2.55cm　厚さ0.15cm		44	47
W81	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	ヘラ状木製品	長さ23.8cm　幅2.4cm　厚さ0.25cm	端部に三角形の穴あり	44	47
W82	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	ヘラ状木製品	長さ26.0cm　最大幅4.12cm　厚さ0.15cm		44	47
W83	Ⅱb	1号池状遺構理土2層	植天板	径16.0cm　厚さ1.4cm	焼印あり	50	52
W84	Ⅲ	4号井戸理土5層	桶側板	長さ17.2cm　幅5.5cm　厚さ1.2cm		63	69

表43　下駄観察表
Tab.43 Notes on wooden clogs at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	法量（cm）	残存状況	図	図版
W85	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	連歯下駄	長さ22.5cm　幅8.6cm　高さ3.7cm	一部欠損	6	8
W86	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	連歯下駄	長さ21.5cm　幅8.5cm　高さ4.4cm	ほぼ完形	6	8
W87	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	連歯下駄	長さ21.6cm　幅8.7cm　高さ2.9cm	一部欠損	6	8
W88	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	差歯下駄	長さ23.2cm　幅8.2cm　高さ3.1cm	本体は完形 歯は無し	6	8
W89	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	差歯下駄	長さ約23.1cm　幅8.0cm　高さ3.1cm	9割方残存	6	8
W90	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	差歯下駄	長さ17.5cm　幅6.3cm　高さ3.6cm	ほぼ完形	6	8
W91	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	無歯下駄	長さ18.5cm　幅6.7cm　高さ2.75cm	ほぼ完形	7	8
W92	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	無歯下駄	長さ8.8cm　幅6.0cm　高さ1.5cm	約1/2程残存	7	8
W93	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	連歯下駄	長さ21.9cm　幅9.4cm　高さ3.6cm	約9割程残存	7	8
W94	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	連歯下駄	長さ23.0cm　幅3.6cm　高さ3.5cm	約1/3程残存	7	9
W95	Ⅰ	5号井戸埋土	歯（差歯下駄）	長さ5.8cm　幅6.4cm　厚さ1.6cm	約9割程残存	19	23
W96	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土8層	歯（差歯下駄）	長さ10.8cm　幅7.6cm　厚さ2.1cm	約1/3程残存	45	48
W97	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	連歯下駄	長さ22.0cm　幅9.7cm　高さ4.2cm	約7割程残存	45	48
W98	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	連歯下駄	長さ17.8cm　幅6.6cm　高さ5.4cm	約9割程残存	45	48
W99	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	連歯下駄	長さ21.8cm　幅9.3cm　高さ3.3cm	約9割程残存	45	48
W100	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	連歯下駄	長さ22.1cm　幅9.5cm　高さ4.3cm	完形	45	48

表44　楔観察表
Tab.44 Notes on wooden implements shaped wedge at BK14

登録番号	段階	出土場所	残存状況	法量	図	図版
W101	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	完形	長さ12.6cm　幅3.3cm　厚さ1.8cm	8	9
W102	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土8層	完形	長さ13.4cm　幅3.0cm　厚さ2.6cm	45	48
W103	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	ほぼ完形	長さ14.1cm　幅3.0cm　厚さ2.4cm	45	48
W104	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	ほぼ完形	長さ14.6cm　幅3.0cm　厚さ2.1cm	45	48
W105	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	完形	長さ8.9cm　幅3.0cm　厚さ2.3cm	45	48
W106	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	完形?	長さ8.1cm　幅3.1cm　厚さ1.9cm	46	48
W107	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	完形	長さ11.8cm　幅3.1cm　厚さ2.6cm	46	48
W108	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ11.3cm　幅2.8cm　厚さ2.5cm	46	48
W109	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ15.4cm　幅2.4cm　厚さ3.5cm	46	48
W110	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ6.9cm　幅2.8cm　厚さ1.6cm	46	48
W111	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ9.9cm　幅2.9cm　厚さ2.1cm	46	48
W112	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ14.4cm　幅3.0cm　厚さ2.2cm	46	48
W113	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ12.6cm　幅2.8cm　厚さ2.4cm	46	49
W114	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ほぼ完形	長さ13.1cm　幅2.7cm　厚さ2.0cm	46	49
W115	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	完形	長さ11.6cm　幅1.7cm　厚さ2.0cm	46	49
W116	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	完形	長さ14.3cm　幅2.9cm　厚さ2.4cm	46	49

表45　箸観察表
Tab.45 Notes on wooden chopsticks at BK14

登録番号	段階	出土場所	先端形状		全長mm	最大径mm	整形の度合い	図	図版
W117	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	A	239	6.1	普	8	9
W118	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	A	232	5.0	普	8	9
W119	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	A	228	4.5	良	8	9
W120	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	A	229	5.3	良	8	9
W121	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	A	234	7.0	良	8	9
W122	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	B	234	5.2	良	8	9
W123	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	A	A	236	6.0	普	8	9
W124	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	B	B	234	5.0	普	8	9
W125	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	B	B	240	5.0	良	8	9
W126	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	B	B	226	5.6	良	8	9
W127	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	E	－	126.5	5.6	良	8	9
W128	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	B	－	62	4.5	普	8	9
W129	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	C	－	50	4.5	普	8	9
W130	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	C	－	90	6.0	良	8	9
W131	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土8層	C	－	91	6.0	普	46	49
W132	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	A	A	217	7.0	粗	46	49
W133	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	A	A	242	6.0	普	46	49
W134	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	A	A	238	5.5	普	46	49
W135	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	241	6.0	良	46	49
W136	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	241	5.5	普	46	49
W137	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	234	6.5	普	47	49
W138	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	240	5.5	粗	47	49
W139	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	240	5.0	普	47	49
W140	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	237	5.0	良	47	49
W141	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	235	6.0	普	47	49
W142	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	A	235	6.8	普	47	49
W143	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	E	203	5.5	普	47	49
W144	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	A	D	108	6.3	普	47	49
W145	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	C	－	100	6.0	普	47	49
W146	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	C	－	78.5	5.2	普	47	49
W147	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	C	－	51.8	5.5	普	47	49
W148	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	E	－	55	6.2	良	47	49
W149	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	E	－	115	6.0	普	47	49
W150	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	F	－	151	6.0	普	47	49
W151	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	C	－	80	5.0	普	47	49
W152	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	A	A	240	6.8	普	47	49
W153	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	A	A	235	7.0	普	47	49
W154	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	A	A	234	6.5	普	47	49
W155	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土	E	－	188	6.0	普	47	49

表46　木簡観察表
Tab.46 Notes on wooden tablets at BK14

登録番号	段階	出土場所	型式	孔	長さ cm	幅 cm	厚さ cm	記載事項（表）	記載事項（裏）	図	図版
WT1	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	019	－	9.7	2.05	0.12	□〔豆カ〕五斗入		9	10
WT2	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	019	－	14.0	1.9	0.05	・「□□〔正徳カ〕三年	・「□〔御カ〕用□〔合カ〕□□」	9	10
WT3	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	019	－	13.3	1.81	0.09	・正徳三年」	・□□金御下 」	9	10
WT4	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	081	－	2.19	1.1	0.1	・□	・□	9	10
WT5	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	051	－	16.8	2.0	0.6	・「本□〔蟠カ〕様□□」	・「御□〔所カ〕金□〔屋カ〕□〔狩カ〕野□□〔新兵衛カ〕」	43	46
WT6	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	011－e	－	14.6	2.5	0.45	「□□□□□」		43	46
WT7	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	081	－	7.0	1.5	0.05	墨書不明	墨書不明	43	46

表47　漆塗製品（椀）観察表
Tab.47 Notes on wooden bowl with lacquer at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	形態分類	法量cm				漆の色			高台内文字	文様	図	図版
					口径	底径 横径	器高	高台 高横高	内面	外面	高台内				
WL1	Ⅰ	2号池状遺構 理土2層	身	B2a類	－	5.8	－	2.2	赤	赤	黒	銘（赤）角に文字か	銘は「岡」と読める可能性もあるが不明	9	10
WL2	Ⅰ	2号池状遺構 理土2層	身か	B2b類	－	－	－	－	赤	赤	赤	銘（金）文字か	漆膜の剥がれ著しい	9	10
WL3	Ⅰ	2号池状遺構 理土2層	身か	C2b類	10.5	5.0	3.1	0.6	赤	赤	黒	銘（赤）文字か	「みはり」と読める可能性もあるが不明 蓋の可能性あり	9	10
WL4	Ⅰ	2号池状遺構 理土2層	身か	C2b類	－	－	－	乗	赤	赤	黒			9	10
WL5	Ⅰ	10号遺構 理土2層	蓋	－	－	－	－	－	黒	黒	黒			15	16
WL6	Ⅰ－Ⅲ	7号遺構理土	身	B1a類	(12.7)	6.3	(7.5)	1.9	黒	黒	黒		文様（赤）：植物文	26	34
WL7	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	身	B1a類	12.0	5.7	9.1	2.1	赤	黒	黒		文様（赤）：家紋3ヶ所「丸に石垂ね違い鷹の羽」ほぼ完形	34	40
WL8	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	身	B1a類	(12.6)	5.8	(8.5)	1.9	赤	黒	黒		文様（赤）：家紋3ヶ所「左三巴」	34	40
WL9	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	身	B1a類	(11.5)	(5.5)	(7.6)	－	赤	黒	黒		文様（金）：家紋3ヶ所「中陰葛」	34	40
WL10	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	身	B1a類	11.9	5.5	8.7	2.1	赤	黒	黒		文様（金）：松竹梅文 ほぼ完形	34	40
WL11	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	蓋	－	－	5.0	－	0.8	赤	黒	黒		文様（金）：植物文（牡丹か）WL14と同文様	34	40
WL12	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	蓋	－	10.3	5.0	3.6	0.8	黒	黒	黒		文様なし	35	40
WL13	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土2層	蓋	－	－	(6.1)	－	－	赤	黒	黒		文様なし　ほぼ完形	35	40
WL14	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土3層	身	B1b類	－	－	－	－	赤	黒	黒		文様（金）：植物文（牡丹か）WL12と同文様	－	40
WL15	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 理土3層	身	B1b類	－	－	－	－	赤	黒	黒		文様（金）：家紋巴丸文3ヶ所　蓋の可能性あり	－	40
WL16	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸 理土3層	蓋	－	8.1	4.5	1.8	0.4	赤	黒	黒		文様なし　やや小振り	41	44
WL17	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 理土11層	身	B2a類	－	(5.8)	－	－	赤	赤	黒	銘（赤）「田中」	体部に稜線を持つ器形	47	50
WL18	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 理土11層	身	C3類	11.6	5.9	5.5	1.0	赤	赤	赤		体部に稜線2状（面取り）のある器形	47	50
WL19	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	身	B1a類	(11.3)	5.7	(8.8)	2.3	赤	黒	黒		文様なし	47	50
WL20	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	身	B2b類	11.5	(5.5)	(5.0)	－	赤	赤	赤		文様なし	47	50
WL21	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土	不明	漆膜のみ	－	－	－	－	赤	赤	黒	銘（赤）文字「五兵へ」か	漆膜のみ残存	－	50
WL22	Ⅱb	1号池状遺構 理土2a層	身か	C1b類	10.9	－	－	－	赤	黒	黒?		文様（銀か）：家紋系丸文3ヶ所　漆の歪み激しい 蓋の可能性もあり	50	52
WL23	Ⅲ	14号遺構理土	身	B1b類か C1b類	－	－	－	－	赤	黒	黒		文様（赤）：菊花文か	55	59

表48　漆塗製品（椀以外）観察表
Tab.48 Notes on wooden implements with lacquer at BK14

登録番号	段階	出土場所	器種	漆の色		法量	備考	図	図版
				外面（表）	内面（裏）				
WL24	Ⅰ	2号池状遺構理土2層	曲物	黒	－	幅1.3cm　厚さ0.1cm	流水に菊文（銀か）　曲物の一部　外面のみ漆塗	9	10
WL25	Ⅰ	2号池状遺構理土	箱状製品	黒	塗りなし	長さ27.8cm 幅10.5cm　厚さ0.6cm	箱状製品の側板部分　一面は漆塗で表面に斜方向の傷 箱状に組む両端部分は塗りなく小孔あり　他面は塗りなし	9	11
WL26	Ⅰ	2号池状遺構理土	著状製品	赤	－	径0.7cm	部分的に赤漆塗　著の端面は残存しない	9	10
WL27	Ⅰ	4号池状遺構理土5層	円板	黒	黒	径10.1cm　厚さ0.8cm	内外面とも漆の残存はわずか	14	14
WL28	Ⅰ	4号池状遺構理土	取手	黒	黒	長さ20.2cm 幅4.0cm　厚さ1.5cm	桶の取手部分　焼印？あり　漆でなく下地塗のみ残存か	14	14
WL29	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸理土11層	不明 棒状製品	黒	－	－	漆膜のみ部分的に残存　黒漆地に金・赤で帯状の彩色	47	49

表49　古銭観察表
Tab.49 Notes on coins at BK14

登録番号	段階	出土場所	銭名	外径(mm)	穿径(mm)	重量(g)	備考	図	図版
MC1	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	不明	－	－	－	ごく部分的に残存 錆化顕著	－	－
MC2	Ⅰ	2号池状遺構埋土5層	寛永通寶	－	－	－	3/4欠損「通」のみ残存 錆化顕著	10	11
MC3	Ⅰ	4号池状遺構埋土5層	寛永通寶	24.3	－	－	2/3欠損「通」のみ残存	14	15
MC4	Ⅰ	3号溝埋土2層	不明	－	－	－	ごく部分的に残存 錆化顕著	－	－
MC5	Ⅰ	ピット70埋土1層	寛永通寶（古寛永）	24.0	6.0	2.3	完形	20	25
MC6	Ⅰ－Ⅱb	16号建物埋土2層	不明	－	－	－	ごく部分的に残存 錆化顕著	－	－
MC7	Ⅰ－Ⅲ	5号建物柱3	寛永通寶（古寛永）	23.7	6.0	4.7	MC7・MC8は2枚が背合わせで出土 錆化顕著	25	33
MC8	Ⅰ－Ⅲ	5号建物柱3	寛永通寶（古寛永）	23.9	5.5			25	33
MC9	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸埋土2層	寛永通寶（新寛永）	－	－	－	7/8欠損「通」のみ残存	35	40
MC10	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	寛永通寶（新寛永・文）	25.0	6.0	3.1	背文「文」	41	44
MC11	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	寛永通寶	－	－	－	3/4欠損「永」のみ残存	41	44
MC12	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	寛永通寶（新寛永）	23.2	6.0	3.0	完形	41	44
MC13	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	寛永通寶（古寛永）	24.0	6.0		1/3欠損「通」文字欠損	47	49
MC14	Ⅱb	1号池状遺構埋土2b層	寛永通寶（古寛永）	24.5	6.0	3.2	完形 錆化顕著	50	52
MC15	Ⅲ	25号遺構埋土1層	洗来銭（□元通□）	－	－	－	1/2欠損	57	60
MC16	Ⅲ	66号遺構埋土3層	仙臺通寶	22.0	7.0	2.3	鉄銭 無角銭天明四（1784）年以降5年間鋳銭	－	66
MC17	Ⅲ	71号遺構埋土1層	洗来銭（永楽□寶）	－	－	－	1/2欠損 錆化顕著	－	68
MC18		基本層2a-2層	寛永通寶（新寛永）	24.4	6.0	3.4	完形 ハネ「永」雛波銭か	66	73
MC19		基本層2a-2層	洗来銭（祥ヵ□□寶）	－	－	－	1/2欠損 錆化顕著	－	73
MC20		基本層1層	寛永通寶（古寛永）	23.7	6.0	－	2/3残存 錆化顕著	69	76
MC21		基本層1層	寛永通寶（古寛永）	23.9	5.5	－	一部欠損	69	76
MC22		基本層1層	寛永通寶（新寛永・文）	24.9	6.0	3.3	完形 背文字「文」	69	76
MC23		基本層1層	寛永通宝（古寛永）	24.3	6.0	2.6	MC23～28 6枚重なって出土 いずれも完形	70	76
MC24		基本層1層	寛永通寶（古寛永）	25.7	6.2	2.7		70	76
MC25		基本層1層	寛永通寶（新寛永・文）	25.0	6.0	3.4		70	77
MC26		基本層1層	寛永通寶（古寛永）	24.5	6.0	4.0		70	77
MC27		基本層1層	寛永通寶（古寛永）	24.3	6.0	3.0		70	77
MC28		基本層1層	寛永通寶（古寛永）	24.5	6.3	4.0		70	77
MC29		基本層1層	寛永通寶	－	6.0	－	一部欠損 錆化顕著 文字摩滅	－	77
MC30		基本層1層	1セントコイン	18.9	－	2.9	「ONE CENT UNITED STATES OF AMERICA E PLURIBUS UNUM」 「IN GOD WE TUST RIBERTY 1952」	－	77

表50　煙管雁首観察表
Tab.50 Notes on pipes（stems and bowls）at BK14

登録番号	段階	出土場所	全体形状	火皿形状	接合方法	首部合せ目	全長(mm)	火皿直径(mm)	ラウ口直径(mm)	備考	図	図版
MO1	Ⅱa	3号池状遺構埋土1層	ⅠC類	1a類	1類	右	49.0	12.5	11.0	ラウ残存	36	41
MO2	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	－	2a類	－	－	－	26.8×20.0	－	火皿のみ　煙管以外の可能性あり	48	49
MO3		基本層1層	ⅡB類	2a類	3類	左	55.0	14.0×10.8	11.8	火皿歪みあり　線彫文様あり	70	77
MO4		基本層1層	－	2a類	3類	－	－	18.2×15.8	－	火皿のみ	70	77
MO5		基本層1層	－	1a類	－	－	－	15.6	－	火皿のみ	70	77

表51　煙管吸口観察表
Tab.51 Notes on pipes（mouthpieces）at BK14

登録番号	段階	出土場所	全体形状	全長（mm）	ラウ口直径（mm）	吸口直径（mm）	備考	図	図版
MO6	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	ⅡB類	－	9.0	－	吸口潰れあり	10	11
MO7	Ⅰ	4号池状遺構埋土5層	ⅠB類	39.5	9.3	4.4		14	15
MO8	Ⅰ	4号池状遺構埋土8層	ⅠB類か	46.6	7.0	－	吸口潰れあり	14	15
MO9	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	ⅡB類	38.1	6.8	－	吸口欠損あり	41	44
MO10	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	ⅡB類	67.6	8.5	3.2		41	44
MO11	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土4層	ⅡB類	48.0	－	4.0	ラウ口欠損あり	48	49
MO12	Ⅲ	48号遺構埋土1層	ⅡB類	39.9	12.4	6.3		60	61

表52　その他の銅製品観察表
Tab.52 Notes on various implement made by copper at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	特徴・法量など	図	図版
MO13	Ⅰ	4号池状遺構埋土8層	鉢か	残存口径約12cm　器高8.3cm　厚さ0.1cm　外面に小紋胡麻状の文様と菱状の文様を帯状に配する　歪みが大きく、底部は欠損	14	15
MO14	Ⅱa	3号池状遺構埋土1層	火箸か	長さ16.8cm　径0.2cm	36	41
MO15	Ⅲ	31号遺構埋土1層	火箸か	最大径1.0cm　竹節状のモチーフ　合わせ目があり、内部は中空	59	63
MO16		基本層1層	銅鏡か	残存口径約11.9cm　厚さ0.1cm　器高5.1cm　小紋菊菱状の文様を帯状に配する口縁部に小孔1ヶ所　腐食による欠損が著しい	70	77

表53　鉄製品観察表
Tab.53 Notes on various implement made by iron at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	法量・特徴	図	図版
MO17	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	小柄か	幅1.0cm　厚さ1.8mm	10	11
MO18	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	鋏	最大幅1.1cm　厚さ4.8mm	10	11
MO19	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	包丁か	残存長27.2cm　最大幅3.2cm　厚さ3.7mm	10	11
MO20	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	簀	推定径約12cm　厚さ2.7mm	10	11
MO21	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	鼎口	長さ4.3cm　最大幅1.3cm	10	11
MO22	Ⅰ	4号池状遺構埋土7層	鎹	残存長7.0cm　最大幅0.3cm　厚さ1.7mm　一端は欠損	14	14
MO23	Ⅰ	4号池状遺構埋土5層	帯状金具	残存長6.9cm　幅1.2cm　厚さ1.4mm　小孔1ヶ所あり	14	14
MO24	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土6～19（掘方）	不明	調度部品か　釘留めするような小孔2ヶ所あり	41	44
MO25	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土8層	刃物	残存長14.0cm　刃部厚さ25mm　柄部厚さ15mm　本製の柄付	48	50
MO26	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	刃物	残存長12.5cm　最大幅1.0cm　厚さ2.0mm	48	50
MO27	Ⅱb－Ⅲ	65号遺構埋土1層	鍋か	推定口径16.0cm　厚さ2.3mm	54	56
MO28	Ⅲ	20号遺構埋土1層	小柄か	幅1.9cm　厚さ3.2mm	56	58

表54　その他の遺物観察表
Tab.54　Notes on various implements at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	法量	特徴	図	図版
VA1	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	ボタン	径1.2cm 厚さ0.4cm	木製　山高型 2つ穴	11	11
VA2	Ⅰ	2号池状遺構埋土2層	装飾部品	長さ2.5cm 1.8cm 厚さ0.1cm	鞠甲製 2カ所に小孔あり 裏面に並行筋状の使用痕あり	11	11
VA3	Ⅰ	2号池状遺構埋土3層	ウリ科 ヒョウタン属	最大長17.1cm　最大幅10.9cm 厚さ0.2～0.3mmで不均質	第V章３参照	－	11
VA4	Ⅰ	2号池状遺構底面	茸	最大長103.0cm　最大幅50.2cm	第V章３参照４参照	－	12
VA5	Ⅰ	4号池状遺構埋土5層	銅代	最大長17.2cm　最大幅10.5cm	第V章４参照	－	15
VA6	Ⅰ－Ⅱb	26号遺構埋土2層	鉄滓	重さ226.8g		－	30
VA7	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸埋土3層	縄状繊維	最大径1.5mm　最大長2.6cm	第V章４参照	－	44
VA8	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土10層	眉遮具か	残存長2.5cm 幅1.0cm 厚さ0.1cm	鞠甲製 両面に金彩による装飾あり	48	49
VA9	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	種子の加工品	長さ2.2cm 幅1.5cm 厚さ1.2cm	モモの種子 小孔１カ所あり　種子の両端は切断されている 中空第V章２参照	48	49
VA10	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸埋土11層	ボタン	径1.4cm 厚さ0.3cm	木製　山高型　1つ穴?	48	49

表55　石器・石製品観察表
Tab.55 Notes on stone tools ond stone implements at BK14

登録番号	段階	出土場所	種類	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	器高(g)	特徴	図	図版
S1	Ⅰ	2号池状遺構 埋土1層	磨製石斧	砂岩	67	43	29	110.4	刃部は欠損し基部のみ残存　表裏・頂部に敲打痕 他は丁寧に磨かれる 側面は敲打によって整形、磨きなし 折れによる副次的な割れが裏面あり、表から裏への折れか	10	11
S2	Ⅰ	2号池状遺構 埋土1層	碁石	粘板岩	－	－	6.3	2.9	長径18.6　短径16.0	－	11
S3	Ⅰ	2号池状遺構 埋土2層	火打石	石英	25	19	10	3.3	頂点付近に重複した打撃痕・潰れ 裏面は剥離面で火打石本体からの剥離物か	10	11
S4	Ⅰ	2号池状遺構 埋土2層	火打石	石英	38	33.5	17	11.9	表面の縁辺から求心的剥離 裏面は結晶構造面残存	10	11
S5	Ⅰ	2号池状遺構 埋土2層	火打石	石英	18	17.5	15	3.4	火打石の欠片	10	11
S6	Ⅰ	2号池状遺構 埋土2層	紡錘車	凝灰岩	18	14.5	6	0.9	ドーナツ状の紡錘車 周縁に放射状の刻線 表面には整形時の不明瞭な削り痕あり	10	11
S7	Ⅰ	2号池状遺構 埋土2層	碁石	粘板岩	－	－	5.5	3.2	長径20.9　短径20.3	－	11
S9	Ⅰ	2号池状遺構 埋土3a層	砥石	砂岩	78	36	37	145.7	使用時に発生した剥離あり 下端は剥離後の研磨が観察される 欠損後も使用か	10	11
S10	Ⅰ	2号池状遺構 埋土4層	石鏃	凝灰岩	27	19.5	3	0.8	凹基 両面押圧剥離による整形 縁辺の形状・断面形ともに不規則 左の逆刺は破損 指標的な衝撃剥離ではない 整形時の破損の可能性あり	10	11
S11	Ⅰ	2号池状遺構 埋土4層	碁石	粘板岩	－	－	5.9	3.3	長径20.8　短径17.7	－	11
S12	Ⅰ	2号池状遺構 埋土5b層	砥石	砂岩	80	43	23.5	117.7	長方形状の両端が欠損 表面には長軸方向・斜行の擦痕 下端は砥面として利用か	10	11
S13	Ⅰ	2号池状遺構 埋土5a層	碁石	粘板岩	－	－	1.6	0.4		－	11
S14	Ⅰ	4号池状遺構 埋土7層	碁石	粘板岩	－	－	3.9	4.9	長径28.5　短径25.7	－	15
S15	Ⅰ	4号池状遺構 埋土8層	碁石	粘板岩	－	－	5.25	2.8	長径19.2　短径17.8	－	15
S16	Ⅰ	12号遺構 埋土6層	火打石	石英	30	30.5	23	21.9	不規則な剥離・節理面により構成 鋭角の縁辺・稜線上に集中的な打撃による細かな剥離・つぶれ 面 素材分割を示す剥離もある	16	17
S17	Ⅰ	39号遺構 埋土3層	碁石	粘板岩	－	－	6.2	2.2		－	19
S18	Ⅰ	42号遺構 埋土1層	碁石	粘板岩	－	－	4.9	3.8	長径26.0　短径19.5	－	20
S19	Ⅰ	3号溝 埋土2層	砥石	泥岩	50	49.5	11	29.9	表面の凹凸面に粗い擦痕 上下端は破損	18	22
S20	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 埋土2層	チップ	頁岩	10	9.5	3.5	0.2	背面に対向剥離、腹面の打点付近に剥離時に砕けた痕跡剥離後の二次加工なし	35	40
S21	Ⅰ－Ⅲ	1号井戸 埋土2層	火打石	石英	36	36.5	30	40.2	不規則な剥離面の多面体 稜線に多度の打撃による細かい剥離・つぶれ・摩滅　裏面は滅礫面を保持し、打つ・擦る動作を想定	35	40
S22	Ⅱa	5号溝 埋土1a層	硯	粘板岩	－	－	－	47.1		－	42
S23	Ⅱa	5号溝 埋土1b層	硯	粘板岩	153	64	22	225	陸部中央に使用による凹みあり 海部の端に墨跡あり 裏面には線刻文字（記号？）あり	39	42
S24	Ⅱa	5号溝 埋土1層	碁石	粘板岩	－	－	3	1.9	長径22.0　短径21.8	－	42
S25	Ⅱa－Ⅱb	9号遺構 埋土7層	石臼	安山岩	214	107	94	3430	下臼（雌臼）8分画に放射状刻線あり 側面受け皿部分は意図的に打ち欠いたか 側面と刻線面は強く磨滅 刻線内部は粉状の付着物残存　軸部の穴は正方形 第Ⅵ章6参照	40	43
S26	Ⅱa－Ⅱb	2号井戸 埋土3層	火打石	石英	20	16	6	1.5		41	44
S27	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 埋土6層	剥片	凝灰岩	18	32	5	2.6	長い縁辺両面に使用時の不規則な微細剥離痕	48	50
S28	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 埋土8層	火打石?	玉髄	24.5	23	16	9.2	裏面自然面 周縁・背面稜線上に打撃によるつぶれ・微細剥離	48	50
S29	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 埋土8層	碁石	粘板岩	－	－	2.9	0.7		－	50
S30	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 埋土11層	火打石?	石英	33	16.5	13	9.9	単晶六角柱形を呈す石英の自然結晶（水晶）を素材 底面・先端に意図的打ち欠き剥離	48	50
S31	Ⅱa－Ⅱb	6号井戸 埋土	火打石	石英	28	18	10.5	4.1	縁辺に打撃が繰り返され、両面に剥離痕 円形様から分割か	48	50
S32	Ⅱb	1号池状遺構 埋土2a層	硯	粘板岩	128	61	19	206.4	硯背に「高島上」の線刻　表面擦痕あり 裏面の中央部は凹みあり	50	52
S33	Ⅱb－Ⅲ	50号遺構 埋土1層	碁石	粘板岩	－	－	3.6	2.2	長径22.5　短径22.4	－	57
S8	Ⅲ	48号遺構 埋土3層	擦痕のある礫	安山岩	80.5	59	35	254.1	不明瞭な擦痕と摩滅痕	60	61
S34	Ⅲ	ピット280 埋土1層	火打石	石英	25	17	10.5	4.2	縁辺上に打撃痕・潰れあり	64	71
S35		基本層2b層	硯	粘板岩	56	53	19	75.6	硯面に製作時の削り痕 折れ面は再加工（削り？）され、 破損後も使用か　陸部半分は意図的に切断したか	67	74
S36		基本層1層	碁石	粘板岩	－	－	4	2.3	両面に僅かな擦痕　長径21.0　短径17.0	70	77
S37		基本層1層	硯	粘板岩	76	70	12	110.5	海部含む上半分が欠損 陸部に長軸と直行する擦痕・線条痕	70	77
S38		基本層1層	硯	粘板岩	124	65	20.5	315	陸部中央に擦痕・窪みあり 側面に直線的擦痕あり背面線刻「硯友堂　黒瀧清秀　忠臣義士卍巴　白菊哉」側面、池部、硯背に部分的に赤墨が残存	70	77
S39		基本層1層	碁石	粘板岩	－	－	5.9	4.9	長径24.5　短径22.0	－	77
S40		基本層1層	碁石	粘板岩	－	－	5.6	3.5	長径25.2　短径17.6	－	77

第Ⅵ章　分析

1．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した動物遺存体

丸山真史（東海大学）

（1）動物遺存体の概要

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14次調査において、380点以上の動物遺存体が出土している（表57）。それらのうち種類や部位などを同定したものは貝類11点、魚類116点、両生類13点、鳥類18点、哺乳類43点、計201点を数える（図71）。少量であるが、解体痕や被熱痕がみられるものも含まれる。これらが出土した遺構は、溝１条、池状遺構３基、井戸４基、廃棄土坑４基であり、調査中に肉眼で確認して取り上げたものと１mm目ないし３mm目のフルイを用いて遺構土壌の水洗選別を行って採集した資料である。

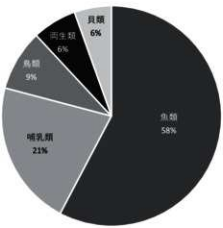


図71　動物遺存体の組成（N=201）
Fig.71 Assemblage of animal remains (N=201)

（2）遺構別の動物遺存体（図版78・79）

【３号溝】１mm目のフルイを用いて埋土１層の土壌の水洗選別を行ったが、種類が判明しなかった哺乳類の骨片が１点のみ出土している。

【１号池状遺構】貝類はホタテ（右）１点を同定した。このほか種類不明の巻貝、二枚貝の殻皮が多数出土している。哺乳類は完存するシカの脛骨（右）１点を同定し、最大長（GL）315.5mm、近位端最大幅（Bp）55.1mm、遠位端最大幅（Bd）37.9mm、骨幹部最小幅（SD）25.5mmを測る。

【２号池状遺構】貝類はアカニシ３点、マガキ（左１右１）２点、イタボガキ科１点、計６点を同定した。アカニシは体層が穿孔され、殻口付近が打ち割られたものが１点含まれている。これらのほか、種類不明の巻貝の蓋６点、イタボガキ科と思われる小片２点が出土している。魚類はマダイが最も多く、椎骨９点、歯骨（右）３点など、計21点を同定した。前頭骨には正中方向に真二つに切断されたものがある。いずれも体長30cm以上であり、30～40cm程度のものが多く、40～50cm、50～60cmと推定される個体が１点ずつある。また、30～40cmと推定される椎骨７点は同一個体と考えられるものが含まれており、そのなかの最も尾側にあたる尾椎は切断されている。タイ科の遊離歯と基後頭骨が１点ずつ、計２点を同定した。カツオの椎骨１点を同定し、体長50cm前後と推定される。マグロ族（マグロ属/カツオ属）の椎骨４点を同定し、うち３点はマグロ属に類似する。体長50cm以上で１mには満たないと推定される。カレイ科の椎骨４点を同定し、いずれも体長30～40cmと推定される。マダラの椎骨３点を同定し、いずれも体長60cm以上と推定される。これらのほかに、スズキ属、マダイ、マグロ属と思われるものが１点ずつ、さらに種類不明の骨片が28点出土している。両生類はカエル類の寛骨（左）、踵骨・距骨（左）、大腿骨？が１点ずつ、計３点が出土している。鳥類はカモ科が最も多く、尺骨（左２右２）４点、手根中手骨（右）、上腕骨（左１右１）、橈骨（左１右１）、手根中手骨（右）が２点ずつなど、計14点を同定した。いずれもマガモないしコガモに相当する大きさである。コガモに相当する大きさの７点のうち、左の上腕骨・橈骨・尺骨、右の橈骨・尺骨が同一個体、右の脛足根骨・足根中足骨が同一個体と考えられる。

表56　動物遺存体種名表
Tab.56 List of identified species

軟体動物門　Mollusca
腹足綱　Gastropoda
新腹足目　Neogastropoda
アッキガイ科　Muricidae
アカニシ　*Rapana venosa*
エゾバイ科　Buccinidae
エゾバイ科の一種　Buccinidae gen.et sp. indet.
斧足綱　Bivalvia
カキ目　Ostreoida
イタヤガイ科　Pectinidae
ホタテガイ　*Mizuhopecten yessoensis*
イタボガキ科　Ostreidae
マガキ　*Crassostrea gigas*
イタボガキ科の一種　Ostreidae gen. et sp. indet.
マルスダレガイ目　Veneroida
シジミ科　Corbiculidae
シジミ科の一種　Corbiculidae gen. et sp. indet.
脊椎動物門　Vertebrata
硬骨魚綱　Osteichthyes
ニシン目　Cluperiformes
ニシン科　Clupeidae
ニシン科の一種　Clupeidae gen. et sp. indet.
タラ目　Gadiformes
タラ科　Gadidae
マダラ　*Gadus macrocephalus*
スズキ目　Percidae
アジ科　Carangiae
アジ科の一種　Carangiae gen. et sp. indet.
タイ科　Sparidae
マダイ　*Pagrus major*
タイ科の一種　Sparidae gen. et sp. indet.
サバ科　Scombridae
ソウダガツオ属　*Auxis* sp.
カツオ　*Katsuwonus pelamis*
マグロ属の一種 *Thunnus* sp.
カレイ目　Pleuronectiformes
ヒラメ科　Bothidae
ヒラメ　*Paralichthys olivaceus*
カレイ科　Pleuronectidae
カレイ科の一種　Pleuronectidae gen. et sp. indet.
ウシノシタ科　Cynoglossidae
ウシノシタ科の一種　Cynoglossidae gen. et. sp. indet.
両生綱　Amphibia
無尾目　Anura
無尾目の一種　Anura fam., gen. et. sp. indet.
鳥綱　Aves
カモ目　Anseriformes
カモ科　Anatidae
カモ科の一種　Anatidae gen. et sp. indet.
キジ目　Galliformes
キジ科　Phasianidae
キジ科の一種　Phasianidae gen. et sp. indet.
哺乳綱　Mammalia
食虫目　Insectibora
モグラ科　Talpidae
モグラ属　*Mgera* sp.
齧歯目　Rodentia
ネズミ科　Muridae
ネズミ科の一種　Muridae gen. et sp. indet.
食肉目　Carnivora
イヌ科　Canidae
イヌ　*Canis familiaris*
奇蹄目　Perissodactyla
ウマ科　Equidae
ウマ　*Equus caballus*
偶蹄目　Artiodactyla
イノシシ科 Suidae
イノシシ *Sus scrofa*
シカ科　Cervidae
シカ　*Cervus nippon*

ニワトリを含むキジ科の足根中足骨（右）を１点同定し、巨突起がみられずメスと推定される。これらのほか、カモ科と思われる胸骨が１点、種類不明の脛足根骨（左）２点、橈合鎖骨１点が出土している。哺乳類はネズミ科が最も多く、遊離歯（上顎切歯２、下顎切歯１）３点、頭蓋骨（右上顎骨１、左側頭骨１）２点など、計９点を同定した。イノシシ/ブタの上腕骨（右）、シカの距骨（右）、モグラ属の上腕骨（右）が１点ずつ出土している。これらのほかに、種類不明の四肢骨の破片１点が出土している。

【４号池状遺構】魚類はマダイが最も多く、椎骨10点、角骨（左１右２）と主鰓蓋骨（左１右２）が３点ずつ、歯骨（左１右１）２点など、計25点を同定した。いずれも体長30cm以上であり、50～60cm程度と推定される個体が多く、正中線上で真二つに切断された前頭骨１点が含まれる。タイ科の椎骨17点、遊離歯８点、角舌骨（右）１点、計20点を同定した。遊離歯のうち２点は被熱して白色を呈し、椎骨１点は切断されている。マグロ属の椎骨５点を同定し、体長50cm以上と推定される。ニシン科の椎骨５点を同定し、いずれも体長20cm程度と推定される。マグロ族の前上顎骨/歯骨を２点同定したが、小片となっている。これらのほかに、マダイと思われる椎骨など４点、タイ科、ニシン科と思われる椎骨が１点ずつ、種類を特定できない椎骨17点、尾骨と擬鎖骨（左右

表57　遺構出土の動物遺存体
Tab.57 Identified species and parts from the sites

遺構	分類		部位	左	右	−
1号池	貝	ホタテ	殻質		1	
	哺	シカ	脛骨		1	
2号池	貝	アカニシ	殻質			3
		イタボガキ科	殻質			1
		マガキ	殻質	1	1	
	魚	マダラ	椎骨			3
		マダイ	上後頭骨			1
			前頭骨			2
			椎骨			9
			主上顎骨		2	
			前上顎骨	1		
			歯骨		3	
			角骨		1	
			舌顎骨	1		
			角舌骨	1		
		タイ科	基後頭骨			1
			遊離歯			1
		カツオ	椎骨			1
		マグロ族	椎骨			4
		カレイ科	椎骨			4
	両	カエル類	大腿骨？			1
			寛骨	1		
			踵骨・距骨	1		
	鳥	カモ科	胸骨			1
			烏口骨	1		
			上腕骨	1	1	
			橈骨	1	1	
			尺骨	2	2	
			手根中手骨		2	
			脛足根骨		1	
			足根中足骨		1	
		キジ科	足根中足骨		1	
	哺	モグラ属	上腕骨		1	
		ネズミ科	頭蓋骨	1	1	
			遊離歯	1	1	1
			仙椎			1
			上腕骨	1		
			寛骨	1		
			大腿骨		1	
		イノシシ/ブタ	上腕骨		1	
		シカ	距骨		1	
4号池	魚	ニシン科	椎骨			5
		マダイ	神経頭蓋			1
			上後頭骨			1
			前頭骨			1
			椎骨			10
			主上顎骨		1	
			前上顎/歯骨		1	
			歯骨	1	1	
			角骨	1	2	
			方骨	1		
			舌顎骨		1	
			主鰓蓋骨	1	2	
4号池	魚	タイ科	椎骨			17
			角舌骨		1	
			遊離歯			2
		マグロ属	椎骨			5
		マグロ族	前上顎/歯骨			2
	哺	ネズミ科	遊離歯	1		3
			肋骨		1	
			大腿骨	2	1	
			脛骨	2	2	
		イヌ	頭蓋骨	1		
		ウマ	遊離歯			1
		シカ	上腕骨		1	
			橈骨		1	
			寛骨		1	
1号井戸	貝	マガキ	殻質	1		
		シジミ科	殻皮			1
	魚	ヒラメ	歯骨		1	
			角骨	1		
		カレイ科	椎骨			2
	両	カエル類	椎骨			1
			仙骨			1
			上腕骨	2	1	
			脛腓骨			3
2号井戸	魚	ニシン科	椎骨			1
		アジ科	稜鱗			2
		マダイ	歯骨		2	
		マグロ族	椎骨			2
			主鰓蓋骨		1	
		ソウダガツオ属	椎骨			1
		カレイ科	踵骨			1
			椎骨			1
			尾骨			1
			角骨		1	
	両	カエル類	上腕骨	1		
			寛骨		1	
	鳥	カモ科	胸骨			1
			上腕骨	1		
		キジ科	大腿骨		1	
	哺	モグラ属	上腕骨		1	
		ネズミ科	頭蓋骨	1	1	
			椎骨			1
			大腿骨	1		
			踵骨	1		
5号井戸	魚	マダラ	椎骨			1
6号井戸	貝	エゾバイ科	殻質			1
		アカニシ	殻質			1
	魚	マダイ	主鰓蓋骨		1	
		カレイ科	椎骨			3
		ウシノシタ科	椎骨			2
	哺	ウマ	遊離歯			1
		シカ	脛骨		1	

貝：貝類、魚：魚類、両：両生類、鳥：鳥類、哺：哺乳類
2号池：2号池状遺構、4号池：4号池状遺構

不明）が２点ずつ出土している。哺乳類はネズミ科が最も多く、遊離歯（上顎切歯２、下顎切歯２）と脛骨（左２右２）が４点ずつ、大腿骨（左２右１）３点など、肋骨（右）１点、計12点を同定した。大腿骨３点、脛骨１点は骨端が癒合していない。シカの上腕骨（右）、橈骨（右）、寛骨（右）が１点ずつ、計３点を同定した。上腕骨と橈骨は同一個体と考えられる。ウマの遊離歯（下顎臼歯）とイヌの頭蓋骨（左側頭骨）１点ずつを同定した。これらのほかに、ネズミ科と思われる椎骨２点、下顎切歯１点、種類不明の四肢骨など５点が出土している。

【１号井戸】貝類はマガキ（左）とシジミ科１点ずつを同定した。これらのほかに、種類不明の殻皮が大量に出土している。魚類はヒラメの歯骨（右）と角骨（左）が１点ずつ、計２点を同定し、体長50～60cmと推定される。カレイ科の椎骨２点を同定した。これらのほかに、種類不明の椎骨３点や鱗や鰭棘が出土している。両生類はカエル類の上腕骨（左２右１）と脛腓骨３点ずつ、椎骨と仙骨１点ずつ、計８点を同定した。

【２号井戸】魚類はカレイ科が最も多く、鋤骨、角骨（右）、椎骨、尾骨が１点ずつ、計４点を同定し、いずれも体長30cm前後と推定される。マグロ族の椎骨２点、主鰓蓋骨（右）１点、計３点を同定した。主鰓蓋骨は体長50～60cm、椎骨は30cm前後と推定される。マダイの歯骨（右）２点を同定し、それぞれ体長40～50、50～60cmと推定される。アジ科の稜鱗２点を同定した。ソウダガツオ属の椎骨１点を同定し、体長30cm程度と推測される。ニシン科の椎骨１点を同定し、体長20cm以下と推定される。これらのほかに、マダイと思われる方骨１点、種類不明の基後頭骨？と椎骨が１点ずつ、鱗も出土している。両生類はカエル類の上腕骨（左）と寛骨（右）が１点ずつ、計２点を同定した。鳥類はカモ科の胸骨と上腕骨（左）が１点ずつ、計２点を同定し、いずれもマガモに相当する大きさである。上腕骨は近位端の骨頭が切断されている。キジ科の大腿骨（右）の切断された遠位端１点を同定し、最大幅（Bd）12.5mmを測る。哺乳類はネズミ科の頭蓋骨（上顎骨）２点、椎骨、大腿骨（左）、踵骨（左）が１点ずつ、計５点を同定した。モグラ属の上腕骨（右）を１点同定した。これらのほかに、ネズミ科/ヒミズ科と思われる大腿骨１点、種類不明の四肢骨１点が出土している。

【５号井戸】魚類はマダラの椎骨１点を同定し、体長50cm以上と推定される。哺乳類は種類不明の四肢骨１点が出土している。

【６号井戸】エゾバイ科とアカニシを１点ずつ同定した。エゾバイ科はヒメエゾボラに似る。これらのほか、アカニシ、ハマグリと思われるものが１点ずつ、種類不明の殻皮などが多数出土している。魚類はカレイ科の椎骨３点を同定し、１点は体長20～30cm、２点は40cm前後と推定される。ウシノシタ科の椎骨２点を同定し、体長30cm前後と推定される。マダイの主鰓蓋骨（右）１点を同定し、体長30～40cmと推定される。これらのほかに、種類不明の椎骨25点、鰭棘と擬鎖骨が１点ずつ出土している。鳥類は種類不明の椎骨２点、大腿骨１点が出土している。哺乳類はウマの遊離歯（下顎乳歯）とシカの脛骨（右）１点ずつを同定した。

【４号遺構】種類を特定できない魚類の椎骨１点と鱗が出土している。

【９号遺構】種類を特定できない哺乳類の四肢骨１点が出土している。

【14号遺構】種類を特定できない魚骨１点が出土しており、被熱して白色を呈する。

【66号遺構】種類が特定できない貝類の殻皮、魚類の椎骨と鰭棘が１点ずつ出土している。魚骨は被熱して白色を呈する。

【４区基本層】イノシシ/ブタの遊離歯（上顎左P４－M３、右M３）５点が出土している。

（３）動物利用の特徴

当調査では、少なくとも貝類５種類、魚類10種類、両生類１種類、鳥類２種類、哺乳類６種類が出土している。カエル類、モグラ属、ネズミ科、ウマは食用となったか定かではないが、その他の大部分は食料残滓と考えられる。魚類は海産物ばかりであり、マダイが42％を占めている（図72）。マダイは骨が大きく、堅いことから、肉食動物の食害から免れたことも考えられるが、消費量が多かったことに違いはないであろう。正中線で切断され

た前頭骨があり、「兜割り」されたマダイの頭部も潮煮などに利用されたのであろう。カツオ、マグロ属、ソウダガツオ属といった回遊魚や、マダラ、ヒラメ、カレイ科、ウシノシタ科といった底魚もあり、近海での漁業の多様性がみられる。鳥獣類も一定量が出土しているが、ネズミ科が多くを占める。食用としてはカモ科、キジ科、シカ、イノシシ/ブタである。2号池状遺構では、同一個体のカモ科の骨格部位が、4号池状遺構では同一個体のシカの骨格部位が出土している。このことは、完全に骨になった状態ではなく、ある程度の軟部組織が残った状態であったことが想定される。これらの池状遺構には、魚貝類の小さな生ゴミだけでなく、大きな生ゴミを捨てていたことがわかる。ネズミ科は、骨端部が癒合していない成長過程の個体がみられるが、大きな個体であることからクマネズミやドブネズミなどの可能性がある。哺乳類のなかで破片数が多いネズミ科は、生ゴミを目当てに池状遺構周辺にきた可能性もある。しかし、2号井戸でも食料残滓とともにネズミ科が出土しており、その場で絶命したものとは考えにくく、屋敷内で駆除されたものが池状遺構や井戸に投棄されたと考える方が自然であろう。6号井戸からウマの乳歯が出土しており、屋敷地内で仔馬を飼育していた可能性を示唆する。

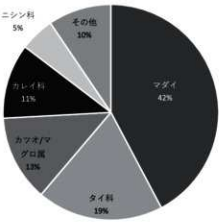


図72　魚類組成（N=116）
Fig.72 Assemblage of fish remains (N=116)

（4）まとめ

当調査では、380点以上の動物遺存体が出土し、約半数の201点について種類や部位などを同定することができた。魚類、哺乳類が多く、そのほかに鳥類、両生類、貝類を確認した。魚貝類や鳥獣類の一部は食料残滓と考えられ、主として17世紀代の武家屋敷における食生活を垣間見る資料として有意義である。しかし、これらが、どのような食事の場で消費されたものか具体的なことは明らかでなく、今後、共伴遺物との関連をみることにより解釈を深める必要がある。また、最終的にゴミ捨て場として利用された2号および4号池状遺構には、生ゴミとしては大きな鳥獣類が投棄されており、西側に位置する建物群との関係も興味深い。

表58　動物遺存体観察表（1）
Tab.58 Notes on animal remains（1）

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
20		骨等	2号池状遺構	埋土2層	1mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	上顎切歯	左	
21	1	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
21	2	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	1mm	両生綱	カエル類	踵骨・距骨		左	
21	3	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	1mm	両生綱	カエル類	大腿骨？		左？	
22		骨等	2号池状遺構	埋土4層	1mm	硬骨魚綱	不明	肩甲骨？		－	
23		骨等	2号池状遺構	埋土5a層	1mm	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯		－	
25	1	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	斧足綱	イタボガキ科	殻質		－	
25	2	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	腹足綱	不明	蓋		－	
25	3	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	腹足綱	不明	蓋		－	
25	4	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	腹足綱	不明	蓋		－	
25	5	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	鰭棘	棘条部	－	
25	6	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主上顎骨		右	
25	7	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
25	8	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	舌顎骨		左	
25	9	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ？	前頭骨？		－	
25	10	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎	－	
25	11	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	カワヨ	椎骨	尾椎	－	
25	12	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	第1腹椎	－	
25	13	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	腹椎	－	
25	14	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
25	15	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
25	16	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
25	17	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎	－	被熱（白色）
25	18	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
25	19	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
25	20	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
25	21	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
25	22	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
25	23	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
25	24	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	硬骨魚綱	不明	不明		－	
25	25	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	鳥綱	不明	脛足根骨	骨幹部	左	
25	26	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	鳥綱	不明	脛足根骨	骨幹部	左	
25	27	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	側頭骨	左	
25	28	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	上顎切歯	右	
25	29	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	仙椎		－	
25	30	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	上腕骨	骨幹部－遠位端	左	
25	31	骨等	2号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	ほぼ完形	右	u(d)
26	1	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	両生綱	カエル類	寛骨		左	
26	2	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右半分	－	
26	3	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主上顎骨		右	
26	4	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	基後頭骨		－	
26	5	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
26	6	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
26	7	骨等	2号池状遺構	埋土3a層	3mm	鳥綱	カモ科	手根中手骨		右	
27	1	骨等	2号池状遺構	埋土3b層	3mm	硬骨魚綱	不明	肩甲骨		左	
27	2	骨等	2号池状遺構	埋土3b層	3mm	硬骨魚綱	不明	尾骨		－	
28		骨等	2号池状遺構	埋土4層	3mm	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	椎骨	尾椎	－	
29	1	骨等	2号池状遺構	埋土5a層	3mm	硬骨魚綱	不明	不明		－	
30	1	骨等	2号池状遺構	埋土5層？	3mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	下顎切歯	－	
30	2	骨等	2号池状遺構	埋土5層？	3mm	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨	右	
68	1	骨等	4号池状遺構	埋土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	腹椎	－	
68	2	骨等	4号池状遺構	埋土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	－	
68	3	骨等	4号池状遺構	埋土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	－	
68	4	骨等	4号池状遺構	埋土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	－	
68	5	骨等	4号池状遺構	埋土2層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	－	
68	6	骨等	4号池状遺構	埋土2層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
71	1	骨等	4号池状遺構	埋土5層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
71	2	骨等	4号池状遺構	埋土5層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	被熱（白色）
72	1	骨等	4号池状遺構	埋土7層	1mm	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯		－	3点
72	2	骨等	4号池状遺構	埋土7層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎	－	被熱（白色）
73	1	骨等	4号池状遺構	埋土8層	1mm	硬骨魚綱	タイ科	遊離歯		－	3点，うち2点被熱（白色）
73	2	骨等	4号池状遺構	埋土8層	1mm	硬骨魚綱	ニシン科？	椎骨	尾椎	－	

表59　動物遺存体観察表（2）
Tab.59 Notes on animal remains（2）

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
73	3	骨等	4号池状遺構	埋土8層	1mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
73	4	骨等	4号池状遺構	埋土8層	1mm	哺乳綱	ネズミ科	肋骨		右	
73	5	骨等	4号池状遺構	埋土8層	1mm	哺乳綱	齧歯目	遊離歯	下顎切歯	－	
74		骨等	4号池状遺構	埋土8層	1mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	下顎切歯	左	
75	1	骨等	4号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	骨幹部－遠位端	左	ul(d)
75	2	骨等	4号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	脛骨	近位部－遠位部	左	
75	3	骨等	4号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	脛骨	近位部－骨幹部	右	
75	4	骨等	4号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科？	椎骨	尾椎	－	
75	5	骨等	4号池状遺構	埋土2層	3mm	哺乳綱	ネズミ科？	椎骨	尾椎	－	
76	1	骨等	4号池状遺構	埋土3層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	脛骨	近位部－遠位部	左	
76	2	骨等	4号池状遺構	埋土3層	3mm	硬骨魚綱	マダロ族	前上顎骨/歯骨		－	
77	1	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
77	2	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	角舌骨		右	
77	3	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	上顎切歯	左？	
77	4	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	上顎切歯	左？	
77	5	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	遊離歯	下顎切歯	右？	
77	6	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	擬鎖骨		－	
77	7	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	不明		－	調理痕あり
77	8	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
77	9	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
77	10	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
77	11	骨等	4号池状遺構	埋土5層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
78	1	骨等	4号池状遺構	埋土6層	3mm	哺乳綱	ウマ	遊離歯	下顎臼歯	－	
78	2	骨等	4号池状遺構	埋土6層	3mm	哺乳綱	不明	不明	骨幹部	－	
79	1	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	鰓蓋骨		－	
79	2	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨/歯骨		右	
79	3	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		左	
79	4	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	角骨		左	
79	5	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	角骨		右	
79	6	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	方骨		左	
79	7	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	舌顎骨		右	
79	8	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主鰓蓋骨		左	
79	9	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主鰓蓋骨		右	
79	10	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ	主鰓蓋骨		右	
79	11	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ？	方骨		左	
79	12	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダイ？	肩甲骨		右	
79	13	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	－	
79	14	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	－	
79	15	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	－	
79	16	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎	－	
79	17	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
79	18	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
79	19	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
79	20	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
79	21	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾部棒状骨	－	
79	22	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
79	23	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
79	24	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
79	25	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
79	26	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	擬鎖骨		－	
79	27	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	下尾骨		－	
79	28	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	不明	尾骨		－	
79	29	骨等	4号池状遺構	埋土7層	3mm	硬骨魚綱	マダロ族	前上顎骨/歯骨		－	
80		骨等	4号池状遺構	埋土8層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	近位部－遠位部	右	ul(p,d)
81	1	骨等	4号池状遺構	埋土8層	3mm	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	近位部－遠位部	左	ul(p,d)
81	2	骨等	4号池状遺構	埋土8層	3mm	硬骨魚綱？	不明	不明		－	
98		鱗	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	腹足綱	不明	蓋		－	
119		鱗	2号池状遺構	埋土3層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	不明	鱗		－	多数
120		鱗	2号池状遺構	埋土3b層	水洗篩時回収	腹足綱	不明	蓋		－	
204		鱗?	4号遺構	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鱗		－	
205		鱗?	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鱗		－	
207		鱗?	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鱗		－	
168		貝	1号池状遺構	埋土2a層	1mm相当	腹足綱	不明	殻軸		－	

表60　動物遺存体観察表（3）
Tab.60 Notes on animal remains（3）

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
169		貝	1号池状遺構	埋土2b層	1mm相当	斧足綱？	不明	殻皮・殻質	小片	－	
170		貝	1号池状遺構	埋土2層	1mm相当	腹足綱	不明	殻皮・殻質	小片	－	
171		貝	1号池状遺構	埋土2層	1mm相当	斧足綱？	不明	殻皮・殻質	小片	－	
172		貝	2号池状遺構	埋土2層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
173		貝	2号池状遺構	埋土2層	1mm相当	斧足綱	イタボガキ科？	殻質	小片	－	
174		貝	2号池状遺構	埋土3層	1mm相当	斧足綱/斧足綱	イタボガキ科？	殻質	小片	－	
175		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
176		貝	66号遺構	埋土4層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
177		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
178		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
179		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
180		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
181		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
182		貝	1号井戸	埋土3層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
183		貝	1号井戸	埋土2層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
184		貝	基本層	1層	1mm相当	腹足綱	アカニシ？	殻質	小片	－	
185		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
186		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
187		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
188		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
189		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
190		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
192		貝	6号井戸	埋土	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
193		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
194		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
195		貝	6号井戸	埋土8層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
196		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
197		貝	6号井戸	埋土9層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
198		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
199		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
200		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱	不明	殻質	殻軸	－	
201		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻皮	小片	－	
202		貝	6号井戸	埋土11層	1mm相当	腹足綱/斧足綱	不明	殻質	小片	－	
208		貝	1号井戸	埋土3層		斧足綱	シジミ科	殻皮		－	多数
209		貝	1号井戸	埋土3層		斧足綱	マガキ	殻質	殻体	左	
210		貝	6号井戸	埋土9層		斧足綱？	ハマグリ？	殻皮		－	
212		貝	6号井戸	埋土9層		腹足綱	エゾバイ科	殻質	殻軸・殻体	－	ヒメエゾボラに似る
213		貝	6号井戸	埋土11層		腹足綱	アカニシ？	殻質	殻軸	－	
214		貝	6号井戸	埋土11層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	－	
215		貝	1号池状遺構	埋土2a層		斧足綱	ホタテ	殻質	殻体	右	
216	1	貝	2号池状遺構	埋土2層		斧足綱	マガキ	殻質	殻体	左	
216	2	貝	2号池状遺構	埋土2層		斧足綱	マガキ	殻質	殻体	右	
217		貝	2号池状遺構	埋土5b層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	－	
218		貝	2号池状遺構	埋土5－6層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	－	
219		貝	2号池状遺構	埋土5a層		腹足綱	アカニシ	殻質	殻軸・殻体	－	
211		貝?骨?	14号遺構	埋土		硬骨魚綱	不明	不明	細片	－	被熱（白色）
91		骨	1号池状遺構	埋土2層下		哺乳綱	シカ	脛骨	ほぼ完形	右	
92	1	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
92	2	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	不明	椎軸	棘条部	－	
92	3	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	不明	不明		－	
93		骨	2号池状遺構	埋土2層		哺乳綱	イノシシ/ブタ	上腕骨	近位部－遠位端	右	
94		骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	哺乳綱	ネズミ科	寛骨	腸骨－座骨	左	
95		骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	カモ科	肩甲骨		左	
96	1	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	前上顎骨		左	
96	2	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	カモ科	手根中手骨	ほぼ完形	右	
96	3	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	遠位	左	
96	4	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	カモ科	胸骨		－	
96	5	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	カモ科？	胸骨	下位部	－	
96	6	骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部－遠位端	－	
97		骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	ニワトリ？	足根中足骨		右	キジ科、メス？
101	1	骨・貝	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	腹足綱	不明	蓋		－	
101	2	骨・貝	2号池状遺構	埋土2層	水洗篩時回収	鳥綱	不明	座骨鎖骨		－	

表61　動物遺存体観察表（4）
Tab.61 Notes on animal remains（4）

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
100		骨	2号池状遺構	埋土2層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	尾骨		－	
102	1	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎	－	
102	2	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	切断（垂直方向）
102	3	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
102	4	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
102	5	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	下尾骨		－	
103	1	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	－	
103	2	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	－	
103	3	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
103	4	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
103	5	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
103	6	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
103	7	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
103	8	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	切断
103	9	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨		－	切断（1/2完預）
103	10	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	角骨		右	
103	11	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	角舌骨		左	
103	12	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
103	13	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	哺乳綱	モグラ属	上腕骨		右	
103	14	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	擬鎖骨		－	
104	1	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	ほぼ完形	右	同一個体
104	2	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	橈骨	ほぼ完形	右	同一個体
104	3	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	橈骨	ほぼ完形	左	同一個体
105	1	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	上腕骨	骨幹部－遠位端	左	同一個体
105	2	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	ほぼ完形	左	同一個体
105	3	骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	脛足根骨	遠位	右	同一個体
106		骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	足根中足骨	ほぼ完形	右	同一個体
107		骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨		－	側頭部付近もあり
108		骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	不明		－	
109		骨	2号池状遺構	埋土3層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎	－	
110		骨	2号池状遺構	埋土3b層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位	右	
111		骨	2号池状遺構	埋土4層	水洗識時回収	哺乳綱	シカ	距骨		右	
112		骨	2号池状遺構	埋土4層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	肋骨？		－	
113		骨	2号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	鳥綱	カモ科	尺骨	骨幹部－遠位端	右	
114	1	骨	2号池状遺構	埋土5a層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	椎骨	尾椎	－	マグロ属に似る
114	2	骨	2号池状遺構	埋土5a層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	椎骨	尾椎	－	マグロ属に似る
115	1	骨	2号池状遺構	埋土5a層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ属？	椎骨	尾椎	－	
115	2	骨	2号池状遺構	埋土5a層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	鰭条骨		－	
116	1	骨	2号池状遺構	埋土5b層	水洗識時回収	硬骨魚綱	スズキ属？	椎骨	尾椎	－	
116	2	骨	2号池状遺構	埋土5b層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	椎骨	尾椎	－	マグロ属に似る
121		骨	4号池状遺構	埋土1層		哺乳綱	不明	不明		－	
122		骨	4号池状遺構	埋土2層		哺乳綱	イヌ	頭蓋骨	側頭骨	左	
123	1	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	哺乳綱	不明	不明	細片	－	
123	2	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	不明	小片	－	
124		骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	哺乳綱	シカ	上腕骨	骨幹部－遠位端	右	134と同一個体
125	1	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	前頭骨	右側	－	切断(1/2)完預
125	2	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科？	椎骨	腹椎？	－	
126	1	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ属	椎骨	尾椎	－	
126	2	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
126	3	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
127	1	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ属	椎骨	尾椎	－	
127	2	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	腹椎？	－	
127	3	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
127	4	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
127	5	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎？	－	
127	6	骨	4号池状遺構	埋土5層	水洗識時回収	哺乳綱	不明	四肢骨	骨幹部－遠位端	－	
128	1	骨	4号池状遺構	埋土5層		哺乳綱	シカ	寛骨	ほぼ完形	右	
129	1	骨	4号池状遺構	埋土6層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マダイ	上後頭骨		－	
129	2	骨	4号池状遺構	埋土6層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ属	椎骨	尾椎	－	
130	1	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ属	椎骨	尾椎	－	
130	2	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗識時回収	硬骨魚綱	マグロ属	椎骨	尾椎	－	
130	3	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗識時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	

表62　動物遺存体観察表（5）
Tab.62 Notes on animal remains（5）

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
130	4	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ？	椎骨	腹椎？	－	
130	5	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ？	椎骨	第一腹椎	－	
131	1	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	第一腹椎	－	
131	2	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	－	
131	3	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	－	
131	4	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	－	
131	5	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	腹椎	－	
131	6	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
131	7	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
131	8	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
131	9	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
131	10	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	椎骨	尾椎	－	
131	11	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
131	12	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
131	13	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	
132	1	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	主上顎骨		右	
132	2	骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
133		骨	4号池状遺構	埋土7層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	マダイ	角骨		右	
134		骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗篩時回収	哺乳綱	シカ	橈骨	近位端－骨幹部	右	124と同一個体
136		骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗篩時回収	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	－	
137		骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗篩時回収	硬骨魚綱	タイ科	椎骨	尾椎	－	
139		骨	4号池状遺構	埋土8層	水洗篩時回収	哺乳綱	ネズミ科	脛骨	近位部－遠位端	右	cut(p)
140		骨	3号溝	埋土1層	1mm相当	哺乳綱	不明	不明		－	
141	1	骨	6号井戸	埋土	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
141	2	骨	6号井戸	埋土	1mm相当	哺乳綱	不明	不明		－	
142		骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	第１腹椎	－	
143		骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	被熱（白色）
144		骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	鳥綱	不明	椎骨	頸椎	－	
145		骨	6号井戸	埋土8層	1mm相当	哺乳綱	ウマ	遊離歯	dP3/dP4	－	
146	1	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ	主鰓蓋骨		右	
146	2	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	腹椎	－	
146	3	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
146	4	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
147	1	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	ウシノシタ科	椎骨	尾椎	－	
147	3	骨	6号井戸	埋土9層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鰭條	鰭条部	－	
148		骨?	6号井戸	埋土11層	1mm相当	鳥綱	不明	椎骨		－	
149	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
149	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
149	3	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
149	4	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
150	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
150	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
151		骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	哺乳綱	シカ	脛骨		右	
152	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
152	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	哺乳綱	不明	不明		－	
153	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	腹椎	－	
153	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
153	3	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
153	4	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
153	5	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
153	6	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	擬鎖骨		－	
153	7	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	鳥綱	不明	大腿骨	遠位部	左	cutmark
154	1	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	ウシノシタ科	椎骨	尾椎	－	
154	2	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	被熱（白色）
154	3	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	被熱（白色）
154	4	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
154	5	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
154	6	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
154	7	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
154	8	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
154	9	骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
155		骨	6号井戸	埋土11層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
156		骨	4号遺構	埋土8層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	

表63　動物遺存体観察表（6）
Tab.63 Notes on animal remains（6）

番号	枝番	種別	遺構	土層	メッシュ枠	大分類	小分類	部位	部分	左右	備考
157		骨	9号遺構	埋土7層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	－	
159		骨	1号井戸	埋土2層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	近位部－遠位端	左	
160	1	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ヒラメ	歯骨		右	
160	2	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ヒラメ	角骨		左	
160	3	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鰭棘	棘条部	－	
160	4	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鰭棘	棘条部	－	
160	5	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	近位部－遠位端	左	
160	6	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	近位部－遠位端	右	
160	7	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	脛腓骨	骨幹部	－	
160	8	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	脛腓骨	骨幹部	－	
160	9	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	脛腓骨		－	
160	10	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	仙骨		－	
160	11	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	椎骨	腰椎	－	
160	12	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
160	13	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
160	14	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
160	15	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	
160	16	骨	1号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	尾椎	－	被熱（白色）
161		骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	鳥綱	カモ科	上腕骨	近位端－骨幹部	左	近位端骨頭を切断
162		骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
163	1	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	上腕骨	骨幹部－遠位端	左	
163	2	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	両生綱	カエル類	寛骨		右	
163	3	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	モグラ属	上腕骨		右	
163	4	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	椎骨	腰椎	－	
163	5	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	大腿骨	近位部－遠位部	左	ufl(p,d)
163	6	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	踵骨		左	
163	7	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨	左	
163	8	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	ネズミ科	頭蓋骨	上顎骨	右	
163	10	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	－	
163	11	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ	歯骨		右	
163	12	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	アジ科	稜鱗		－	
163	13	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	アジ科	稜鱗		－	
163	14	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マダイ？	方骨		左	
163	15	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	主鰓蓋骨		右	
163	16	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	鋤骨		－	
163	17	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	角骨		右	
163	18	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	尾骨		－	
163	19	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	基後頭骨？		－	被熱（白色）
163	20	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ソウダガツオ属	椎骨	尾椎	－	
163	21	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	カレイ科	椎骨	尾椎	－	
163	22	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	椎骨	尾椎	－	
163	23	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	マグロ/カツオ	椎骨	尾椎	－	
163	24	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	ニシン科	椎骨	尾椎	－	
163	25	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	鳥綱	カモ科	胸骨		－	
163	26	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	鳥綱	キジ科	大腿骨	遠位端	右	切断
163	27	骨	2号井戸	埋土3層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨		－	多数あり
164		骨	5号井戸	埋土4層		哺乳綱	イノシシ/シカ	四肢骨	骨幹部	－	
165		骨	5号井戸	埋土1層	1mm相当	硬骨魚綱	マダラ	椎骨	腹椎/尾椎	－	
166	1	骨	66号遺構	埋土4層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	椎骨	腹椎/尾椎	－	小型,被熱（白色）
166	2	骨	66号遺構	埋土4層	1mm相当	硬骨魚綱	不明	鰭棘	棘条部	－	小型,被熱（白色）
167	1	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎P4	左	同一個体
167	2	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M1	左	同一個体
167	3	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M2	左	同一個体
167	4	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M3	左	同一個体
167	5	骨	4区基本層	1層	1mm相当	哺乳綱	イノシシ/ブタ	遊離歯	上顎M3	右	同一個体

2．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した大型植物遺体

吉川純子（古代の森研究舎）

仙台城は仙台市青葉区川内及び荒巻に所在し幕末まで仙台藩の中枢として機能していた近世城郭である。二の丸北方武家屋敷地区は本丸の北西側に位置しており第14地点では井戸や池状遺構が確認され、遺構の堆積物から遺物とともに多くの大型植物遺体が検出されたことから分析をおこなった。

（1）試料と分析方法

分析に供された試料はすべて担当者により水洗篩い分けされ選別された状態で、井戸遺構が４遺構11試料、池状遺構が４遺構22試料、用途不明遺構が７遺構７試料である。試料は肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察しながら同定可能な植物部位を分類群毎に分け、部位別に出土個数を計数した。なお、出土数が膨大な分類群は乾燥重量から個数を換算した。以下に簡単な遺構の記載をおこなう。

【井戸遺構】 １号井戸は桶枠で発掘は桶１段目までで底部までの完掘はされていない。分析に供した堆積物は埋没完了に近い19世紀中葉とみられ、埋土１層、２層、３層の３試料である。２号井戸は桶枠で発掘は桶１段目までで完掘はされていない。分析に供した堆積物は掘り方の遺物から18世紀とみられ、埋土３層の１試料である。５号井戸は石組みで完掘はされておらず、17世紀初頭～後葉の遺物を出土した埋土３層と埋土４層の２試料を分析した。６号井戸は素掘り円形井戸で完掘はされておらず埋土10層から18世紀の遺物が確認されている。分析は埋土６層、８層、９層、10層、11層の５試料である。

【池状遺構】 １号池状遺構は重複関係や遺物から18世紀中葉とみられ近代に埋没したと考えられている大型の遺構で石列や樹根跡のような孔が確認されている。分析は埋土１層、２a層、２b層の３試料である。２号池状遺構は高低差や排水部、土手のような区切りがある大型の池状遺構で、遺物から17世紀には機能していたとみられ土留めのような筵状敷物も確認されている。分析は埋土１層、２層、３a層、３b層、４層、５a層、５b層、５c層の８試料である。３号池状遺構は18世紀前半とみられ、高低差をもって４号池状遺構と接続し南側の４号池状遺構から水が流れ込んでいたとみられる。分析は埋土１層と４層の２試料である。４号池状遺構は構築時期が17世紀代とみられる大型の池状遺構で次段階に３号池状遺構と接続したとみられる。分析は埋土１層、２層、３層、４層、５層、６層、７層、８層の８試料である。

【用途不明遺構】 ４号遺構は18世紀末葉～19世紀初頭の円形の遺構で堆積物に炭化物が多く、埋土８層を分析に供した。９号遺構は18世紀代とみられ炭化物を含んでいて、埋土７層を分析に供した。15号遺構は17世紀後葉～18世紀とされる長方形の遺構で、埋土１層を分析に供した。18号遺構は18世紀前葉～中葉とされ、１号池状遺構の一部である可能性も想定される遺構で、埋土２層を分析に供した。31号遺構は19世紀前葉～中葉の、溝の可能性もある遺構で炭化物が含まれていたが、分析に供された試料は植物種実ではなく鉄滓のような金属の塊であったため表からは省かれている。40号遺構は16世紀末葉の池状遺構との関連性も想定されるやや大型の長方形遺構で、分析に供した試料は埋土２層である。66号遺構は19世紀前葉～中葉とされる長方形の遺構で堆積物には炭化物が混じる。分析は埋土４層の試料である。

（2）出土した大型植物遺体（図版80～82）

それぞれの遺構から出土した層位毎の大型植物遺体を分類群・部位別に表に示した。表64・65は井戸遺構、表66・67は池状遺構、表68は用途不明遺構となっている。表中の数字は基本的には完形種実の個数であるが、意図的に破壊しないと割片が生成されないような種実の破片等は項目を分けて示している。その他の破片はカッコ内

表64　井戸遺構出土大型植物遺体（木本）
Tab.64 Plant macrofossils excavated from wells（woody plant）

分類群名	遺構 出土部位/層位	1号井戸内部 埋土1	埋土2	埋土3	2号炉内部 埋土3	5号井戸掘方 埋土3	埋土4	6号井戸 埋土6	埋土8	埋土11	埋土9	埋土10
木本												
モミ属	種鱗及び苞鱗	–	–	–	–	–	–	–	3	152	–	1
	種子	–	1	–	–	–	–	–	2	61	–	–
	葉	–	–	–	–	–	–	–	98	116	–	–
クロマツ	球果	–	–	–	–	–	–	–	1	6	–	1
	種鱗	–	–	–	–	–	–	–	7	–	–	–
マツ属複維管束亜属	風化球果	–	1	–	–	–	–	–	–	1	–	–
	種鱗	–	–	–	–	–	–	–	–	27	–	2
	雌花	–	5	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	種子	–	2	–	–	–	–	–	–	1	–	–
	葉	–	–	–	–	–	–	–	78	47	–	12
スギ	球果	–	1	3	3	–	–	–	302	61	–	5
	雌花	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–
	種子	–	2	2	–	–	–	–	23	10	–	–
サワラ	球果	–	–	–	–	–	–	–	10150	18900	85	1560
	種子	–	–	–	–	–	–	–	960	100+	8	120
	小枝	–	–	–	–	–	–	–	51	15	–	15
アスナロ属	小枝	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
カヤ	種子	–	(2)	1	–	–	–	–	–	(9)	–	(3)
ヤマブドウ	種子	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–	4
ブドウ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	1
ブドウ属	種子	–	–	–	1	–	–	–	2	1	–	–
ノブドウ	種子	–	4150	9640	1	–	–	–	4	149	–	–
フジ	さや	–	–	–	–	–	–	–	12	2 (28)	–	1 (1)
フジ属	葉	–	2	4	–	–	–	–	2	–	–	–
	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
カマツカ近似種	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	16	–	–
	枝	–	–	–	–	–	–	–	–	11	–	–
モモ	核完形	–	1	2	–	–	–	–	4	8	–	2
	核完形食痕	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–
	核半分及び破片	1	5	1	3	–	–	–	11	12	–	–
	核加工品	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
ウメ	核完形	–	18	13	3	–	–	–	3	–	–	4
	核完形食痕	–	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–
	核完形風化	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
	核半分及び破片	–	24	30	3	–	–	–	7	–	–	6
アンズ	核	–	–	1	–	–	–	–	3	–	–	–
スモモ	核完形	–	1	–	–	–	–	–	–	7	–	–
	核半分及び破片	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–
サクラ属サクラ節	核	–	12	–	2	–	–	–	8	54	–	5
ケヤキ	果実	–	–	2	–	–	–	–	–	2	–	–
エノキ	内果皮	–	2	3	–	–	–	–	1	3	–	–
クリ	果皮	–	(10)	(10)	(1)	–	–	–	(12)	(30)	–	1 (1)
コナラ	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1
ミズナラ	幼果	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
コナラ属	果実基部	–	–	–	–	–	–	–	1	3	–	–
ブナ科	果皮	–	–	–	–	–	–	–	(3)	–	–	–
オニグルミ	内果皮完形	–	5	5	–	–	–	–	–	–	–	–
	内果皮完形食痕	–	2	2	–	–	–	–	–	–	–	–
	内果皮半分	–	–	3	–	–	1	–	–	4	–	–
	内果皮半分食痕	–	2	–	–	–	–	–	–	–	–	–
	内果皮半分割痕及び焦げ	–	18	10	–	–	–	–	1	2	–	2
	内果皮破片	–	57	65	6	–	–	–	7	10	–	1
ヒメグルミ	内果皮半分割痕及び焦げ	–	1	1	–	–	–	–	–	–	–	–
イヌシデ	果実	–	–	–	–	–	–	–	3	4	–	1
ツノハシバミ	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	(1)	–	(1)
アサダ	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
ハンノキ	果実	–	2	4	–	–	–	–	–	–	–	–
ミツバウツギ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
ウルシ属	炭化内果皮	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	1
リュウガン	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	(1)	–	–
カエデ属	果実	–	1	4	–	–	–	–	12	25	–	6
サンショウ	内果皮	–	314	696	6	–	–	–	105	137	–	25
	果実外果皮残	–	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–
	内果皮半分及び破片	–	250	415	3	–	–	–	–	106	–	25
ニガキ	種子	–	–	–	–	–	–	–	9	–	–	–
ミズキ	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	3	31	–	1 (4)
クマノミズキ	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	5	10	–	4 (8)
カキノメ属	種子	–	–	2	–	–	–	–	–	8	–	–
ヤブツバキ	種子	–	–	–	–	–	–	1	(2)	–	–	–
チャノキ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	(4)	–	–
エゴノキ	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	–	2 (1)	–	–
ガマズミ属	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	5	5	–	–
ニワトコ	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–

表65　井戸遺構出土大型植物遺体（草本）
Tab.65 Plant macrofossils excavated from wells（herbaceous plant）

分類群名	遺構 出土部位/層位	1号井戸内部 埋土1	埋土2	埋土3	2号井戸内部 埋土3	5号井戸掘方 埋土3	埋土4		6号井戸 埋土6	埋土8	埋土11	埋土9	埋土10
草本													
コウホネ	種子	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–
サルトリイバラ近似種	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	20	–	–	–
アヤメ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	46	–	–	1
ツユクサ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
イネ	穎	–	–	–	–	–	–	–	–	1 (1)	–	–	–
	炭化穎果	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	–	(1)
	炭化胚乳	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	1
	炭化胚乳焼膨	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	–
オオムギ	炭化種子	–	–	–	–	–	–	–	2	10	–	–	–
コムギ	炭化種子	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
アオナツブラフジ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	11	–	–	–
ササゲ属	炭化種子	–	–	1	–	–	–	–	–	1	–	–	–
ダイズ属	炭化種子	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
アサ	種子	–	–	–	1 (7)	–	–	–	–	–	–	–	–
カナムグラ	果実	–	–	–	–	–	–	–	52	90	–	–	87
カラハナソウ	果実	–	–	–	–	–	–	–	64	41	–	–	55
キュウリ属メロン仲間	種子	–	1	–	3	–	–	–	12	26	–	–	4
スズメウリ	種子	–	–	–	–	–	–	–	1	1	–	–	–
カボチャ	種子	–	–	86	7	–	–	–	–	2	–	–	–
カタバミ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
ヤナギタデ	果実	–	1	–	–	–	–	–	–	4	–	–	1
オオケタデ	果実	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–	–	–
ハナタデ近似種	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
サナエタデ/オオイヌタデ	果実	–	–	1	–	–	–	–	6	3	–	–	–
イシミカワ	果実	–	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–	–
ギシギシ属	果実	–	–	–	–	–	–	–	76	11000	–	–	140
ソバ	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	2	–	–	–
ミドリハコベ近似種	種子	–	–	–	–	–	–	–	3	2	–	–	–
ヒユ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	4	–	–	1
ヤマゴボウ	種子	–	–	–	–	–	–	–	122	69	–	–	3
ナス属	種子	–	1	–	–	–	–	–	–	3	–	–	–
トウガラシ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
セリ属	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
不明	柄状突起	–	4	58	4	–	–	–	–	–	–	–	–

の個数で示した。ただし供された試料が乾燥状態であったため、乾燥して割れやすい種実はもともと堆積時は完形と想定し完形個数に換算して表示した。分類群の配列はAPGⅢに従い、木本と草本は分けられている。

【井戸遺構から出土した大型植物遺体】井戸遺構から出土した大型植物遺体の木本類の同定計数結果を表64に、草本類の同定計数結果を表65に示した。4つの井戸遺構からは木本の針葉樹7分類群、広葉樹39分類群、草本の単子葉類7分類群、双子葉類23分類群が確認された。1号井戸からは28分類群が同定され、ノブドウが大量に確認され、出土した内果皮の半分以上が割れた状態のサンショウが多く出土した。また半分や破片が多いウメ、割られたオニグルミ、カボチャの種も比較的多く、破片状のカヤ、モモ、クリなども出土している。針葉樹の個数は少ないがモミ属、マツ属複維管束亜属、スギを出土している。カボチャ以外の草本は極めて少なくキュウリ属メロン仲間、炭化したササゲ属などを出土した。2号井戸は出土分類群・個数ともにやや少なく13分類群を出土し、破片状のモモ、ウメ、オニグルミなどのほかスギ、サンショウなどが確認された。草本はアサ、カボチャ、キュウリ属メロン仲間が出土している。5号井戸は2号井戸よりさらに出土が少なく、ウメとオニグルミが1個ずつとわずかで草本種実は確認されなかった。6号井戸は73分類群が同定され、埋土6層と埋土9層は1分類群ずつと少ないが、埋土8層、11層、10層は分類群・個数ともに多い。針葉樹のサワラはかなり多く、スギ、モミ属、クロマツ、マツ属複維管束亜属も球果や葉、種子などさまざまな部位を出土している。モモ、ウメ、アンズ、スモモ、オニグルミ、サンショウ、カキノキ属といった利用植物とともに本州にはないと考えられるリュウガンも出土している。その他の広葉樹はノブドウが多く、フジ、サクラ属サクラ節、ニガキ、ミズキ、クマノミズキなどが出土した。草本はギシギシ属をかなり多く出土し、カナムグラ、カラハナソウ、ヤマゴボウも多く、アヤメ属、キュウリ属メロン仲間、ソバ、トウガラシ属なども出土している。

表66　池状遺構出土大型植物遺体（1）
Tab.66 Plant macrofossils excavated from pond-like features (1)

分類群名	遺構 出土部位/層位	1号池状遺構 埋土1	埋土2a	埋土2b	2号池状遺構 埋土1	埋土2	埋土3a	埋土3b	埋土4	埋土5a	埋土5b	埋土5c
木本												
モミ属	葉	−	−	−	−	5	18	−	3	21	4	−
マツ属複維管束亜属	風化球果	−	5	1	−	5	−	−	−	−	−	−
	種鱗	−	6	−	−	3	−	−	−	−	−	−
スギ	種子	−	−	−	−	−	−	−	−	−	1	−
サワラ	球果	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
	小枝	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
カヤ	種子	−	−	−	−	(11)	(1)	(1)	−	−	−	−
ブドウ属	種子	−	−	−	−	3	−	−	1	1	−	−
モモ	核完形	1	1	−	−	6	−	1	−	−	1	−
	核完形食痕	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
	核半分及び破片	4	3	−	1	8	−	1	−	−	−	−
ウメ	核完形	−	1	−	−	7	2	−	−	−	−	−
	核完形食痕	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
	核完形風化	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−
	核半分及び破片	−	−	−	−	9	3	−	−	−	−	−
アンズ	核	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
スモモ	核完形	−	−	−	−	6	−	−	−	−	−	−
	核半分及び破片	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
ヒメコウゾ	内果皮	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
オニグルミ	内果皮完形	−	1	1	−	1	−	−	−	−	−	−
	内果皮完形食痕	−	−	1	−	−	−	−	1	−	−	−
	内果皮半分	−	−	4	−	7	−	−	−	−	−	−
	内果皮半分食痕	−	−	4	−	−	−	−	1	−	−	−
	内果皮半分割痕及び焦げ	−	−	−	−	20	−	−	−	−	−	−
	内果皮半分風化	−	1	−	4	−	−	−	−	−	−	−
	内果皮破片	−	6	9	−	9	1	−	1	−	−	−
イヌシデ	果実	−	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−
ミツバウツギ	種子	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−
サンショウ	内果皮	−	−	−	−	8	7	−	1	3	−	−
	内果皮半分及び破片	−	−	−	−	16	14	1	2	13	17	1
カラスザンショウ	内果皮	−	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−
ミズキ	内果皮	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
クマノミズキ	内果皮	−	−	−	−	3	−	−	−	−	−	−
チャノキ	種子	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
草本												
スゲ属	果実	−	−	−	−	−	−	−	1	−	−	−
ホタルイ属	果実	−	−	−	−	−	1	−	−	3	−	−
アサ	種子	−	−	−	−	−	(1)	−	−	−	−	−
カナムグラ	果実	−	−	−	−	−	2	−	−	5	2	−
カラハナソウ	果実	−	−	−	−	−	(1)	−	1	2	−	−
ヒョウタン属	種子	−	−	−	−	12	3	1	1	−	−	−
キュウリ属メロン仲間	種子	−	−	−	−	101	40	−	3	5	7	−
カナバミ属	種子	−	−	−	−	9	−	−	−	−	−	−
エノキグサ	種子	−	−	−	−	−	−	1	−	−	4	2
ヤナギタデ	果実	−	−	−	−	13	130	14	26	60	70	4
サクラタデ	果実	−	−	−	−	1	−	−	−	−	−	−
オオケタデ	果実	−	−	−	−	4816	268	16	4	14	3	10
ハナタデ近似種	果実	−	−	−	−	8	72	5	2	6	17	−
サナエタデ/オオイヌタデ	果実	−	−	−	−	74	280	27	33	130	181	15
ギシギシ属	果実	−	−	−	−	−	5	−	1	18	12	−
ミドリハコベ近似種	種子	−	−	−	−	5	−	−	1	−	−	−
ヒユ属	種子	−	−	−	−	600	84	6	27	40	15	−
ヤマゴボウ	種子	−	−	−	−	2	30	1	−	−	−	−
ザクロソウ	種子	−	−	−	−	2	−	−	−	−	−	−
ナス属	種子	−	−	−	−	2	8	−	−	−	−	−
シソ属	果実	−	−	−	−	−	1	−	−	2	1	−

【池状遺構から出土した大型植物遺体】 池状遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を表66・67に示した。池状遺構では木本の針葉樹５分類群、広葉樹24分類群、草本の単子葉類７分類群、双子葉類23分類群が同定された。１号池状遺構は分類群・個数ともに大変少なく、マツ属複維管束亜属とモモ、ウメ、オニグルミが出土し木本のみ確認された。２号池状遺構は層位により出土傾向にばらつきがあり、２層では木本がやや多く、草本は２層から５b層までが比較的多い。木本は３a層と５a層でモミ属がやや多く出土し、サンショウ、モモ、オニグルミなどの利用植物がやや目立つ傾向にある。草本は２層から５b層でキュウリ属メロン仲間、ヤナギタデ、オオケタデなどの利用・薬用植物がやや多く、ヒョウタン属も出土し、ヒユ属、サナエタデまたはオオイヌタデ、ハ

表67　池状遺構出土大型植物遺体（2）
Tab.67 Plant macrofossils excavated from pond-like features（2）

分類群名	遺構 出土部位/層位	3号池状遺構 埋土1	埋土4	4号池状遺構 埋土1	埋土2	埋土3	埋土4	埋土5	埋土6	埋土7	埋土8
木本											
モミ属	葉	–	–	–	–	–	–	–	–	–	3
マツ属複維管束亜属	風化球果	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
スギ	種子	–	–	–	5	1	–	1	1	4	7
カヤ	種子	–	–	–	(4)	(1)	–	–	–	–	(1)
ヤマブドウ	種子	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
ブドウ属	種子	–	–	–	1	–	–	–	–	–	2
ノブドウ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
ハギ属	種子	–	–	–	–	–	–	1	–	–	–
キイチゴ属	核	–	–	–	–	–	1	–	–	–	–
モモ	核完形	–	–	–	–	2	–	–	–	–	1
	核半分及び破片	–	–	–	1	2	–	1	–	–	1
ウメ	核完形	–	–	–	–	1	–	–	–	1	1
	核半分及び破片	–	–	–	4	–	–	1	–	–	1
アンズ	核	–	–	–	–	1	–	–	–	–	–
クワ属	種子	–	–	–	5	–	1	6	–	–	–
オニグルミ	内果皮完形	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
	内果皮半分割痕及び焦げ	–	–	1	2	3	–	3	1	5	4
	内果皮破片	7	1	2	2	2	1	2	4	–	11
イヌシデ	果実	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
ハシバミ	果実	–	–	–	(1)	–	–	–	–	–	–
サンショウ	内果皮	–	–	–	198	70	11	21	5	2	18
	内果皮半分及び破片	–	–	8	172	108	34	75	34	67	98
カキノキ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	1	–
チャノキ	種子	–	–	–	(3)	(1)	–	1	–	–	–
エゴノキ	内果皮	–	–	–	3	(3)	–	1	–	–	2
ハクウンボク	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	3	1	–
ニワトコ	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
草本											
イボクサ	種子	–	–	–	3	1	–	–	–	–	–
ホタルイ属	果実	–	–	–	1	1	–	–	1	–	1
イネ	穎	–	–	–	–	–	–	(1)	–	–	(12)
オオムギ	炭化種子	–	–	2	10	10	–	1	–	–	1
コムギ	炭化種子	–	–	–	2	2	–	–	–	–	–
ヒエ属	穎	–	–	–	1	–	–	–	–	–	–
カナムグラ	果実	–	–	1	1	–	–	3	–	–	1
カラハナソウ	果実	–	–	–	–	–	–	–	1	–	–
ヒョウタン属	種子	–	–	–	9	2	–	1	–	–	–
キュウリ属メロン仲間	種子	–	–	5	80	31	5	90	24	106	1897
エノキグサ	種子	–	–	–	9	15	–	1	–	2	3
ヤナギタデ	果実	–	–	–	160	165	1	105	1	219	165
サクラタデ	果実	–	–	–	1	–	–	4	–	8	5
ハナタデ近似種	果実	–	–	–	216	240	2	165	1	49	103
サナエタデ/オオイヌタデ	果実	–	–	–	90	35	–	13	1	20	67
イシミカワ	果実	–	–	–	2	1	–	–	2	–	2
タデ属	炭化果実	–	–	–	20	–	–	–	–	–	–
ギシギシ属	果実	–	–	–	–	–	–	–	–	–	2
ヒユ属	種子	–	–	–	9	13	–	10	–	–	16
ザクロソウ	種子	–	–	–	–	–	–	–	–	–	1
アカネ属	種子	–	–	–	2	1	–	1	–	–	–
ナス属	種子	–	–	1	7	1	4	–	3	–	–
シソ属	果実	–	–	1	11	–	–	16	1	–	9
イヌコウジュ属	果実	–	–	–	–	–	–	1	–	–	2

表68　ピットほか遺構出土大型植物遺体
Tab.68 Plant macrofossils excavated from any other features

分類群名	遺構 出土部位/層位	4号遺構 埋土8	9号遺構 埋土7	15号遺構 埋土1	18号遺構 埋土2	40号遺構 埋土2	66号遺構 埋土4
木本							
ノブドウ	種子	1	–	–	–	–	–
モモ	核完形	1	–	1	1	1	1
	核半分及び破片	–	–	–	–	–	2
ウメ	核半分及び破片	–	2	–	–	–	–
オニグルミ	内果皮半分割痕及び焦げ	–	–	–	1	–	–
	内果皮破片	2	–	–	3	–	–
草本							
キュウリ属メロン仲間	種子	–	–	–	–	–	1
カボチャ	種子	310	–	–	–	–	–

ナタデ近似種も多く出土した。3a層では薬用の可能性があるヤマゴボウもやや多く出土している。3号池状遺構ではオニグルミの破片のみが出土し個数も僅かであった。4号池状遺構は1層と9層で出土数が大変少ないが2層から8層まではサンショウ、キュウリ属メロン仲間、ヤナギタデ、ハナタデ近似種、サナエタデまたはオオイヌタデの出土が多い。個数は少ないがオニグルミ、ヒョウタン属、エゴマの可能性が高いシソ属も出土した。

【用途不明遺構から出土した大型植物遺体】 表68には用途不明遺構から出土した大型植物遺体の同定結果を示した。これらの遺構では、ノブドウを除き食用とされる種類のみが出土している。出土した種実のうちモモ、ウメ、オニグルミ、キュウリ属メロン仲間は1－3個とかなり少ないが、4号遺構でカボチャが大変多く出土した。

（3）大型植物遺体の出土傾向からみた当時の植物利用と周辺の環境

大型植物遺体における出土傾向を見るため表69・70では井戸遺構と池状遺構の出土個数を遺構毎に集計し、植物の特徴や利用目的などに応じて配列しなおした。表69には「食用や薬用などとして果実や種子のみが持ち込まれた可能性が高い分類群」、同じく「利用植物であるが敷地内に植栽されている可能性もある分類群」、「利用可能であるが積極的な利用は考えにくく自生が考えられる分類群」、「利用植物ではなく水域や湿地の環境指標になる分類群」という項目別にまとめた。表70は一般的に種実の利用が考えにくく敷地に植栽あるいは敷地周辺に自生する分類群をまとめてある。

本調査で出土した大型植物遺体の特徴としては、モミ属、スギ、サワラなどの針葉樹に加え、庭園植物として植栽されたとみられるウメ、モモや利用植物由来のメロン仲間、カボチャ、オニグルミ、サンショウなどの種実が種類・個数ともに多く出土し、井戸や池状遺構に特徴的な湿性植物や水域に生育する草本などはあまり多くない傾向がみられた。

まず、「食用や薬用などとして持ち込まれたとみられる植物」は城郭の敷地に植栽の可能性もあるが、一般的には農地で育てられたものを食用として持ち込んだ可能性が高いと考えられる。この中でリュウガンは台湾、中国などが産地で九州あたりまでは生育できるが東北には生育できない種類である。種子の破片が1個だけ出土したことから城内に珍しい果物あるいは薬用として持ち込まれたものであろう。またハシバミは山地に生育し、仙台周辺で見られるツノハシバミより稀であるため持ち込まれた種類とした。ヒョウタン属種子は2号池状遺構と4号池状遺構で出土し、2号池状遺構ではヒョウタン属の可能性が高い果皮も出土している。山本氏は岡山大学構内遺跡で種子が検出された井戸を検討し「祭祀的要素の強い井戸と種子が密接な関係を有していた」とし頻繁に出土する種類としてヒョウタンを挙げている（山本悦世1991）。また山崎氏は奈良県内の弥生時代～古墳時代にかけて検出された井戸から出土した様々な遺物を検討し、ヒョウタンなどの植物種子が祭祀具とともに出土する例が多く井戸祭祀との関連性が高いとの見解をまとめている（山崎孝盛2005）。井戸遺構ではヒョウタンが確認されなかったが、本遺跡では底が深すぎたため井戸底部まで発掘がされておらず、ヒョウタンの有無はわからなかった。本遺跡の池状遺構においてはヒョウタン属と思われる果皮とともに種子が出土していることから、容器として加工されたものではなく生の果実をそのまま投入している可能性が高く、池に関しても埋め戻しに際して祭祀をおこなったことも考えられる。

食用や薬用であり庭園にも植栽される種類としては、花をめでることができるモモ、ウメ、オオケタデや垣根としても利用されるチャノキ、水域周囲に生育しやすいオニグルミ、ヒメグルミ、周囲の林分に生育するクリ、サンショウ、食用のシソ属などがある。ヤマゴボウとオオケタデは中国原産で薬用として利用されるが鑑賞用としてもよく植栽される。モモは装飾品に加工した痕跡がある核、オニグルミは火にあぶって割った痕跡がある内果皮が出土しており、サンショウも大変堅い内果皮であるにもかかわらず半数以上が割られた状態で出土していることから利用痕跡と判断した。なお、シソ属とした果実は形態と大きさからエゴマ型とシソ型が区別しにくいことからシソ属と同定されている。エゴマもシソも食用あるいは香辛料として利用される。

次に、積極的な利用は考えにくいが敷地内あるいは周囲に自生している利用植物の種類としてカヤ、ヤマブドウ、サクラ節、ツノハシバミ、ガマズミ属が出土した。ヤナギタデは水湿地に自生するが現在でも刺身のつまなど香辛料として利用され本遺跡でも比較的出土個数が多い。ただし出土が多い要因が雑草として多く生育していたからか、利用するために残しておいたかは定かではない。ニガキ、ニワトコ、アオツヅラフジ、ヒユ属は薬用としても利用できる種類であり、このうちヒユ属種子は潰れた種子がやや多いため解熱、解毒、眼病薬などとして利用した可能性もある。ウルシ属、ヤブツバキ、エゴノキは油脂がとれるが出土個数はそれほど多くないため花や紅葉を鑑賞する植物として伐り残しておいたものであろう。

水域などの指標植物としては、木本のハンノキ、抽水植物のコウホネ、水際に生育するイボクサ、ホタルイ属、サクラタデ、イシミカワ、セリ属を出土したが、井戸や池といった水関連の遺構にしては出土個数は少ない。利用できるヤナギタデなどを残して池の中は刈り取っていたことも考えられる。また、池などある程度の開水域がある環境で生育する抽水植物のコウホネ種子が井戸堆積物から出土したが、分析に供した堆積物は底部層ではないため、井戸埋め戻しに池の中の土を使用した結果とも考えられる。

表70は利用以外の植物をまとめた。モミ属、クロマツを含むマツ属複維管束亜属、スギ、サワラが大変多く、敷地周囲がこうした針葉樹で囲まれていたと考えられる。つる植物のノブドウがかなり多く、カナムグラ、カラハナソウも比較的多いので、周囲の樹木にこれらのつる植物が生育していた。落葉広葉樹であるコナラ、カエデ属やミズキ、クマノミズキ、イヌシデ、ハクウンボクなども出土している。これらの分類群は利用後の廃棄の可能性は低いと思われ、敷地の内外に繁茂していたと考えられる。またこれらの出土個数が多いのはおもに6号井戸の8層、10層、11層であり、この層位の堆積時期が落果が多い秋であったか、井戸孔が蓋されずに開いていたことも考えられる。

表69　遺構種類別集計（利用・生育環境毎）
Tab.69 Distribution of Plant macrofossils by kind of features (usage environment)

遺構		井戸遺構				池状遺構			
分類群名	出土部位/層位	1号井戸	2号井戸	5号井戸	6号井戸	1号池	2号池	3号池	4号池
可食・利用植物：利用部位のみが持ち込まれた可能性が高い種類									
ブドウ	種子	−	−	−	3	−	−	−	−
アンズ	核	1	−	−	3	−	1	−	1
スモモ	核完形	1	−	−	7	−	6	−	−
	核半分及び破片	−	−	−	2	−	2	−	−
ハシバミ	果実	−	−	−	−	−	−	−	1
リュウガン	種子	−	−	−	1	−	−	−	−
イネ	穎	−	−	−	2	−	−	−	13
	炭化穎果	−	−	−	1	−	−	−	−
	炭化胚乳	−	−	−	2	−	−	−	−
	炭化胚乳焼脚	−	−	−	4	−	−	−	−
オオムギ	炭化種子	−	−	−	12	−	−	−	24
コムギ	炭化種子	−	−	−	1	−	−	−	4
アサ	種子	−	8	−	−	−	1	−	−
ヒョウタン属	種子	−	−	−	−	−	17	−	12
キュウリ属メロン仲間	種子	1	3	−	42	−	156	−	2238
カボチャ	種子	86	7	−	2	−	−	−	−
ソバ	果実	−	−	−	2	−	−	−	−
トウガラシ属	種子	−	−	−	1	−	−	−	−
栽培植物：可食、薬用で敷地内植栽の可能性も考えられる種類									
モモ	核完形	3	−	−	14	2	8	−	3
	核完形食痕	−	−	−	3	−	1	−	−
	核半分及び破片	7	3	−	23	7	10	−	5
	核加工品	−	−	−	1	−	−	−	−
ウメ	核完形	31	3	−	7	1	9	−	3
	核完形食痕	2	−	−	−	−	2	−	−
	核完形風化	−	−	1	−	1	1	−	−
	核半分及び破片	54	3	−	13	−	12	−	6
クリ	果皮	20	1	−	44	−	−	−	−
オニグルミ	内果皮完形	10	−	−	−	2	1	−	1
	内果皮完形食痕	4	−	−	−	1	1	−	−
	内果皮半分	3	−	1	4	4	7	−	−
	内果皮半分食痕	2	−	−	−	4	1	−	−
	内果皮半分割痕及び焦げ	28	−	−	5	−	20	−	19
	内果皮半分風化	−	−	−	−	1	4	−	−
	内果皮破片	122	6	−	18	15	11	8	24
ヒメグルミ	内果皮半分割痕及び焦げ	2	−	−	−	−	−	−	−
サンショウ	内果皮	1010	6	−	267	−	19	−	325
	果実外果皮残	−	−	−	3	−	−	−	−
	内果皮半分及び破片	665	3	−	131	−	64	−	596
カキノキ属	種子	2	−	−	8	−	−	−	1
チャノキ	種子	−	−	−	4	−	2	−	5
オオケタデ	果実	−	1	−	−	−	5125	−	−
ヤマゴボウ	種子	−	−	−	194	−	33	−	−
シソ属	果実	−	−	−	−	−	4	−	38
植栽または自生で薬用あるいは利用植物としても利用可能な種類									
カヤ	種子	3	−	−	12	−	13	−	6
ヤマブドウ	種子	1	−	−	4	−	−	−	1
サクラ属サクラ節	核	12	2	−	67	−	−	−	−
ツノハシバミ	果実	−	−	−	2	−	−	−	−
ウルシ属	炭化内果皮	−	−	−	2	−	−	−	−
ニガキ	種子	−	−	−	9	−	−	−	−
ヤブツバキ	種子	−	−	−	3	−	−	−	−
エゴノキ	内果皮	−	−	−	3	−	−	−	7
ガマズミ属	内果皮	−	−	−	10	−	−	−	−
ニワトコ	内果皮	−	−	−	1	−	−	−	1
アオツヅラフジ	種子	−	−	−	11	−	−	−	−
ヤナギタデ	果実	1	−	−	5	−	317	−	816
ヒユ属	種子	−	−	−	5	−	772	−	48
湿地・水域に生育する種類									
ハンノキ	果実	6	−	−	−	−	−	−	−
コウホネ	種子	−	−	−	3	−	−	−	−
イボクサ	種子	−	−	−	−	−	−	−	4
ホタルイ属	果実	−	−	−	−	−	4	−	4
サクラタデ	果実	−	−	−	−	−	1	−	18
イシミカワ	果実	−	−	−	3	−	−	−	7
セリ属	果実	−	−	−	1	−	−	−	−

表70　遺構種類別集計（生育環境毎）
Tab.70 Distribution of Plant macrofossils by kind of features（growing environment）

分類群名	遺構 出土部位/層位	井戸遺構 1号井戸	2号井戸	5号井戸	6号井戸	池状遺構 1号池	2号池	3号池	4号池
庭園植栽あるいは周辺に生育していた種類									
モミ属	種鱗及び包鱗	–	–	–	156	–	–	–	–
	種子	1	–	–	63	–	–	–	–
	葉	–	–	–	214	–	51	–	3
クロマツ	球果	–	–	–	8	–	–	–	–
	種鱗	–	–	–	7	–	–	–	–
マツ属複維管束亜属	風化球果	1	–	–	1	6	5	–	1
	種鱗	–	–	–	29	6	3	–	–
	雌花	5	–	–	–	–	–	–	–
	種子	2	–	–	1	–	–	–	–
	葉	–	–	–	137	–	–	–	–
スギ	球果	4	3	–	368	–	–	–	–
	雌花	–	–	–	4	–	–	–	–
	種子	4	–	–	33	–	1	–	19
サワラ	球果	–	–	–	30695	–	1	–	–
	種子	–	–	–	1188	–	–	–	–
	小枝	–	–	–	81	–	1	–	–
アスナロ属	小枝	–	–	–	1	–	–	–	–
ブドウ属	種子	–	1	–	3	–	5	–	3
ノブドウ	種子	13790	1	–	153	–	–	–	1
フジ	さや	–	–	–	44	–	–	–	–
フジ属	芽	6	–	–	2	–	–	–	–
	種子	–	–	–	2	–	–	–	–
ハギ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	1
キイチゴ属	枝	–	–	–	–	–	–	–	1
カマツカ近似種	果実	–	–	–	16	–	–	–	–
	枝	–	–	–	11	–	–	–	–
ケヤキ	果実	2	–	–	2	–	–	–	–
エノキ	内果皮	5	–	–	4	–	–	–	–
ヒメコウゾ	内果皮	–	–	–	–	–	1	–	–
クワ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	12
コナラ	果実	–	–	–	2	–	–	–	–
ミズナラ	幼果	–	–	–	1	–	–	–	–
コナラ属	果実基部	–	–	–	4	–	–	–	–
ブナ科	果皮	–	–	–	3	–	–	–	–
イヌシデ	果実	–	–	–	8	–	1	–	1
アサダ	果実	–	–	–	1	–	–	–	–
ミツバウツギ	種子	–	–	–	1	–	3	–	–
カエデ属	果実	5	–	–	43	–	–	–	–
カラスザンショウ	内果皮	–	–	–	–	–	2	–	–
ミズキ	内果皮	–	–	–	34	–	2	–	–
クマノミズキ	内果皮	–	–	–	15	–	3	–	–
ハクウンボク	内果皮	–	–	–	–	–	–	–	4
草本									
アヤメ属	種子	–	–	–	47	–	–	–	–
サルトリイバラ近似種	種子	–	–	–	20	–	–	–	–
ツユクサ	種子	–	–	–	2	–	–	–	–
スゲ属	果実	–	–	–	–	–	1	–	–
ヒエ属	穎	–	–	–	–	–	–	–	1
ササゲ属	炭化種子	1	–	–	1	–	–	–	–
ダイズ属	炭化種子	–	–	–	2	–	–	–	–
カナムグラ	果実	–	–	–	229	–	9	–	6
カラハナソウ	果実	–	–	–	160	–	4	–	1
スズメウリ	種子	–	–	–	2	–	–	–	–
カタバミ属	種子	–	–	–	1	–	9	–	–
エノキグサ	種子	–	–	–	–	–	7	–	30
ハナタデ近似種	果実	–	–	–	2	–	110	–	776
サナエタデ/オオイヌタデ	果実	1	–	–	9	–	740	–	226
タデ属	炭化果実	–	–	–	–	–	–	–	20
ギシギシ属	果実	–	–	–	11216	–	36	–	2
ミドリハコベ近似種	種子	–	–	–	5	–	6	–	–
ザクロソウ	種子	–	–	–	–	–	2	–	1
アカネ属	種子	–	–	–	–	–	–	–	4
ナス属	種子	1	–	–	3	–	10	–	16
イヌコウジュ属	果実	–	–	–	–	–	–	–	3
不明	刺状突起	62	4	–	–	–	–	–	–

３．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点池状遺構から出土した袋状遺物

小林和貴（東北大学植物園）・吉川純子（古代の森研究舎）

本遺跡の２号池状遺構から出土したヒョウタン仲間とみられる容器状の遺物について、同定を試みた。遺物は壺型で高さ15cm、割れて３分の１ほどが欠落した状態で出土し容器内部は空洞であった。試料は上下端が欠損していたため表面の状態からは分類群が不明で、分析に供された際にはすでに保存処理がされており表面の微細模様や細胞構造などの観察ができなかった。そこで含浸材を除去し表面と断面の状況を観察した。

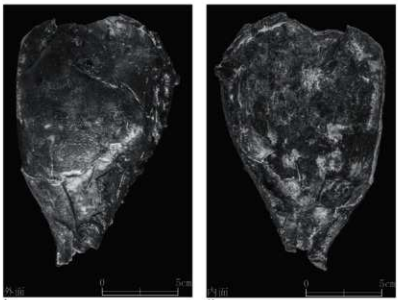
（１）分析方法

試料にはポリエチレングリコールによる保存処理がされていたので、２時間ほど煮てポリエチレングリコールを除去した。まずデジタルマイクロスコープ（ハイロックス社、KH－7700）で表面形態を観察した。断面の観察は、樹脂包埋切片を作製して行った。切片作製方法は以下の通りである。試料片をマイクロチューブ（容量２ml）に入れて、アセトンの上昇系列により脱水した。上昇系列は60％アセトン×１回から開始して、80％アセトン×１回、100％アセトン×６回で各液に１時間以上浸漬した。脱水後の試料のアセトンを徐々にエポキシ樹脂（Agar Scientific社、Low Viscosity Resin）に置換し、包埋した。重合後の樹脂の硬さは、Agar Scientific社のマニュアルに従って「medium」または「soft」に調整した。樹脂包埋した試料から、回転式ミクロトーム（Microm社、HM350）に装着したディスポーザブルナイフ（Kulzer社、Histoknife H）を用いて切片（厚さ10μm～30μm）を作製し、トルイジンブルーで染色した。切片は、標本封入剤PARAmount－N（ファルマ社）で封入して観察用プレパラートとした。プレパラートは、MYG－6605の番号を付して東北大学植物園に保管されている。

対照標本の現生ヒョウタン果実は、徳島県で栽培され乾燥されたものを購入した。遺物と同様に２時間ほど煮てから表面形態をデジタルマイクロスコープで観察した。その際に、試料をサフラニン水溶液で染色した。断面観察にあたっては、出土遺物と同様に樹脂包埋切片を作製した。

（２）同定結果（図73）

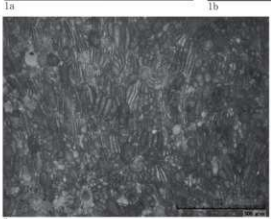
観察の結果、遺物は柱頭や果柄のつくべき基部などが欠損していたが、外形が壺型で現生のヒョウタンと表面及び断面の細胞配列がきわめて近似しており堆積物中でも果皮がしっかり残っていることから、ヒョウタン属（ヒョウタン、フクベなど）と考えられる。ヒョウタン属にはヒョウタンのほかフクベや食用のユウガオなど複数の種類がある。ユウガオの果実は一般的には高さ30cm以上程度と大きく、外観は球形と円筒形がある。出土した遺物は15cmとやや小さく壺型の外形であることからヒョウタンの可能性が高い。しかし現生のユウガオやフクベも大きさや形に変異があることが考えられ、ユウガオも完熟果実を乾燥させると果皮は固くなり容器として使う。さらに今回は現生ユウガオなどの断面構造による比較検討を行えなかったので、同定結果はヒョウタン属にとどめる。



1a

1b

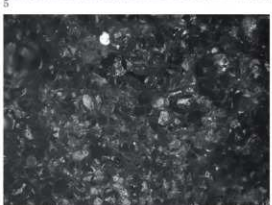
1a・b. 遺物外観
2. 遺物表面拡大
3. 遺物内面拡大
4. 遺物壁断面
(C: 横断面、T: 接線断面)
5. 現生ヒョウタン表面拡大
6. 現生ヒョウタン内面拡大
7. 現生ヒョウタン果皮壁断面
(C: 横断面、T: 接線断面)



2

5

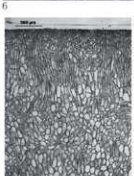
3



6

4C

4T



2C

7T

図73　2号池状遺構から出土した遺物果皮と現生ヒョウタン果皮の比較写真
Fig.73 Comparison of an archaeological peel remains from No.2 pond and an existing gourd peel

4．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土編組製品等の素材植物

小林和貴[1]・鈴木三男[1]・佐々木由香[2]・能城修一[2]・國井秀紀[3]
（1：東北大学植物園、2：明治大学黒耀石研究センター、3：千葉県匝瑳市「木積笊づくり伝承教室」）

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点から出土した17世紀から18世紀の編組製品３個体と不明製品１個体および縄の断片について、樹脂包埋切片法による素材植物の同定を行った。

（1）試料と方法

試料の内訳は、２号池状遺構（17世紀）から出土した蓋状敷物１個体と、４号池状遺構（17世紀）から出土した編組製品２個体である。不明製品は、２号池状遺構（17世紀）から出土した棒状の軸に縄が巻き付けられた製品である。縄は、２号井戸（18世紀）から出土した断片である。

素材同定用の試料として、各遺物から長さ５㎜程度の小片を合計17点採取した（表71）。蓋状敷物からは10点の試料を採取した。このうちの９点の試料については、遺物取り上げの際に剥落した部材より採取し、部材毎に複数の試料を採取するよう心がけた。残りの１点については保存処理をされた遺物本体から採取した（図74）。編組製品２個体と不明製品および縄からは、部材毎に１点で合計７点の試料を採取した（図75）。不明製品に巻き付いている縄については、遺物から剥落していた小片を試料として採取した。

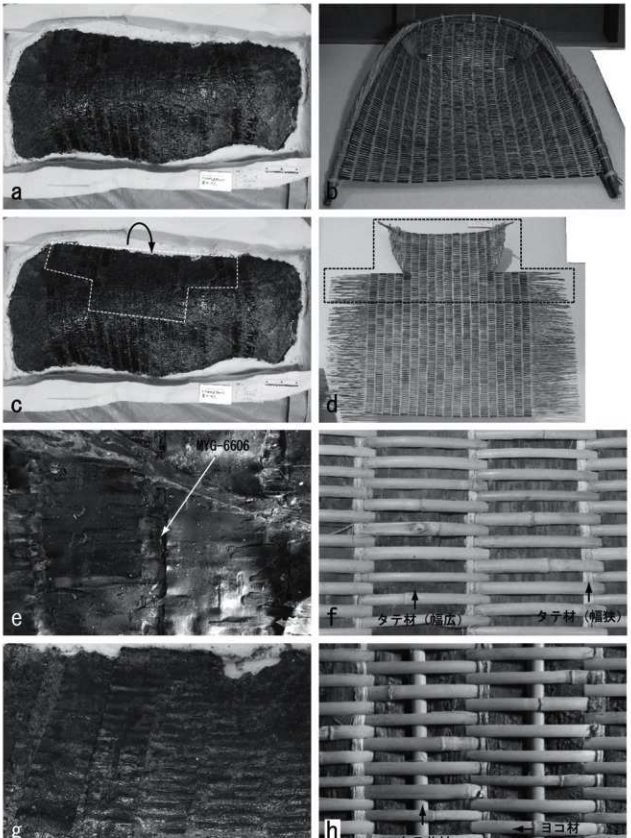
同定方法は、デジタルマイクロスコープ（ハイロックス社、KH－7700）による各試料の外部形態観察と、樹脂包埋切片による組織構造観察である。樹脂包埋切片は以下の手順で作製した。蓋状敷物のタテ材（幅狭）１点はポリエチレングリコールによる保存処理、不明製品および縄はトレハロースによる保存処理が施されていたので、それらを除去するために２時間程水煮してから脱水処理を行った。試料をマイクロチューブ（容量２ml）に入れて、アセトンの上昇系列により脱水した。上昇系列は60％アセトン×１回から開始して、80％アセトン×１回、100％アセトン×５回で各液に１時間以上浸漬した。脱水後の試料のアセトンを徐々にエポキシ樹脂（Agar Scientific社、Low Viscosity Resin）に置換し、包埋した。重合後の樹脂の硬さは、Agar Scientific社のマニュアルに従い「medium」または「soft」に調整した。樹脂包埋した試料から、回転式ミクロトーム（Microm社、HM350）に装着したディスポーザブルナイフ（Kulzer社、Histoknife H）を用いて切片（厚さ10㎛～30㎛）を作製した。切片を標本封入剤PARA mount－N（ファルマ社）で封入して観察用プレパラートとし、光学顕微鏡で観察した。プレパラートは、MYG－6488～6500、6602～6607の番号を付して東北大学植物園に保管されている。

（2）同定結果

編組製品３個体と、不明製品１個体、縄１個体から採取した試料16点に、４分類群が認められた（表71）。蓋状敷物のタテ材（幅狭）（MYG－6606）は、組織構造が潰れているため、同定できなかった（図76n）。以下に同定根拠となる組織構造を記載し、顕微鏡写真を示す。

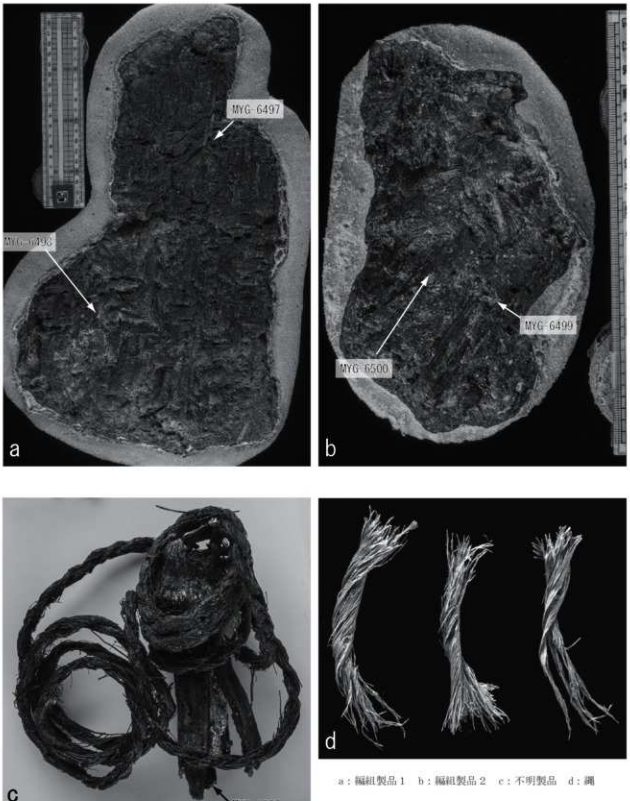
①サクラ属　*Cerasus*　バラ科　外樹皮（図76a－d）

試料は蓋状敷物の幅広のタテ材４点で、薄く長いテープ状の素材である。試料の長軸に直交する断面（放射断面）では、ほとんどの細胞が潰れているが、断面長方形で細胞壁の厚い細胞が、整然と隙間なく配列するとみられる。テープ状試料の広い面（接線断面）では、接線方向に長い紡錘形の細胞が隙間なく配列している。横断面ではほとんどの細胞が潰れているが、接線方向に細長い細胞が緊密に配列している。いずれも細胞内容物の消失した１種類の細胞で構成されている。これらの形質からサクラ属の外樹皮と同定した。各試料の最大の厚さは0.36～0.88㎜であった（表71）。試料の長辺の断面は、階段状になっていた（図76d）。



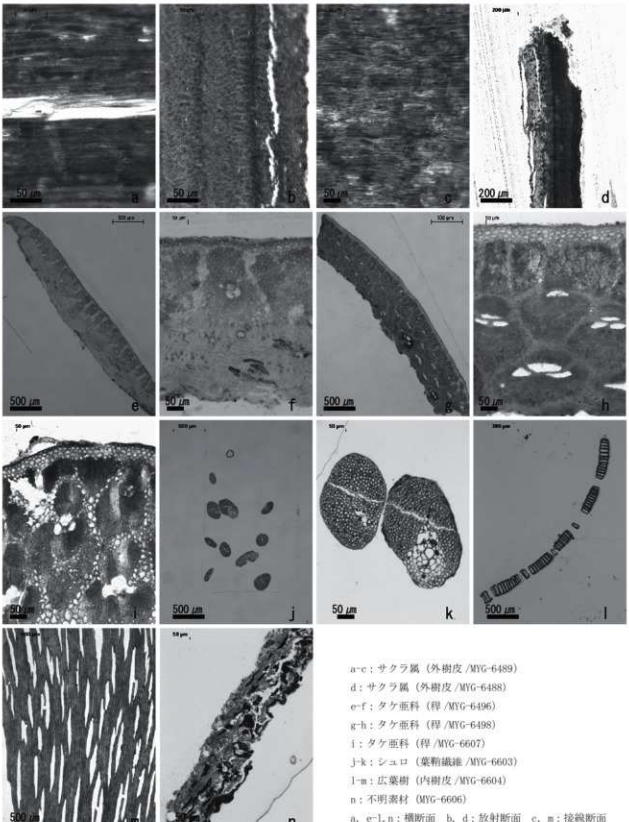
a:出土箕　b:現代の「宮床箕」（宮床宝蔵所蔵品）　c:出土箕（点線で囲まれた部分が折り返されている）　d:製作途中の箕「イタミ」（点線で囲まれた部分がcの点線部分に該当する）（宮床宝蔵所蔵品）　e：出土箕の表面拡大　f：「宮床箕」の表面拡大
g：出土箕の裏面拡大　h：「宮床箕」の裏面拡大

図74　出土箕と「宮床箕」
Fig.74 Excavated winnow and Miyatoko winnow



a：編組製品１　b：編組製品２　c：不明製品　d：縄

図75　出土編組製品と不明製品および縄
Fig.75 Excavated woven items, unkown textile item and rope



a–c：サクラ属（外樹皮 /MYG-6489）
d：サクラ属（外樹皮 /MYG-6488）
e–f：タケ亜科（稈 /MYG-6496）
g–h：タケ亜科（稈 /MYG-6498）
i：タケ亜科（稈 /MYG-6607）
j–k：シュロ（葉鞘繊維 /MYG-6603）
l–m：広葉樹（内樹皮 /MYG-6604）
n：不明素材（MYG-6606）
a，e–l，n：横断面　b，d：放射断面　c，m：接線断面

図76　出土遺物の素材の顕微鏡写真
Fig. 76 Micrograph of excavated implements made of plants

表71　出土編組製品等の素材の植物種
Tab.71 Plant type of woven items at BK14

標本記号	標本番号	樹種	使用部位	遺物名	試料部位	出土遺構	時期	最大厚(mm)
MYG-	6488	サクラ属	外樹皮	蓙状敷物	タテ材（幅広）1	2号池状遺構	17世紀	0.36
MYG-	6489	サクラ属	外樹皮	蓙状敷物	タテ材（幅広）2	2号池状遺構	17世紀	0.68
MYG-	6490	サクラ属	外樹皮	蓙状敷物	タテ材（幅広）3	2号池状遺構	17世紀	0.79
MYG-	6491	サクラ属	外樹皮	蓙状敷物	タテ材（幅広）4	2号池状遺構	17世紀	0.88
MYG-	6492	タケ亜科	稈	蓙状敷物	ヨコ材1	2号池状遺構	17世紀	0.47
MYG-	6493	タケ亜科	稈	蓙状敷物	ヨコ材2	2号池状遺構	17世紀	0.43
MYG-	6494	タケ亜科	稈	蓙状敷物	タテ芯材1	2号池状遺構	17世紀	－
MYG-	6495	タケ亜科	稈	蓙状敷物	タテ芯材2	2号池状遺構	17世紀	0.42
MYG-	6496	タケ亜科	稈	蓙状敷物	タテ・ヨコ一括	2号池状遺構	17世紀	0.61
MYG-	6497	タケ亜科	稈	編組製品1	タテ材	4号池状遺構	17世紀	－
MYG-	6498	タケ亜科	稈	編組製品1	ヨコ材	4号池状遺構	17世紀	0.69
MYG-	6499	タケ亜科	稈	編組製品2	ヨコ材	4号池状遺構	17世紀	－
MYG-	6500	タケ亜科	稈	編組製品2	タテ材	4号池状遺構	17世紀	－
MYG-	6603	シュロ	葉鞘の繊維	不明製品	縄	2号池状遺構	17世紀	－
MYG-	6604	広葉樹	内樹皮	縄		2号井戸	18世紀	－
MYG-	6606	同定不可		蓙状敷物	タテ材（幅狭）	2号池状遺構	17世紀	－
MYG-	6607	タケ亜科	稈	不明製品	軸木	2号池状遺構	17世紀	1.84

②タケ亜科　Bambusoideae　イネ科　稈（図76e－i）

試料は蓙状敷物のタテ芯材とヨコ材およびタテ・ヨコ一括材、編組製品１と２のタテ材とヨコ材、不明製品の軸木である。横断面で見ると、表面に１細胞層の表皮、その内側に細胞壁の厚い下表皮が１～２細胞層あり、さらにその内側に２～４細胞層の皮層と基本組織および維管束がある。維管束には、稈の内側（髄腔側）に１ヵ所の原生木部、その両側外側に１対の丸くてやや大きい後生木部道管、さらに外側（表皮側）に１ヵ所の篩部があり、それらを繊維組織が取り囲んでいる。このような維管束が、基本組織中に散在している。篩部については、組織が消失して一つの大きな空隙となっているものも多い。不明製品の軸木（MYG－6607）には、最内部の髄腔に面した髄冠と呼ばれる細胞群もみられる。これらの形質からタケ亜科の稈と同定した。

素材全体の組織が残っていると判断された切片にもとづいて、素材の最大の厚さを計測した。蓙状敷物のヨコ材の厚さは0.43～0.47㎜、タテ芯材の厚さは0.42㎜、タテ・ヨコ一括材の厚さは0.61㎜であった。編組製品１のヨコ材の厚さは0.69㎜であった。いずれの試料も多かれ少なかれ組織構造が潰れているため、本来はもう少し厚さのある資料であったと思われる。編組製品１と２ではヨコ材１点（MYG－6498）を除いて植物組織が部分的にしか残存しておらず、計測はできなかった。

タケ亜科には、マダケやモウソウチクなどの竹類（稈鞘が早期に脱落）と、スズタケやアズマネザサなどの笹類（稈鞘が長く宿存）があるが、組織構造ではこれらを識別することは難しい。節部分の外部形態や素材の幅と厚さおよび断面形から推察すると、蓙状敷物の素材は笹類、編組製品１・２と不明製品の軸木は竹類の可能性が考えられる。

③シュロ　*Trachycarpus fortunei*（Hook.）H.Wendl.　ヤシ科　葉鞘の繊維（図76j－k）

試料は不明製品の縄の素材で、素材１本の断面は長径200～400μm程、短径120～240μm程の楕円形をしている。長径300μm以下の細い素材は、そのほとんどを小径で厚壁の繊維細胞で占められており、中心部分にわずかに維管束が認められる。これに対して長径300μm以上の太い素材では、繊維細胞よりも大径の細胞で構成される維管束が、素材の中心から翼状に発達している。これらの形質からシュロの葉鞘繊維と同定した。

④広葉樹　内樹皮（図版76l－m）

試料は縄の断片で、薄いシート状の素材がZ撚りにされている。シート状の素材を横断面で観察すると、断面長方形（長辺42～82μm、短辺７～26μm）の細胞が、接線方向に１細胞の厚さで多数連結している。各細胞は、放射方向に長辺を持つ長方形をしている。素材を接線面で見ると、長さ700～950μm程度の細長い細胞によって構成されており、紡錘形（高さ515～1012μm、幅42～81μm）の空隙が多数見られる。これらの空隙は木本植物の二次

組織にみられる放射組織の痕跡とみられ、製品製作の過程あるいは遺物化の過程で、放射組織の細胞が消失したと考えられる。空隙の大きさから、放射組織は数細胞幅と思われる。これらの形質から広葉樹の内樹皮と同定した。縄の素材として樹皮が利用される広葉樹には、ヤマブドウやシナノキ属などがあるが、そのいずれにも該当しない。また著者らが所有する現生対照標本にも該当する植物がないため、植物種の同定には至らなかった。

（3）調査資料の形態記載

①**箕**（2号池状遺構、VA 4、図版12）

「蕗状敷物」は、タテ材にサクラ属の外樹皮、ヨコ材にタケ亜科の稈の割り裂き材を使い、平板状に1本1単位のござ目に編まれた製品で、残存長は44cm、残存幅は100cmを測る（図74a）。この平板状に編まれた製品は、図74cの破線で示したように、上端側が手前に折れた状態で出土しているため、それを伸ばした本来の長さは75cmを測る。タテ材の両端部では、サクラ属の外樹皮が外側や内側に折り返されて端部の処理が行われている。これに対し、ヨコ材の端部では、編まれていない素材が約14cm突出した状態で認められる。遺物の下端部（図74a下側）は中央の先端が剣先状にわずかに尖る。剣先状の部分では、タテ材が外側に折り返して固定されている。また、上端部側では直線状を呈するが、手前に折れた部分が重なっている。この折れた上半分は中央部分が凸状（図74c）を呈し、突出部の長さは10.6㎝、幅は34.8㎝を測る。突出部とそれよりも一段短い部位の端部では、タテ材が内側または外側に折り返されている。今回観察された柔らかい素材（テープ状の樹皮）と硬い素材（稈の割り裂き材）によるござ目編みは、現在の「桜箕」や「藤箕」、「イタヤ箕」などの箕だけにみられる技法であることから、その形態とあわせて「箕」と判断した。

タテ材のサクラ属外樹皮は全体では19本使われている。折り重なった上半分には14本が残り、突出部には9本が認められる。タテ材の幅を整えるために、素材の側端部を斜め方向に断ち落としている。断面形状としては平行四辺形となる。このため、タテ材の側端部は外側に向かって薄くなり、樹皮の片側のみに断ち落とした稜線が残る。これらは、刃物を使わずに手でサクラ属の外樹皮を引き裂いた際に見られる特徴的な形態で、切片で断面を観察すると階段状を呈する（図76d）。確認できた範囲では、長さ12～15㎝程度の樹皮を、端部がわずかに重なるように並べて長いタテ材としている。樹皮の幅は、29.5～33.4（平均30.1）mm、樹皮と樹皮の間の間隔（隙間）は、3.9～6.4（平均4.6）mmである。全体的に均一な幅と間隔を保ちながら製作されている。タテ材19本分の横幅は71.5㎝を測る。現在の「一斗箕」に近い大きさである。製品の上面側は内樹皮側で、下面側に皮目が残る外樹皮側が使われている。タテ材には、樹皮の片側に幅が約2㎜の細い別素材が入っており、樹皮と同じ動きをしている（図77）。下面側の樹皮の中央には、2本1単位のタケ亜科を割り裂いた芯材があり（図77）、幅2.8～4.1（平均3.5）㎜、2本の幅は8.2㎜を測る。

ヨコ材のタケ亜科の割り裂き材は、幅3.3～5.0（平均3.7）㎜である。タテ芯材とヨコ材のタケ亜科の節には稈鞘痕は認められるが、その上部の隆起線の有無については今回の遺物では断定は難しい。節の形態からは、スズタケもしくはナンブスズ、あるいはアズマネザサなどの可能性が考えられる。

②**編組製品1**（4号池状遺構、VA 5 a、図版15）

全体的に残存状況が良くないが、タケ亜科の稈を割り裂いたヒゴ3－4本を1単位とした、2本飛び網代で作られた可能性のある製品である。残存長37㎝、残存幅22㎝。タテ材は幅4.1～6.7（平均5.6）㎜、ヨコ材は幅3.7～5.6（平均4.4）㎜、厚さ0.69㎜である。タテ材の厚さは、切片を作製した試料では、全体の厚さの組織が残っていないため計測できなかった。遺物の上面に節は観察できない。

③**編組製品2**（4号池状遺構、VA 5 b、図版15）

全体的に残存状況が良くない。残存長9.5cm、残存幅15.5cm。タケ亜科の稈を割り裂いたヒゴを1本1単位としたござ目か。タテ材は幅6.5mm、ヨコ材は幅4.7～7.2mm、厚さについては、切片を作製した部位ではいずれの

素材も、全体の厚さの組織が残っていないため計測できなかった。上面に節は観察できない。

④不明製品（２号池状遺構、W19、図８、図版10）

タケ亜科の稈（長さ6.3cm、最大径1.8cm）に、シュロの葉鞘繊維で作られた縄（全長約１m、太さ4.0～4.5mm）が巻き付けられている。稈の節は膨出する。稈の両端は破損しているとみられる。縄はZ撚りの繊維束（太さ1.5～2.5mm）を２本S撚りにして作られている。縄の一方の端は稈の側面にあけられた穴に挿入されており（図８、W19）、そこから４周ほど稈に巻き付けられている。稈に巻き付けられた輪状の縄の内径は、長径2.4cm、短径1.8cmである。もう一方の端は稈から離れて、縄のみが４周ほど輪状（内径：長径2.0cm、短径1.9cm）になっている。

⑤縄（２号井戸、VA７、図版44）

薄いシート状の樹皮をZ撚りにした縄の断片である。複数の断片があり、長さ1.8～2.5cm、太さ1.5～1.9cmほどである。

表72　出土箕と「宮床箕」（展開状態）の比較
Tab.72 Compared data of excavated winnow and Miyatoko winnow

			遺状散物(出土箕)	宮床箕（宮床宝蔵所蔵）
全体形	長さ（タテ材の全長）		75cm	73cm
	幅（ヨコ材の全長）		100cm	96cm
	タテ材（サクラ属樹皮）	本数	19本	19本
	タテ材（サクラ属樹皮）	全体の幅	71.5cm	61.8cm
	タテ材（フジ樹皮）	本数	－	20本
	ヨコ材	本数	－	205本
突出部（アクド）	長さ		10.6cm	16.6cm
	タテ材（サクラ属樹皮）	本数	9本	11本
	タテ材（サクラ属樹皮）	全体の幅	34.8cm	34.6cm
	タテ材（フジ樹皮）	本数	－	12本
部材	タテ材（サクラ属樹皮）	1本の幅	29.5～33.4（平均30.1）mm	18.6～31.7（平均27.3）mm
	タテ材（サクラ属樹皮）	厚さ	0.36～0.88（平均0.68）mm	0.2～0.3mm
	タテ材（フジ樹皮）	1本の幅	－	1.8～5.2（平均2.7）mm
	タテ芯材	1本の幅	2.8～4.1（平均3.5）mm	3.2～5.2（平均4.0）mm
	タテ芯材	厚さ	0.42mm	－
	ヨコ材	1本の幅	3.3～5.0（平均3.7）mm	2.3～4.3（平均3.5）mm
	ヨコ材	厚さ	0.43～0.47mm	0.5～1.3（平均0.8）mm
	タテ・ヨコ一括材	1本の幅	0.45mm	－
	タテ・ヨコ一括材	厚さ	0.61mm	－
	ヨコ材（編まれていない部分）	長さ	14.0cm	－

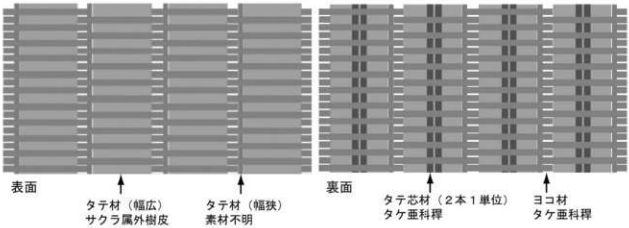


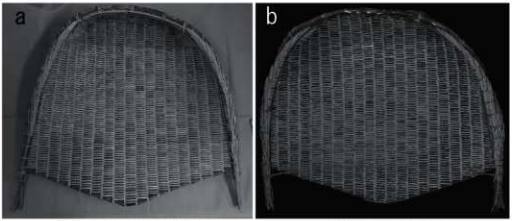
図77　出土箕の編組模式図
Fig.77 Pattern diagram of excavated winnow

（4）考察

出土した箕は、全体的な形状から箕を展開した「イタミ」と考えられる。形態記載において「突出部」とした部位は完成した箕では立ち上がって、「アクド」と呼ばれる部位になる（TEM研究所2006）。タテ材の幅広の素材にはサクラ属の外樹皮、幅狭の素材には植物種不明の素材が使われ、ヨコ材にはタケ亜科の稈の割り裂き材が使われている。現代でも同様の素材と編組技法で作られた箕が、宮城県と岩手県および関東地方と九州地方の一部で知られていて、箕先が剣先状に尖る箕は宮城県と岩手県で作られている（工藤員功1991、御所野縄文博物館2008、丸谷仁美2015、山内明美2003）。宮城県と岩手県で製作地が分かっている箕は、宮城県黒川郡大和町宮床と岩手県気仙郡住田町上有住で作られた箕で、それぞれ「宮床箕」、「気仙箕」と呼ばれている。今回出土した箕は箕先と思われる部位が剣先状に尖る形態から、「宮床箕」や「気仙箕」との関連がうかがわれる。そこで、宮床にある資料館「宮床宝蔵」（宮城県黒川郡大和町宮床字下小路64）に展示されている製作途中の箕（イタミ）について、各部の計測を行い出土箕との比較を行った（表72）。宮床では箕先が尖る箕と、尖らない箕が作られているが、宮床宝蔵の所蔵品では箕先は尖らない。出土箕と「宮床箕」とでは、全体の大きさや使われているタテ材（サクラ属外樹皮）の本数はよく一致している。しかし、突出部（アクド）については長さとタテ材（サクラ属外樹皮）本数に違いが見られ、出土箕ではそれぞれ10.6cmと９本なのに対して、「宮床箕」では16.6cmと11本である。出土箕を箕に仕立てた場合には、「アクド」が低いため箕の側面となる「ソデ」の立ち上がりも少なく、「宮床箕」にくらべて全体的に平たい浅い箕になると思われる。各部材については、遺物の遺存状態や、計測方法の違い（顕微鏡用切片での計測と実資料の計測）もあり正確な比較は難しいが、出土箕のタテ材（サクラ属外樹皮）は「宮床箕」に比べて幅広で厚い傾向がある。「宮床箕」ではタテ材にサクラ属の外樹皮と一緒に、細く裂いたフジの樹皮を入れることが知られている。出土箕でも、同様な使い方の細いタテ材がみられたが、植物種の同定は出来なかった。フジの樹皮は長期間の水浸けで腐ってしまうので遺体として残らなかったと考えると、出土箕にもフジの樹皮が使われていたかもしれない。宮床に箕作りの技術が取り入れられたのは幕末の嘉永年間（1848～1854年）と言われており、宮床伊達家の家臣である鈴木家が、現在の栃木県日光の山中の村で作り方を習得してきたとされている（山内明美2003）。今回の結果は、それ以前の17世紀に仙台城二の丸北方武家屋敷で、既に「宮床箕」に似た形状の箕が使われていたことを示している。「気仙箕」については詳細な調査を行っていないが、「気仙箕」の「アクド」は12cm程と低く、側面となる「ソデ」の立ち上がりも少ない傾向があるので、出土箕の完形品は、「気仙箕」に近い形状をしていたと考えられる（図78）。今回出土した箕は、展開されて池の土手の土留として転用されたのだろう。

編組製品１と２は、いずれも残存状況が良くないため編組技法には不確かな点もあるが、編組製品１はヒゴ３－４本を１単位とした２本飛び網代、編組製品２はヒゴ１本を１単位としたござ目とみられる。編組技法は異なるが、近接して出土し、素材幅もほぼ一致しており、同一個体の製品に由来すると考えられる。編組製品１が底部で編組製品２が体部である可能性も考えられるが、現状では元の製品の形状は分からない。素材についてみると、編組製品１のヨコ材２の横断面（図76g・h）での表皮から内側へ分布する維管束の本数から判断して、内側の組織を取り除いて厚さを調整したと考えられる。また、素材の厚さを横断面で見ると中央から縁までほぼ一様であることや、縁の形状が矩形であることから、比較的太い稈を利用、すなわち竹類の稈を利用した可能性が考えられる。

不明製品は、タケ亜科の稈にシュロ縄が巻き付けられた製品で、現状では縄の一部は稈から外れているが、その形態から判断すると、縄は全長にわたって稈に巻き付けられていた可能性が高い。稈の両端は破損していると みられ、完形品ではもっと長かったと思われる。この遺物の特徴的な点は、稈に巻き付けられた縄の一端が稈の側面にあけられた穴に挿入されている点である（W19、図８、図版10）。箒の柄と箒本体を固定する縄の可能性が考えられる。



製作地：宮城県黒川郡大和町宮床
及川陽一郎氏所蔵品

採集地：岩手県奥州市
菅野智則氏所蔵品

図78　宮床箕（a）と気仙箕（b）
Fig.78 Miyatoko winnow and Kesen winnow

縄は、薄いシート状の広葉樹の内樹皮を撚ったものである。出土したのはいずれも小さな断片で、これらがさらに撚り合わされていたかどうかは現状では分からない。どのような用途の製品であったのかも不明である。

謝辞

試料採取にあたり、小川とみ氏、東北大学埋蔵文化財調査室にご協力いただきました。宮床箕の調査では宮床宝蔵、佐藤朝治氏、佐藤紀恵子氏、濱田淑子氏、大谷美紀氏、及川陽一郎氏、鈴木かおる氏にご協力いただきました。気仙箕の調査では菅野智則氏にご協力いただきました。記して感謝申し上げます。

なお、本稿は平成25－27年度科学研究費補助金基盤研究（A）（代表　鈴木三男）「日本の縄文・弥生時代遺跡出土編組・繊維製品等素材の考古植物学的研究」の研究成果の一部です。

5．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地区から発見された昆虫と古環境

森　勇一（東海シニア自然大学）

遺跡から発見されるムシの破片から、先史～歴史時代にヒトがどのような環境下でどのような生活をしていたか調べる研究分野を昆虫考古学という。遺跡には考古遺物だけでなく、植物の種子や果実・木材のほか、多くの昆虫片が含有されている。

昆虫はすべての生物群のなかで最も種数が多く、水中（水生昆虫）、地表面上（地表性歩行虫）、植物上（樹上性昆虫）など、多様な生活空間に適応して生活している。食性も食植性から、食肉性・食糞性・食屍性など多岐にわたる。そのため、遺跡から見つかった昆虫片の分析を進めることにより得られる情報は有用であり、これまで多くの成果が得られている（森勇一2012・2016）。

（1）試料および分析方法

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点は、仙台市青葉区川内地内に位置している。調査は、東北大学理蔵文化財調査室によって行われ、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅の駅前広場などを整備する工事にともなって実施された。

昆虫分析試料は計23試料に及び、試料A（試料１～７）は６号井戸より、試料B（試料８～14）は２号池状遺構より、試料C（試料15～21）は４号池状遺構より、試料D（試料22～23）は１号井戸より得られたものである。昆虫分析試料が採取された同じ遺構からは、下駄等の木製品のほか、魚類や哺乳類をはじめとした動物遺存体、種子なども出土している。これらの分析試料は、平成23年９月から平成24年５月、および平成27年３月より同年７月までの間、発掘調査された過程で得られたものである。昆虫分析試料は、筆者のもとに届けられた段階で、すでに水洗抽出作業が完了しており、試料ごとに小型のチャック付きビニール袋に収納されていた。

分析試料の時代については、試料Aが18世紀頃（Ⅱa～Ⅱb期）、試料Bが17世紀、試料Cが16世紀末葉を含む17世紀（Ⅰ期）、試料Dが17世紀初頭から19世紀中葉（Ⅰ期～Ⅲ期）とされている。

昆虫化石（昆虫遺体ともいう）の同定は、筆者採集の現生標本と実体顕微鏡下で１点ずつ比較のうえ実施した。昆虫化石は、いずれも節片に分離した状態で検出されており、そのため、本論に記した産出点数は、昆虫の個体数を示したものではない。

（2）昆虫化石の分析結果

試料Aから計191点、試料Bから200点、試料Cから70点、試料Dから23点、合計484点の昆虫化石が発見された（表73・74）。産出した昆虫化石のうち、主なものについては、図版83～86に実体顕微鏡写真を掲げた。

分類群ごとにみると、目レベルまで同定したもの１目４点、科レベル11科178点、族レベル１族５点、属レベルは14属101点、種まで同定できたものは31種164点であった。これ以外に、不明甲虫とした昆虫が31点存在する。昆虫以外のオカダンゴムシの可能性が高い体節片が１点発見されている。検出部位別では、上翅（Elytron）が最も多く、続いて前胸背板（Pronotum）、腿脛節（Legs）、腹部（Abdomen）などであった。

生態別では、地表性歩行虫が計344点（71.1％）、うち食糞性ないし食屍性昆虫は計45点（9.3％）含有された。次いで、陸生の食植性昆虫が計42点（8.7％）発見され、水生昆虫では、食植性の種群のみが計43点（8.9％）出現している。ハエ目やアリ科など、その他の昆虫は計23点（4.8％）であった。

特徴的な種についてみると、最も多く発見された昆虫は、アオゴミムシ*Chlaenius pallipes*（25点）、コキベリアオゴミムシ*Chlaenius circumdatus*（６点）など、アオゴミムシ属*Chlaenius* sp.（計63点）に分類されるもの

表73　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫分析結果（1）
Tab.73 Insect analysis report at BK14（1）

			試料A							試料B							試料C							試料D		
			6号井戸	6号井戸	6号井戸	6号井戸	6号井戸	6号井戸	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	1号井戸	1号井戸	合計
	和　名	学　名／試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
食糞性	ガムシ科	Hidrophilidae gen. et sp. indet.											2		1											3
	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)												4	2											6
	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	1	1	1					8		1						1	1							14
	キイロヒラタガムシ	*Enochrus simulans* (Sharp)																				1				1
	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)									3			2	1			1			2	3	1		2	15
	マメガムシ	*Regimbartia attenuata* (Fabricius)								1					1			2								4
腐植性・食糞性	エンマコガネ属	*Onthhophagus* sp.													1								1			2
	マルエンマコガネ	*Onthophagus vidaus* Harold		2	3			1																		6
	コブマルエンマコガネ	*Onthhophagus atripennis* Waterhouse		1																						1
	クロマルエンマコガネ	*Onthhophagus ater* Waterhouse												1	3											4
	ツヤエンマコガネ	*Onthophagus nitidus* Waterhouse																	1							1
	マグソコガネ属	*Aphodius* sp.									1															1
	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)				2				2	3			3				1	1			4				16
	ヒメコマグソコガネ	*Aphodius botulus* Balthsar									2															2
	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.			1					1	1				2	1							1			7
	ヒメエンマムシ属	*Margarinotus* sp.								2																2
	ヒメエンマムシ	*Margarinotus weymarni* Wenzel																						1		1
	コツヤエンマムシ	*Atholus duodecimstriatus* (Gyllenhal)												2												2
肉食・雑食性	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	1	3	7	9	2	7	6	25	14	1	8	5	9	5	3	3	1	1	4	3	5			122
	アオオサムシ属	*Carabus* sp.						2																		2
	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	1	4	4	1			4	5	3			1	2		1	1		1	1			1		30
	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	3		3	3	1	1	3	1							1			1				4	4	25
	アオヘリアオゴミムシ?	*Chlaenius praefectus* Bates				1																				1
	アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius stschuhini* Menetries	1																							1
	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle				4					1										1					6
	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.			1	1		2	2	4	1		2	1	2		1	1								18
	キンナガゴミムシ	*Pterostichus planicollis* (Motschulsky)	1		1				4																	6
	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	4	8	2	7	1		2																2	26
	ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.		1	2					2																5
	ヒラタゴミムシ属	*Platynus* sp.		1																						1
	ツヤヒラタゴミムシ属	Synuchus sp.				1				3											1					5
	トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.			6				1																	7
	マルガタゲンゴロウ属	*Amara* sp.	2	4	1	4	5	1	1		3		1	1									1			24
	コアオマルガタゴミムシ	*Amara chalcophaea* Bates		1		1																				2
	ミズギワゴミムシ属	*Bembidion* sp.								1	1	1					1									4
	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.		1	2				1	3			1	2	1							2				13
	ムネビロハネカクシ	*Algon grandicolis* Sharp			1																					1

表74　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫分析結果（2）
Tab.74 Insect analysis report at BK14（2）

			試料A							試料B							試料C							試料D		合計
			6号井戸	6号井戸	6号井戸	6号井戸	6号井戸	6号井戸		2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	2号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	4号池状遺構	1号井戸	1号井戸	
	和　名	学　名／試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	
食植性（腐生）	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.				1																			1	2
	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky			2			1																		3
	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* Hope				1																			3	4
	コガネムシ	*Mimela splendens* Gyllenhal																	1							1
	アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi* (Harold)					4																			4
	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.				1				1									1							3
	クワハムシ	*Fleutiauxia armata* (Baly)			1																					1
	ホタルハムシ	*Monolepta dichroa* Harold														1										1
	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.								1	1				1		1								1	5
	ヒメゾウムシの一種	*Limnobaris* sp.								2																2
	マツアナアキゾウムシ	*Hylobitelus haroldi* (Faust)				1												2								3
	クワガタムシ科	Lucanidae gen. et sp. indet.			1																					1
	キマワリ属	*Plesiophthalmus* sp.			1																			1		2
	コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.												1												1
	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.				3							1					1					3			8
	ヒメカツオブシムシ	*Attagenus unicolor japonicus* Reitter																				1				1
その他	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.				2					1										1					4
	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett				1																				1
	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.		1						1	7			3											1	13
	シワアリの一種	*Tetramorium* sp.											1													1
	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)									4															4
	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	2	1	2	5		3		1	4	1	1	1	4	1	1	2				1			1	31
	オカダンゴムシ？	*Armadillidium vulgare* Latreille (?)																						1		1
	合計		16	29	42	48	14	18	24	64	50	4	19	26	29	8	10	14	6	3	10	15	12	8	15	484

であった。アオゴミムシは成虫も幼虫も低地から低山地の草原・畑・河原などに見られ、石下などに潜み夜間地表を歩き回って他の昆虫を捕食する（中根猛1975）。コキベリアオゴミムシは、低地から低山地にかけて生息し、池沼や水田・河原など水辺に近い湿潤地表面上に多い（中根猛1975）。種の同定に至らなかった他のアオゴミムシ属も同様に環境に生息し、他の昆虫類を食べる食肉性の地表性昆虫である。次に多く認められたオオゴミムシ*Lesticus magnus*（26点）も、アオゴミムシ属同様、食肉性の地表性昆虫である。低地から山のふもとにかけ、野原や畑・河原・松林などに生息し、日中石の下などに隠れ、夜間現れて他の昆虫の主に幼虫を捕食する（中根猛1975）。一方、同じ地表性昆虫でも、マルガタゴミムシ属 *Amara* sp.（24点）は、平地に多く成虫は草の種子や苗などの植物質を食べるほか、子虫も捕食する雑食性である（中根猛1975）。

食糞・食屍性昆虫では、人の集中居住した集落址や河川敷などに生息し、牛馬や人糞などに集まる（川井信矢ほか2008）マグソコガネ*Aphodius rectus*（16点）、人糞や犬糞によく集まり牛糞にも飛来する（岡島秀治ほか2012）マルエンマコガネ*Onthophagus viduus*（６点）や、人糞・犬糞をはじめ多くの哺乳動物の糞に集まる広食性のクロマルエンマコガネ*Onthhophagus ater*（４点）のほか、食屍性昆虫であるコツヤエンマムシ*Atholus duodecimstriatus*（２点）などエンマムシ科が計12点確認されている。

陸生の食植性昆虫は、点数は多くないが人為度の高い植生に依存する昆虫のみが出現している。人間が植栽した果樹や二次林の樹葉などを食するヒメコガネ *Anomala rufocuprea*（３点）、ドウガネブイブイ*A. cuprea*（４点）に加え、各種畑作物の花に集まるアオハナムグリ*Eucetonia roelofsi*（４点）、クワの葉を食草とする（尾園暁2014）クワハムシ*Fleutiauxia armata*（１点）、同じくヨモギ・ヨメナ・タデ類の葉を食べるホタルハムシ*Monolepta dichroa*（１点）、マツ類など針葉樹の新しい梢などの表皮を食するマツアナアキゾウムシ*Hylobitelus haroldi*（３点）などが発見された。

水生昆虫は、水生植物の繁茂する池沼や水たまり・水田などに生息するセマルガムシ*Coelostoma stultum*（15点）、薄暗い池沼や湿地を好む（三田村敏正ほか2017）キベリヒラタガムシ*Enochrus japonicus*（14点）、水深の浅い止水域に生息するヒメガムシ*Sternolophus rufipes*（６点）などが認められた。

（３）仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区における古環境復元

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区から得られた昆虫化石は、合計484点にも及ぶまとまった分析試料であるが、発見された昆虫片の多くが地表性昆虫で占められており、分析試料の採取場所がいずれも水に関連した遺構であったにも関わらず水生昆虫が少なく、陸生の食植性昆虫はさらに貧弱な組成となっている。そのため、昆虫分析試料から得られた古環境についての情報はやや片寄ったものになっている可能性があり、考古学的な成果とともに、種子や動物遺存体など、他の研究成果とも合わせて古環境を考える必要があろう。

①６号井戸周辺の古環境（試料１～７）：18世紀頃と考えられる６号井戸中の堆積物では地表性昆虫の出現率が高く、とくに肉食性の大型の地表性歩行虫が多く発見されている。試料６より２点確認されたアオオサムシ属 *Carabus* sp.は、おそらくアオオサムシ *Carabus insulicola*に同定されるものである。本種は日中は落葉下や土中に潜み、夜になると地上に出てミミズや他の昆虫を食べる（中根猛1975）。試料１および試料３～７より計14点発見されたアオゴミムシ、試料１～５、および試料７から計24点確認されたオオゴミムシなどもまた、夜行性で他の昆虫を捕食する肉食性の地表性昆虫である。試料１および試料３、試料７より計６点見つかっているキンナガゴミムシ*Pterostichus planicolis* は、平地に多い地表性歩行虫で、夜間活動してケラやヨトウガの幼虫などを食べる。一方、試料１～７から計18点確認されたマルガタゴミムシ属は、比較的乾燥した地表面上に生息する種子食ないし雑食性の小型ゴミムシ類である。食糞性の地表性昆虫では、人糞や犬糞に集まるマルエンマコガネが計６点見つかっている。

産出点数は少ないが、本試料中より得られた各種食植性昆虫からの情報は６号井戸周辺の古環境を考えるうえ

で重要である。試料３および試料４、試料６より発見されたヒメコガネやドウガネブイブイは、人里昆虫として知られるもので、人間が植栽した果樹や畑作物の葉を加害する。また試料５より得られたマツアナアキゾウムシは、アカマツやクロマツに依存する食植性昆虫である。試料３より確認されたクワガタムシ科は落葉広葉樹の樹液に集まる。同じ試料３から得られたキマワリ属は倒木の存在を、また試料４より確認されたゴミムシダマシ科は、６号井戸周辺に倒木のみならず朽ち木が転がっていたことを示唆している。

昆虫が発見された遺構が井戸であったことを考えると、地表性昆虫の多くはエサを求めて井戸の周りを歩行していて落下したか、死後風などにより運ばれ井戸中に保存されることになったものであろう。一方、食植性昆虫については、井戸周辺に生えていた庭木や果樹・草本類に由来する昆虫であったとみなすことができる。

②２号池状遺構の古環境（試料８～14）：本試料の最も大きな特徴は、食植性の水生昆虫であるガムシ科が計26点と多産したことであろう。試料８および10から得られたキベリヒラタガムシは、薄暗い止水域を特徴づける水生昆虫であり、17世紀の頃存在したとされる２号池状遺構は周囲に木々が茂り薄暗い環境だったことが考えられる。また、やや大型のヒメガムシのほか、水深の浅い富栄養の水域を好むセマルガムシやマメガムシなど、多様な食植性昆虫が認められたことより、２号池状遺構には食植性の水生昆虫のエサとなる多くの水生植物が繁茂していたと考えられる。だが、この池状遺構からは食植性昆虫がほとんど出現しないため、池状遺構が薄暗い環境だったのには、建物など他の要因が関係していたのかもしれない。

同じ試料からは、コツヤエンマムシをはじめ多数のエンマムシ科が出現している。エンマムシ科は食屍性昆虫として知られるもので、小動物の死体や腐肉などに集まる。池状遺構周辺に何らかの動物遺体が存在した可能性が考えられる。こうした推定は、腐肉や動物質のエサに集まるハネカクシ科（７点）やアリ科（11点）の多産によっても支持される。２号池状遺構の堆積物中には、エンマコガネ属、クロマルエンマコガネ、マグソコガネ、ヒメコマグソコガネ*Aphodius botulus*など、各種の糞食性昆虫が出現することより、池状遺構周辺は、人糞や獣糞により幾分汚染が進行していたと考えられる。

③４号池状遺構の古環境（試料15～21）：２号池状遺構同様、水生昆虫の出現率が高い。うち試料20に含有されたキイロヒラタガムシ*Enochrus simulans*（１点）は、池沼や休耕田など（三田村敏正ほか2017）、水流のほとんどない止水環境の指標種であり、４号池状遺構の古環境を考えるうえで興味深い。

食糞性昆虫の中に、ツヤエンマコガネ*Onthophagus nitidus*（１点）が含有されたが、本種は食糞性昆虫でありながら、森林内の小動物の屍体（小型哺乳類やミミズなど）に集まる性質がある（岡島秀治ほか2012）。また、試料20からは、ヒメカツオブシムシ*Attagenus unicolor japonicus*が発見された。本種は、家屋害虫として蚕繭・蜂蜜・乾魚などの害虫として知られるが、野外では動物の死体や骨・羽毛などから得られている（日本家屋害虫学会編1995）。そのため、これらの昆虫の出現は、池内に存在した動物遺体との関連が疑われるものである。

④１号井戸周辺の古環境（試料22～23）：１号井戸中の堆積物からは、地表性昆虫ではアオゴミムシ（８点）やオオゴミムシ（２点）が得られている。６号井戸の昆虫と同じく、井戸周辺に生息していた昆虫が誤って井戸内に落下したものであると考えられる。試料22からは、オカダンゴムシ*Armadillidium vulgare*？に同定しうる節足動物の体節片が検出されている。

本種は、ヨーロッパ原産の外来種であり、1943年、横浜海運局植物検査課の岩本嘉兵衛による「日本産陸棲等脚類に就いて」(1943）が、日本での最初の報告とされる（渡辺弘之2011）。わが国にオカダンゴムシがいつ渡来したか正確なことは分かっていないが、明治のはじめ横浜の開港と同時にヨーロッパからやってきた（渡辺弘之2011）とされている。仙台城二の丸北方武家屋敷地区の１号井戸堆積物（17世紀初頭から19世紀中葉）から産出した体節片がオカダンゴムシであるのなら、少なくともこの体節片包含層の堆積は、明治時代より遡ることはない、という示標になる可能性がある。

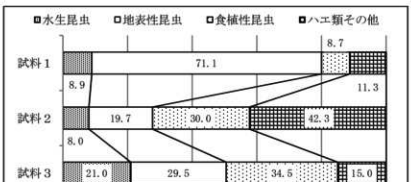
（4）仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区出土昆虫の特異性

ここで、仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の昆虫組成は、中世後期から江戸時代の同じような遺跡から得られた昆虫分析結果とは、かなり異なるものであったことについて述べておかなければならない。

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区から得られた昆虫組成では、地表性昆虫の占める割合が71.1％と著しく高く、食植性昆虫や水生昆虫の出現率が異常に少ないことが大きな特徴であった。

食植性昆虫の少なさからは、武家屋敷内に存在した植生は食植性昆虫が好む草本類や広葉樹・畑作物などでなく、昆虫が加害することの少ない針葉樹を中心としたもので構成されていたと想像される。そして、屋敷内は常に掃き清められ、地表面上に生活ゴミや腐植などがほとんど存在しなかったことが考えられる。地表性昆虫は、ヒトの汚染や撹乱に関係する食糞性および食屍性昆虫ではなく、夜行性のアオゴミムシ類やオオゴミムシなど大型の地表性昆虫で占められた。

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区の昆虫組成（試料１）を、愛知県名古屋城三の丸遺跡（森勇一・上田恭子2005：「御屋形」と呼ばれる尾張藩主の親族らが居住した屋敷跡の主に埋桶堆積物、江戸時代）、同清洲城下町遺跡（森勇一2002・2020：本能寺の変後、織田信雄により整備された武家屋敷の溝堆積物、中世後期）、三重県桑名城下町遺跡（森勇一2000：本多忠勝桑城の桑名城下町の町屋と呼ばれる居住域内の土坑埋土、江戸時代）の昆虫分析結果と比べてみる（図79）。名古屋城三の丸遺跡では、遺構の性質（漬け物桶）もありヒメイエバエはじめハエ類が多産したが、３遺跡ともヒメコガネ・マメコガネ・ドウガネブイブイなどヒトが植栽した果樹や畑作物などを加害する食植性昆虫が30～42％の出現率を示し、地表性昆虫も仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区とは異なりそのほとんどが人糞や生活ゴミに集まる食糞性昆虫やゴミムシ類であった。



試料１：本遺跡（江戸）、試料２：名古屋城三の丸遺跡（江戸）
試料３：清州城下町遺跡（中世後期）、試料４：桑名城下町遺跡（江戸）

図79　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土昆虫と他の遺跡との比較
Fig.79 Comparison of insects at BK14 and other archaeological sites

（5）まとめ

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区からは、地表性昆虫を中心に多数の昆虫化石が確認された。これらの多くは、17世紀より19世紀にかけての宮城県仙台市周辺の古環境を復元するうえで重要な情報を提供している。18世紀の６号井戸から見つかった食糞性昆虫のマルエンマコガネは、琉球列島にその一部の個体群が生息するものの、日本本土から絶滅しすでに久しい昆虫として知られる（岡島秀治ほか2012）。また、17世紀初頭から19世紀中葉の１号井戸から発見されたオカダンゴムシと考えられる体節片は、遺跡発掘により得られた堆積物がはたしていつの時代のものか探るうえで、重要な手がかりを与えるものである。

遺跡から発見されるムシたちは、いずれも微細な体節片に分離しており、分類・同定するには著しく困難な研究対象であるが、粘り強く追究すれば新たな手がかりをもたらす可能性がある優れた研究対象でもある。

表75　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（1）
Tab.75 Insect fossil list at BK14（1）

番号	和名	学名	部位	長さ/幅 mm	写真	食性	生態	遺構名	層位
試料1	1 アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板	4.1	1	食肉性	地表性	6号井戸	理土
	2 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板	7.2	2	食肉性	地表性	6号井戸	理土
	3 マルガタゴミムシ属	Amara sp.	右上翅	5.3	3	雑食性	地表性	6号井戸	理土
	4 マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	右上翅片	3.0	4	雑食性	地表性	6号井戸	理土
	5 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	左上翅下半部	10.5	5-6	食肉性	地表性	6号井戸	理土
	6 アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	右上翅上半部	4.1	7	食肉性	地表性	6号井戸	理土
	7 キンナガゴミムシ	*Pterostichus planicolis* (Motschulsky)	前胸背板	4.0	8	食肉性	地表性	6号井戸	理土
	8 アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板片	2.4		食肉性	地表性	6号井戸	理土
	9 アトボシアオゴミムシ	*Chlaenius stschuhini* Menetries	頭部	2.7	9	食肉性	地表性	6号井戸	理土
	10 キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	左上翅片	3.6	10	食植性	水生	6号井戸	理土
	11 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板片	2.0		食肉性	地表性	6号井戸	理土
	12 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	頭部片	2.9		食肉性	地表性	6号井戸	理土
	13 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	右上翅	3.2		食肉性	地表性	6号井戸	理土
	14 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板左半部	2.2		雑食性	地表性	6号井戸	理土
	15 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	1.6		不明	不明	6号井戸	理土
	16 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明	2.5		不明	不明	6号井戸	理土
試料2	1 キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	左上翅	3.7	11	食植性	水生	6号井戸	11層
	2 コアオマルガタゴミムシ	*Amara chalcophaea* Bates	前胸背板	3.8	12	雑食性	地表性	6号井戸	11層
	3 コブマルエンマコガネ	*Onthophagus atripennis* Waterhouse	左上翅片	4.5	13	食糞性	地表性	6号井戸	11層
	4 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	右上翅	1.4		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	5 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	右上翅片	1.8		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	6 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	左上翅上半部	2.1		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	7 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板	1.7		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	8 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板片	2.1		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	9 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片	1.8		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	10 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片	1.5		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	11 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板	3.9	14	食肉性	地表性	6号井戸	11層
	12 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板	4.0	15	食肉性	地表性	6号井戸	11層
	13 マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* Harold	右上翅片	3.8	16	食糞性	地表性	6号井戸	11層
	14 マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* Harold	右上翅片	4.0	17	食糞性	地表性	6号井戸	11層
	15 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	16 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	17 マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	左上翅			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	18 マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	19 マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	20 マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	左上翅			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	21 ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板	3.4	18	雑食性	地表性	6号井戸	11層
	22 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	23 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	24 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	25 ヒラタゴミムシ属	*Platynus* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	26 アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	2.3	19	雑食性	地表性	6号井戸	11層
	27 ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	28 オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	29 不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	6号井戸	11層
試料3	1 クワハムシ	*Fleutiaxsia armata* (Baly)	前胸背板	3.3	20-21	食植性	好植性	6号井戸	11層
	2 ヒメヨガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	前胸背板	2.4	22-23	食植性	好植性	6号井戸	11層
	3 マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* Harold	頭部	3.0	24	食糞性	地表性	6号井戸	11層
	4 マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* Harold	頭部	2.8	25	食糞性	地表性	6号井戸	11層
	5 マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* Harold	右上翅	4.6	26	食糞性	地表性	6号井戸	11層
	6 キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	左上翅	4.0	27-28	食植性	水生	6号井戸	11層
	7 ムネビロハネカクシ	*Algon grandicolis* Sharp	前胸背板	3.0	29	雑食性	地表性	6号井戸	11層
	8 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	9 オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	10 キマワリ属	*Plesiophthalmus* sp.	上翅片	2.8	30	食植性	地表性	6号井戸	11層
	11 クワガタムシ科	Lucanidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食植性	好植性	6号井戸	11層
	12 アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	13 アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	14 キンナガゴミムシ	*Pterostichus planicolis* (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	15 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	16 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	17 アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	18 マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	19 ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	20 ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	21 ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	22 アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	23 トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	24 トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	25 トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	26 トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	27 トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	11層

表76　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（2）
Tab.76 Insect fossil list at BK14 (2)

	番号	和名	学名	部位	長さ/幅 mm		写真	食性	生態	道構名	層位
試料3	28	トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸腹板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	29	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	30	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部腹板				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	31	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	上翅片				食屍性	地表性	6号井戸	11層
	32	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	33	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	34	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	35	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	38	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
	39	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板片				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	40	ヒメコガネ	*Anomala rufocuprea* Motschulsky	上翅片				食植性	好植性	6号井戸	11層
	41	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
	42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
試料4	1	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle	前胸背板	3.2	33		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	2	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板	3.8	34		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	3	アオベリアオゴミムシ?	*Chlaenius praefectus* Bates	前胸背板	4.8	35		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	4	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板	4.0	36		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	5	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle	前胸背板	3.2	37		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	6	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle	前胸背板	3.2	38		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	7	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle	前胸背板	3.3	39		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	8	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板	6.1	40		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	9	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板	3.9	41		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	10	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	頭部	4.7	42		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	11	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	頭部	4.8	43		食肉性	地表性	6号井戸	11層
	12	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	13	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	14	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	15	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	16	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	17	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片	2.0	44		食糞性	地表性	6号井戸	11層
	18	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片				食糞性	地表性	6号井戸	11層
	19	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* Hope	中腿節	4.6	45		食植性	好植性	6号井戸	11層
	20	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	頭部	3.0			食植性	好植性	6号井戸	11層
	21	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	頭部	2.7			食植性	好植性	6号井戸	11層
	22	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	23	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	24	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	25	コアオマルガタゴミムシ	*Amara chalcophaea* Bates	前胸背板	3.7	48		雑食性	地表性	6号井戸	11層
	26	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				食肉性	地表性	6号井戸	11層
	27	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	28	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	29	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	胸部				食植性	好植性	6号井戸	11層
	30	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	前胸背板				食植性	好植性	6号井戸	11層
	31	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	32	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	33	オオクロバエ	*Calliphora lata* Coquillett	囲蛹片	5.0	50		食糞性	地表性	6号井戸	11層
	34	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片				食糞性	地表性	6号井戸	11層
	35	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片				食糞性	地表性	6号井戸	11層
	36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	38	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	39	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	40	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	41	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	43	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	胸部片				食植性	好植性	6号井戸	11層
	44	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
	45	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
	46	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
	47	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
	48	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	6号井戸	11層
試料5	1	アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi* (Harold)	右上腿上半部	5.8	51		食植性	好植性	6号井戸	11層
	2	アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi* (Harold)	左上腿上半部	3.5	52		食植性	好植性	6号井戸	11層
	3	アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi* (Harold)	前胸背板片	2.7	53		食植性	好植性	6号井戸	11層
	4	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片	2.3			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	5	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	上翅片	1.4			食肉性	地表性	6号井戸	11層
	6	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	上翅片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	7	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	8	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層
	9	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	6号井戸	11層

表77　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（3）
Tab.77 Insect fossil list at BK14 (3)

番号		和　名	学　名	部　位	長さ/幅 mm	写真	食　性	生　態	遺構名	層位
試料5	10	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	11層
	13	マツアナアキゾウムシ	*Hylobitelus haroldi* (Faust)	左上翅	7.0	54-55	食植性	好植性	6号井戸	11層
	14	アオハナムグリ	*Eucetonia roelofsi* (Harold)	上翅片	4.0	56	食植性	好植性	6号井戸	11層
試料6	1	マルエンマコガネ	*Onthophagus viduus* Harold	左上翅	4.5	57	食糞性	地表性	6号井戸	8層
	2	ヒメコガネ	*Anomala rufocupreu* Motschulsky	頭部	2.5	58-59	食植性	好植性	6号井戸	8層
	3	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板片			食肉性	地表性	6号井戸	8層
	4	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	8層
	5	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	9	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	6号井戸	8層
	10	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	11	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	腹部腹板			不明	不明	6号井戸	8層
	12	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	6号井戸	8層
	13	アオオサムシ属	*Carabus* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	8層
	14	アオオサムシ属	*Carabus* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	8層
	15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	16	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	8層
	18	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	幼虫	8.5	60	不明	不明	6号井戸	8層
試料7	1	キンナガゴミムシ	*Pterostichus plamicolis* (Motschulsky)	左上翅	7.5	61-62	食肉性	地表性	6号井戸	10層
	2	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	右上翅			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	3	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	右上翅			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	4	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	5	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	上翅片			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	6	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板片			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	7	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	8	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	9	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	10	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	15	キンナガゴミムシ	*Pterostichus plamicolis* (Motschulsky)	前胸背板	4.0	63	食肉性	地表性	6号井戸	10層
	16	キンナガゴミムシ	*Pterostichus plamicolis* (Motschulsky)	右上翅	6.8	64	食肉性	地表性	6号井戸	10層
	17	キンナガゴミムシ	*Pterostichus plamicolis* (Motschulsky)	左上翅			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	18	マルガタゴミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	19	トックリゴミムシ属	*Lachnocrepis* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	20	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅片			雑食性	地表性	6号井戸	10層
	22	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	23	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	6号井戸	10層
	24	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	6号井戸	10層
試料8	1	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	左上翅	3.9	65-67	食糞性	地表性	2号池状遺構	2層
	2	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	左上翅	3.5	68	食植性	水生	2号池状遺構	2層
	3	ヒメエンマムシ属	*Margarinotus* sp.	右上翅	3.2	69	食屍性	地表性	2号池状遺構	2層
	4	ヒメエンマムシ属	*Margarinotus* sp.	前胸背板	3.3	70	食屍性	地表性	2号池状遺構	2層
	5	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	左上翅			食植性	水生	2号池状遺構	2層
	6	ミズギワゴミムシ属	*Bembidion* sp.	左上翅	2.8	71	雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	7	ヒメゾウムシの一種	*Limnobaris* sp.	右上翅	2.3	72	食植性	好植性	2号池状遺構	2層
	8	ヒメゾウムシの一種	*Limnobaris* sp.	左上翅			食植性	好植性	2号池状遺構	2層
	9	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板			食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	10	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	15	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左上翅			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	16	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板			食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	17	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	18	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	19	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	左上翅			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	20	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	右上翅上半部	3.9	73	食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	22	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	23	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部			食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	24	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	右上翅			食植性	水生	2号池状遺構	2層
	25	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	左上翅上半部	3.1	74	食植性	水生	2号池状遺構	2層

表78　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（4）
Tab.78 Insect fossil list at BK14（4）

番号		和　名	学　名	部　位	長さ/幅 mm		写真	食　性	生　態	遺構名	層位
試料8	26	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	27	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片				食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	28	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	29	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	30	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	31	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	32	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				食肉性	地表性	2号池状遺構	2層
	33	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	34	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	35	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	36	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	37	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	38	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	39	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	40	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	41	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	42	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	43	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部	2.5	75		雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	44	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	45	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	腿節節	5.2	76		食屍性	地表性	2号池状遺構	2層
	46	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片	2.2	77		食糞性	地表性	2号池状遺構	2層
	47	マメガムシ	*Regimbartia attenuata* (Fabricius)	右上翅	2.1	78		食植性	水生	2号池状遺構	2層
	48	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	上翅片				食植性	水生	2号池状遺構	2層
	49	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	前胸背板片				食植性	水生	2号池状遺構	2層
	50	ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸背板				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	51	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	52	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	前胸背板				食植性	好植性	2号池状遺構	2層
	53	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	54	ヒラタゴミムシ族	Platynini gen. et sp. indet.	前胸腹板				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	55	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	上翅片				食植性	水生	2号池状遺構	2層
	56	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	上翅片				食植性	水生	2号池状遺構	2層
	57	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	58	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	59	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	60	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	61	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅下半部				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	62	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	2層
	63	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	2号池状遺構	2層
	64	ゾウムシ科	Curlionidae gen. et sp. indet.	前胸腹板				食植性	好植性	2号池状遺構	2層
試料9	1	ヒメコマグソコガネ	*Aphodius botulus* Balthsar	左上翅	3.0	79-80		食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層
	2	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板	2.8	81		食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層
	3	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸腹板片	2.2			食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層
	4	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	左上翅	3.8	82		食植性	水生	2号池状遺構	3a層
	5	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	前胸背板片				食植性	水生	2号池状遺構	3a層
	6	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	上翅片				食屍性	地表性	2号池状遺構	3a層
	7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	8	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle	前胸背板				食肉性	地表性	2号池状遺構	3a層
	9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸腹板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	10	ヒメコマグソコガネ	*Aphodius botulus* Balthsar	右上翅				食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層
	11	マルガタガミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	16	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	18	ゾウムシ科	Curlionidae gen. et sp. indet.	頭部				食植性	好植性	2号池状遺構	3a層
	19	ミズギワゴミムシ属	*Dembidion* sp.	左上翅				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	20	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	21	マルガタガミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	22	マルガタガミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	23	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	24	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	25	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	26	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	27	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	28	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部片				食肉性	地表性	2号池状遺構	3a層
	29	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	30	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部片				雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	31	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	上翅片				食植性	水生	2号池状遺構	3a層
	32	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片				食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層
	33	マグソコガネ属	*Aphodius* sp.	腿節節				食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層

表79　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（5）
Tab.79 Insect fossil list at BK14（5）

番号		和　名	学　名	部　位	長さ(幅) mm	写真	食　性	生　態	遺構名	層位
試料9	34	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	35	トビイロシワアリ	*Tetramorium tsushimae* (Emery)	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	36	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	37	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	3a層
	38	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	3a層
	39	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	前胸背板片			不明	不明	2号池状遺構	3a層
	40	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	2号池状遺構	3a層
	41	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	2号池状遺構	3a層
	42	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片			食肉性	地表性	2号池状遺構	3a層
	43	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	44	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	45	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	46	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	3a層
	47	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	48	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	49	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	3a層
	50	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	囲蛹片			食糞性	地表性	2号池状遺構	3a層
試料10	1	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	上翅片			食植性	水生	2号池状遺構	3b層
	2	ミズギワゴミムシ属	*Bembidion* sp.	左上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	3b層
	3	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	上翅片			不明	不明	2号池状遺構	3b層
	4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	2号池状遺構	3b層
試料11	1	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板	4.0	83	食肉性	地表性	2号池状遺構	4層
	2	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板	4.0	84	食肉性	地表性	2号池状遺構	4層
	3	シワアリの一種	*Tetramorium* sp.	胸部	1.2	85	雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	7	マルガタガミムシ属	*Amara* sp.	前胸背板片			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	10	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	上翅片			食植性	水生	2号池状遺構	4層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	12	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	13	ガムシ科	Hidrophilidae gen. et sp. indet.	腿節			食植性	水生	2号池状遺構	4層
	14	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	左上翅	4.0	86	食植性	水生	2号池状遺構	4層
	15	ゴミムシダマシ科	Tenebrrionidae gen. et sp. indet.	上翅片			食植性	好植性	2号池状遺構	4層
	16	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	17	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板			雑食性	地表性	2号池状遺構	4層
	18	ガムシ科	Hidrophilidae gen. et sp. indet.	上翅片			食植性	水生	2号池状遺構	4層
	19	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	頭部	2.0	87	不明	不明	2号池状遺構	4層
試料12	1	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	上翅片	5.2	89	食植性	水生	2号池状遺構	5a層
	2	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	脛節	4.8	90	食植性	水生	2号池状遺構	5a層
	3	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	前胸背板片			食植性	水生	2号池状遺構	5a層
	4	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	上翅片			食植性	水生	2号池状遺構	5a層
	5	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	左上翅上半部	2.1	91	食糞性	地表性	2号池状遺構	5a層
	6	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片			食糞性	地表性	2号池状遺構	5a層
	7	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片			食糞性	地表性	2号池状遺構	5a層
	8	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	左上翅下半部			食植性	水生	2号池状遺構	5a層
	9	コツヤエンマムシ	*Atholus duodecimstriatus* (Gyllenhal)	左上翅	2.1	92	食屍性	地表性	2号池状遺構	5a層
	10	コツヤエンマムシ	*Atholus duodecimstriatus* (Gyllenhal)	右上翅			食屍性	地表性	2号池状遺構	5a層
	11	クロマルエンマコガネ	*Onthhophagus ater* Waterhouse	右上翅	3.8	93	食糞性	地表性	2号池状遺構	5a層
	12	コメツキムシ科	Elateridae gen. et sp. indet.	上翅片			食植性	好植性	2号池状遺構	5a層
	13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	15	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	16	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	胸部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	17	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	18	マルガタガミムシ属	*Amara* sp.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	19	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	20	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	上翅片			食肉性	地表性	2号池状遺構	5a層
	21	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板片			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	22	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	23	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	25	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	上翅片			食肉性	地表性	2号池状遺構	5a層
	26	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	2号池状遺構	5a層
	24	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	2号池状遺構	5a層
試料13	1	クロマルエンマコガネ	*Onthhophagus ater* Waterhouse	頭部	2.2	94	食糞性	地表性	2号池状遺構	5b層
	2	クロマルエンマコガネ	*Onthhophagus ater* Waterhouse	右上翅下半部	1.8	95	食糞性	地表性	2号池状遺構	5b層
	3	クロマルエンマコガネ	*Onthhophagus ater* Waterhouse	前胸背板左半部	2.2	96	食糞性	地表性	2号池状遺構	5b層
	4	マメガムシ	*Regimbartia attenuata* (Fabricius)	右上翅上半部	1.3	97	食植性	水生	2号池状遺構	5b層
	5	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	左後脚脛節	2.3	98	食屍性	地表性	2号池状遺構	5b層
	6	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	腿節			食屍性	地表性	2号池状遺構	5b層

表80　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（6）
Tab.80 Insect fossil list at BK14（6）

番号		和　名	学　名	部　位	長さ/幅 mm		写真	食　性	生　態	道構名	層位
試料13	7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	10	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				肉肉性	地表性	2号池状道構	5b層
	11	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	前胸背板片				食植性	水生	2号池状道構	5b層
	12	ヒメガムシ	*Sternolophus rufipes* (Fabricius)	腿節片				食植性	水生	2号池状道構	5b層
	13	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	14	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	16	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				肉肉性	地表性	2号池状道構	5b層
	17	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	頭部片				食植性	好植性	2号池状道構	5b層
	18	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	19	ガムシ科	Hidrophilidae gen. et sp. indet.	腹部				食植性	水生	2号池状道構	5b層
	20	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	21	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	22	エンマコガネ属	*Onthophagus* sp.	腹部腹板片				食糞性	地表性	2号池状道構	5b層
	23	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	2号池状道構	5b層
	24	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	2号池状道構	5b層
	25	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	2号池状道構	5b層
	26	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片				肉肉性	地表性	2号池状道構	5b層
	27	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片				肉肉性	地表性	2号池状道構	5b層
	28	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				雑食性	地表性	2号池状道構	5b層
	29	不明甲虫	Coleoptera fam. gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	2号池状道構	5b層
試料14	1	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	2号池状道構	5a層
	2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	2号池状道構	5a層
	3	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	腿節				雑食性	地表性	2号池状道構	5a層
	4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅				雑食性	地表性	2号池状道構	5a層
	5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	2号池状道構	5a層
	6	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	中腿脛節				食屍性	地表性	2号池状道構	5a層
	7	不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	2号池状道構	5a層
	8	ホタルハムシ	Monolepta dichroa Harold.	右上翅上半部	2.4	99		食植性	好植性	2号池状道構	5a層
試料15	1	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	左上翅	3.2	101-102		食植性	水生	4号池状道構	2層
	2	アオゴミムシ	*Chlaenius bullipes* Gebler	前胸背板左半部				食肉性	地表性	4号池状道構	2層
	3	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	前胸背板片				食肉性	地表性	4号池状道構	2層
	4	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板右半部				食肉性	地表性	4号池状道構	2層
	5	ミズギワゴミムシ属	*Bembidion* sp.	右上翅上半部	3.2	103		雑食性	地表性	4号池状道構	2層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	4号池状道構	2層
	7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	4号池状道構	2層
	8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片	2.4	99		雑食性	地表性	4号池状道構	2層
	9	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	腿節				食植性	好植性	4号池状道構	2層
	10	不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	4号池状道構	2層
試料16	1	マツアナアキゾウムシ	*Hylobitelus haroldi* (Faust)	右上翅	6.0	104		食植性	好植性	4号池状道構	3層
	2	マツアナアキゾウムシ	*Hylobitelus haroldi* (Faust)	左上翅片				食植性	好植性	4号池状道構	3層
	3	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	4号池状道構	3層
	4	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	大顎				雑食性	地表性	4号池状道構	3層
	5	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				食肉性	地表性	4号池状道構	3層
	6	ナガゴミムシ属	*Pterostichus* sp.	前胸背板片				食肉性	地表性	4号池状道構	3層
	7	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	上翅片				食植性	水生	4号池状道構	3層
	8	マメガムシ	*Regimbartia attenuata* (Fabricius)	上翅片				食植性	水生	4号池状道構	3層
	9	マメガムシ	*Regimbartia attenuata* (Fabricius)	上翅片				食植性	水生	4号池状道構	3層
	10	ゴミムシダマシ科	Tenebrionidae gen. et sp. indet.	上翅片				食植性	好植性	4号池状道構	3層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部				雑食性	地表性	4号池状道構	3層
	12	不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	4号池状道構	3層
	13	不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明				不明	不明	4号池状道構	3層
	14	マダソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	右上翅上半部				食糞性	地表性	4号池状道構	3層
試料17	1	ツヤエンマコガネ	*Onthophagus nitidus* Waterhouse	左上翅	4.0	105		食糞性	地表性	4号池状道構	5層
	2	マダソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板片	2.8	106-107		食糞性	地表性	4号池状道構	5層
	3	コガネムシ	*Mimela splendens* Gyllenhal	上翅片				食植性	好植性	4号池状道構	5層
	4	キベリヒラタガムシ	*Enochrus japonicus* (Sharp)	上翅片				食植性	水生	4号池状道構	5層
	5	ハムシ科	Crysomelidae gen. et sp. indet.	前胸背板片				食植性	好植性	4号池状道構	5層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅上半部				雑食性	地表性	4号池状道構	5層
試料18	1	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部				食肉性	地表性	4号池状道構	6層
	2	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	4号池状道構	6層
	3	アオゴミムシ	*Chlaenius bullipes* Gebler	前胸背板片				食肉性	地表性	4号池状道構	6層
試料19	1	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部				雑食性	地表性	4号池状道構	7層
	2	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部片				食肉性	地表性	4号池状道構	7層
	3	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	左上翅				雑食性	地表性	4号池状道構	7層
	4	ツヤヒラタゴミムシ属	*Synuchus* sp.	右上翅				雑食性	地表性	4号池状道構	7層
	5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	右上翅				雑食性	地表性	4号池状道構	7層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片				雑食性	地表性	4号池状道構	7層
	7	コキベリアオゴミムシ	*Chlaenius circumdatus* Brulle	前胸背板				食肉性	地表性	4号池状道構	7層
	8	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	左上翅片				食植性	水生	4号池状道構	7層

表81　仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点における昆虫化石リスト（7）
Tab.81 Insect fossil list at BK14 (7)

番号		和　名	学　名	部　位	長さ(幅) mm	写真	食　性	生　態	遺構名	層位
試料19	9	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	上翅片			食植性	水生	4号池状遺構	7層
	10	ハエ目	Diptera fam. gen. et sp. indet.	四幅片			食糞性	地表性	4号池状遺構	7層
試料20	1	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	左上翅片			食糞性	地表性	4号池状遺構	8b層
	2	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板			食糞性	地表性	4号池状遺構	8b層
	3	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	前胸背板			食糞性	地表性	4号池状遺構	8b層
	4	不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	部位不明			不明	不明	4号池状遺構	8b層
	5	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	腹部背板			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	6	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	7	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	8	ハネカクシ科	Staphylinidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	9	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	上翅片			食植性	水生	4号池状遺構	8b層
	10	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	上翅片			食植性	水生	4号池状遺構	8b層
	11	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	上翅片			食植性	水生	4号池状遺構	8b層
	12	キイロヒラタガムシ	*Enochrus simulans* (Sharp)	上翅片			食植性	水生	4号池状遺構	8b層
	13	マグソコガネ	*Aphodius rectus* (Motschulsky)	腹部背板	2.2	108	食糞性	地表性	4号池状遺構	8b層
	14	ヒメカツオブシムシ	*Attagenus unicolor japonicus Reitter*	右上翅片	4.0	109-110	雑食性	家屋害虫	4号池状遺構	8b層
	15	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	胸部片			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
試料21	1	ゴミムシダマシ科	Tenebrrionidae gen. et sp. indet.	左上翅下半部	4.0	111	食植性	好植性	4号池状遺構	8b層
	2	ゴミムシダマシ科	Tenebrrionidae gen. et sp. indet.	左上翅	6.1	112-113	食植性	好植性	4号池状遺構	8b層
	3	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	4	マルガタガミムシ属	*Amara* sp.	右上翅			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	5	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	6	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	前胸背板			食植性	水生	4号池状遺構	8b層
	7	エンマコガネ属	*Onthophagus* sp.	腿節			食糞性	地表性	4号池状遺構	8b層
	8	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	頭部片			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	9	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	10	ゴミムシダマシ科	Tenebrrionidae gen. et sp. indet.	左上翅下半部			食植性	好植性	4号池状遺構	8b層
	11	オサムシ科	Carabidae gen. et sp. indet.	上翅片			雑食性	地表性	4号池状遺構	8b層
	12	エンマムシ科	Histeridae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食屍性	地表性	4号池状遺構	8b層
試料22	1	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	1号井戸	2層
	2	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	上翅片			食肉性	地表性	1号井戸	2層
	3	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	1号井戸	2層
	4	アオゴミムシ属	*Chlaenius* sp.	頭部片			食肉性	地表性	1号井戸	2層
	5	ヒメエンマムシ	*Margarinotus weymarni* Wenzel	右上翅	4.2	114-115	食屍性	地表性	1号井戸	2層
	6	キマワリ属	*Plesiophthalmus* sp.	上翅片			雑食性	地表性	1号井戸	2層
	7	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	1号井戸	2層
	8	オカダンゴムシ？	*Armadillidium vulgare* Latreille (?)	体節片	7.0	119-120	雑食性	地表性	1号井戸	2層
試料23	1	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	前胸背板			食肉性	地表性	1号井戸	3層
	2	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* Hope	上翅片			食植性	好植性	1号井戸	3層
	3	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* Hope	腿節			食植性	好植性	1号井戸	3層
	4	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	右上翅	7.9	121	食肉性	地表性	1号井戸	3層
	5	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	左上翅上半部	6.8	122	食肉性	地表性	1号井戸	3層
	6	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板			食肉性	地表性	1号井戸	3層
	7	オオゴミムシ	*Lesticus magnus* (Motschulsky)	左上翅上半部			食肉性	地表性	1号井戸	3層
	8	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	左上翅片			食植性	水生	1号井戸	3層
	9	アオゴミムシ	*Chlaenius pallipes* Gebler	前胸背板片			食肉性	地表性	1号井戸	3層
	10	セマルガムシ	*Coelostoma stultum* (Walker)	右上翅片			食植性	水生	1号井戸	3層
	11	ドウガネブイブイ	*Anomala cuprea* Hope	脛節片			食植性	好植性	1号井戸	3層
	12	ゾウムシ科	Curculionidae gen. et sp. indet.	腿脛節			食植性	好植性	1号井戸	3層
	13	コガネムシ科	Scarabaeidae gen. et sp. indet.	前胸背板片			食植性	好植性	1号井戸	3層
	14	不明甲虫	Carabidae gen. et sp. indet.	腹部腹板			不明	不明	1号井戸	3層
	15	アリ科	Formicidae gen. et sp. indet.	頭部	1.4	123	雑食性	地表性	1号井戸	3層

6．仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点出土石臼付着の白色粒子の分析

上條信彦（弘前大学人文社会科学部）・柴　正敏（弘前大学理工学研究科）

（1）分析の目的

本調査において検出された石臼の破片を調査担当者が肉眼観察したところ、目立て溝のなかに白色の粒子が付着していることが確認された（図80－1）。そこで、この粒子が何であるか上條に問い合わせがあり、2017年8月に検討を行った。石臼の用途として食料や鉱物の製粉が挙げられるが、本試料がデンプンであれば、デンプン研究の有効性が示され石臼の用途研究に新たな知見をもたらすほか、石臼付着物質の研究はほとんどないことから、出土地を考慮すれば、遺構や居住者の性格を知ることにもつながる。そこで本遺跡出土の試料について、理化学的分析を行い、白色粒子の正体解明を試みたい。

（2）試料と方法

【試料】資料は発掘後、水道水で洗浄されビニール袋に入れられ保管されていた。石臼（注記番号BK14 9号遺構埋土7出土）は茶臼形の下臼で目立て溝は八分画、一分画に幅1.5㎜程の目立て溝が12～14本施される。白色物質は目立て溝の内部にある。石材は火山岩である。

【残存デンプン粒分析】デンプン粒は植物によって形状・大きさなどが異なる高分子物質である。本分析では検証可能かつできるだけ資料を傷めないよう、薬品類の使用を控え、最も簡便でかつ効果的な方法を用いた。方法は以下のとおりである。

①試料の採取　マイクロピペットにチップをはめ込み、精製水を吸入し、目立て溝内部の白色粒子上に注入する。洗浄しながら水とともに試料（20μl分）を吸引する。採取位置を変えながら計4試料を回収した。

②プレパラートの作成と観察　試料を遠心後（1500rpm・1分）、試料8μlを水性封入剤（アクアテックス）で封入する。偏光・位相差顕微鏡（オリンパスBX50－P）を用い総合倍率200～400倍で観察する。偏光顕微鏡は、直交・開放ポーラーで観察する。

【偏光顕微鏡観察】鉱物の可能性を探るために偏光顕微鏡（オリンパス BX53）で観察する。採取した4試料のうち比較的量が多い2試料（試料番号№2・№4）を観察した。観察は上記残存デンプン粒分析で使用したプレパラートを用いた。

【走査型電子顕微鏡（SEM）観察】電子顕微鏡（日本電子 JXA－8800）を使って反射電子像を観察した。電子顕微鏡の観察条件は、真空モード、加速電圧15kV、照射電流6×10^{-9}Aである。なお、試料採取および残存デンプン粒分析を上條、偏光顕微鏡および走査型電子顕微鏡（SEM）観察を柴が担当した。

（3）分析結果

【残存デンプン粒分析】図80－2は残存デンプン粒分析における偏光顕微鏡画像である。観察の結果、いずれの試料からもデンプンに由来する偏光十字は認められなかった。よって白色粒子はデンプンではないと判断される。

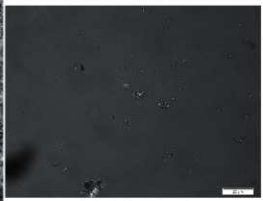
【偏光顕微鏡観察】図80－3は粒子の偏光顕微鏡画像である。構成粒子は複屈折を持ち、干渉色が観察される。aは角閃石、bは褐鉄鉱、粘土鉱物、シリカ鉱物、cはシリカ鉱物、dは褐鉄鉱、eはシリカ鉱物（石英、クリストバライト）、fは褐鉄鉱（鉄水酸化物）、粘土鉱物である。特に白色粒子は、シリカ鉱物（石英、クリストバライト）に由来するとみられる。

【走査型電子顕微鏡（SEM）観察】図80－4は電子顕微鏡画像である。粒子は角ばった柱状を呈し、結晶構造を有す。

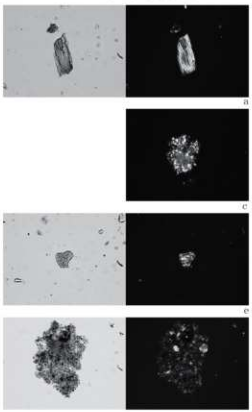
（4）まとめ

以上３つの分析より、白色粒子は結晶質物質（おもに鉱物）と判断される。また各鉱物は石臼の石材に含まれることから、目立て時あるいは廃棄後の風化により石材の粒子が表出したものと推定される。

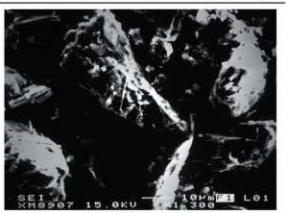
1．白色粒子付着状態



2．残存デンプン分析における
偏光顕微鏡画像（直交ポーラー）



3．鉱物観察画像
（左：下方ポーラーのみ、右：直交ポーラー）



4．電子顕微鏡観察画像

図80　石臼付着の白色粒子
Fig.80 White particles adhered to the stone mill

第Ⅶ章　考察

1．陶磁器について

当調査地点内では、基本層や各遺構出土遺物では年代や量的なまとまりをもつ層位は少なかった。その中で比較的まとまりをもって出土した池状遺構と１号井戸出土陶磁器について、これまでにまとめた二の丸地区出土の供膳具の材質別割合や産地別組成の成果（『年報』９および『年報』19第５分冊）と比較し、陶磁器の様相についての若干の考察をしていきたい。

（1）池状遺構出土陶磁器

①各池状遺構出土の陶磁器について

当調査地点からは、池状遺構が4基検出されている。遺構の詳細や前後関係は『調査報告』７の遺構編を引用しており、詳しくはそちらを参照されたいが、それぞれの池状遺構から出土した陶磁器の年代と産地について検討し、遺物の特徴について考察したい。

池状遺構は７区において、２号池状遺構（Ⅰ期）、４号池状遺構（Ⅰ期）、３号池状遺構（Ⅱa期）、１号池状遺構（Ⅱb期）の４基が重複、近接して存在する。４号池状遺構の北側に３号池状遺構が接続し、これら２つの池状遺構が埋没した後に、上部に改めて構築されたのが1号池状遺構である。２号池状遺構は、４号池状遺構と３号池状遺構の東側に位置し、調査区内では他の池状遺構との重複や連結は直接確認されていない。しかし、いずれの池状遺構も入水部、排水部の流路は調査区外にあると推測されるため、２号池状遺構も単独の池状遺構でない可能性は残されている。

４基の池状遺構のうち、出土遺物の様相が最も古いのは４号池状遺構である（図12、図版13）。陶磁器全体で53点のみで、細片が多く不明な部分もあるが、17世紀初頭から後半の遺物が出土している。埋土１層は、堆積状況から池状遺構の機能が停止した後の埋め戻し層とみられ、埋土２層以下が池状遺構の機能時の層と考えられる（『調査報告』７遺構編）。より下層の埋土５～８層では17世紀前半代の若干古手の陶磁器も含まれるが、埋土１層とそれより下の層では、大きな様相の違いはみられない。特に大堀相馬・小野相馬の陶器が全く含まれていない点が注目される。大堀相馬の陶器は、瀬戸・美濃を模倣して元禄年間（17世紀末頃）に創業し、18世紀前葉までの短期間で生産規模を拡大したと考えられている（関根達人1998）。大堀相馬・小野相馬が全く出土しない点は、創業間もない17世紀末から18世紀初頭より以前を示している可能性が推測される。陶磁器からは、17世紀代に機能していた池状遺構が17世紀末から18世紀初頭には機能を停止して、あまり時間を経ることなく比較的速やかに埋め戻された可能性が推測される。

３号池状遺構は、南側に位置する４号池状遺構に接続する遺構である。陶磁器は細片13点（図36、図版41）しか出土していないため、産地・年代を決めかねるものが多く、確定的なことは言いにくい。碁笥底の肥前磁器皿や志野陶器の向付破片を含み、肥前京焼風陶器がみられることから17世紀初頭から後半にかけて機能していたものと考えられる。小片１点ではあるが、大堀相馬の灰釉碗小破片１点を含むことから17世紀末以降～18世紀代までを含む可能性はあるが、他に18世紀代の陶磁器はみられないことと、上部の１号池状遺構との前後関係から、17世紀末から18世紀でも比較的早い段階（18世紀前葉頃まで）で機能を終えたのではないかと推測する。

１号池状遺構（図50、図版52）は、４号池状遺構と３号池状遺構が埋没・埋め戻しされた後、その上に改めて構築された遺構である。埋土１層は埋め戻し層で、埋土２層が池状遺構機能時の埋土と考えられる。埋土２層は、18世紀後半以降の陶磁器が主で、瀬戸磁器や大堀相馬陶器の小碗・土瓶・秉燭・仏花瓶なども出土することから19世紀前葉～中葉まで含まれる。埋土１層は陶器で19世紀代の堤の可能性がある東北産擂鉢・小甕や大堀相馬の土瓶・土鍋・鉄絵皿に加えて、近代磁器の瀬戸小碗や陸軍食器の湯呑なども含まれ、近代に埋め戻された埋土で

あることが考えられる。17世紀初～前半を示す中国漳州窯系磁器（CJ106）、肥前磁器（CJ104）、志野陶器向付なども わずかに含むが、当時の伝世品の可能性や、あるいは下部に位置する４号池状遺構、３号池状遺構の陶磁器が含まれた可能性なども考えられる。

２号池状遺構（図３・４、図版４～７）は、他の池状遺構とは直接重複していない。埋土の状況から、埋土１層は埋め戻し層で、埋土２～５層が池状遺構に伴う埋土と考えられる。埋土２層以下では、1680～90年代に出現し、その後流行するコンニャク判や、見込五弁花文、渦「福」銘、くらわんか手など、17世紀後葉を含んだ17世紀末～18世紀前葉頃の特徴を持つ陶磁器が中心である。特に、埋土２層からは「正徳三年」（1713）の年号が記載された木簡が２点出土しており（WT２・３）、２号池状遺構出土の陶磁器の年代を裏付ける重要な資料である。より下層の埋土４層と５層からは、一部、17世紀後半の網目文瓶類、明末清初（17世紀前葉）の中国磁器皿などのやや古手が含まれることから、２号池状遺構が構築されたのは17世紀後半より以前までさかのぼるものと考えられる。埋め戻し層である埋土１層からは、17世紀中葉以降まで下るものは出土せず、かつ、埋土２～５層と大きく年代が隔たる陶磁器もみられない。このことから、17世紀代に機能していた池状遺構が、17世紀末～18世紀前葉頃に停滞・停止して、あまり時間を置くことなく埋め戻されて、一旦は整地されたのであろうと推測される。

以上をまとめると、４号池状遺構（17世紀代～17世紀末）、２号池状遺構（17世紀代および17世紀末～18世紀前葉）、３号池状遺構（17世紀代および17世紀末～18世紀前葉）、１号池状遺構（18世紀後半および19世紀前葉～中葉）と推測される。４号・２号・３号池状遺構は年代的に重複する部分を持つが、その様相には若干の違いが認められることから、以下で、これまでにまとめられた二の丸地区における材質別比率と産地別組成と比較して考察を加えたい。

②供膳具の材質別比率

これまで、『年報』９および『年報』19第５分冊において、二の丸地区の一括性の高い出土遺物を基に、碗・皿類といった供膳具について材質別の割合を示した図を提示している（図81、表82）。詳しくは各年報を参照されたいが、図81を用いてそれらをまとめると以下のような傾向がとらえられる。

碗類では、17世紀初頭～前葉段階の主体は漆椀であり、約80％程度を占め、陶磁器の割合は低い。17紀末葉段階で磁器と陶器の碗類が漆椀と替わることが示されており（『年報』９）、その中でも磁器碗類が５割強を占めることがわかっている。17世紀末以降から、磁器碗類の割合が漸移的に減少し、陶器碗類が増えていき、特に18世紀中葉・18世紀後葉には、大堀相馬・小野相馬の普及に伴って、陶器の碗類の比率が５割以上と磁器より多くなる傾向にある。しかし、19世紀前葉～中葉では、肥前磁器に加えて瀬戸や東北産磁器が新たに生産され始めることにより、磁器の碗類の出土割合が再び増加する。

皿類についてみると、17世紀初頭～前葉段階から陶磁器の出土割合が高く、17世紀初頭～前葉は特に唐津や美濃など陶器皿類の割合が高い。17世紀末になると肥前磁器の皿類が普及する様相がよく表れており、磁器皿類の割合が９割以上と非常に高くなる。次いで、18世紀中葉以降では、大堀相馬や小野相馬の陶器が普及するため、皿類における陶器の割合が高まる傾向がわかっており、その傾向は18世紀前葉にすでに現れ始めていることが読み取れる。

二の丸地区と武家屋敷地区では、遺構・遺物の性格に違いがみられるとは推測されるが、これまでの二の丸地区の傾向と、当調査区の池状遺構の様相を比較するため、図84・表85に池状遺構出土供膳具の材質別割合を示した。二の丸地区の出土点数（図81・表82）に比して、当調査区の池状遺構は出土量が少なく、割合を示すには不十分であることは注意が必要であるが、その上で一定の傾向は示しているものと考えられる。ただし、３号池状遺構は、参考としてその値を示している。

供膳具のうち、碗類（図84・表85）では、各池状遺構とも磁器・陶器の割合が非常に高く、漆器の出土はごく

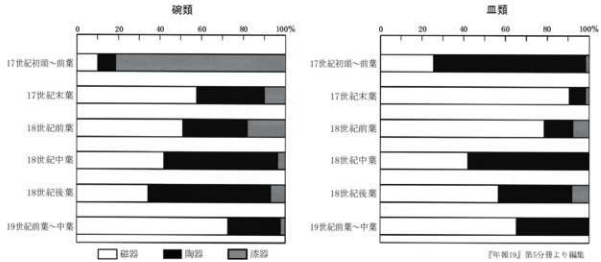


図81　二の丸地区出土供膳具の材質
Fig.81 Materials of table ware from the second citadel of Sendai Castle

表82　二の丸地区出土供膳具の材質別出土点数
Tab.82 Count of table ware from the second citadel of Sendai Castle

時期	資料	碗類				皿類				碗・皿識別不明	
		磁器	陶器	漆器等	合計	磁器	陶器	漆器等	合計	磁器	陶器
17世紀初頃～前葉	NM9 7·8層、1期遺構	6	5	48	59	42	120	3 (1)	165	5	0
17世紀末葉	NM5 北区Ⅷ·Ⅵ·Ⅴ層	82	46	14	142	47	4	1 (1)	52	86	4
18世紀前葉	BK7 2号遺構	418	252	148	818	246	43	25 (19)	314	12	117
18世紀中葉	BK7　20号土抗·3a層	85	110	7	202	15	21	0	36	5	17
18世紀後葉	NM9 15·16号土抗	117	200	23	340	48	30	7 (4)	85	7	80
19世紀前葉～中葉	NM9 1号池	638	222	18	878	208 (8)	110	1	319	51	211

※BK7は武家屋敷地区であるが、2号遺構は二の丸の廃棄土坑のため用いている。
20号土坑・3a層は、この期の一括遺物がないため援用した。

『年報19』第5分冊より編集

限られている。2号池状遺構・4号池状遺構からは、残存状態が悪い漆小片や漆膜のみで椀と識別できない資料も出土しており、実際には漆椀の比率はもう少し高かった可能性も考えられるが、全体の傾向としては、二の丸地区の様相のうち（図81）、磁器・陶器の比率が高くなる17世紀末以降の傾向に非常に近い。特に4号池状遺構では、磁器の碗類の比率が高く、陶器が少ないことは17世紀末の傾向に近いと考えられる。2号池状遺構の碗類では、陶器が磁器の比率を若干上回っており、二の丸地区で17世紀末以降に漸移的に陶器の碗類が増えていく傾向と同様である可能性が考えられる。

ただし、細かな点ですべて一致するわけではない。二の丸地区では18世紀中葉頃に磁器と陶器の比率が逆転するが、2号池状遺構（17世紀代および17世紀末～18世紀前葉）では、すでに陶器碗類の比率が高いなど、異なる部分もみられる。しかし、17世紀以降に漸移的に陶器の碗類が増加するという傾向としては大きく矛盾しないものと考えられる。1号池状遺構では、再び磁器の碗類の比率が高まっている。これは、肥前磁器に加えて、19世紀代の瀬戸や産地不明の磁器碗類が増加したことが反映されているためである。

なお、3号池状遺構は碗類の合計出土点数が5点のみのため、考慮していない。

皿類は、二の丸地区出土遺物（図81）においても、池状遺構出土遺物（図84）でも、17世紀末以降、磁器皿類の割合が一定して高いという特徴で一致している。二の丸地区では、18世紀中葉段階になると、大堀相馬や小野相馬陶器がかなり普及し、そのため陶器皿類の比率が高まる傾向にあった。比較的年代の近い2号池状遺構では、その傾向は確認されない。2号池状遺構では、大堀相馬や小野相馬陶器はごくわずか出土するのみで、器種は碗

類に限られ皿類は出土していない。この点において、２号池状遺構が、陶器皿類が増加するより以前の17世紀末～18世紀前葉段階の様相であると推測する一要素である。１号池状遺構（18世紀後半・19世紀前葉～中葉）では、磁器が約７割弱程度、陶器が約３割弱程度を示しており、二の丸地区と同程度の比率を示していると考えられる。

③陶磁器の産地別組成について

次に、各池状遺構の陶磁器の産地別組成比率について考察したい。産地別組成についても、『年報』９および『年報』19第５分冊を元に、二の丸地区の一括遺物を中心とした図82・83（表83・84）を示しており、その傾向をまとめると以下のような傾向がとらえられる。

磁器（図82・表83）は、17世紀初頭～前葉段階では中国製品で占められており、初期の肥前磁器は出土していない。17世紀中葉～後葉段階は、今のところ良好な一括資料がなく示していない。磁器は17世紀末以降、19世紀初頭までの各時期とも肥前産が大部分を占め、資料によっては伝世した中国磁器が少量伴う状況である。19世紀中葉段階になると瀬戸や東北地方の磁器が加わり、肥前磁器の比率が減少する。

陶器（図83・表84）では、17世紀初頭～前葉段階では、肥前と瀬戸・美濃でほぼ二分される状況がわかる。17世紀中葉～後葉段階の資料を欠くが、17世紀末では、呉器手碗や刷毛目碗などの肥前陶器が高い比率を示し、瀬戸・美濃は前段階より減少している。17世紀末葉ｂの資料群は、元禄年間に開窯したと考えられる大堀相馬が含まれる資料群であるが、その比率はまだごく少数に限られている。次の18世紀前葉段階では、瀬戸・美濃、大堀相馬、小野相馬の比率に大きな変化が表れる。18世紀前葉でも古手と考えられる18世紀前葉ａ資料群では、瀬戸・美濃の比率はそれほど減少せず、大堀相馬・小野相馬は17世紀末段階よりは増加するが、肥前や瀬戸・美濃を凌駕するまでには至っていない。より新しい段階と考えられる18世紀前葉ｂ資料群になると、肥前はわずかに減少し、瀬戸・美濃は激減する一方で、大堀相馬・小野相馬が半数以上の比率を占めるようになる。それ以降、大堀相馬が高い比率であることは継続した傾向となる。18世紀後葉以降、特に19世紀初頭段階では、資料群による差はみられるが小野相馬は減少傾向を示し、代わって堤を含む東北地方の陶器がみられるようになる。19世紀中葉に入ると、比率の変化はありながらも一定程度含まれていた肥前や瀬戸・美濃がほとんど出土しなくなり、大堀相馬や他の東北産陶器が大部分を占めるようになる。以上が、これまでの二の丸地区を中心とした磁器・陶器のおおまかな出土傾向である。

次に、池状遺構出土磁器・陶器の産地別組成比率を図85・表86に示している。３号池状遺構は陶磁器全体で13点のみの出土であり、４号池状遺構も点数が十分ではない出土状況であることを留意した上で、考察していきたい。

磁器では、４号・２号・３号池状遺構で、肥前磁器を主体として中国磁器が若干含まれる傾向を示し、17世紀末以降の二の丸地区の様相と類似する。４号池状遺構は中国磁器の割合がやや高く、17世紀前半代の肥前磁器も含むことから、他の池状遺構よりは古手の様相も含んでいる可能性がある。１号池状遺構の磁器では、肥前・中国に加え、瀬戸・美濃や産地不明の磁器が一定程度の比率を示しており、比率の差はあるものの、19世紀中葉の様相が表れているものと考えられる。

陶器（図85・表86）では、４号池状遺構は、肥前と瀬戸・美濃が約半数程度を占め、信楽の大壺1点が含まれるが、大堀相馬・小野相馬は出土していない。出土点数が少ないため不確定要素も多いが、大堀相馬開窯以前である17世紀末葉ａ資料群（図83）の様相に比較的近いととらえられるのではないだろうか。

２号池状遺構では、肥前（呉器手碗・刷毛目碗・京焼風碗・銅緑釉皿など）と、瀬戸・美濃（腰錆碗・擂鉢・鉄釉甕類など）が半数を占めている。点数は少ないが、京・信楽製品、岸の擂鉢と香炉、堺擂鉢、丹波擂鉢、信楽大壺、備前瓶類など、比較的多様な産地の陶器がみられることも特徴の一つである。また、大堀相馬と小野相馬製品が、１割に満たない程度ではあるが出土するようになり、大堀相馬が開窯して以降の17世紀末ｂ資料群に比較的近い比率と考えられる。次の18世紀前葉ａ資料群は、享保年間の木簡を伴った陶磁器群で、この段階では、大堀相馬・小野相馬が２割程度まで増加し、生産・流通が順調に伸びていることがわかる。当調査地点の2号池

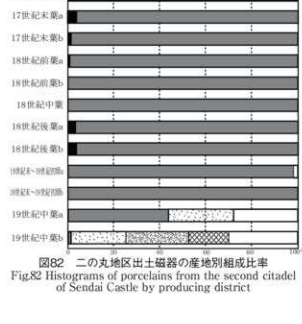


図82　二の丸地区出土磁器の産地別組成比率
Fig.82 Histograms of porcelains from the second citadel of Sendai Castle by producing district

表83　二の丸地区出土磁器の産地別出土点数
Tab.83 Count of porcelains from the second citadel of Sendai castle by producing district

時期	資料	中国	肥前	瀬戸美濃	切込	平清水	不明	混入
17世紀初頭～前葉	NM9 7・8層、16号溝	53	0	0	0	0	0	2
17世紀末葉 a	NM5 北区Ⅵ・Ⅶ層	5	111	0	0	0	0	0
17世紀末葉 b	NM5 4号土坑、北区Ⅴ層	2	219	0	0	0	0	2
18世紀前葉 a	BK7 2号遺構	6	812	0	0	0	0	0
18世紀前葉 b	NM5 3号土坑	0	30	0	0	0	0	0
18世紀中葉	BK7 20号土坑、3a層	0	136	0	0	0	0	0
18世紀後葉 a	NM9 16号土坑埋土4層以下	3	79	0	0	0	0	0
18世紀後葉 b	NM9 15号土坑埋土4層以下	2	47	0	0	0	0	0
18世紀末～19世紀初頭a	NM9 2号池	0	138	0	0	0	2	1
18世紀末～19世紀初頭b	NM17 3層一括	0	85	0	0	0	0	0
19世紀中葉 a	NM5 1・2号池	0	23	15	0	0	15	0
19世紀中葉 b	NM10 2区東-2b・2c・3・4層	0	1	24	27	17	29	0

［年報9］［年報18］［年報19］第5分冊より作成

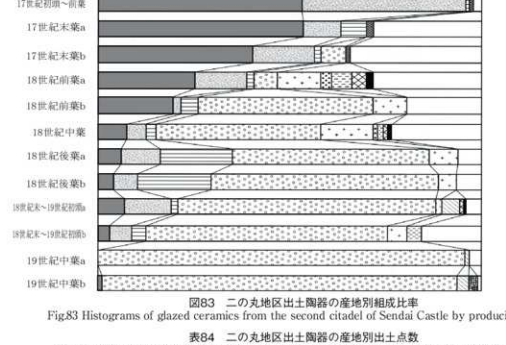


図83　二の丸地区出土陶器の産地別組成比率
Fig.83 Histograms of glazed ceramics from the second citadel of Sendai Castle by producing district

表84　二の丸地区出土陶器の産地別出土点数
Tab.84 Count of glazed ceramics from the second citadel of Sendai Castle by producing district

時期	資料	肥前	瀬戸美濃	京信楽	中国	大堀相馬	小野相馬	相馬系	東北産	堺	その他	堀	平清水	産地不明	合計
17世紀初頭～前葉	NM9 7・8層、16号溝	80	65	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	4	151
17世紀末葉 a	NM5 北区Ⅵ・Ⅶ層	32	6	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	17	60
17世紀末葉 b	NM5 4号土坑、北区Ⅴ層	42	17	2	1	7	0	0	0	0	0	0	0	36	105
18世紀前葉 a	BK7 2号遺構	151	82	11	0	37	68	17	32	23	4	0	0	177	602
18世紀前葉 b	NM5 3号土坑	9	1	2	0	21	4	0	0	0	0	0	0	9	46
18世紀中葉	BK7 20号土坑、3a層	15	10	5	0	84	28	1	3	2	2	0	0	46	196
18世紀後葉 a	NM9 16号土坑埋土4層以下	10	18	33	0	88	13	0	0	0	0	0	0	11	173
18世紀後葉 b	NM9 15号土坑埋土4層以下	4	7	20	0	62	5	0	0	0	0	0	0	7	105
18世紀末～19世紀初頭 a	NM9 2号池	13	23	3	0	127	3	0	0	1	1	9	0	9	189
18世紀末～19世紀初頭 b	NM17 3層一括	5	9	6	0	100	8	0	6	0	0	0	0	25	159
19世紀中葉 a	NM5 1・2号池	0	1	0	0	274	0	0	0	0	0	3	0	9	287
19世紀中葉 b	NM10 2区東-2b・2c・3・4層	0	0	2	0	173	0	0	0	0	0	6	4	2	187

※BK7は武家屋敷地区であるが、2号遺構は二の丸の廃棄土坑のため用いている。
20号土坑・3a層は、この期の一括遺物がないため採用した。

［年報19］第5分冊より編集

図84　池状遺構出土供膳具の材質
Fig.84 Materials of table ware from the pond remains

表85　池状遺構出土供膳具（碗・皿類）の材質別出土点数
Tab.85 Count of bowls and dishes from the pond remains

段階	出土場所	碗　類				皿　類				碗皿鉢識別不明		漆小片・漆膜
		磁器	陶器	漆器	合計	磁器	陶器	漆器	合計	磁器	陶器	
Ⅰ	4号池状遺構	17	5	3	25	8	3	0	11	0	3	14
	2号池状遺構	70	81	14	165	37	10	3	50	3	2	9
Ⅱa	3号池状遺構	2	3	0	5	7	1	0	8	0	0	0
Ⅱb	1号池状遺構	44	21	0	65	13	5	1	19	2	5	2

陶器向付や漆器椀蓋は皿として用いられる場合が多いと考え皿の数量に含めている。

図85　池状遺構の産地別組成比率
Fig.85 Histograms of ceramics from the pond remains

表86　池状遺構出土陶磁器の産地別出土点数
Tab.86 Count of ceramics from the pond remains

段階	出土場所	磁器					陶器（軟質施釉焙焼含む）									
		中国	肥前・波佐見	瀬戸・美濃	不明	合計	肥前・唐津	瀬戸・美濃	京・信楽	大堀相馬	小野相馬	岸	東北	その他	不明	合計
Ⅰ	4号池状遺構	4	29	0	0	33点	6	5	0	0	0	0	0	1	8	20点
		12.1%	87.9%	0	0		30.0%	25.0%	0	0	0	0	0	5.0%	40.0%	
	2号池状遺構	4	141	0	0	145点	53	42	11	3	13	2	8	9	38	179点
		2.8%	97.2%	0	0		29.6%	23.5%	6.1%	1.7%	7.3%	1.1%	4.5%	5.0%	21.2%	
Ⅱa	3号池状遺構	0	7	0	0	7点	2	1	0	1	0	0	0	0	1	6点
		0	100%	0	0		33.3%	16.7%	16.7%	16.7%	0	0	0	0	16.7%	
Ⅱb	1号池状遺構	2	44	12	11	69点	7	3	3	30	5	0	8	0	5	61点
		2.9%	63.8%	17.4%	15.9%		11.5%	4.9%	4.9%	49.2%	8.2%	0	13.1%	0	8.2%	

状遺構は、これよりわずかに古い「正徳三年」(1713) の木簡を伴った陶磁器であり、年代的に17世紀末ｂと18世紀前葉ａの間に位置することは確実である。大堀相馬・小野相馬の組成比率でみると、17世紀末ｂ資料群（約0.6%）→２号池状遺構（約0.8%）→18世紀前葉ａ資料群（約20%）と、17世紀末の開窯以降、消費地におけるシェアを着実に増加させている状況を読み取ることが可能であろう。

２号池状遺構の大堀相馬・小野相馬は灰釉碗の部分破片が中心で、器形や高台周りなど器形の特徴がわかるものは少なく、淡青灰白色の失透性の釉調から小野相馬と考えた資料が多い。類似した特徴を持つのが18世紀前葉ａ資料群（武家屋敷地区第７地点２号遺構）で、大堀相馬・小野相馬は碗を主体とした完形に近い資料も多いが、それでも両者の区別が難しいものも多かった。高台の削り方、高台付近の釉切処理、胎土や目跡の有無で識別できる場合もあるが、個体差も大きく、焼成の程度や部位・胎土によっては識別が困難な場合もみられた（『年報』19第５分冊）。碗類を中心とし、大堀相馬・小野相馬が類似した製品を製作していたであろうことが推測され、これらのことは開窯から18世紀前葉頃の大堀相馬・小野相馬の碗類の特徴であろうと考えられる。18世紀後半には、碗類を主体とした大堀相馬と、鏡合しない他の器種の出土が増える小野相馬との作り分けがなされたと考えられる（関根達人1998）が、開窯当初から18世紀前葉頃までは、類似した特徴の碗類が主体であったことが、当調査地点の２号池状遺構と18世紀前葉ａ資料群（武家屋敷地区第７地点２号遺構）から読み取れる。碗の種類をみると、２号池状遺構・18世紀前葉ａ資料群ともに、大堀相馬・小野相馬の灰釉碗と鉄釉流し掛け灰釉碗（CT15）が出土し、瀬戸・美濃腰錆碗（CT6・27）が含まれるが、瀬戸・美濃腰錆碗を模倣したとされる大堀相馬の鉄釉灰釉掛け分け碗は出土していない。灰釉碗と鉄釉流し掛け灰釉碗は開窯当初からの製品であるが、鉄釉灰釉掛け分け碗などの碗の種類が増えるのは、17世紀末～18世紀前葉より後の段階と推測される。

３号池状遺構は陶器６点のみのため、比率を考察することはできないが、肥前、瀬戸・美濃、京・信楽、大堀相馬の陶器が出土しており、17世紀末～18世紀前半代の産地構成と矛盾しないものと考えられる。大堀相馬は透明度の高い淡緑灰白色の灰釉の碗破片１点であり、２号池状遺構と同年代か、あるいは若干年代が下る可能性もあるが、小破片１点のみのため断定はできない。

１号池状遺構は、大堀相馬が約半数を占め、小野相馬や東北産陶器と共に陶器の大多数を占めている。これは図83の18世紀後葉や18世紀末～19世紀初頭の資料群の様相と類似している。瀬戸の磁器や、大堀相馬の土瓶・土鍋が出土することから19世紀前葉～中葉の時期まで含まれると考えられる。池状遺構はある程度の期間使用されたことが想定されるため、組成比としては18世紀後葉～19世紀中葉までを均したような状況と考えられる。

以上のように、組成比を元に４基の池状遺構出土陶磁器を比較した。４号・２号・３号池状遺構は年代的に重複する部分もあるが、４号池状遺構は大堀相馬・小野相馬が含まれず、17世紀前半代の陶磁器がやや多い点など、17世紀末以前の若干古い様相の陶磁器が多い。２号池状遺構と３号池状遺構は、大堀相馬が操業開始して間もない17世紀末～18世紀前葉までと推測される。４号・３号池状遺構の上に構築された１号池状遺構は、18世紀後半～19世紀中葉の様相を示しており、埋土１層に一部明治期の遺物を含んでいることから、その段階で埋め戻されたものと推測される。

（２）１号井戸出土陶磁器について

１号井戸は、埋土内から18世紀後半～19世紀前半の遺物がまとまって出土している。井戸は、調査の安全を考慮し、底面まで掘り下げたものはないため、調査した範囲内の出土遺物に限られており、井戸構築から廃棄までのすべての陶磁器を示してはいない。掘方の遺物は限られているが、18世紀代と考えられる小野相馬や京・信楽の碗破片が出土していることから、井戸が構築されたのは18世紀代と考えられる。埋土内からは、19世紀前半の陶磁器が完形に近い状態のまま揃いで出土するなど、一括廃棄されたことが考えられる。瀬戸や産地不明などの肥前以外の磁器も多く、土瓶や焙烙も多いことから、19世紀前半代の遺物が、明治初頭の武家屋敷廃絶に伴って

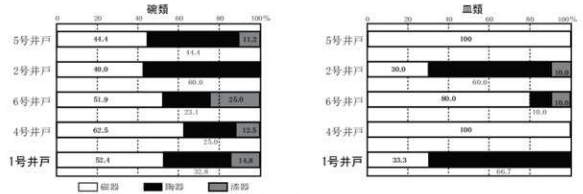


図86　井戸出土供膳具の材質
Fig.86 Materials of table ware from the well remains

表87　井戸出土供膳具（碗・皿類）の材質別出土点数
Tab.87 Count of bowls and dishes from the well remains

段階	出土場所	碗類				皿類				碗皿鉢識別不明		漆小片・漆膜
		磁器	陶器	漆器	合計	磁器	陶器	漆器	合計	磁器	陶器	
Ⅰ	5号井戸	4	4	1	9	3	0	0	3	0	0	0
Ⅱa-Ⅱb	2号井戸	12	18	0	30	3	6	1	10	0	0	0
	6号井戸	27	12	13	52	8	1	1	10	9	1	18
Ⅲ	4号井戸	5	2	1	8	5	0	0	5	0	0	0
Ⅰ-Ⅲ	1号井戸	32	20	9	61	1	2	0	3	0	0	7

陶器向付や漆器椀蓋は皿として用いられる場合が多いと考え皿の数量に含めている。

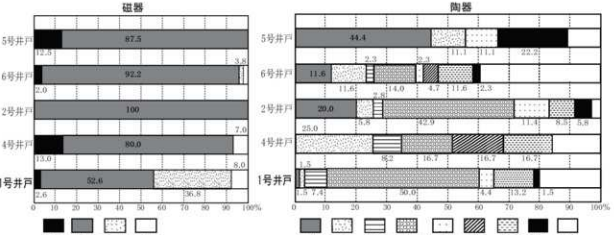


図87　井戸の産地別組成比率
Fig.87 Histograms of ceramics from the well remains

表88　井戸出土陶磁器の産地別出土点数
Tab.88 Count of ceramics from the well remains

段階	出土場所	磁器					陶器（軟質施釉焼含む）									
		中国	肥前・波佐見	瀬戸・美濃	不明	合計	肥前・唐津	瀬戸・美濃	京・信楽	大堀相馬	小野相馬	岸	東北	その他	不明	合計
Ⅰ	5号井戸	1	7	0	0	8点	4	1	0	0	1	0	0	2	1	9点
		12.5	87.5	0	0		44.5	11.1	0	0	11.1	0	0	22.2	11.1	
Ⅱa-Ⅱb	6号井戸	2	47	1(混入)	1	51点	5	5	1	6	1	2	5	1	17	43点
		3.9	92.2	2.0	2.0		11.6	11.6	2.3	14.0	2.3	4.7	11.6	2.3	39.6	
	2号井戸	0	20	0	0	20点	7	2	1	15	4	0	3	2	1	35点
		0	100	0	0		20.0	5.8	2.8	42.9	11.4	0	8.5	5.8	2.8	
Ⅲ	4号井戸	2	12	0	1.0	15点	0	3	1	2.0	0	2	2	0	2	12点
		13.0	80.0	0	7.0		0	25.0	8.2	16.7	0	16.7	16.7	0	16.7	
Ⅰ-Ⅲ	1号井戸	1	20	14	3	38点	1	1	5	34	3	0	9	1	14	68点
		2.6	52.6	36.8	8.0		1.5	1.5	7.4	50.0	4.4	0	13.2	1.5	20.5	

廃棄された遺物であろうと推測される。井戸は比較的長い期間の遺物が共伴するため、年代別の産地組成を示すにはあまり適さないが、1号井戸については、幕末頃の遺物が一括廃棄されているまとまりのよい資料群のため、池状遺構と同様に、これまでの二の丸地区の構成と比較して考察を加えたい。

材質別（図86・表87）では、1号井戸の碗類は、磁器が半数以上、陶器が約3割、漆器が約15％程度を占める。二の丸地区（図81）の19世紀前葉～中葉と比べると、若干の比率差はあるが、磁器碗が最も多いという傾向では概ね一致する。いずれも肥前磁器に加えて、瀬戸や東北産の磁器の中碗・小碗が多く出土することに由来している。また、漆器椀が15％程度とやや高い割合を占める。17世紀初頭～前葉（図81）においては約8割程度を占める漆器であるが、国産の陶磁器がさかんに流通するようになる17世紀後半以降には出土率としては減少するが、江戸時代を通じて各時期とも一定程度出土しており、武家社会の食事において漆器椀は必ず用いられていた器種と言える。

1号井戸では漆器椀類が15％程度と若干高くはあるが、おそらくは使用に伴った廃棄ではなく、明治初頭の屋敷取り払いに際して一括廃棄されたため、出土量が多かったのではないかと推測する。「仙臺物産沿革」（鈴木省三編1925）によると、廃藩後、各藩士が所蔵した漆器が続々と払い下げられ、市場の供給過多の状況が起こったことが記載されており、通常、漆器は売りに出される例も多かったようである。1号井戸の漆器が売り払われずに廃棄された理由は、あるいは家紋系漆器が多いことから売却には不向きであった可能性も理由の一つに推測されるが、具体的には不明である。1号井戸では、陶磁器の皿類（図86・表87）がほとんど含まれていないが、あるいは陶磁器の皿類も売り払われたために廃棄されていない可能性も推測される。

1号井戸の磁器の産地別の割合（図87・表88）では、瀬戸が3割以上を占め、他に東北産の可能性のある産地不明磁器が一定程度含まれるなど、図82の19世紀中葉の磁器産地別組成に類似する。陶器では、肥前、瀬戸が極端に少なく、大堀相馬、小野相馬、東北産が7割近い比率を示すことも、19世紀中葉（図83）と同じ傾向である。この段階になるとより近い生産地の陶器がかなり流通しているものと考えられ、中でも大堀相馬が半数を占めている。大堀相馬は、土瓶と碗が多いことに加え、仏花瓶や瓶類などの器種も多様にみられる。

明治初頭の武家屋敷廃絶に伴う一括廃棄の事例では、武家屋敷地区第11地点（『調査報告』1）の7号井戸が該当する可能性が考えられる。出土遺物は小片が多い点で違いがみられるが、陶磁器147点と比較的多く、17～18世紀代の遺物を含みながらも、幕末明治初頭の遺物が中心である。

周辺の調査では、段丘崖を一段下った下町段丘面に位置する川内B遺跡（工藤信一郎ほか2012）、川内A遺跡（佐藤甲二ほか2007）における事例が確認できる。川内B遺跡のSX2からは、武家屋敷地から陸軍用地となる過程で一括廃棄されたと推定される磁器1284点、陶器2417点などが出土しており、当調査の1号井戸よりも遺物量がはるかに多い。図化された出土遺物からは、比較的完形に近い陶磁器類が含まれていることが読み取れる。使用可能な陶磁器を廃棄している点で1号井戸との類似点がみられる。

川内A遺跡のSX4は、近代に第二師団による盛土・整地が行われるまでの年代の遺構で、屋敷廃絶に伴う大量廃棄と推測されている。17世紀後半から19世紀中頃の磁器728点、陶器591点などが出土している。図化された遺物を確認する限りでは、幕末頃の遺物も多いが、酸化コバルトを用いた近代磁器も比較的含まれており、同型の近代磁器皿が揃いで出土するなど、明治期の様相も含まれている。第二師団の整備は、明治に入ってすぐ同時に行われたわけではなく、第二師団の整備に伴って段階を追って進められており（加藤宏2011）、廃棄される遺物にも若干の年代差がみられるものと考えられる。

（3）補修痕のある陶磁器について

①漆継

Ⅰ～Ⅲ期の各遺構から、漆継による補修痕のある陶磁器が、磁器33点、陶器15点、合わせて48点が確認された

表89　漆継のある陶磁器集計表
Tab.89 Porcelains and glazed ceramics repaired with Urushi lacquer at BK14

段階	出土場所	漆継点数	登録番号	磁器 特徴	遺構組器点数	漆継点数	登録番号	陶器 特徴	遺構陶器点数	段階別漆継合計
Ⅰ	2号池状遺構	5	CJ004	中碗丸（肥前，17世紀後半～18世紀）	145	2	CT012	碗不明（産地、年代不明）	179	20
			CJ007	中碗丸（肥前，17世紀後半～18世紀，くらわんか手）						
			CJ011	猪口（肥前、17世紀後半～18世紀）						
			CJ012	猪口（肥前、17世紀後半～18世紀）			CT018	水指蓋（信楽？、17・18世紀）		
			CJ008	中瓶（肥前、17世紀後葉～18世紀）						
	4号池状遺構	3	CJ021	小中皿（中国、明末清初）	33	3	CT034	小中皿（肥前、17世紀後半）	20	
			CJ023	鉢類（肥前、17世紀後半～18世紀前半，青磁）			CT037	碗不明（肥前、17世紀前半）		
			CJ025	碗不明（肥前、年代不明）			CT035	大壺（信楽？、近世）		
	10号遺構	1	CJ028	小坏（中国、明末清初）	3					
			－	袋物不明（肥前色絵？、17・18世紀）						
	12号遺構	2	CJ029	小中皿（肥前、18世紀代）	9					
			CJ031	中碗（肥前、17世紀後葉～18世紀前半）						
	39号遺構	1	CJ033	大皿（肥前、17世紀代）	7					
	57号遺構					1	CT048	瓶類（志野織部、17世紀初頭）	1	
	5号井戸	1	CJ046	中碗不明（肥前、18世紀代か）	8					
	ピット205					1	CT062	中碗端反（肥前、17世紀前葉）	1	
Ⅰ－Ⅱa	ピット188	1	CJ051	大皿（中国、明末清初）	2					1
Ⅰ－Ⅱb	15号遺構	1	CJ053	小中鉢（肥前、17世紀後葉～18世紀，白磁）	4					4
	16号遺構	1	CJ056	小中皿（肥前、17世紀代か）	11	2	CT069	壺類（瀬戸・美濃、17・18世紀か）	9	
							CT071	大鉢（瀬戸・美濃、年代不明）		
Ⅱa－Ⅱb	9号遺構	1	CJ084	中碗不明（中国，13・14世紀，龍泉窯系青磁）	5					6
	2号井戸	1	－	小中皿（肥前、17・18世紀代）	20					
	6号井戸	3	CJ093	小中皿（肥前、17・18世紀代）	51	1	CT112	碗不明（瀬戸・美濃，17世紀代か）	38	
			CJ094	小中皿（肥前、17世紀前葉）						
			CJ092	中碗端反（中国、明末清初）						
Ⅱb	1号池状遺構	2	CJ101	中碗端反（中国、明末清初）	69					2
			CJ104	小中皿（肥前、17世紀中葉）						
Ⅱb－Ⅲ	65号遺構	3	CJ123	小中皿（肥前、18世紀代）	30					3
			CJ125	碗不明（肥前、18世紀代、くらわんか手）						
			CJ126	水滴（産地、年代不明）						
Ⅲ	30号遺構	1	CJ142	中碗丸（肥前、18世紀代）	19					4
	63号遺構					1	CT163	中碗丸（肥前、17世紀代か）	7	
	4号井戸	2	CJ163	碗（肥前、17・18世紀）	15					
			CJ164	花入（肥前、17世紀代か）						
基本層2a-2層						2	CT181	大鉢（瀬戸・美濃、17・18世紀）	111	2
							CT180	中碗不明（瀬戸・美濃、18世紀前葉）		
1層		4	CJ188	小中皿（中国、明末清初）	1103	2	－	小中皿（瀬戸・美濃、18世紀前～中葉？）	942	6
			CJ177	蓋物蓋（肥前、17世紀後半～18世紀）						
			CJ189	中碗丸（肥前、18世紀代、くらわんか手）			－	大鉢（瀬戸・美濃、17世紀代）		
			－	中鉢（肥前、17世紀後半～18世紀，白磁）						
		漆継合計		33		漆継合計		15		48

（表89）。破損した陶磁器を漆で継いで補修した痕跡で、割れ口に漆の痕跡が確認される。大きな破片の一部分にみられる場合もあれば、小破片である場合もある。Ⅰ期（16世紀末葉を含む17世紀段階）に多い傾向にあるが、Ⅰ期は２号池状遺構や４号池状遺構といった陶磁器の出土量が比較的多い遺構を含むため、出土量に応じて相対的に多いとも考えられる。Ⅱb期、Ⅱb～Ⅲ期、Ⅲ期といった18世紀後葉～19世紀に属する遺構からも漆継補修痕は確認されるが、漆継のある個々の陶磁器の年代は17世紀代、18世紀代に比定されるものであり、後述する焼継が始める前の年代の陶磁器に漆継が確認されることになる。

磁器・陶器が50点以上出土している遺構について、漆継のある磁器・陶器の割合を示すと、Ⅰ期２号池状遺構［磁器3.4％、陶器1.1％］、Ⅱa～Ⅱb期６号井戸［磁器5.9％］、Ⅱb期１号池状遺構［磁器2.9％］、基本層2a－2層［陶器1.8％］という値になる。この値がどれほどの傾向を示すかは、出土量が多い遺構が少ないことと、遺構の性格による差も考慮する必要があるが、当調査区では多くても数％程度の漆継補修率であった。

漆継される磁器には、いくつかの傾向が考えられる。まず、17世紀前葉や17世紀中葉～後葉の肥前大皿・小中皿（CJ33、56、94、104）、明末清初の中国端反碗・小中皿（CJ21、28、92、101、188）など、磁器の中でも古手のものが含まれることである。次に、白磁菊花鉢（CJ53、17世紀後葉以降）のように、比較的高級品に分類されるものも含まれる。水滴（CJ126）は使う人の好みを反映した器物であり、蓋物の蓋（CJ177）は蓋と身がセットで用いる必要があるなど、補修する必要性が強い磁器も含まれる。一方で、高級品だけでなく、肥前中碗（CJ7、31、46、125、189）や肥前小中皿（CJ29、CJ123）など、18世紀代に普及した比較的廉価で普段使いと考えられる磁器にも漆継痕が確認される。これらの磁器は元々の出土割合も高いと考えられるので、当時使用された磁器のうち補修されずに廃棄された方が多かったであろうと推測されるが、決して一点物や高級品の磁器のみが補修されていたわけではないことが理解される。

陶器では、瀬戸・美濃の大鉢（CT71、181）、甕類（CT69）、唐津の中皿（CT34）、信楽の大壺（CT35）など、比較的大型の製品の一部に漆継の補修痕がみられる。唐津の中皿（CT34）は呉須絵の丁寧な作りの優品である。また、肥前（唐津含む）の茶器として用いられたと考えられる碗がいくつか含まれる（CT37、62、163）。他に信楽の可能性のある水指の蓋（CT18）、口縁部がヒダ状になる瀬戸・美濃の鉢（CT112）、志野織部の瓶類（CT48）など、茶器に関連するようなやや特殊な器種が多い。水指の蓋（CT18）は、水指の身とセットで用いることが必要な器種であろう。当資料の陶器では、日常使いと考えられる碗皿類では漆継痕は認められなかった。ここは磁器とは異なる点である。

②焼継

焼継による補修痕のある磁器（表90）は、Ⅱb期（18世紀後葉～19世紀初頭）以降の時期に属する遺構から出土している。焼継は、江戸市中では寛政２（1790）年ごろから普及したと考えられ（江戸遺跡研究会編2001）、遺物の年代とも概ね一致する。漆継と焼継が共存して出土している遺構は存在していない。また、焼継痕は陶器には全く確認されなかった。

１層を含んで合計17点の磁器に焼継痕が確認されている。Ⅰ～Ⅲ期１号井戸は、井戸という遺構の性質上、所属時期がⅠ期まで遡るが、焼継された磁器自体は18世紀後葉～19世紀後葉に相当するものであり、年代的に矛盾するものではなかった。

各遺構の陶磁器出土量が20弱～30数点程度で、割合を求めるには不十分な量と考えられるため、どれほどの傾向を示すかはわからないが、参考値としてその割合を示す。磁器の焼継率は、Ⅰ～Ⅲ期１号井戸［5.3％］、Ⅱb期４号遺構［9.1％］、Ⅲ期14号遺構［5.6％］、31号遺構［11.1％］、66号遺構［16.7％］と、漆継よりは若干高い可能性もあるが、今後、資料を増やしてさらに検討したい課題と考えられる。

焼継された磁器は、当該期に量産された肥前や瀬戸の丸碗、端反碗、小中皿（CJ74、75、109、132、149、154、158、159、175）など、日常使いの碗皿類が多い。CJ147の瀬戸の広東碗焼は、焼継痕はみられないが、高

台内に赤色で焼継印とみられる文字が確認される。

日常品以外では、18世紀代の小中皿で、口縁部に吉祥文的文様が巡る輪花皿（CJ110）、18世紀後半頃の肥前色絵染付の鉢（CJ190）の2点で、あまり多くはない。製作年代から考えて、これらはある程度の期間使用され、19世紀代に焼継補修をした上で、再び使われたものであることが推測される。焼継痕を観察すると、焼継した箇所で再び破損している場合もあるが、焼継箇所以外に新たに破損してしまったために廃棄されたと考えられるものもみられる。

表90　焼継のある磁器集計表
Tab.90 Porcelains with repair trace at BK14

段階	出土場所	磁器				段階別焼継点数
		焼継点数	登録番号	特徴	遺構磁器点数	
Ⅰ-Ⅲ	1号井戸	2	CJ074	中碗端反（瀬戸、19世紀前半）	38	2
			CJ075	中碗丸（肥前、18世紀後半～19世紀初頭）		
Ⅱb	4号遺構	2	CJ109	中碗丸（肥前、18世紀末～19世紀前半）	22	2
			CJ110	小中皿（肥前、18世紀）		
Ⅲ	14号遺構	1	CJ132	小中皿（瀬戸、19世紀後半）	18	6
	31号遺構	2	CJ149	碗不明（瀬戸？、19世紀代）	18	
			CJ147	中碗広束（瀬戸、18世紀末～19世紀前葉）		
	66号遺構	3	CJ158	中碗端反（肥前、18世紀後葉～19世紀前葉）	18	
			CJ154	中碗丸（肥前、18世紀末～19世紀初頭）		
			CJ159	小中皿（肥前、18世紀末～19世紀）		
1層・撹乱		7	CJ175	中碗丸（肥前、19世紀前葉～中葉）	1103	7
			CJ190	中鉢（肥前、18世紀後半、色絵）		
			－	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			－	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			－	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			－	中碗端反（肥前、19世紀代）		
			－	小中皿（肥前、18・19世紀代）		
		焼継合計		17		

2．発掘調査地点の位置

（1）周辺地域の発掘調査との関連

①層位の比較

BK14の北東側には仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第７地点（以下、BK７と略する）がある。それぞれの調査区では、様々な土質の特徴が認められた。それらの特徴は、溶脱作用等の土壌の変質作用や、夾雑物の多寡等により特色づけられたものである。そのため、調査当初には層を細分したものの、調査途中からそれらの特徴を部分的な変異と捉え、基本的な土質を根拠として大きくまとめた。BK７も同様の状況である。そして、近代以降の攪乱により層の繋がりが不明瞭であることから、各調査地点における層の対応関係を探ることが非常に難しい。その様な状況を踏まえ、BK７とBK14の層の関係を表91に示した。

BK７の２層下部は、BK14の2a－2層、2b層、2b－2層に相当する。BK７の3a・b層は遺構に伴うものであり、BK14では確認されていない。BK７の４層は、分布が限定的な整地層であり、BK14では確認できていない。また、BK７の２層は、畑と推定される畝状遺構が検出される明治以降の層位であるが、BK14調査時には確認できていない。おそらく2a－2層の一部に含まれると考えられるが、区分できていない。

BK14の北側では、2007年度に仙台市教育委員会が調査を実施している（主濱光朗ほか2011、以下仙台市調査区と略する）。その調査では、堆積層はⅠ～Ⅵ層に大別され、近世～近代初頭の整地層であるⅢ～Ⅴ層はさらに細分されている。BK14調査区（『調査報告』７：p.40、図15）と仙台市調査区（主濱光朗ほか2011：p.18、E－E'区間）の土層断面図を比較すると、BK14の2b層と仙台市調査区のⅣd層が対応する可能性が高い。そのほか、直接的な対比はできないが層準や層の時期からすると、仙台市調査区のⅠ・Ⅱa層はBK14の１層に、Ⅱb－Ⅲ層はBK14の2a－2層、Ⅵ層はBK14の３・４層に相当するものと推定される。なお、仙台市調査区のⅤ層に相当する層は、BK14では確認されていない。

表91　各調査地点において設定された段階
Tab.91 Phase of the each excavation area

時期		BK14地点			BK7地点			仙台市調査地点		
		段階	時期	遺構の検出層位	段階	時期	遺構の検出層位	段階	時期	遺構の検出層位
19世紀後半	明治初期～20年前後				Ⅳ期	明治初期～20年前後	2層上面	Ⅲb期	19世紀中以降（明治期）	Ⅲ層上
	19世紀後葉				Ⅲ期	19世紀前葉～明治初年（1868）頃	2層より下位、2層下部の上位			
19世紀前半	19世紀中葉	Ⅲ期	19世紀前葉～後葉（近代）	2a-2層上				Ⅲa期	19世紀前半～中頃	
	19世紀前葉									
	19世紀初頭				Ⅱ期	18世紀初頭～19世紀前葉	2層下部の下位、4層より上位			
18世紀後半	18世紀末葉	Ⅱb期	18世紀後葉（後半）～19世紀初頭	2b層上				Ⅱb期	18世紀中頃～19世紀前半	Ⅳ層上
	18世紀後葉									
	18世紀中葉									
18世紀前半	18世紀前葉	Ⅱa期	18世紀初頭～中葉	2b層上				Ⅱa期	18世紀前半～中頃	
	18世紀初頭									
17世紀後半	17世紀末葉	Ⅰ期	16世紀末葉～17世紀	2b層上	Ⅰ期	～17世紀末	4層より下	Ⅰb期	17世紀前半以降	Ⅴ層上
	17世紀後葉									
17世紀前半	17世紀中葉							Ⅰa期	17世紀前半頃	
	17世紀前葉									
	17世紀初頭									
16世紀後半	16世紀末葉									

②遺構変遷段階の比較

BK７の遺構変遷の段階はⅠ～Ⅳ期に区分されている。それらの段階とBK14の段階との関係を表91に示した。Ⅰ期の遺構は、BK７では４層より下で確認される遺構であるが、BK14では確認されていない層であるため、BK14では2b層上面で検出されている。BK７のⅡ期は、BK14では重複関係からⅡa期とⅡb期に細別でき、どちらの時期の遺構も2b層上面で検出した。BK７のⅢ期は、BK14では2a－2層検出の遺構の時期が相当する。BK７のⅣ期は、BK14では設定していない。仙台市調査区では、Ⅰ～Ⅲ期に区分され、それぞれaとbに細分されている。仙台市調査区のⅠ～Ⅲ期は、ほぼBK14のⅠ～Ⅲ期と対応する。

（２）時期別にみた特徴的な遺構

BK14調査区では、攪乱などが著しく、柱穴が整然と並び建物を復元できる事例が非常に少なかった。一方で、溝や池と考えられる特徴的な遺構が確認できた。本考察では、これらの溝と池に焦点を絞り検討してみたい。

①Ⅰ期（16世紀末葉～17世紀：図88－①）

それぞれの調査地点のⅠ期が該当し、おおむね17世紀の遺構群である。BK７の12・29号溝が南北に走り、BK７の12号溝と仙台市調査区のSD24が連結する（以後、「調査区－遺構名」と表記する）。BK７－29号溝とBK14－３号溝が連結するものと思われるが、BK14－３号溝の位置が西側にずれる。BK14の調査時のミスも想定したが、他の時期の遺構や仙台市調査区との関係は整合しているので、やはりこのズレは存在している。そうなると、BK14－３号溝はBK７－30号土坑とも接合することとなる。

BK７調査区南端の土層断面図（『年報』19－１：p.48）からすると、BK７－29号溝の底面レベルは58.7mとなる。そして、BK14－３号溝の北側土層断面図の底面レベルは58.8mであり、BK７－29号溝の底面レベルとほぼ同じである。また、BK14－３号溝とBK７－29号溝は、箱形に近い断面形状や、埋土下層にラミナ状に堆積する砂を含んでいることなど、様々な状況が類似する。したがって、BK14－３号溝とBK７－29号溝は同一の遺構であり、接続していたと考えても問題は無い。

また、BK14－３号溝の南側土層断面図の底面レベルは58.6mとなっている。北側土層断面図における底面レベルとの20cmの差から、BK14－３号溝に流れ込んだ水は、北から南へと流れているものと考えられる。BK７－29号溝も同様に北から南へと流れていたと想定（『年報』19－１：p.66）されている。このことから、これらの南北の溝は、南側へ排水する施設として考えられる。

BK14－３号溝とBK７－29号溝のズレであるが、BK７－12・29号溝の関係のように、BK７－29号溝とBK14－３号溝は異なる遺構であり、少し西側に場所をずらして構築した可能性も考えられる。この場合であっても、位置関係からBK14－３号溝はBK７－30号土坑とも接合することになる。このBK７－30号土坑は、埋土下部に砂がラミナ状に入ることから、水流がある状態であったことが想定（『年報』19－１：p.68）されており、底部レベル等からもBK14－２号池状遺構の北壁の一部と考えられる。BK14－２号池状遺構は、北部と東部から来た水が西部を経て南側へと抜ける構造となっている（註１）。このBK14－２号池状遺構を通る水の供給源として、BK７－29号溝を想定したい。この場合、BK７－29号溝からBK14－２号池状遺構とBK14－３号溝に水が分かれて流れていたと考えられる。BK14－３号溝とBK７－29号溝が直線的に接合しないことは、ちょうど攪乱によって破壊されている位置に、BK14－２号池状遺構への排水口等の何らかの施設があったためではないかと推定している。

これらの溝・池状遺構の時期であるが、BK14－３号溝が17世紀中葉～後葉、BK７－12号溝は17世紀中葉以降、接続する仙台市調査区－SD24は17世紀後半とされている。また、BK14－２号池状遺構は17世紀と時期比定しているので、この一連の溝・池状遺構は、17世紀中葉～後葉には確実に機能していたものと考えられる。

なお、BK14－２号池状遺構の西側にBK14－４号池状遺構が存在している。『調査報告』７では、床面レベル

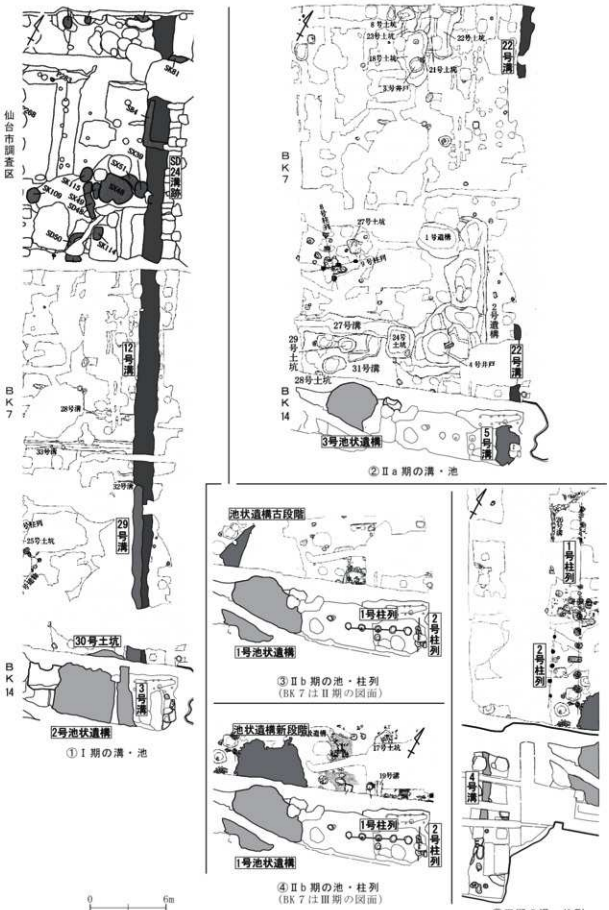


図88　他の調査区との関係
Fig.88 Relations with the other excavation area

から南側に排水していた可能性を指摘した。BK－２号池状遺構も南側に排水する構造であったことから、この時期における雨水等は調査区の南側に排水していた状況が考えられる。

②Ⅱa期（18世紀初頭～中葉：図88－②）

BK14－５号溝とBK７－22号溝が接合し、仙台市調査区－SD44へと続く。底部のレベルは、調査地南壁のBK７－22号溝では59.7mであるが、BK14－５号溝は59.1～59.2m程度となり、前時期と同様に北から南へと流れていたことがわかる。BK７－22号溝は、その報告書の中でⅠ期のBK７－12号溝の機能を東側に移したものと推定されているが（「年報」19－１：p.93）、BK14－５号溝も出土遺物の時期等からその見解は妥当なものと考えられる。これらの遺構は、BK14－５号溝の層位・出土遺物から18世紀中葉には機能していたと考えられる。

BK14－３号池状遺構は、BK14－４号池状遺構と接続する池跡である。接続部の落差は50cm程度あり、南から北へと流れる構造であったと考えられる。３号池状遺構は、位置的状況からBK７の池状遺構古段階と対応するように見受けられる。時期は、３号池状遺構が18世紀前半、BK７－池状遺構は18世紀代とされており、一見すると同一の遺構としても問題は無いように見受けられる。

BK14－３号池状遺構の西側には、集石が確認できた。『調査報告』７では、上層のBK14－１号池状遺構との関係が捉えられなかったことから、BK14－１号池状遺構のものである可能性も想定した。一方、BK７－池状遺構古段階には、明らかな石列や杭列等も伴っている。また、BK14－３号池状遺構はBK14調査地内で最低レベル（58.2m）となり、北側で少し高くなるような窪んだ構造となっている。BK７調査区南壁におけるBK７－池状遺構古段階の底部レベルは58.8mとなり、最大で60cm程も差がある。さらに、上部が削平を受けているとはいえ、BK14－３号池状遺構とBK７－池状遺構古段階のプランは整合していない。これらの構造や底面レベルの違いから、素直にBK14－３号池状遺構とBK７－池状遺構古段階が接合する遺構であり、南から北への流路が存在していたと考えることは難しい。この場合、BK14－３号池状遺構の排水先が不明となる。

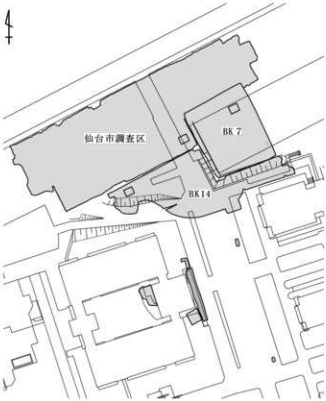
BK７－池状遺構古段階より古い遺構として、その下部にBK７－28・29号土坑、27・31号溝がある。これらの遺構は、位置関係等からBK14－３号池状遺構と直接的に接続していたと考えることは難しい。ただし、BK７－27・31号溝の底面レベルは、３号池状遺構の底面レベルと近いため、何らかの関係も考えられる。

なお、BK７の大規模なゴミの捨て場であるBK７－２号遺構が機能していた年代は、出土木簡から1720年前後が推定されている。BK７のⅡ期は、このBK７－２号遺構を含み、その東側のBK７－28･29号土坑、27・31号溝などが存在していた時期と、池状遺構古段階がある時期の二つに分かれている。前者は木簡の年代頃、後者は池が機能していた段階と考えられる。BK14－３号池状遺構は、18世紀前半と時期比定したが、そのうち２号遺構が機能していた段階の遺構と推定できる。

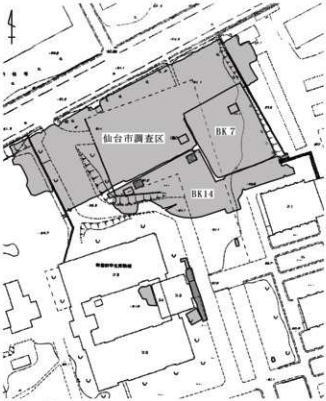
③Ⅱb期（18世紀後葉～19世紀初頭：図88－③・④）

BK14－５号溝と同じ場所にBK14－２号柱列が構築される。このBK14－２号柱列は、溝と同じく区画の機能を有していた可能性もあるが、その規模は小さく疑問が残る。また、２号柱列に直行して１号柱列が存在する。この柱列の機能は不明であるが、西側に１号池状遺構が隣接して存在するため、区画の施設では無く、目隠し等の別の機能も考えられる。

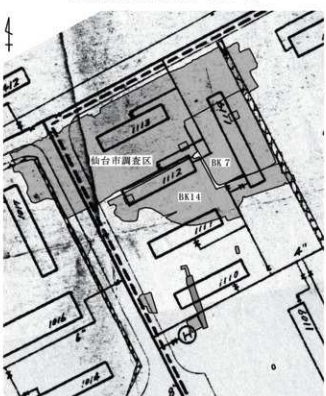
今回の調査では２段階に区分できなかったが、BK14－１号池状遺構は、BK７Ⅱ期のBK７－池状遺構古段階とⅢ期のBK７－池状遺構新段階と接続する。護岸の石列は、BK７調査区内の方の残りが良い。BK14－１号池状遺構の底面は、南から北に向かい緩やかに傾斜する。BK７－池状遺構新段階の北側は攪乱により不明であるが、北側に向かって排水される様な構造であったのだろう。また、『調査報告』７では、BK14－１号池状遺構は、遺構の重複関係からⅡb期（18世紀後葉～19世紀初頭）とし、Ⅲ期（19世紀前葉～後葉）以降近代頃に埋められたものとし、長期間機能していた様相を指摘した（註２）。そして、BK７－池状遺構古段階は18世紀代、BK７－池状遺構新段階は19世紀から幕末まで機能していたと考えられることから、時期的には矛盾しない。



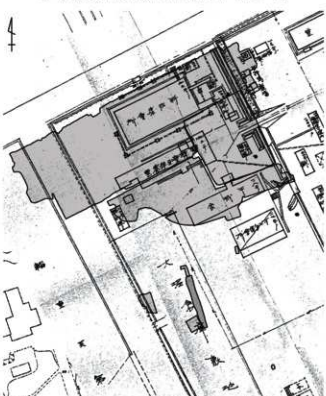
①「東北大学団地配置図」（2010 年）



②「東北大学川内青葉山地区地形図」（1983 年）



③キャンプ・センダイの建物を東北大学が使用していた頃の建物配置図（1964 年）



④「仙台陸軍教導学校」改変（1940 ～ 1943 年頃：佐藤 2000、仙台市歴史民俗資料館蔵）

0　50m
S=1/1500

図89　過去における調査区の位置
Fig.89 Location of the excavation area in the past

なお、仙台市調査区においても、BK７調査区北側にて18世紀中頃～19世紀前半頃に規模の大きな池跡が確認されている。この時期には、複数の池跡を構築していたことがわかる。

④Ⅲ期（19世紀前葉～後葉：図88－⑤）

本調査区では、南北に走るBK14－４号溝より東側では格段に遺構が少なくなる。この時期の初期には、BK14－１号池状遺構・BK７－池状遺構新段階は埋まりつつも存在していたと考えられる。

BK７では、BK14－４号溝の北東側に南北方向に伸びるBK７－１・２号柱列がある。BK14－４号溝とBK７－２号柱列の軸角度はほぼ同じであるが、BK７－１号柱列の軸角度はややずれる。これらの柱列や溝で構成される区画がこの地点周辺に存在していた可能性が高い。

⑤明治期以降（1868年以降：図89）

この時期は、一部がⅢ期とも重なる。本調査区の位置を建物配置図に重ね、時代を遡り順に図89に示した。①と②は現代の建物の対比が可能であるため調査区の位置は確実であるが、③と④は背景となる建物配置図の正確さは不明である。

図89－③は、米軍が駐留していたキャンプ・センダイ時代の建物を東北大学が使用していた頃の建物配置図である。各調査区に建物が認められる。BK14調査区内では、北側に「1112」という建物がある。これは、『調査報告』７では、第二師団期の建物として報告はしていたが、建物３が該当する可能性もある。その場合、米軍期のスチーム施設と考えられる共同溝より東側にも伸びているはずではあるが、攪乱が著しいため柱配置が読み取れない。調査区南側には、コンクリートを用いた布基礎の建物１（『調査報告』７：p.43」が認められた。この建物は、建物配置図上で「1111」と書かれた建物の基礎かとも思われるが、西側には、この建物基礎は延びておらず疑問である。その場にある建物２が、建物３と同様に米軍期のものとも推定することも可能であるが、建物１との関係が不明となる。

図89－④は、仙台市歴史民俗資料館蔵の第二師団期の建物配置図である。1940～1943（昭和15～18）年頃のものと推定されている（佐藤雅也2000）。BK14の建物４（『調査報告』７：p.43）は「医療室及休養室」の一部であろう。建物５は、「干城舎」とされる建物となる。この干城舎は、1934（昭和９）年刊の『仙台陸軍教導学校要覧』によると、「学生の精神を修養すると共に相互間の親睦を増進し兼て学術の研究の資することを目的」としたものであり、集会スペースのほか軍旗や「中心烈士の写真及其遺物等」、軍事関連図書等を置いていた建物であったようである。

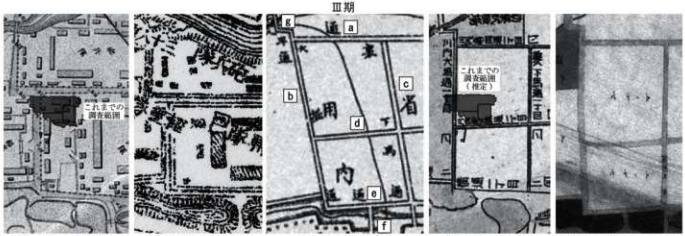
註１）『調査報告』７では、２号池状遺構の流路として東側から西側、そして北側へと向かうと記載したが、正しくは東・北側から西側に流れるような流路である。西側へ水を集めるような流路となっていたものと考えられる。この点について『年次報告』2018にて訂正の報告をした。

註２）『調査報告』７では、１号池状遺構の時期として、「Ⅱb期（18世紀中葉）」と表記したが、正しくは「Ⅱb期（18世紀後半）」である。註１の件も含めホームページ等で正誤表を公開していきたい。

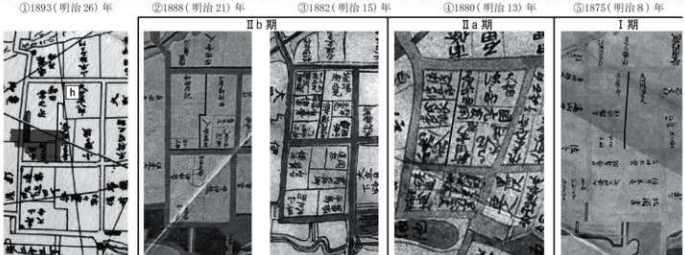
（３）近世絵図・近代地図との関係から

①区画と遺構

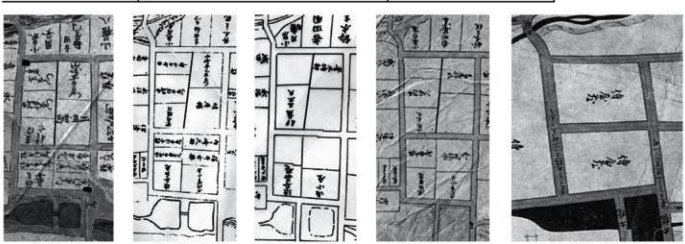
図89－④の1940～1943（昭和15～18）年頃の建物配置図から、時代を遡り地図・絵図との比較を行いたい。図90－①は1893（明治26）年の地図であるが、その地図に第二師団期の建物との関係を基準とし今回の調査区を重ねた。1882（明治15）年の地図（図90－③）は、1885（明治18）年仙台鎮台に歩兵第17連隊が設置される（原剛2002）以前の地図となっており、中ノ坂通が認められる（図90－③d）。1881～1883（明治14～16）年に、川内地区の買収が軍により行われており（加藤宏2011）、この1882（明治15）年の地図には、「陸軍省用地」の文字が



①1893（明治26）年　②1888（明治21）年　③1882（明治15）年　④1880（明治13）年　⑤1875（明治8）年



⑥1856-1859（安政3-6）年　⑦1768-1789（天明6-寛政元）年　⑧1760-1766（宝暦・明和）年間　⑨1724（享保9）年以降　⑩1691（元禄4）年



⑪1681-1683（延宝・天和）年間　⑫1678-1680（延宝6-8）年　⑬1668・1669（寛文8・9）年　⑭1664（寛文4）年　⑮1645（正保2）年

本文中での凡例

③-a	亀岡通	③-e	筋違橋通
③-b	大堀通	③-f	千貫橋
③-c	裏下馬通	③-g	北側の橋
③-d	中ノ坂通	⑥-h	縦区画線

図90　武家屋敷地区第14地点周辺の絵図・地図
Fig.90 Picture maps around BK14

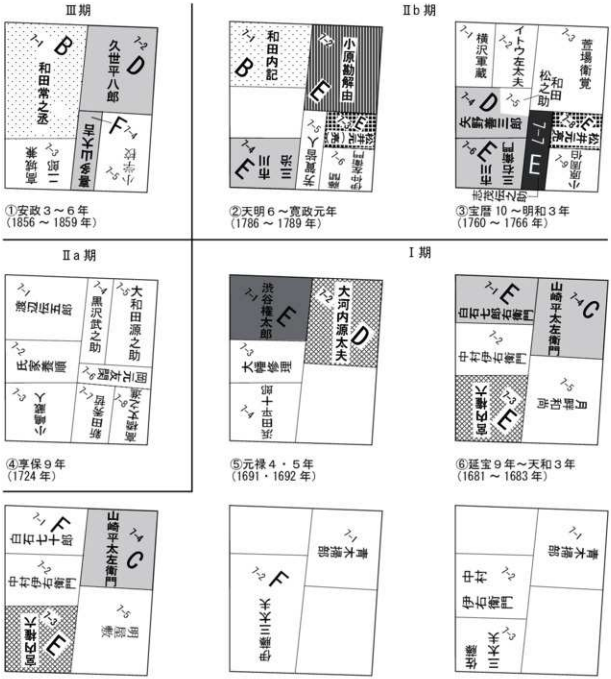


図91　武家屋敷地区第14地点周辺の武家屋敷の変遷模式図
Fig.91 The change of the samurai residences around BK14

記載されている。

第17連隊設置前の地図（図90－③）では、亀岡通と大堀通が合流し北側の橋に至る直前が鉤の手状となっており（図90－③g）、それ以後と比べて亀岡通が北側に位置している。この鉤の手状の箇所は、橋の直前であることから、亀岡通は図90－②の頃よりかなり北側に位置していたものと推定される。図90－④では、大堀通、千貫橋、北側の沢等が大きく変化していないと仮定して、その位置関係から今回の調査区の位置を推定し、1880（明治13）年の地図に重ねた。今回の調査区は、中ノ坂通のちょうど北側に位置することとなる。今回の調査区内での中ノ坂通があるとされる部分については、調査区の南端でしかも攪乱を受けている地点であったので、明確な道路遺構等は確認されていない。

中ノ坂通が確認できていないため推定に推定を重ねることにはなるが、この地図を基準として1856－1859（安政３－６）年の絵図に、同様の手法で今回の調査区を重ねた（図90－⑥）。今回の調査区周辺を含めた範囲は、おおむね３つの屋敷地の範囲内に収まる。なお、『調査報告』７の図２（p.３）で示した推定の調査区位置図よりやや南側に寄ることとなる。

ここで注目すべきは、各調査区の東側において縦方向に区切る屋敷地の境である（図90－⑥h）。図90－⑭の1664（寛文４）年の頃まで、この縦区画は確認できる。これまでの調査の中では、この縦区画には、Ⅰ期（図90－①や②）のBK14－３号溝、BK７－12・29号溝、仙台市調査区－SD24が該当するものと考えられる。

1768－1789（天明６－寛政元）年の図90－⑦では、その縦区画上が屋敷地として分割されているため、南側の縦区画が西側に僅かに移動することにより鉤の手状となる。1856－1859（安政３－６）の絵図でもほぼ同様である（図90－⑥）。また、1724（享保９）年以降の図90－⑨（Ⅱa期）には、それまで１区画であった縦区画より南東側の屋敷地が３区画に分割され、縦区画に沿って南北に長い区画が生じる。その後の絵図（図90－⑧）では、鉤の手状の表現とはなっていないが、この区画の設置により図90－⑥・⑦の様に縦区画が鉤の手状になっていた可能性も想定できる。

しかし、18世紀中葉（Ⅱa期）には機能していたBK14－５号溝、BK７－22号溝、仙台市調査区－SD44という溝の存在から、むしろやや東側にずれた状態で縦区画が存在したものと考えられる。これは、図90－⑧の絵図に描かれている様に、縦区画線が直線的であったことを示している。Ⅱb期には、BK14－５号溝と同じ場所にBK14－２号柱列があるが、確認できた範囲も小さく、規模も小さいため判然としない。このようなことから、図90－⑦（1768－1789年）と図90－⑧（1760－1766年）の間に、縦区画が鉤の手状に変わることになる。この際には、この場所の屋敷地拝領者も変わっている。

一方、Ⅰ期からⅢ期まで継続する一連のBK14－１・３・４号池状遺構の位置は変化しておらず、この場は時期を通して池であったと考えられる。このことを踏まえると、図90－⑦の絵図において西側に僅かに動いた縦区画線は、BK14－１・３・４号池状遺構の両側のどちらかに移動したものと考えられる。図90－⑦の縦区画線に該当する様な遺構は、Ⅱb期においては明瞭には認められない。図90－⑥の時期に関しては、Ⅲ期におけるBK14－４号溝、BK７－１・２号柱列周辺が該当するものと推定できる。

なお、明瞭な区画施設が認められないことに関して、藤澤敦が千葉正樹の論（2003）を引用しつつ、「生け垣や空閑地を設けるか、あるいは屋敷林を構成する樹木を並べて植えるなどして、屋敷の境を区画していた」（藤澤敦2011：p.250）ことをBK11の事例から指摘している。本調査区でも、１・３・４号池状遺構周辺が縦区画にあたるとは考えられるが、同様の状況であったと推定する。

②建物

今回調査したBK14調査区内は、縦区画の南西側の屋敷区画のほとんどをカバーしている。今回調査区周辺の屋敷地拝領者の変遷は、滝谷悠子の成果（藤澤敦ほか2011）を元に図91に示した。縦区画南西側の屋敷地では、Ⅰ期の宮内権六が召出（36貫文）、Ⅱb期の市川三右衛門・三治が虎間（30貫文）等の中級家臣の存在が認めら

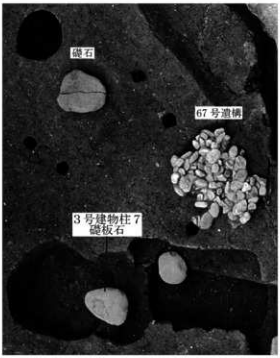


図92　礎石と周辺の遺構
Fig.92 Foundation stone and features around it

れる。

今回の調査では、屋敷地内の建物構成を明瞭に復元することはできなかった。比較的大型の建物跡としては、Ⅰ期のBK14－３号建物がある。この掘立柱建物の柱穴の規模は大きく、礎板石を有しているものもあるが、建物構造の全体を復元できるほど柱穴を組むことができなかった。類似する建物跡としては、BK14－３号建物に隣接する同時期のBK14－４号建物がある。このような建物が存在することはわかるが、屋敷全体の構成は不明である。Ⅱa期以降には、明確な建物跡はほぼ無く、井戸や用途不明の遺構のみが目立つ。

この様な状況に関して、BK７・BK11の調査事例を元として、藤澤敦により礎石建物が存在していた可能性を推定されている（藤澤敦2011）。本調査区でも、時期不明の石を１点確認している。この石は、１点のみの確認で、建物を構成できないため、『調査報告』７では写真を掲載したのみでとくには触れなかった（『調査報告』７：図版122－８）。この石は、2b層上面で確認した（図92）。この石のサイズは、掘立柱建物（３号建物）の礎板石と変わりない規模である。石がある区画周辺は、近くにある67号遺構のような集石が残されており、2b層上面の遺存状態が良好であったと考えられる。これらのことから、BK14で確認した石は、礎石建物の一部であると考えられる。

３．武家屋敷地区の環境

本報告では、池状遺構と井戸を中心とした遺構から出土した自然遺物に関する分析を第Ⅶ章に掲載している。今回は、武家屋敷地区における池状遺構の埋土形成過程と周辺環境の変化を検討するため、池状遺構の出土資料に関する分析をまとめる。本論で触れる自然遺物の層位別の数量等については、動物遺存体表56～63、植物遺存体表64～70、昆虫遺体表73～81を参照頂きたい。

①２号池状遺構（Ⅰ期）

埋土は大きく５層に分かれる。『調査報告』７では、埋土の特徴から最下層の５層を池が機能し始めた頃の埋土であること、３・４層は静かに泥が堆積するような水が停滞していた様相を示していること、２層は砂等が混じるような水の流れが生じていたこと等を指摘していた。２層以下については水洗篩を実施している。

昆虫遺体の分析からは、貧植性の水生昆虫のガムシ類が各層から出土しており、薄暗い止水域に生息するキベリヒラタガムシは２層を中心に確認することができる。また、各層から貧糞性、貧屍性の昆虫が多く出現している。動物遺存体の分析からは、３層から同一個体のカモ科の骨格部位が出土しており、完全に骨になった状態ではなく、ある程度の軟部組織が残った状態であったことが想定されている。この様な状況から、池に食物残滓が廃棄されていた状況がわかる。また、２・３層が堆積する頃には、水が常に流れているような状況ではなかったことが想定できる。

植物遺存体の草本類は、各層から多く出土している。水域の指標植物各種も出土しているが、その中のヤナギタデの出土量が２層よりは3a層以下でとくに多い。２層では、花壇などで植えられていたのかオオケタデが突出してとくに多い。これらの資料の様相は、周辺環境の変化を示しているものと考えられる。木本類は、２層とそ

れ以下の層で顕著な差が認められ、２層では種類と量共にやや多くなる。これらの状況から、２層堆積時には周辺の土壌が多量に混入している状況が想定できる。

２号池状遺構は、薄暗い状況のもと食物残滓や人糞が廃棄される、あるいは混入する様な場所ではあったが、静かに水を湛える様な環境であったと考えられる。しかし、２層が堆積する頃にはメンテナンス等をしなくなったのか、周辺から土壌が流入しても放置される様な環境下にあったものと推察される。

人工遺物には、正徳三（1713）年の記載がある木簡が埋土２層から出土しており、埋土３層までは18世紀初頭～前葉の遺物が認められる。とくに、埋土２層からは数多くの遺物が出土している。下層の埋土４・５層からは、若干古手の17世紀代の陶磁器が含まれる。これらのことから、埋土３層が堆積する18世紀初頭～前葉には人工遺物の投棄が進められ、埋土２層が堆積する頃には様々な物が廃棄され、２号池状遺構は荒れ果てていたという様相が想定できる。そして、１層からは17世紀後半･末～18世紀前葉の遺物が出土しているので、18世紀前葉以降には埋められていたのであろう。

②４号池状遺構（Ⅰ期）

埋土は大きく８層に分かれる。これらの８枚の層は、土質から１層、２～７層、８層の３つにまとめることができる。８層は池が機能し始めた頃の埋土で、２～７層は水が存在しつつも次第に埋没していった頃の堆積土と考えられる。１層は粘土ブロックを多量に含む層であるため、上部に位置する１号池状遺構構築の際の埋め戻し土とも考えられる。

昆虫遺体は、１層より下層にて確認されており、その特徴は２号池状遺構とほぼ同様である。止水環境を示すキイロヒラタガムシは３・５・８層から出土しており、２号池状遺構と同様にキベリヒラタガムシも３・５層から出土している。分析文章中で触れられているツヤエンマコガネは５層から、ヒメカツオブシムシは8b層から出土している。動物遺存体では、同一個体のシカの骨格部位が埋土５層と８層から出土している。最下部の８層堆積時に捨てられたものと考えられる。

植物遺存体は、最下層の８層でキュウリ属メロン仲間が特に目立つ。２・３層では、サンショウが特に増加する。基本的にこの様な増減はあるものの、２～８層は主体となる植物の変化は無い。１層は、層が厚いものの出土量が非常に少ない。

出土した陶磁器は17世紀代の遺物のみであるが、２号池状遺構とは異なり遺物の量・種類共に少ない。

これらの様相からすると、１層は自然遺物が非常に少ないことから、池が機能していた頃の埋土ではなく、やはり埋め戻し土と考えられる。それ以下の層が池機能時の埋土と考えられるが、池自体の水流は弱く、食物残滓などの廃棄物が捨てられていた環境が想定できる。４号池状遺構は、人工遺物の廃棄量は少ないが、同時期の２号池状遺構とほぼ同じような状況であったと考えられる。

③３号池状遺構（Ⅱa期）

上部に１号池状遺構が位置し、埋土は薄く、人工・自然遺物共に非常に少ない。埋土は２層あり、最下層は砂層で、上部の埋土はラミナ状の砂層を含むシルト質粘土である。水が流れていた状況が想定される。

他の池状遺構とは異なり、自然遺物としては埋土１・４層からオニグルミが出土しているのみである。この遺構は、西壁付近で壁面が抉れていた。この抉れに関して『調査報告』７では、東南部の４号池状遺構との接続部から「水が勢いよく流れ西側の壁面に水流がぶつかることにより抉られた状況」を推測していた。一方で、先ほどの考察で示した様に４号池状遺構の水流が弱いことが想定されるため、抉れるような水流が常に生じていたとは考えづらい。このことから、この抉れが生じた理由として、荒天時等に４号池状遺構から溢れた水が勢いよく流れた状況を想定したい。また、出土遺物が少ない理由の一つとして、その様な堆積環境があるものと考えられる。

④１号池状遺構（Ⅱb期）

埋土は大きく２層に分かれ、１層は埋め戻した土であり、２層は池機能時の埋土と考えられる。２層は粘土質シルトを主体とする2a層と、砂礫が主体の2b層に区分できる。2a層には砂がラミナ状にかなり多く混じる層もあり、更に細分も行った。この２層の堆積状況に関して、『調査報告』７では「BK16地点（『調査報告』５）の堀（新段階）で認められた堆積状況と類似する」ということを指摘した。この様な２層の構造は、水に関係した何らかの突発的なイベントにより成形されたものと推定する。

この池状遺構から出土した自然遺物は、多くは無い。植物遺存体ではマツ属複維管束亜属、モモ、ウメ、オニグルミが少量出土している。動物遺存体では、ホタテ、種類不明の巻貝、二枚貝の殻皮が多数出土しており、哺乳類では完存するシカの脛骨がある。これらは、食物残滓の廃棄物と考えられる。

人工遺物は、各層から出土している。埋土１層には、明治初頭の磁器、陸軍食器等が含まれており、新しい時期に埋め戻されたことがわかる。埋土２層には、18世紀後半以降19世紀前半頃の遺物が認められるが、とくに小破片が多く、図化された遺物も少ない。

主体となる２層形成の理由を先述のような水関連のイベントとするならば、自然遺物が少ないことと２層出土の人工遺物に小片が多いことの理由となるものと考えられる。

⑤小結

池状遺構から出土した自然遺物の分析から、それぞれの池の埋没過程とその環境を考察した。Ⅰ期の池状遺構は、人為的な汚染が進んだ環境の中で利用されていたようである。２号池状遺構と４号池状遺構では、堆積環境は類似しているものの、人工遺物の廃棄量に大きな差がある。これは、２号池状遺構が屋敷地区画の最東端であり、推定される屋敷地からみて４号池状遺構よりも奥側に位置することとも関係しているものと推察される。

Ⅱa期・Ⅱb期の池状遺構では、人工・自然遺物共にそれほど多くは無い。その主要な理由としては、先述のようにそれぞれの池跡での埋土形成時の環境によるものと考えられる。また、その頃の屋敷地区画の変更により、この場所には池が継続されて使用されつつも、その使われ方が変化したためではないかと考えられる。

４．武家屋敷地区第14地点の調査成果－まとめに代えて－

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点の調査報告は、『調査報告』７（遺構編）と本書の２分冊に分けて刊行することとなった。報告を終えるにあたり、調査成果を通覧し、まとめに代えておきたい。

武家屋敷地区第14地点の調査は、調査面積972.8㎡、調査期間は一時中断した期間をはさみ、2011年から2015年におよぶものであった。武家屋敷地区の調査としては、武家屋敷地区第４地点、第15地点に次ぐ、規模の大きな調査となった。

今回の調査では、江戸時代以前にさかのぼる遺構は検出されておらず、江戸時代の遺構が中心である。江戸時代の遺構は、建物跡、池状遺構、井戸跡、溝跡、ピットなど、総計332基の遺構が検出され、Ⅰ期、Ⅱa期、Ⅱb期、Ⅲ期の大きく４段階に時期区分される（Ⅰ期：16世紀末を含む17世紀代、Ⅱa期：18世紀初頭～中葉、Ⅱb期：18世紀後葉～19世紀初頭、Ⅲ期：19世紀前葉～後葉）。

Ⅰ期では、江戸時代初頭からの屋敷境と推測される３号溝や、17世紀代の建物跡や井戸、２号池状遺構と４号池状遺構の２基の池状遺構が検出され、近世前半段階の屋敷構成を推測する重要な情報となった。Ⅱa期では、４号池状遺構に接続する３号池状遺構が検出され、近世前半段階から18世紀前葉まで継続して池状遺構が配置されていることが確認された。他にⅡa～Ⅱb期にまたがる２号井戸や６号井戸なども検出されており、建物配置や水利用のあり方を考える上で貴重である。Ⅱb期では、前段階の４号・３号池状遺構の後に、改めて構築された１号池状遺構が検出され、近代頃に埋め戻されるまで存続していたことが判明した。池跡は、作り直しを経て、同様の場所で継続して構築されおり、次のⅢ期と合わせて近世後半段階の屋敷構成を推測する基点と考えられる。

Ⅲ期では、一部のみの検出ではあるが建物跡や井戸など、近世最終段階の武家屋敷の様相を示す遺構が確認された。

この様に池跡や井戸跡の時期的変化等は追求できたものの、近現代の攪乱が非常に多いため、屋敷地内における建物構成等を把握することが非常に困難な状況であった。考察では、本調査区で確認された石１点から礎石建物の存在を推定したが、今後の発掘調査にてその存在を明らかにしなければならない。

当調査地点は、当調査室による武家屋敷地区第７地点、地下鉄東西線工事に伴う仙台市教育委員会による調査地点と隣接している。これら調査結果と共に過去の建物配置図、地形図、絵図等を総合的に検討することによって、近世絵図におけるこれまでの発掘調査地点の位置を推定した。現在も中ノ坂通の位置が不明であるため、その確度は高くは無いが、おおむねの位置は特定できたものと考えている。ただし、屋敷地境が遺構としてどの様な形で残るのか、そして我々調査者はそれを認識することができるのか、発掘調査における注意深い実践が必要である。

出土遺物では、近世以前の縄文・弥生土器の可能性のある土器、石器・石製品、古代瓦が出土した。武家屋敷以前のこの地点の様相を推測する上での貴重な資料と言える。他の遺物の大半は江戸時代に属するものである。17世紀前半段階の遺物は相対的に少なく、残存状況もあまりよくないが、中国磁器、肥前・美濃の陶器、波来銭などがみられる。17世紀後半からは出土遺物も増加する。２号池状遺構からは17世紀末から18世紀前葉の陶磁器や木製品などがややまとまって出土した。「正徳三年」と記載された木簡も出土しており、遺構・遺物の年代を裏付けるものとなった。また、大堀相馬・小野相馬陶器が開窯して間もない時期における仙台城下の陶磁器の組成を考察することができる資料であり、これまでの陶磁器組成を補足することとなった。６号井戸からは比較的残存状況のよい木製品が出土しており、種類も比較的豊富である。１号井戸からは19世紀前半代の陶磁器とともに、桶や板材などの木製品、漆器などが出土しており、明治初頭の武家屋敷廃絶に伴う一括廃棄と推測される。

今回の調査では、動物遺存体などの自然遺物を多数回収することができた。とくに池状遺構や井戸の埋土に関しては水洗篩を実施したことにより、植物種子や昆虫遺体などの微細な資料まで得ることができた。これらの資料の分析により、当時の食生活や自然環境の一端を推定することができた。また考察では、池状遺構の埋土形成過程と併せて考え、周辺の環境の変化、遺構の位置づけ等を行った。

そのほかにも、２号池状遺構・４号池状遺構から出土した編組製品などの有機質遺物に関する詳細な分析や、９号遺構出土石臼に付着した白色粒子についても、その素材や製作方法、用途の可能性を推測することができた。

今回の調査では、過去の遺構・遺物の調査データを含め、豊富な遺物などを総合的に検討することができた。仙台城下の武家屋敷の様相の一端を示す貴重な調査であろうと考えられる。

引用・参考文献

東北大学埋蔵文化財調査室・仙台市教育委員会の報告書に関しては、直接引用したもの以外は省略した。

【東北大学埋蔵文化財調査室刊行報告書関連】

梶原　洋・佐久間光平・山田しょうほか　1990『東北大学埋蔵文化財調査年報』3　東北大学埋蔵文化財調査委員会

佐久間光平・山田しょう・藤澤　敦　1992『東北大学埋蔵文化財調査年報』4・5　東北大学埋蔵文化財調査委員会

藤澤　敦・関根達人　1993『東北大学埋蔵文化財調査年報』6　東北大学埋蔵文化財調査委員会

藤澤　敦・関根達人・菊池佳子ほか　1994『東北大学埋蔵文化財調査年報』7　東北大学埋蔵文化財調査委員会

藤澤　敦・関根達人・菊池佳子ほか　1997『東北大学埋蔵文化財調査年報』8　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・関根達人・菊池佳子ほか　1998『東北大学埋蔵文化財調査年報』9　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・関根達人・菊池佳子　1998『東北大学埋蔵文化財調査年報』10　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・関根達人・菊池佳子ほか　1999『東北大学埋蔵文化財調査年報』11　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・関根達人・菊池佳子ほか　2000『東北大学埋蔵文化財調査年報』13　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・関根達人・京野恵子ほか　2001『東北大学埋蔵文化財調査年報』14　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・柴田恵子・高木暢亮　2005『東北大学埋蔵文化財調査年報』18　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・柴田恵子・高木暢亮ほか　2006～2010『東北大学埋蔵文化財調査年報』19　第１～５分冊　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・柴田恵子・高木暢亮ほか　2006『東北大学埋蔵文化財調査年報』20　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・柴田恵子・高木暢亮　2007『東北大学埋蔵文化財調査年報』21　東北大学埋蔵文化財調査研究センター

藤澤　敦・柴田恵子・菅野智則ほか　2011『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告１　東北大学埋蔵文化財調査室

藤澤　敦・柴田恵子・菅野智則ほか　2013『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第13地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告２　東北大学埋蔵文化財調査室

菅野智則・柴田恵子・石橋　宏　2017『仙台城跡二の丸第18地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告６　東北大学埋蔵文化財調査室

菅野智則・柴田恵子・石橋　宏　2019『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点』東北大学埋蔵文化財調査室調査報告７　東北大学埋蔵文化財調査室

【仙台市教育委員会刊行報告書関連】

工藤信一郎・永野一夫ほか　2012『川内Ｂ遺跡ほか－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅷ』仙台市文化財調査報告書第401集　仙台市教育委員会

車田　敦・茂木裕樹　2010『仙台旧城下町に所在する民俗文化財調査報告書④　仙台釣竿・仙台御筆』仙台市文化財調査報告書第375集　仙台市教育委員会

斎野裕彦ほか　1987『富沢遺跡　仙台市都市計画道路長町・折立線建設に伴う富沢遺跡第15次発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第98集　仙台市教育委員会

佐藤甲二・竹内俊之・宇谷健吾ほか　2007『川内Ａ遺跡ほか－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ』仙台市文化財調査報告書第312集

主濱光朗　2004『元袋遺跡―都市計画道路「川内・柳生線」関連遺跡―発掘調査報告書Ⅱ』仙台市文化財調査報告書第272集　仙台市教育委員会

主濱光朗・結城慎一ほか　2011a『桜ヶ岡公園遺跡－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅳ』仙台市文化財調査報告書第384集　仙台市教育委員会

主濱光朗・結城慎一ほか　2011b『仙台城跡－仙台市高速鉄道東西線関係遺跡発掘調査報告書Ⅵ』仙台市文化財調査報告書第386集　仙台市教育委員会

結城慎一・佐藤　洋　1985『仙台城三の丸跡』仙台市文化財調査報告書第76集　仙台市教育委員会

【その他の報告書・論文等（50音順）】

赤松和佳　2006「畿内出土の17～18世紀の京焼について」「京焼の成立と展開－押小路、粟田口、御室－」関西陶磁史研究会研究集会資料　関西陶磁史研究会　pp.24－48

安芸毬子・大成可乃ほか　1999「東京大学構内遺跡出土陶磁器・土器の分類（１）」東京大学構内遺跡調査研究年報２　東京大学埋蔵文化財調査室

安芸毬子　2016「本製玩具・人形にみる一考察」「東京大学本郷構内の遺跡　医学部附属病院入院棟Ａ地点」東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書13　東京大学埋蔵文化財調査室　pp.179－203

有賀要延　1993『仏教法具図鑑』国書刊行会

阿部正光・佐藤敏幸　1997「宮城県の近世墓と六道銭」「近世の出土銭Ⅰ」兵庫埋蔵銭調査会　pp.183－226

家田順一・川副麻里子ほか　1999『柿右衛門－その様式の全容－』佐賀県立九州陶磁文化館

石田茂作　1976「新版仏教考古学講座　第五巻仏具」雄山閣
伊藤みどり　2009「安久沢東遺跡　経営体育成基盤整備事業古城地区に伴う緊急発掘調査」岩手県奥州市埋蔵文化財調査センター調査報告書第７集（財）奥州市文化振興財団
岩本嘉兵衛　1943「日本産陸棲等脚類に就いて」『植物及動物』11巻12号　養賢堂編　pp.17－32
江戸遺跡研究会編　2001「図説　江戸考古学研究事典」柏書房
江戸陶磁土器研究グループ編　1992「江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅰ」江戸陶磁土器研究グループ
江戸陶磁土器研究グループ編　1996「江戸出土陶磁器・土器の諸問題Ⅱ」江戸陶磁土器研究グループ
遠藤栄一　2010「要害遺跡・境田遺跡　経営体育成基盤整備事業古城地区に伴う緊急発掘調査」岩手県奥州市埋蔵文化財センター調査報告書第10集（財）奥州市文化振興財団
及川　登　1999「江戸遺跡における京都・信楽系製品の流通について」「江戸の物流－陶磁器・漆器・瓦から－発表要旨」江戸遺跡研究会第12回大会　江戸遺跡研究会
及川真紀ほか　2003「東館（赤生津城）遺跡発掘調査報告書　五合田遺跡発掘調査報告書」岩手県前沢町文化財調査報告書第14集　前沢町教育委員会
大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター編　2007「近世丹波焼の研究」大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター研究報告第３号　大手前大学史学研究所オープンリサーチセンター
小川啓司　1974「そば猪口絵柄事典」光芸出版
大橋康二　1987「十七世紀後半における肥前磁器の銘款について－長吉谷窯出土品を中心に」「東洋陶磁」vol17　東洋陶磁学会　pp25－37
大橋康二　1994「古伊万里の文様　初期肥前陶磁器を中心に」理工学社
大橋康二・西田宏子監修　1988「古伊万里」別冊太陽：日本のこころ63　平凡社
大橋康二・鈴田由紀夫ほか　2008「土の美　古唐津－肥前陶磁のすべて」佐賀県立九州陶磁文化館
大平　茂・松本　誠　1992「三田市下相野窯址－近畿自動車道舞鶴線関係埋蔵文化財調査報告書Ⅹ Ⅷ」兵庫県文化財調査報告第107冊　兵庫県教育委員会
岡島秀治・荒谷邦雄・細谷忠嗣ほか　2012「日本産コガネムシ上科標準図鑑」学習研究社
尾関　曉　2014「ハムシハンドブック」文一総合出版
加藤真司・高橋健太郎　2005「第17回織部の日特別展　織部様式の成立と展開」土岐市美濃陶磁歴史館
加藤真司・高橋健太郎編　2003「第15回織部の日特別展　織部の流通圏を探る　東日本」土岐市美濃陶磁歴史館
加藤真司・高橋健太郎ほか　2002「元屋敷陶器窯跡発掘調査報告書」土岐市市教育委員会・（財）土岐市埋蔵文化財センター
加藤真司・中窩　茂ほか　2008「第20回織部の日特別展　桃山時代の茶陶生産」土岐市美濃陶磁歴史館
加藤真司・林　順ほか　1996「特別展堺衆のやきもの　堺環濠都市遺跡出土の桃山陶磁」土岐市美濃陶磁歴史館
加藤　宏　2011「旧第二師団軍事施設配置に関する歴史的研究」加藤宏
金子健一編　1999「列島に拡がる大窯製品　東日本の様相」（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
金子健一・平井義敏ほか　2003「企画展示図録　江戸時代の美濃窯」（財）瀬戸市埋蔵文化財センター
金子　智　1999「江戸遺跡出土資料に見る近世海鼠瓶の諸様相」「古代」第106号　早稲田大学考古学会　pp.164－180
河合君近・梅田和樫ほか　2005「企画展示図録　江戸時代の瀬戸・美濃－三都と名古屋」（財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター
川井信矢・堀　繁久・河原正和・稲垣政志　2008「日本産コガネムシ上科図説」第１巻（食糞群）昆虫文献六本脚
関西陶磁史研究会編　2006「京焼の成立と展開－押小路、粟田口、御室－」関西陶磁史研究会
九州近世陶磁学会編　2000「九州陶磁の編年」九州近世陶磁学会
九州近世陶磁学会編　2002「国内出土の肥前陶磁　西日本の流通をさぐる」第一分冊　九州近世陶磁学会
九州近世陶磁学会編　2002「国内出土の肥前陶磁　西日本の流通をさぐる」第二分冊　九州近世陶磁学会
九州近世陶磁学会編　2004「受容層の違いによる九州陶磁の様相」九州近世陶磁学会
工藤員功　1991「竹製民具の問題点－未揚げ炭と箕を中心として－」「竹と民具」日本民具学会論集５　日本民具学会　pp.7－16
工藤　武　1985「大平遺跡発掘調査報告書一関地区游水地関連埋蔵文化財発掘調査報告書」一関市教育委員会・建設省岩手工事事務所
甲崎光彦・並木　仁ほか　1998「尾張藩上屋敷跡遺跡発掘調査報告書Ⅲ」東京都埋蔵文化財センター調査報告第53集（財）東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター
御所野縄文博物館編　2008「縄文から続く「編み」の文化」平成20年度企画展図録（民具編）御所野縄文博物館
小林博範・斎藤　進ほか　2000「汐留遺跡Ⅱ－旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告第79集（財）東京都生涯学習文化財団　東京都埋蔵文化財センター
小林博範・西澤　明ほか　2003「汐留遺跡Ⅲ－旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告第125集（財）東京都生涯学習文化財団　東京都埋蔵文化財センター
佐藤広史・伊藤　裕ほか　1990「切込窯跡―近世磁器窯跡の調査－」宮崎町文化財調査報告書第３集　宮城県文化財保護協会
佐藤則之・赤澤靖章ほか　1989「荻理町三十三間堂遺跡ほか」宮城県文化財調査報告書第131集　宮城県教育委員会
佐藤雅也　2000「資料紹介－「仙台市管区経理部「各部隊配置図・国有財産台帳附図」について－」「足下からみる民俗（９）」調査報告書第19集　仙台市歴史民俗資料館　pp.131－135

（財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター　2006『江戸のやきもの－生産と流通－　記念講演会・シンポジウム資料集』
柴田明彦・大橋康二ほか　1990『柴田コレクション展Ⅰ－初期伊万里から柿右衛門へ－』佐賀県立九州陶磁文化館
柴田明彦・大橋康二ほか　1991『柴田コレクション展Ⅱ』佐賀県立九州陶磁文化館
柴田明彦・大橋康二ほか　1993『柴田コレクション展Ⅲ』佐賀県立九州陶磁文化館
柴田明彦・鈴田由紀夫ほか　1995『柴田コレクションⅣ－古伊万里様式の成立と展開－』佐賀県立九州陶磁文化館
柴田明彦・永淵友子ほか　1997『柴田コレクションⅤ－延宝様式の成立と展開－』佐賀県立九州陶磁文化館
柴田明彦・鈴木由紀夫ほか　1998『柴田コレクションⅥ－江戸の技術と装飾技法－』佐賀県立九州陶磁文化館
白神典之　1990『堺摺鉢と明石摺鉢』『江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会第３回大会発表要旨　江戸遺跡研究会　pp.47－51
白神典之・増田達彦　1999『堺環濠都市出土の調理具・貯蔵具－江戸期の擂鉢・鍋・徳利・植木鉢－』『関西近世考古学研究』Ⅶ　関西近世考古学研究会　pp.79－100
白鳥良一・高野芳宏　1982『多賀城跡　政庁跡　本文編』宮城県教育委員会・宮城県多賀城跡調査研究所
鈴木重治　1990「京焼と京焼写し－生産と流通－」『江戸の陶磁器』江戸遺跡研究会第３回大会発表要旨　江戸遺跡研究会　pp.52－63
鈴木裕子　1999「京焼出土資料の変遷－17・18世紀の江戸を中心に－」『京焼－消費地出土の様相－発表要旨』'99　徳島城下町研究会
鈴木公雄　1999『出土貨幣の研究』東京大学出版会
鈴木省三編　1925『仙臺物産沿革』『仙台叢書』別集第二巻　仙台叢書刊行会（1977年復刻宝文堂）
鈴田由紀夫　1995「17世紀末から19世紀中葉の銘款と見込み文様」『柴田コレクションⅣ－古伊万里様式の成立と展開』佐賀県立九州陶磁文化館　pp.272－279
鈴田由紀夫・西田宏子ほか　2013『江戸のモダニズム　古武雄　まほろしの九州のやきもの』九州国立博物館
関根達人　1998「相馬藩における近世窯業生産の展開」『東北大学埋蔵文化財調査年報』10　東北大学埋蔵文化財調査研究センター　pp.51－86
瀬戸市史編纂委員会　1993『瀬戸市史』陶磁史篇四　瀬戸市
瀬戸市史編纂委員会　1998『瀬戸市史』陶磁史篇六　瀬戸市
仙台市史編さん委員会編　2004『仙台市史』通史編５近世３　仙台市
仙台市博物館編　1989『瑞人形の美』
仙台陸軍教導学校編　1934『仙台陸軍教導学校要覧』東北活版社
高橋健太郎　2007「第19回織部の日特別展　ポスト織部の時代　元和寛永の茶陶」土岐市美濃陶磁歴史館
高橋健太郎・磯村愛子ほか　2006『窯ヶ根窯跡発掘調査報告書－平成13年度・14年度の調査成果－』土岐市教育委員会・（財）土岐市埋蔵文化財センター
田口昭二・龍橋健治　1993『美濃窯の焼物　特集写真で見る美濃焼の歴史』多治見の古窯第３号　多治見市教育委員会
谷川章雄・井浪隆夫ほか　1994『東京都新宿区南町遺跡－兵庫県東京宿舎市ヶ谷寮改築工事に伴う緊急発掘調査報告書』兵庫県・新宿区南町遺跡調査団
千葉正樹　2003「城下町の景観」『仙台市史』通史編４近世２　仙台市　pp.160－187
TEM研究所　2006『木積の瓷づくり：千葉県匝瑳市』千葉県伝統文化再興事業実行委員会
東京国立博物館編　1990『東京国立博物館図録目録　仏具篇』東京国立博物館
東京農業大学「食と農」の博物館編　2013『耕す－厨と犂』東京農大出版会
中沢富士雄・長谷川祥子　1996「元・明の青花」中国の陶磁８　平凡社
中嶌　茂編　2006『第18回織部の日特別展　天下人とやきもの』土岐市美濃陶磁歴史館
中嶌　茂・高橋健太郎編　2004『第16回織部の日特別展　織部の流通圏を探る　西日本』土岐市美濃陶磁歴史館
中嶌　茂・張替清司ほか　2009『第21回織部の日特別展　遺跡にみる茶の湯とやきもの』土岐市美濃陶磁歴史館
長瀬未左子・加藤真司　2000『八幡窯跡発掘調査報告書』岐阜市教育委員会・（財）岐阜市埋蔵文化財センター
中根　猛　1975『甲虫』学研中高生図鑑　昆虫Ⅱ　学習研究社
中野雄二　2013「江戸時代における波佐見窯業の展開」『くらわんか藤田コレクション―寄贈記念図録』波佐見町教育委員会
楠崎彰一・田口昭二ほか　1990「尾呂－愛知県瀬戸市定光寺カントリークラブ増設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」瀬戸市教育委員会
成瀬晃司・堀内秀樹　2005「東京大学本郷構内の遺跡　医学部附属病院外来診療棟地点」東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書５　東京大学埋蔵文化財調査室
成瀬晃司・小林照子・香取祐一　2016「東京大学本郷構内の遺跡　医学部附属病院入院棟A地点」東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書13　東京大学埋蔵文化財調査室
西田宏子・出川哲朗　1997『明末清初の民窯』中国の陶磁10　平凡社
西田宏子・東中川忠美ほか　2002『知られざる唐津　二彩・単色釉・三島手』根津美術館
西治　敏　1978「ショウジョウバエの食性と進化」『遺伝』32巻10号　日本遺伝学会　pp.12－20
日本家屋害虫学会編　1995『家屋害虫事典』井上書院
根津美術館学芸部編　1998『華南のやきもの　黄瀬戸・織部・青手古丸谷の源流を求めて』根津美術館
乗岡　実　1999「近世備前焼の擂鉢－素描メモ－」『関西近世考古学研究』Ⅶ　関西近世考古学会　pp.119－130

乗岡　実　2019「近世備前焼の態利について」『近世の酒と宴　近世考古学の提唱50周年記念』「近世考古学の提唱」50週年記念研究大会実行委員会　pp.341－362
初鹿野博之・三浦秋司ほか　2015「浦澤遺跡ほか―常磐自動車道建設関連遺跡調査報告書Ⅱ」宮城県文化財調査報告第239集　宮城県教育委員会
畑中英二　2003「信楽焼の考古学的研究」サンライズ出版
畑中英二　2007「続・信楽焼の考古学的研究」サンライズ出版
長谷川　満　2004「甕類にみる近世丹波焼」「関西近世考古学研究Ⅹ Ⅱ」関西近世考古学研究会　pp.1－23
原　剛　2002「明治期国土防衛史」錦正社
林　順一　2002「第14回織部の日特別展　美濃桃山陶　意匠と魅力」土岐市美濃陶磁歴史館
阪田宗彦　1989「密教法具」日本の美術282　至文堂
平沢英二郎・阿部　忠　1984「柳津館山館跡―東北地建バイパス関連遺跡調査報告書」宮城県文化財調査報告書第102集　宮城県教育委員会
福田敏一・石崎俊也ほか　1997「汐留遺跡Ⅰ－旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告書第37集（財）東京都教育文化財団　東京都埋蔵文化財センター
福田敏一・石崎俊哉ほか　2006「汐留遺跡Ⅳ－旧汐留貨物駅跡地内の調査」東京都埋蔵文化財センター調査報告第189集（財）東京都生涯学習文化財団　東京都埋蔵文化財センター
藤澤　敦　2011「屋敷区画と検出遺構の関係」「仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第11地点・第12地点」東北大学埋蔵文化財調査室調査報告1　東北大学埋蔵文化財調査室　pp.249－253
藤沢良祐　2006「瀬戸・美濃登窯製品の生産と流通」「江戸のやきもの―生産と流通―」（財）瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター　pp.3－24
武藤康弘・堀内秀樹ほか　1997「東京大学本郷構内の遺跡」東京大学構内遺跡調査研究年報1　東京大学埋蔵文化財調査室
堀江　格・鎌城清ほか　1998「岸窯跡－近世窯跡の調査」福島市埋蔵文化財報告書第111集　福島市教育委員会
松崎沙和子・武衡和雄　1993「都市苔虫百科」朝倉書店
丸谷仁美　2015「田口召平氏寄贈資料～筈および筈作り道具～」「秋田県立博物館研究報告」第40号　秋田県立博物館　pp.47－58
三田村敏正・平澤　桂ほか　2017「ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック」水生昆虫1　文一総合出版
満岡忠成　1989「信楽伊賀」日本陶磁大系8　平凡社
森　勇一　1998「ニワトコの種子集積層から産出した双翅目のサナギについて」「史跡三内丸山遺跡年報」2　青森県教育委員会　pp.17－25.
森　勇一　2012「ムシの考古学」雄山閣
森　勇一　2016「続・ムシの考古学」雄山閣
森　勇一　2000「桑名市桑名城下町遺跡伊賀町69地点から産出した昆虫と古環境」「桑名城下町遺跡発掘調査報告書－伊賀町69地点－」桑名市教育委員会　pp.50－56.
森　勇一　2002「清洲城下町遺跡から産出した貯穀性昆虫とその意義」「清洲城下町遺跡Ⅷ（本文編）」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書　第99集　愛知県埋蔵文化財センター　pp.365－372
森　勇一　2020「昆虫考古学を究める－遺跡産昆虫から得られた古環境およびヒトの営み」「第四紀研究」59巻2号　日本第四紀学会　pp.43－61
森　勇一・上田恭子　2005「三の丸遺跡の埋桶の埋土より産出した双翅目のサナギについて」「名古屋城三の丸遺跡Ⅶ」愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第127集　愛知県埋蔵文化財センター　pp.242－246
安永智秀・高井幹夫ほか　1993「日本原色カメムシ図鑑」全国農村教育協会
安富和男・梅谷献二　1983「衛生害虫と衣食住の害虫」全国農村教育協会
山内明美　2003「宮床笹職人を訪ねて」「別冊東北学」Vol.6　東北芸術工科大学東北文化研究センター　pp.81－88
山上雅弘・岡田卓一ほか　2006「伊丹市所在有岡城跡・伊丹郷町Ⅳ－主要地方道伊丹停車場線舗装修繕工事に伴う発掘調査報告」兵庫県文化財調査報告第301冊　兵庫県教育委員会
山崎孝盛　2005「古墳時代の井戸祭祀に関する一考察～奈良県の井戸を題材として～」「岡山大学大学院文化科学研究科紀要」第20号　岡山大学大学院文化科学研究科　pp.71－87
山本悦世　1991「附編　岡大構内遺跡出土の自然遺物について－井戸出土の種子を中心に－」「岡山大学構内遺跡調査研究年報」8　1990年度　岡山大学埋蔵文化財調査研究センター　pp.45－57
山本典幸・大口和樹ほか　2008「東京都新宿区新宿四丁目遺跡（仮称）新宿四丁目プロジェクトに伴う埋蔵文化財発掘調査報告書」ティーケートレード株式会社埋蔵文化財事業部
渡辺弘之　2011「土のなかの奇妙な生きもの」築地書館

RESEARCH REPORTS
IN ARCHAEOLOGY ON THE CAMPUS OF TOHOKU UNIVERSITY
No.8 MARCH 2020

The Archaeological Research office
On the Campus, Tohoku University
2-1-1, Katahira, Aoba-ku Sendai-shi, Miyagi,
980-8577, JAPAN

Summary

On the campus of Tohoku University a lot of archaeological sites are known. Among them, Sendai Castle is the most famous and largest one. Almost all of the south part of Kawauchi campus is located on its secondary citadel area. The north part of Kawauchi campus is located on the sites of samurai residences.

In Japan, if existing circumstances need to be changed in the known site area, excavation research on the buried cultural properties must be carried out. The Office mainly carries out salvage excavations of archaeological sites on campus.

This report discusses the research results of salvage excavations of BK14 (Loc.14 of samurai residences located at the side of north outer moat of Ninomaru, i.e. Secondary Citadel of Sendai Castle), located on the Kawauchi campus, conducted by the Archaeological Research Office in 2011 and 2015. This report is a study about its archaeological remains and the conclusion of BK14.

As the result of the excavation, a lot of structural remains were found, for example ponds, ditches, colonnades, and buildings. These remains are dated from the 17th to the 19th century (Edo period in Japan). However, there are not many structural remains and layers where an abundance of archaeological remains have been found. In particular, archaeological remains, such as ceramics, unglazed ceramics and old coins dated the first half of the 17th century (the early Edo period) are few, and consist of small pieces in most cases.

Exceptionally, more archaeological remains have been excavated from No.2 and No.4 ponds and No.6 well than from others. From No.4 pond, a slightly greater number of ceramics from the late 17th century, some metal implements and wooden implements have been excavated. From No.2 pond, a great number of ceramics and wooden implements from the end of the 17th century to the early 18th century have been found. In addition, two wooden tablets have also been found on which "Syotoku the third" has been written in Japanese ink . "Syotoku the third" is the era name referring to the year 1713. Thereby, the discovery of these wooden writing tablets has confirmed the age of the remains from No.2 pond. In No.6 well, a pile of ceramics, lacquer ware and wooden implements from the late Tokugawa period (19th century), has been found. It is apparent that these remains from No.6 well were disposed of after Meiji restoration. The samurai residence in this area was destroyed and the area was later used as an army site.

In the category of special remains, many fish and animal bones, shells, plant seeds, and insect remains from that time have been excavated from No.2 pond and No.6 well. The fauna and flora data indicates the environment of this area during the Edo period. In consulting maps from the Edo period, it is possible to identify the location of the excavation area on the old maps.

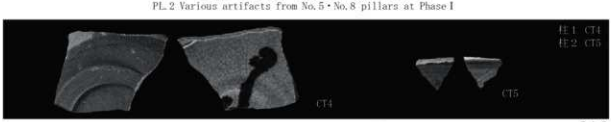
写　真　図　版

W1 S=1:4
CT1 S=1:3

図版1　3号建物(Ⅰ期)出土遺物
PL.1 Various artifacts from No.3 building at Phase Ⅰ

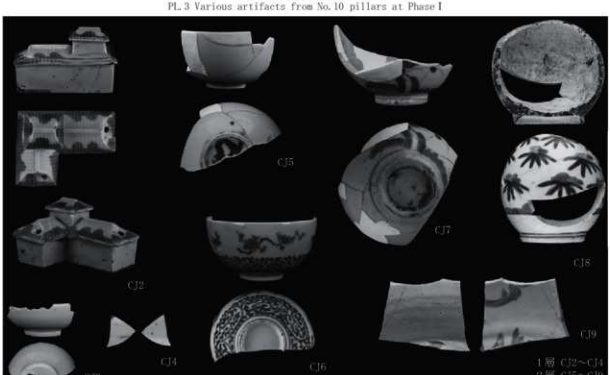
S=1:3

図版2　5号柱列・8号柱列(Ⅰ期)出土遺物
PL.2 Various artifacts from No.5・No.8 pillars at Phase Ⅰ



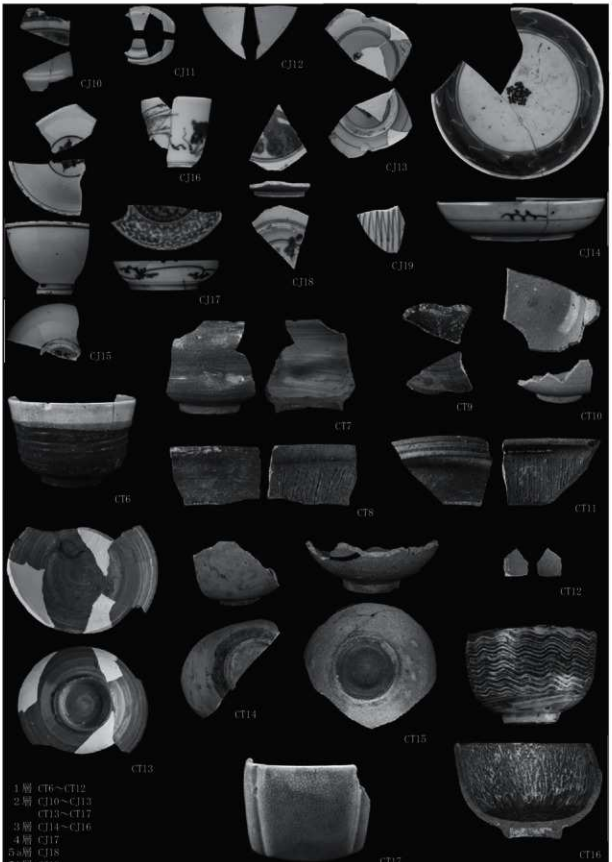
S=1:3

図版3　10号柱列(Ⅰ期)出土遺物
PL.3 Various artifacts from No.10 pillars at Phase Ⅰ



S=1:3

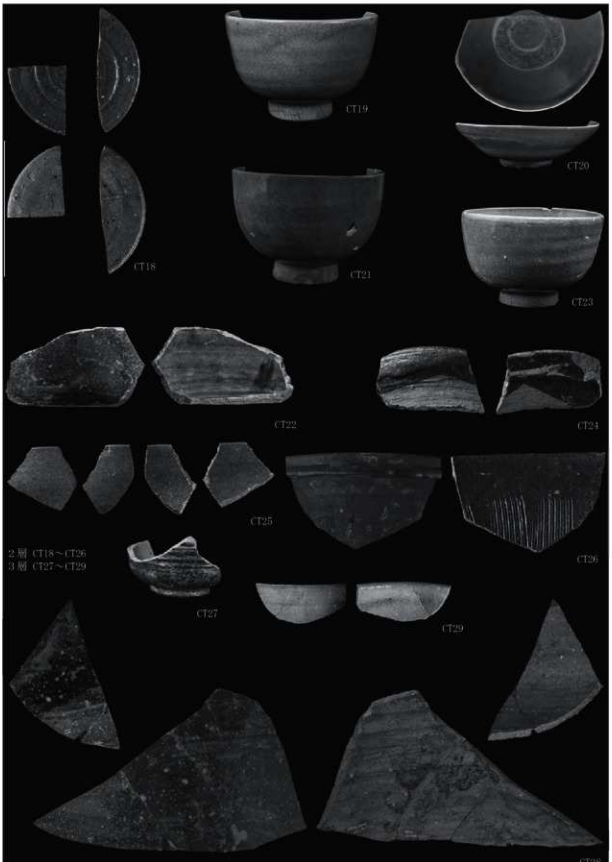
図版4　2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)
PL.4 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (1)



S=1:3

図版5　2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(2)

PL.5 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (2)



図版6　2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)

PL.6 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (3)

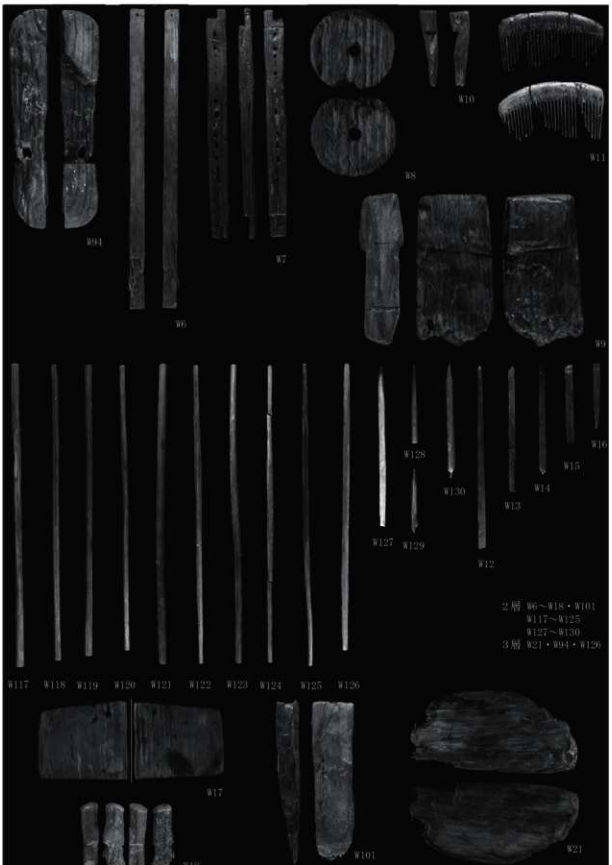
S=1:3

図版7　2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(4)
PL.7 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (4)

C01～C03 S=2:3
T5・T7 S=1:4
それ以外 S=1:3

S=1:4

図版８　２号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（５）
PL.8 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (5)



S=1:3

図版9　2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(6)

PL.9 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (6)

図版10 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(7)
PL.10 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ(7)

W19 S=4:5
WT1～WT4 S=1:2
それ以外 S=1:3

図版11 2号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(8)
PL.11 Various artifacts from No.2 pond at Phase Ⅰ (8)

VA1～VA3 S=2:3
W125 S=1:3
それ以外 S=1:2

S=1:5

図版12　2号池状遺構（Ⅰ期）から検出された箕（9）
PL.12 A winnowing basket from No.2 pond at Phase Ⅰ (9)

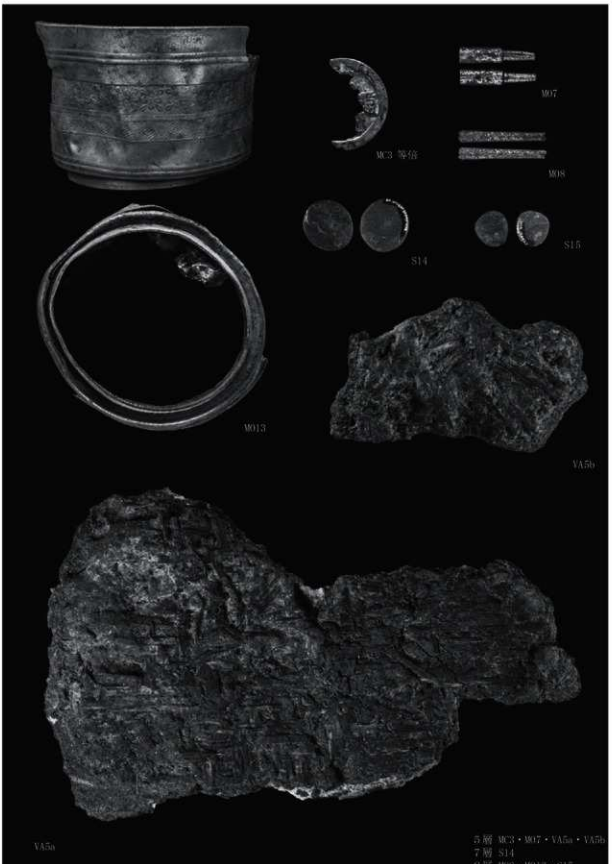
S=1:3

図版13 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(1)

PL.13 Various artifacts from No.4 pond at Phase Ⅰ (1)

図版14　4号池状遺構（Ⅰ期）出土遺物（2）
PL.14 Various artifacts from No.4 pond at Phase Ⅰ (2)

瓦・鉄製品 S=1:2
それ以外 S=1:3

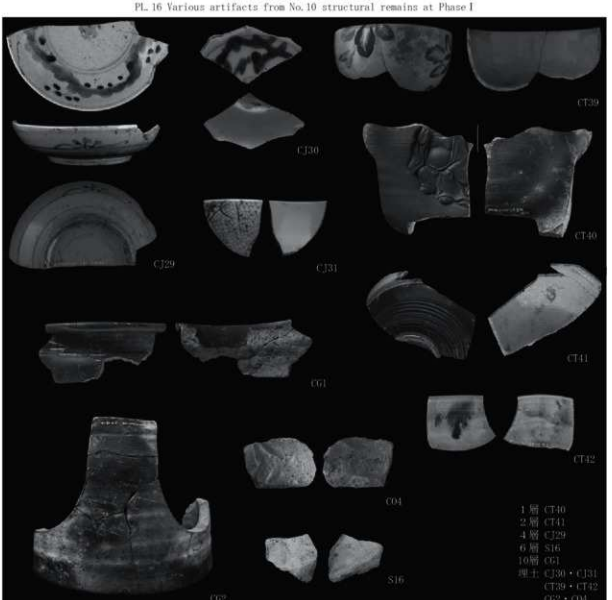


図版15 4号池状遺構(Ⅰ期)出土遺物(3)
PL.15 Various artifacts from No.4 pond at Phase Ⅰ (3)

VA5b S=2:5
VA5a S=1:3
それ以外 S=1:2

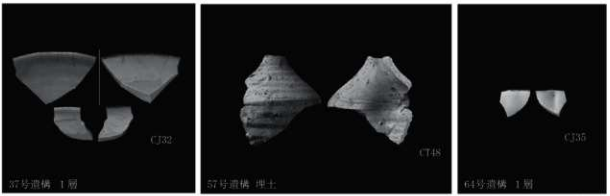
S=1:3

図版16 10号遺構(Ⅰ期)出土遺物
PL.16 Various artifacts from No.10 structural remains at Phase Ⅰ



S16 S=1:2
それ以外 S=1:3

図版17 12号遺構(Ⅰ期)出土遺物
PL.17 Various artifacts from No.12 structural remains at Phase Ⅰ



S=1:3

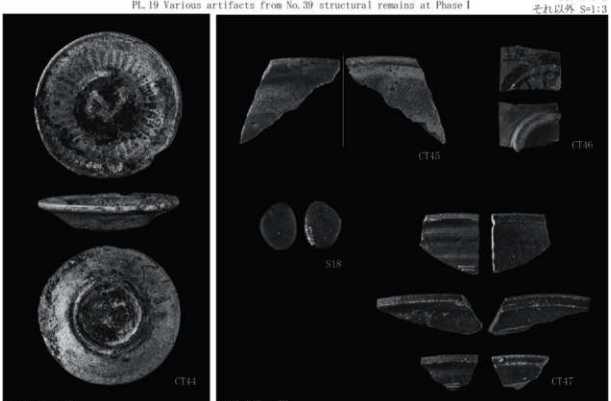
図版18 37号遺構・57号遺構・64号遺構（Ⅰ期）出土遺物

PL.18 Various artifacts from No.37・57・64 structural remains at Phase Ⅰ

C05 S=2:3
S17 S=1:2
それ以外 S=1:3

図版19 39号遺構（Ⅰ期）出土遺物

PL.19 Various artifacts from No.39 structural remains at Phase Ⅰ



S18 S=1:2
それ以外 S=1:3

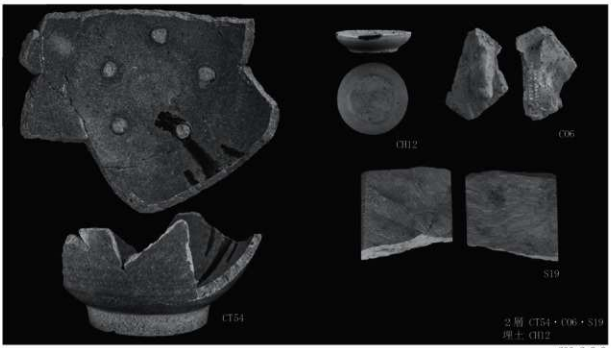
図版20 40号遺構・42号遺構（Ⅰ期）出土遺物

PL.20 Various artifacts from No.40・42 structural remains at Phase Ⅰ

S=1:3

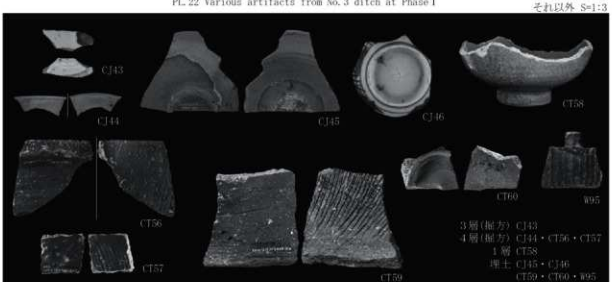
図版21　3号溝（Ⅰ期）出土遺物（1）

PL.21 Various artifacts from No.3 ditch at Phase Ⅰ



図版22 3号溝（Ⅰ期）出土遺物（2）
PL.22 Various artifacts from No.3 ditch at Phase Ⅰ

C06 S=2:3
S19 S=1:2
それ以外 S=1:3

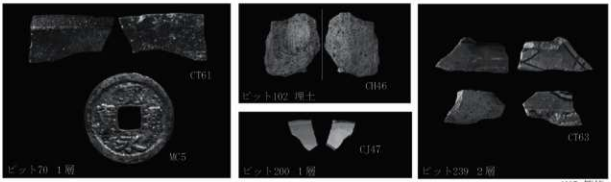


図版23 5号井戸（Ⅰ期）出土遺物
PL.23 Various artifacts from No.5 well at Phase Ⅰ

W95 S=1:4
それ以外 S=1:3

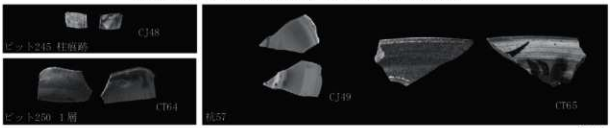
S=1:3

図版24 ピット205（Ⅰ期）出土遺物
PL.24 Various artifacts from No.205 pit at Phase Ⅰ



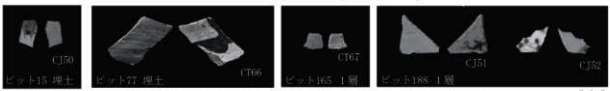
図版25 ピット70・ピット102・ピット200・ピット239（Ⅰ期）出土遺物
PL.25 Various artifacts from No.70・102・200・239 pit at Phase Ⅰ

WC5 等倍
それ以外 S=1:3



図版26 ピット245・ピット250・杭57（Ⅰ期）出土遺物
PL.26 Various artifacts from No.245・250 pit and No.57 pile at Phase Ⅰ

S=1:3

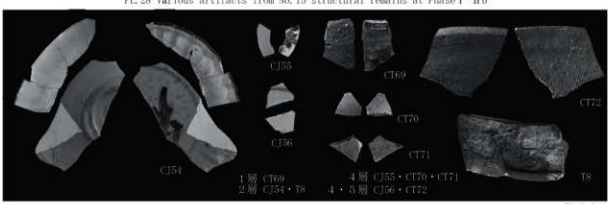


図版27 ピット15・ピット77・ピット165・ピット188（Ⅰ～Ⅱa期）出土遺物
PL.27 Various artifacts from No.15・77・165・188 pit at Phase Ⅰ-Ⅱa

S=1:3

図版28 15号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物
PL.28 Various artifacts from No.15 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

W27 S=1:4
それ以外 S=1:3



図版29 16号遺構（Ⅰ～Ⅱb期）出土遺物
PL.29 Various artifacts from No.16 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

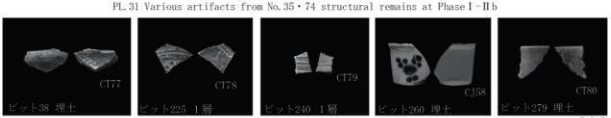
T8 S=1:4
それ以外 S=1:3

S=1:3

図版30 26号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
PL.30 Various artifacts from No.26 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb

S=1:3

図版31 35号遺構・74号遺構(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
PL.31 Various artifacts from No.35・74 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅱb



S=1:3

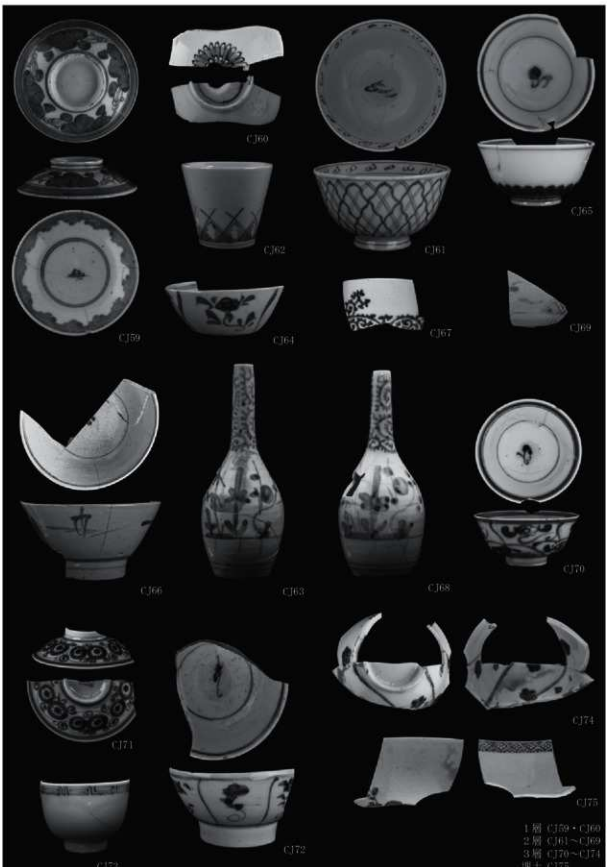
図版32 ピット38・ピット225・ピット240・ピット260・ピット279(Ⅰ～Ⅱb期)出土遺物
PL.32 Various artifacts from No.38・225・240・260・279 pit at Phase Ⅰ-Ⅱb

古銭等倍
CT81 S=1:3

図版33 5号建物(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物
PL.33 Various artifacts from No.5 building at Phase Ⅰ-Ⅲ

S=1:3

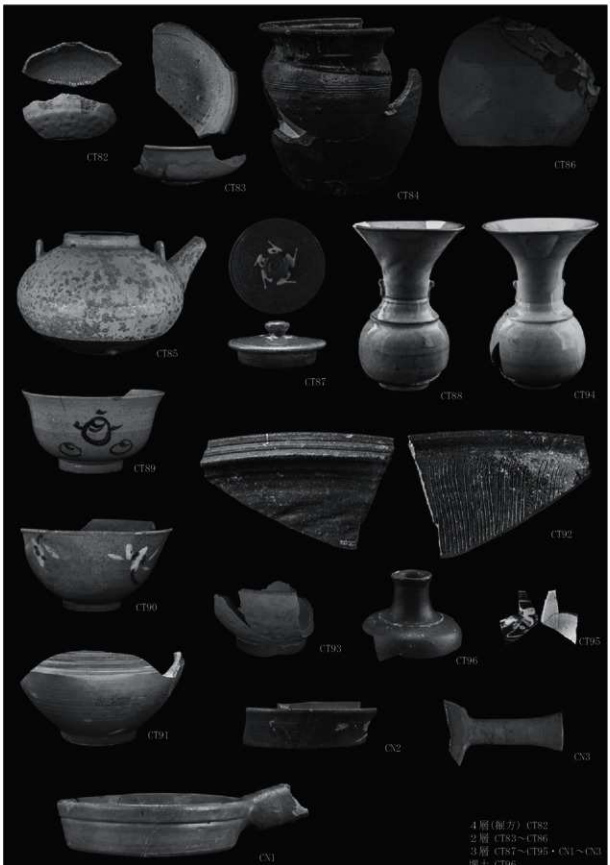
図版34 7号遺構(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物
PL.34 Various artifacts from No.7 structural remains at Phase Ⅰ-Ⅲ



S=1:3

図版35　1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(1)

PL.35 Various artifacts from No.1 well at PhaseⅠ-Ⅲ(1)



S=1:3

図版36 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(2)

PL.36 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(2)

図版37 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(3)
PL.37 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(3)

CH15・CH48・CG3 S=1:3
瓦 S=1:5

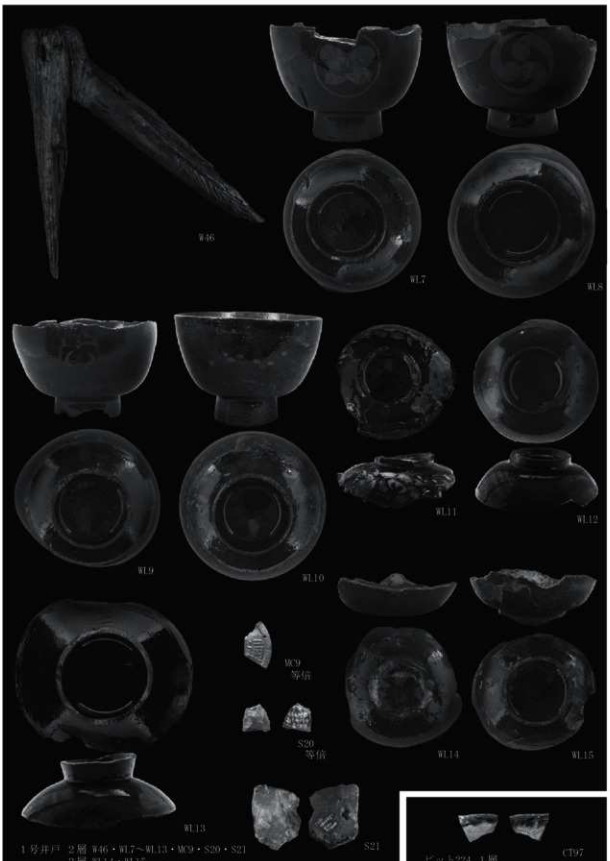
S=1:3

図版38　1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(4)

PL.38 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(4)

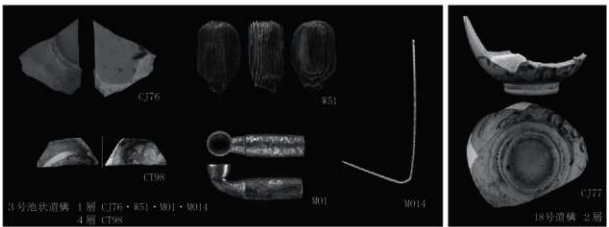
S=1:3

図版39 1号井戸(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物(5)
PL.39 Various artifacts from No.1 well at Phase Ⅰ-Ⅲ(5)



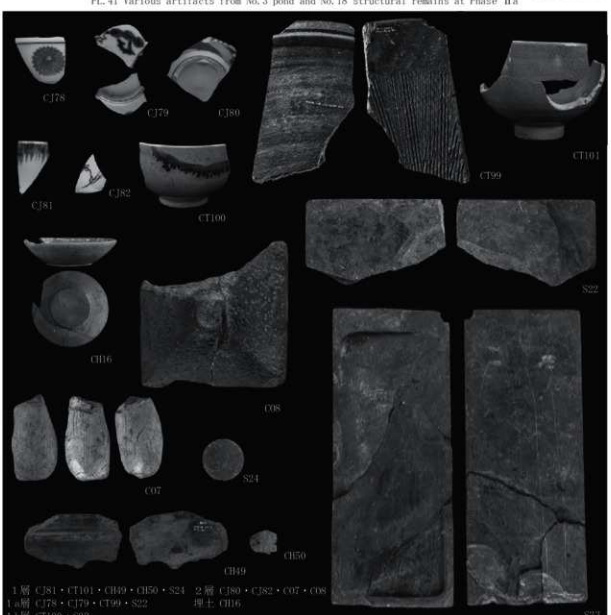
図版40 1号井戸(6)・ピット224(Ⅰ～Ⅲ期)出土遺物
PL.40 Various artifacts from No.1 well and No.224 pit at Phase Ⅰ-Ⅲ

S21 S=1:2
W46 S=1:4
それ以外 S=1:3



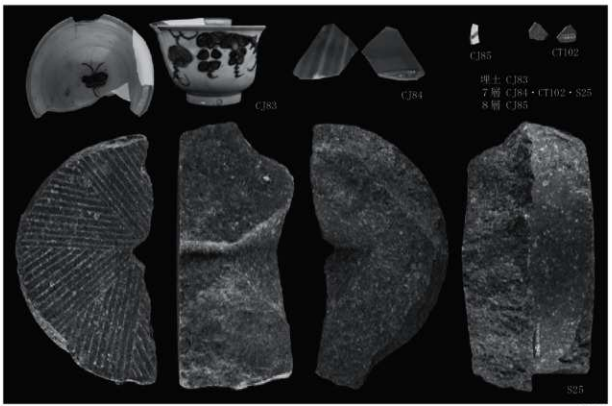
図版41　3号池状遺構・18号遺構(Ⅱa期)出土遺物
PL.41 Various artifacts from No.3 pond and No.18 structural remains at Phase Ⅱa

M01 S=1:2
それ以外 S=1:3



図版42　5号溝(Ⅱa期)出土遺物
PL.42 Various artifacts from No.5 ditch at Phase Ⅱa

C07・C08 S=2:3
S22～S24 S=1:2
それ以外 S=1:3



S=1:3

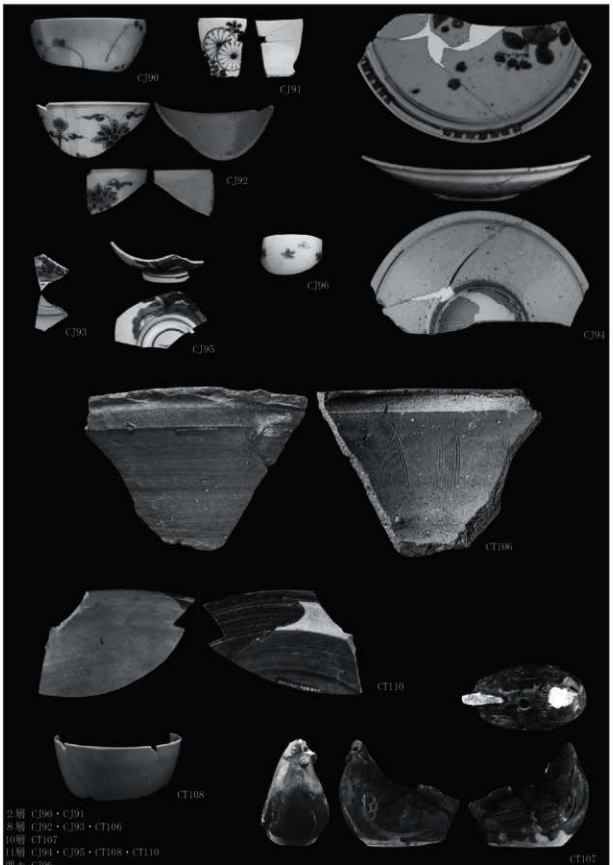
図版43　9号遺構(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物

PL.43 Various artifacts from No.9 structural remains at PhaseⅡa-Ⅱb

図版44　69号遺構・2号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物

金属・石器 S=1:2
それ以外 S=1:3

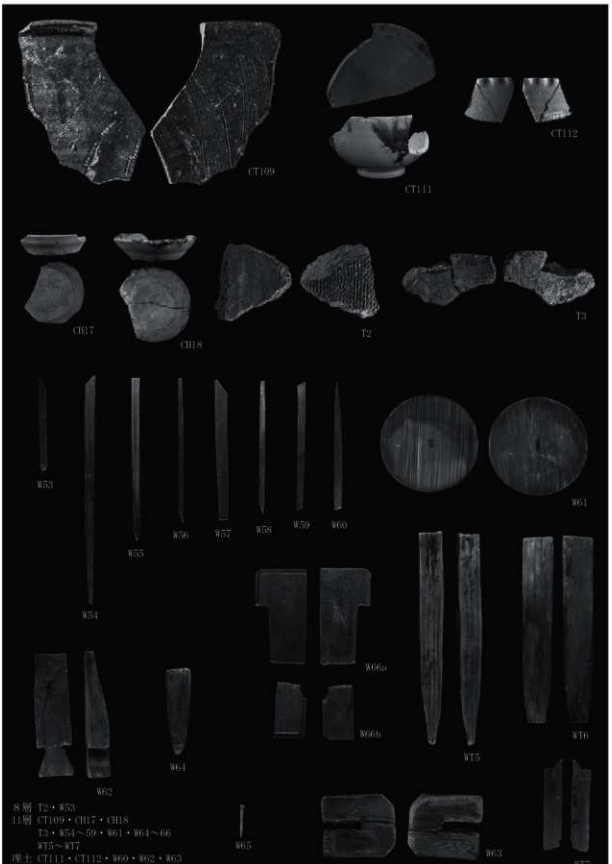
PL.44 Various artifacts from No.69 structural remains and No.2 well at PhaseⅡa-Ⅱb



S=1:3

図版45 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(1)

PL.45 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(1)



8層 T2・W53
11層 CT109・CH17・CH18
T3・W54～59・W61・W64～66
WT5～WT7
埋土 CT111・CT112・W60・W62・W63

図版46 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(2)
PL.46 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(2)

瓦 S=1：4
それ以外 S=1：3

S=1：3

図版47 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(3)
PL.47 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(3)

図版48 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(4)
PL.48 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(4)

W102～112 S=1：3
W96～100 S=1：4

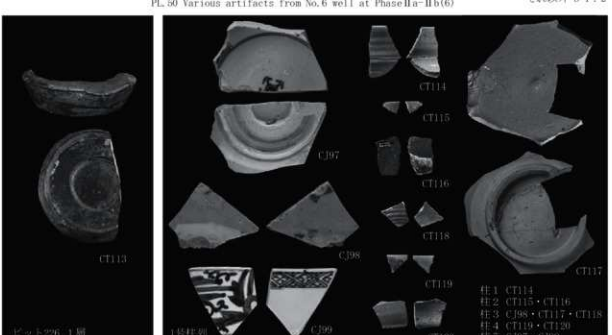
図版49 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(5)
PL.49 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(5)

VA8～VA10 S=2:3
M02 S=1:2
それ以外 S=1:3

図版50 6号井戸(Ⅱa～Ⅱb期)出土遺物(6)

PL.50 Various artifacts from No.6 well at PhaseⅡa-Ⅱb(6)

WL17～21 S=1：3
それ以外 S=1：2



S=1：3

図版51 ピット226(Ⅱa～Ⅱb期)・1号柱列(Ⅱb期)出土遺物

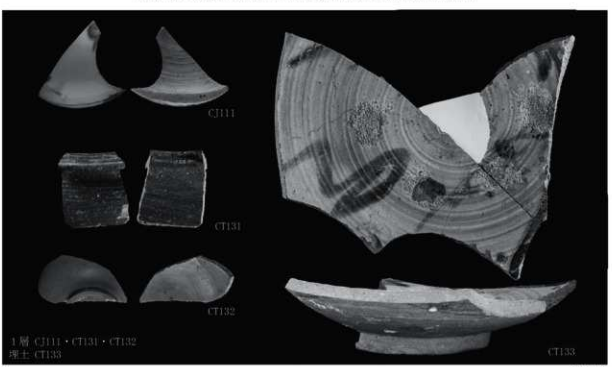
PL.51 Various artifacts from No.226 pit at Phase Ⅱa-Ⅱb and No.1 pillars at PhaseⅡb

図版52 2号柱列・1号池状遺構（Ⅱb期）出土遺物
PL.52 Various artifacts from No.2 pillars and No.1 pond at PhaseⅡb

古銭等倍
S32 S=1：2
それ以外 S=1：3

図版53　4号遺構（Ⅱb期）出土遺物　S=1：3

PL. 53 Various artifacts from No. 4 structural remains at Phase Ⅱb



図版54　13号遺構（Ⅱb期）出土遺物　S=1：3

PL. 54 Various artifacts from No. 13 structural remains at Phase Ⅱb

図版55　ピット151・ピット156（Ⅱb期）・5号遺構（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物　S=1：3

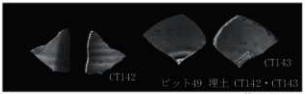
PL. 55 Various artifacts from No. 151・156 pit at Phase Ⅱb and No. 5 structural remains at Phase Ⅱb-Ⅲ

CJ119
CJ120
CJ121
CJ122
CJ123
CJ124
CJ125
CJ126
CT137
CT138
CT139
CT140
CT141
M027
CH21
CH23
CH24
C09

1層 CH21・M027
2層 CJ119～122・CT137～139
C09
埋土 CJ123～126・CT140・CT141
CH23・CH24

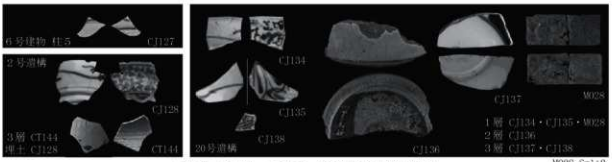
M027 S=1：2
それ以外 S=1：3

図版56 65号遺構（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物
PL.56 Various artifacts from No.65 structual remains at PhaseⅡb-Ⅲ



基石 S=1：2
それ以外 S=1：3

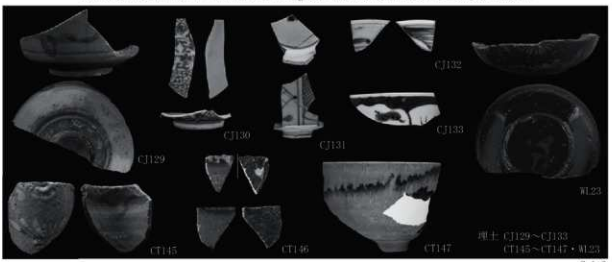
図版57 50号遺構・ピット49（Ⅱb～Ⅲ期）出土遺物
PL.57 Various artifacts from No.50 structual remains and No.49 pit at PhaseⅡb-Ⅲ



図版58 6号建物・2号遺構・20号遺構(Ⅲ期)出土遺物

PL.58 Various artifacts from No.6 building and No.2・20 structural remains at PhaseⅢ

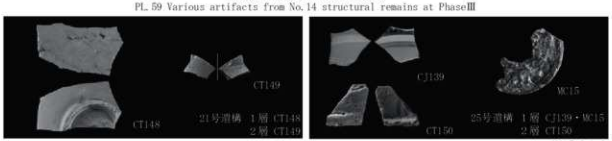
MO28 S=1:2
それ以外 S=1:3



S=1:3

図版59 14号遺構(Ⅲ期)出土遺物

PL.59 Various artifacts from No.14 structural remains at PhaseⅢ



図版60 21号遺構・25号遺構(Ⅲ期)出土遺物

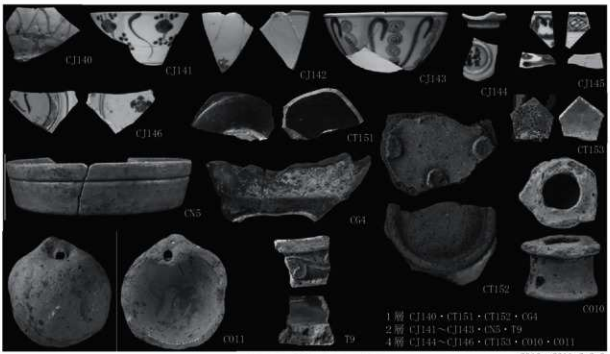
PL.60 Various artifacts from No.21・25 structural remains at PhaseⅢ

MC15 S=1:2
それ以外 S=1:3

図版61 48号遺構(Ⅲ期)出土遺物

PL.61 Various artifacts from No.48 structural remains at PhaseⅢ

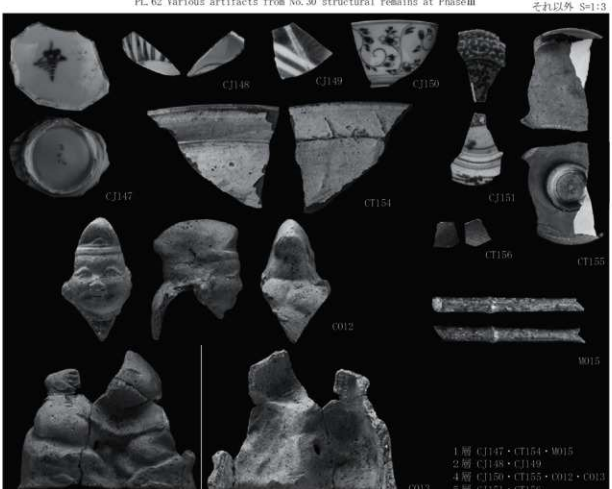
MO12・S8 S=1:2
それ以外 S=1:3



図版62 30号遺構(Ⅲ期)出土遺物

PL.62 Various artifacts from No.30 structural remains at PhaseⅢ

C010・C011 S=2:3
T9 S=1:4
それ以外 S=1:3



図版63 31号遺構(Ⅲ期)出土遺物

PL.63 Various artifacts from No.31 structural remains at PhaseⅢ

C012・C013 S=2:3
M015 S=1:2
それ以外 S=1:3

S=1:3

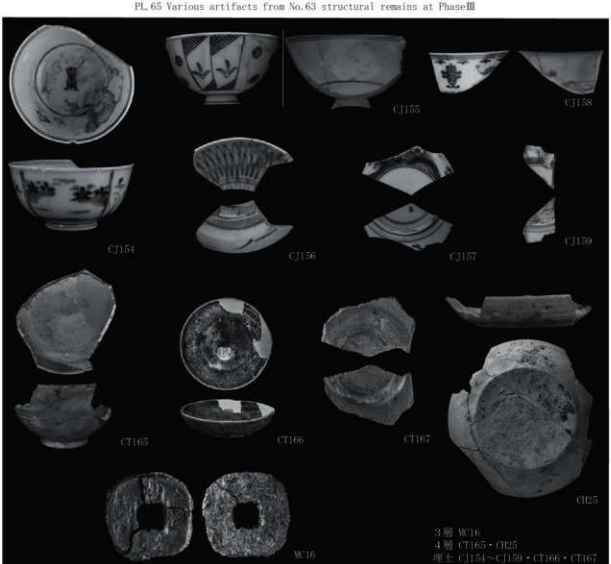
図版64 51号遺構(Ⅲ期)出土遺物

PL.64 Various artifacts from No.51 structural remains at PhaseⅢ

S=1:3

図版65 63号遺構(Ⅲ期)出土遺物

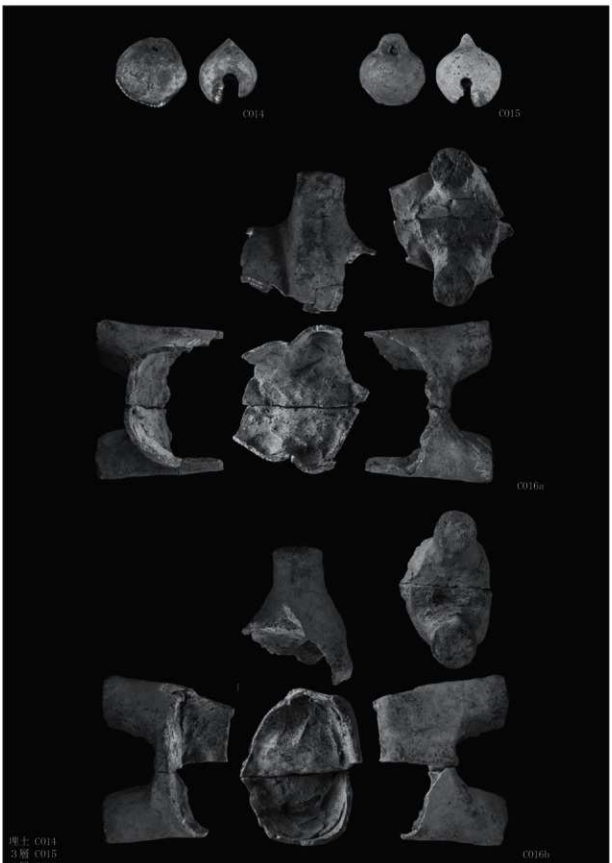
PL.65 Various artifacts from No.63 structural remains at PhaseⅢ



古銭等倍
それ以外 S=1:3

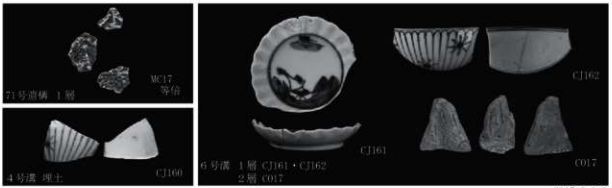
図版66 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物 (1)

PL.66 Various artifacts from No.66 structural remains at PhaseⅢ(1)



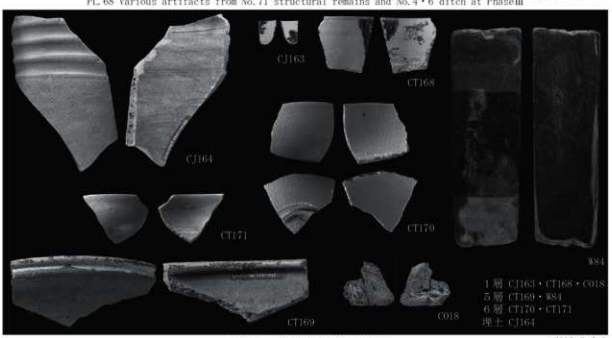
図版67 66号遺構(Ⅲ期)出土遺物（2）
PL.67 Various artifacts from No.66 structural remains at PhaseⅢ(2)

C014・C015 S=2:3
C016 S=1:3



図版68 71号遺構・4号溝・6号溝(Ⅲ期)出土遺物
PL.68 Various artifacts from No.71 structural remains and No.4・6 ditch at PhaseⅢ

CO17 S=2:3
それ以外 S=1:3

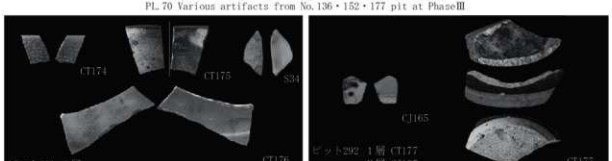


図版69 4号井戸(Ⅲ期)出土遺物
PL.69 Various artifacts from No.4 well at PhaseⅢ

CO18 S=2:3
それ以外 S=1:3

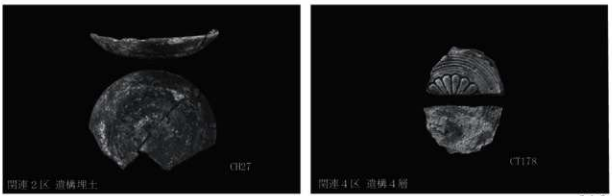
図版70 ピット136・ピット152・ピット177(Ⅲ期)出土遺物
PL.70 Various artifacts from No.136・152・177 pit at PhaseⅢ

S=1:3



図版71 ピット280・ピット292(Ⅲ期)出土遺物
PL.71 Various artifacts from No.280・292 pit at PhaseⅢ

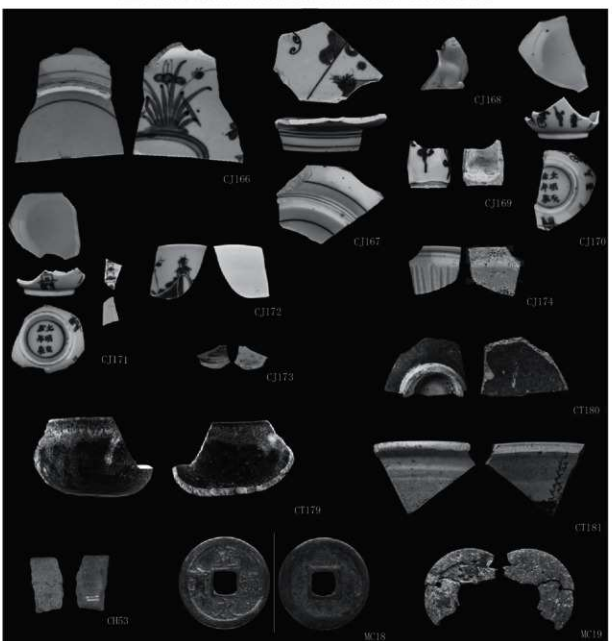
S34 S=1:2
それ以外 S=1:3



S=1:3

図版72 関連2区・4区出土遺物

PL.72 Various artifacts from the second and the forth constuction area



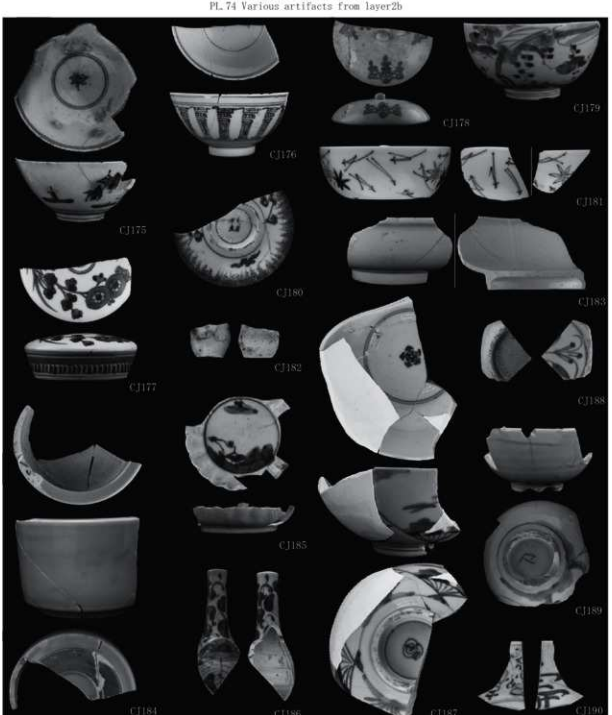
古銭等倍
それ以外 S=1:3

図版73 2a-2層出土遺物

PL.73 Various artifacts from layer2a-2

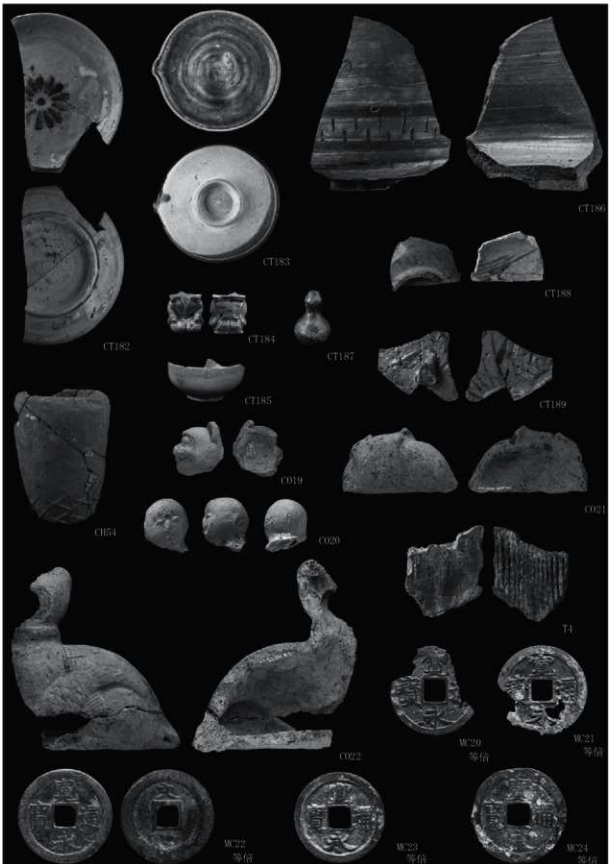
S=1:2

図版74 2b層出土遺物
PL.74 Various artifacts from layer2b



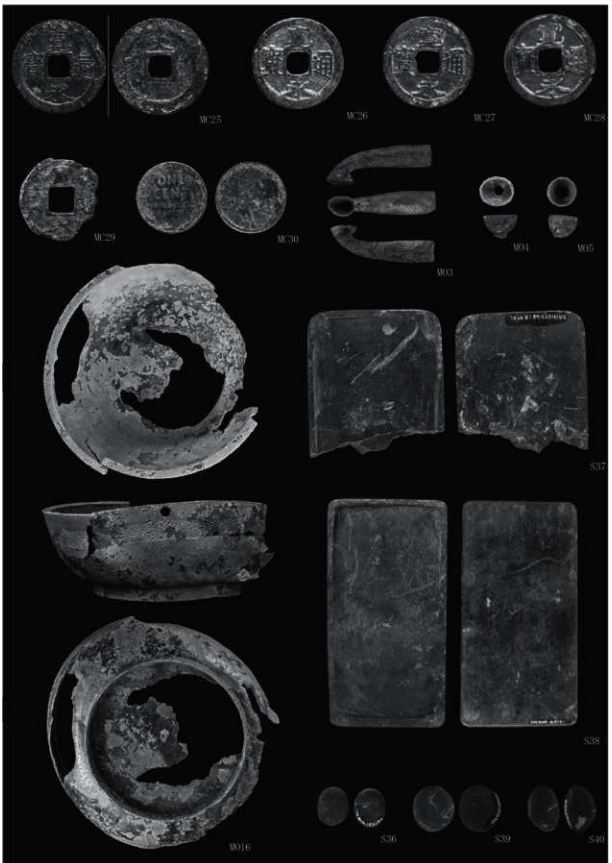
S=1:3

図版75 1層出土遺物（1）
PL.75 Various artifacts from layer1(1)



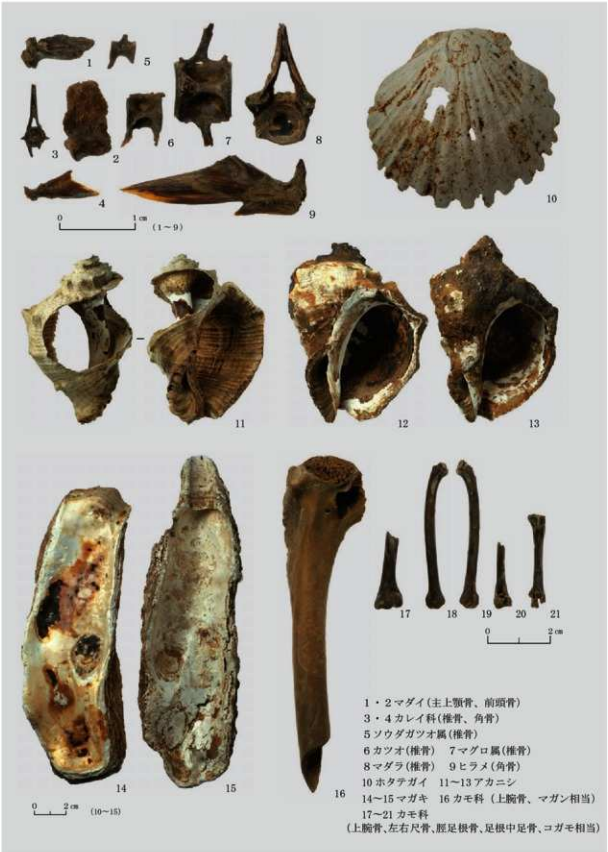
図版76 1層出土遺物（2）
PL.76 Various artifacts from layer1(2)

CO22 S=2:3
T4 S=1:4
それ以外 S=1:3



古銭等倍
それ以外 S=1:2

図版77 1層出土遺物（3）
PL.77 Various artifacts from layer1(3)



図版78 動物遺存体（1）
PL. 78 Animal remains(1)

図版79 動物遺存体（2）
PL.79 Animal remains(2)

1. モミ属、種鱗　2. モミ属、種子　3. モミ属、葉　4. クロマツ、球果　5. マツ属複維管束亜属、雄花　6. マツ属複維管束亜属、種子（1 号井戸理土 2）　7. マツ属複維管束亜属、葉　8. スギ、球果　9. スギ、種子　10. サワラ、球果　11. サワラ、小枝　12. サワラ、種子　13. アスナロ属、小枝　14. カヤ、種子　15. ヤマブドウ、種子（6 号井戸理土 10）　16. ブドウ、種子（6 号井戸理土 10）　17. ブドウ属、種子　18. ノブドウ、種子　19. フジ、さや　20. ハギ属、種子（4 号池理土 5）　21. カマツカ近似種、果実　22. カマツカ近似種、核　23. モモ、核食痕　24. ウメ、核　25. アンズ、核（2 号池理土 2a・2b）　26. スモモ、核　27. サクラ属サクラ節、核　28. ケヤキ、果実　29. エノキ、内果皮　30. ヒメコウゾ、内果皮　31. クワ属、種子（4 号池理土 2）　32. クリ、果皮破片　33. コナラ、果実　34. ミズナラ、幼果（6 号井戸理土 8）　表示以外は 6 号井戸 11 層出土、スケールは実線が 1cm、白抜き線が 1mm

図版80　大型植物遺体（1）
PL. 80 Plant macrofossils (1)

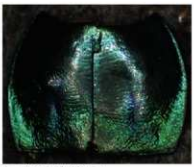
35.オニグルミ,内果皮半分割痕　36.ヒメグルミ,内果皮半分割痕(1号井戸理土2)　37.イヌシデ,果実　38.ハシバミ,果皮破片(4号池理土2)　39.ツノハシバミ,果皮破片　40.アサダ,果実　41.ハンノキ,果実(1号井戸理土2)　42.ミツバウツギ,種子　43.ウルシ属,炭化内果皮　44.リュウガン,種子破片　45.カエデ属,果実　46.サンショウ,内果皮　47.カラスザンショウ,内果皮(2号池理土3a)　48.ニガキ,種子(6号井戸理土8)　49.ミズキ,内果皮　50.クマノミズキ,内果皮　51.カキノキ属,種子　52.ヤブツバキ,種子　53.チャノキ,種子(2号池理土2a･2b)　54.エゴノキ,内果皮　55.ハクウンボク,内果皮(4号池理土6)　56.ガマズミ属,内果皮　57.ニワトコ,内果皮　58.コウホネ,種子(6号井戸理土8)　59.サルトリイバラ近似種,種子　60.アヤメ属,種子　61.イボクサ,種子(4号池理土2)　62.フユクサ,種子　63.スゲ属,果実(2号池理土4)　64.ホタルイ属,果実　65.イネ,籾　66.イネ,炭化胚乳焼膨　67.オオムギ,炭化種子　68.コムギ,炭化種子(4号池理土2)
表示以外は6号井戸11層出土,スケールは実線が1cm,白抜き線が1mm

図版81　大型植物遺体（2）
PL.81 Plant macrofossils (2)

69. アオツヅラフジ、種子　70. ササゲ属、炭化種子　71. ダイズ属、炭化種子　72. カタバミ、種子(2号池埋土2a・2b)　73. アサ、種子(2号井戸埋土3)　74. カナムグラ、種子　75. カラハナソウ、種子　76. ヒョウタン属、種子(4号池埋土2)　77. キュウリ属メロン仲間、種子　78. カボチャ、種子　79. スズメウリ、種子　80. エノキグサ、種子(2号池埋土5b)　81. ヤナギタデ、果実　82. ハナタデ近似種、果実(2号池埋土2a・2b)　83. サクラタデ、果実(2号池2a・2b)　84. オオケタデ、果実　85. サナエタデまたはオオイヌタデ、果実(2号池埋土2a・2b)　86. イシミカワ、果実(4号池埋土2)　87. ギシギシ属、果実　88. ソバ、果実　89. ミドリハコベ近似種、種子(2号池埋土2a・2b)　90. ヒユ属、種子(2号池埋土2a・2b)　91. ヒユ属、潰れ種子(2号池埋土2a・2b)　92. ザクロソウ、種子(2号池埋土2a・2b)　93. ヤマゴボウ、種子　94. アカネ属、種子(4号池埋土2)　95. ナス属、種子　96. トウガラシ属、種子　97. シソ属、果実(2号池埋土5a)　98. イヌコウジュ属、果実(4号池埋土5)　99. セリ属、果実　100. 不明、刺状突起(1号井戸埋土3)　表示以外は6号井戸11層出土、スケールは実線が1cm、白抜き線が1mm

図版82　大型植物遺体（3）
PL. 82 Plant macrofossils (3)

1．アオゴミムシ
Chlaenius pallipes Gebler
前胸背板 幅4.1mm（試料1 標本1）

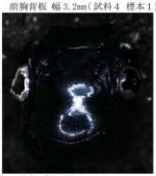


2．キンナガゴミムシ
Pterostichus planicolis (Motschulsky)
前胸背板 幅4.0mm（試料1 標本7）

3．コキベリアオゴミムシ
Chlaenius circumdatus Brulle
前胸背板 幅3.2mm（試料4 標本1）

4．コアオマルガタゴミムシ
Amara chalcophaea Bates
前胸背板 幅3.8mm（試料2 標本2）

5．オオゴミムシ
Lesticus magnus (Motschulsky)
前胸背板 幅6.1mm（試料4 標本8）



6．オオゴミムシ
Lesticus magnus (Motschulsky)
頭部 長さ4.8mm（試料4 標本11）

7．アオゴミムシ
Chlaenius pallipes Gebler
左上翅片 長さ6.8mm（試料23 標本5）

8．マルガタゴミムシ属
Amara sp.
右上翅 長さ5.3mm（試料1 標本3）

9．キンナガゴミムシ
Pterostichus planicolis (Motschulsky)
左上翅 長さ7.5mm（試料7 標本1）

図版83 昆虫遺体（1）
PL.83 Insect remains (1)

1．ヒメコガネ
Anomala rufocuprea Motschulsky
頭部 長さ2.5mm（試料6 標本2）

2．ヒメコガネ
Anomala rufocuprea Motschulsky
前胸背板片 長さ2.4mm
（試料3 標本2）

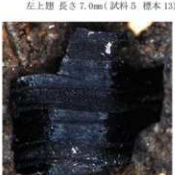
3．ドウガネブイブイ
Chlaenius circumdatus Brulle
中腿節 長さ4.6mm（試料4 標本19）

4．アオハナムグリ
Eucetonia roelofsi (Harold)
右上翅片 長さ5.8mm
（試料5 標本1）

5．マツアナアキゾウムシ
Hylobitelus haroldi (Faust)
左上翅 長さ7.0mm（試料5 標本13）

6．ヒメカツオブシムシ
Attagenus unicolor japonicus Reitter
右上翅片 長さ4.0mm（試料20 標本14）

6．オオクロバエ
Calliphora lata Coquillett
囲蛹片 長さ5.0mm
（試料4 標本33）



8．アリ科
Formicidae
頭部 長さ1.4mm（試料23 標本15）

9．オカダンゴムシ
Armadillidium vulgare Latreille (?)
体節片 長さ7.0mm（試料22 標本8）

図版84 昆虫遺体（2）
PL.84 Insect remains (2)

1．マルエンマコガネ *Onthophagus vidnus* Harold
頭部 幅2.8mm（試料3 標本4）

2．クロマルエンマコガネ *Onthhophagus ater* Waterhouse
頭部 幅2.2mm（試料13 標本1）

3．ツヤエンマコガネ
Onthophagus nitidus Waterhouse
左上翅 長さ4.0mm（試料17 標本1）

4．コブマルエンマコガネ
Onthophagus atripennis Waterhouse
右上翅 長さ4.5mm（試料2 標本3）

5．クロマルエンマコガネ
Onthhophagus ater Waterhouse
右上翅 長さ3.8mm（試料12 標本11）

6．ヒメエンマムシ属
Margarinotus sp.
右上翅 長さ3.2mm（試料8 標本3）

7．エンマムシ科
Histerid e g æ t sp.i d t.
右後脛腔節 腿節の長さ2.3mm
（試料13 標本5）

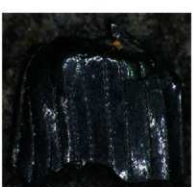
8．ハネカクシ科
Staphylin d e g æ t sp.i d t.
頭部 長さ2.5mm（試料8 標本43）

図版85 昆虫遺体（3）
PL.85 Insect remains (3)

1．ヒメガムシ
Sternolophus rufipes (Fabricius)
上翅片 長さ5.2mm（試料12 標本1）

2．セマルガムシ
Coelostoma stultum (Walker)
左上翅 長さ4.0mm（試料11 標本14）

3．キベリヒラタガムシ
Enochrus japonicus (Sharp)
左上翅 長さ4.0mm（試料3 標本6）



4．マグソコガネ
Aphodius rectus (Motschulsky)
右上翅上半部 長さ2.1mm
（試料12 標本5）

5．マグソコガネ
Aphodius rectus (Motschulsky)
前胸背板 幅2.2mm（試料20 標本13）

6．マメガムシ
Regimbartia attenuata (Fabricius)
右上翅上半部 長さ1.3mm
（試料13 標本4）

7．マメガムシ
Regimbartia attenuata (Fabricius)
右上翅片 長さ2.1mm（試料8 標本47）

8．ムネビロハネカシ
Algon grandicollis Sharp
前胸背板 幅3.0mm（試料3 標本7）

図版86 昆虫遺体（4）
PL.86 Insect remains (4)

報 告 書 抄 録

ふ り が な	せんだいじょうあと にのまる ほっぽうぶけやしきちく だい14ちてん
書　　名	仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点
副 書 名	
巻　　次	
シ リ ー ズ 名	東北大学理蔵文化財調査室調査報告
シリーズ番号	8
編 著 者 名	柴田恵子・菅野智則・石橋　宏・上條信彦・國井秀紀・熊谷亮介・小林和貴・佐々木由香・柴正敏・鈴木三男・能城修一・丸山真史・森　勇一・吉川純子
編 集 機 関	東北大学理蔵文化財調査室
所　在　地	〒980－8577　宮城県仙台市青葉区片平二丁目1－1
発 行 年 月 日	西暦2020年３月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
せんだいじょうあと 仙台城跡 に　　るほっぽう 二の丸北方 ぶけやしきちく 武家屋敷地区	みやぎけんせんだいし 宮城県仙台市 あおばくかわらち 青葉区川内41	04100	01033	38度 15分 37秒	140度 51分 01秒	2011.9.1～2012.5.31 2015.3.1～7.6、 2015.7.22～11.13	508.5㎡ 445.5㎡ 18.8㎡	川内駅前広場整備工事・屋外環境整備（川内駅前広場等）工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
仙台城跡 二の丸北方 武家屋敷地区 第14地点	城館	近世	建物７、柱列10、池状遺構４、溝８、井戸５、ピット187、杭53、礎石１、性格不明遺構57	磁器、陶器、土師質土器、瓦質土器、軟質施釉陶器、土製品、石器、石製品、木製品、加工木材、漆器、瓦、銅製品、鉄製品、動物遺存体、植物遺存体	

要　　約

本調査は、仙台市高速鉄道（地下鉄）東西線の川内駅の、駅前広場等を整備する工事に伴う調査である。調査の結果、池状遺構や井戸など数多くの遺構を確認することができ、主に江戸時代の17世紀から19世紀の遺物が出土している。17世紀前半の遺物はあまり多くはなく、まとまって出土する遺構や層はなかった。17世紀後半以降では、４号池状遺構からは17世紀後半の陶磁器が、２号池状遺構からは17世紀末から18世紀前葉の陶磁器や木製品がややまとまって出土している。特に２号池状遺構では、「正徳３年」（1713）と記載された木簡も出土した。６号井戸からは幕末頃の陶磁器や漆器・木製品などが一括して出土しており、明治初頭の武家屋敷の取り壊しに伴って一括廃棄されたものと推測される。特殊な遺物として、池状遺構や井戸から昆虫や動物遺存体、植物遺存体が検出されている。これらの動植物データは、江戸時代の武家屋敷周辺の環境を推測することができる貴重な資料となった。また、江戸時代の絵図と比較によって、当調査地点が絵図のどの位置に該当するかを推測することができた。

東北大学理蔵文化財調査室調査報告８

仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区第14地点　第２分冊

令和２年３月31日

発行　東北大学理蔵文化財調査室
〒980－8577　仙台市青葉区片平２丁目１－１　TEL 022（217）4995
Web http://web.tohoku.ac.jp/maibun/

印刷　株式会社　東北プリント
〒980－0822　仙台市青葉区立町24－24　TEL 022（263）1166

東北大学埋蔵文化財調査室調査報告8
『仙台城跡二の丸北方武家屋敷地区 第14地点 第2分冊』
正誤表

頁	行	誤	正
61	図43	11層 WT5～6	11層 WT5～7
109	表39	T19 20層遺構	T19 20号遺構
180	1行目	BK-2号池状遺構も	BK14－2号池状遺構も
247	図版84	6. オオクロバエ	7. オオクロバエ